東芝デジタル複合機 / デジタル複写機

TopAccessガイド

●このたびは東芝デジタル複合機 / デジタル複写機をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。
●お使いになる前に取扱説明書をよくお読みください。お読みになった後は必ず保管してください。

はじめに

このたびは東芝デジタル複合機 / デジタル複写機をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
この取扱説明書は、Webベースの管理ユーティリティであるTopAccessから行うデバイスのリモートセットアップやリモート管理を説明しています。
これらの機能を使用する前に、この取扱説明書をよくお読みください。また、これらの機能を最良の状態でお使いいただくために、この取扱説明書をいつもお手元に置いて有効にご活用ください。

TopAccessにログインする権限により、TopAccess上での操作が制限される項目があります。
また、お使いの機種によっては、表示されない項目や機能があります。

■ 本書の読みかた

□ 本文中の記号について

本書では、重要事項には以下の記号を付けて説明しています。これらの内容については必ずお読みください。

⚠警告	「誤った取り扱いをすると人が死亡する、または重傷*1を負う可能性があること」を示しています。
⚠注意	「誤った取り扱いをすると人が傷害*2を負う可能性、または物的損害*3のみが発生する可能性があること」を示しています。
注 意	操作するうえでご注意いただきたい事柄を示しています。
補 足	操作の参考となる事柄や、知っておいていただきたいことを示しています。
📖	関連事項を説明しているページを示しています。必要に応じて参照してください。

＊1　重傷とは、失明やけが・やけど（高温・低温）・感電・骨折・中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものを指します。
＊2　傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電を指します。
＊3　物的損害とは、財産・資材の破損にかかわる拡大損害を指します。

□ 本書の対象機種について

本書の対象機種は、本文中で以下のように表記しています。

対象機種	本文中の表記
e-STUDIO2050C	e-STUDIO2550C Series
e-STUDIO2555C/3555C/4555C/5055C	e-STUDIO5055C Series
e-STUDIO287CS/347CS/407CS、e-STUDIO287CSL/347CSL	e-STUDIO407CS Series
e-STUDIO477S/527S、e-STUDIO477SL	e-STUDIO527S Series
e-STUDIO5560C/6560C/6570C	e-STUDIO6570C Series
e-STUDIO257/357/457/507	e-STUDIO507 Series
e-STUDIO657/857	e-STUDIO857 Series
Loops LP301	Loops LP301

□ オプション機器について

使用可能なオプション機器は、お使いの機種の**かんたん操作ガイド**—「本機のオプション」をご覧ください。

□ 本文中の画面について

本書に掲載している画面は、e-STUDIO5055C Seriesを例にしています。e-STUDIO2550C Series、e-STUDIO5055C Series、e-STUDIO407CS Series、e-STUDIO527S Series、e-STUDIO6570C Series、e-STUDIO507 Series、e-STUDIO857 Series、Loops LP301の画面は、各部名称や機能は共通です。
画面はオプション機器の装着状況など、ご使用の環境によって異なる場合があります。

□ 本書の表記について

本書では、東芝デジタル複合機 / デジタル複写機を総称して「複合機」と表記します。

□ 本文中の初期値について

- 本書に記載している初期値は、標準的な使用環境の値です。導入時の環境に合わせて、初期値を変更している場合があります。なお、機種の違いにより初期値が異なるものは記載していません。
- 選択項目の初期値は、下線で表記しています。

□ 商標について

- Windows Vistaの正式名称は、Microsoft Windows Vista Operating Systemです。
- Windows 7の正式名称は、Microsoft Windows 7 Operating Systemです。
- Windows 8の正式名称は、Microsoft Windows 8 Operating Systemです。
- Windows Server 2003の正式名称は、Microsoft Windows Server 2003 Operating Systemです。
- Windows Server 2008の正式名称は、Microsoft Windows Server 2008 Operating Systemです。
- Windows Server 2012の正式名称は、Microsoft Windows Server 2012 Operating Systemです。
- Microsoft、Windows、またはその他のマイクロソフト製品の名称及び製品名は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Apple、AppleTalk、Macintosh、Mac、Mac OS、Safari、iPhone、iPod touch、およびTrueTypeは、米国Apple Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- AirPrint、AirPrintロゴ、iPadはApple Inc.の商標です。
- IOS は、米国およびその他の国におけるCisco 社の商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- Adobe、Acrobat、ReaderおよびPostScriptは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Mozilla、Firefox、Firefoxロゴは、米国Mozilla Foundationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- IBM、ATおよびAIXは、International Business Machines Corporationの商標です。
- NOVELL、NetWare、NDSは米国NOVELL, Inc.の商標または登録商標です。
- TopAccessは、東芝テック株式会社の商標です。
- その他、本書および本ソフトウェアに掲載または表示されている会社名、製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標である場合があります。

□ セキュリティに関するご利用上のご注意

- 不正に設定値を変更されるなどの操作を防ぐため、本製品をご使用いただく前に、本製品に設定されている工場出荷時の初期管理者パスワードを必ず変更していただきますようお願い致します。また本製品で設定されているパスワードは定期的に変更していただきますようお願い致します。
- セキュリティの観点から TopAccess の設定変更を行っているコンピュータから離席される場合は、必ず［ログアウト］してください。
- セキュリティの観点からTopAccessにログインしているときは、他サイトにアクセスしないようにしてください。

□ ブラウザの設定について

TopAccessのインストールクライアントソフトウェアでプリンタドライバのリンクをクリックしても、インストーラを起動するダイアログが表示されず、プリンタドライバのインストールが始まらない場合があります。その場合は、MFPのIPアドレス(http://XXX.XXX.XXX.XXX)をInternet Explorerの「ローカルイントラネット」または「信頼済みサイト」のどちらかに登録してください。

目次

第1章　概要

第2章　［装置］タブ

第3章　［ジョブ］タブ

第4章　［ログ］タブ

第5章　［登録］タブ

第9章　［アカウント］タブ

第10章　目的別設定方法

第11章 付録

1

概要

このセクションでは、TopAccess機能の概要について説明します。

TopAccessの機能

TopAccessは、Webブラウザを利用して、本機の装置情報やジョブのステータスなどの確認、装置設定やメンテナンスが行える管理ユーティリティです。
TopAccessは、「ユーザモード」と「アクセスポリシーモード」の2種類のモードがあります。

ユーザモード

TopAccessのユーザモードから以下の操作を行うことができます。

- 本機の一般情報を表示する（ステータス、カセットやオプション機器の構成、給紙情報など）
- 印刷ジョブ、転送ファクスジョブ、スキャンジョブを表示する（転送ファクスジョブの表示は、FAXユニット装着時のみ有効）
- 印刷ログ、発信／受信ジャーナル、スキャンログを表示する（発信／受信ジャーナルは、FAXユニット装着時のみ有効）
- プライベートテンプレートを作成する、変更する
- アドレス帳に連絡先やグループを追加する
- Fコード対応メールボックスを作成する（FAXユニット装着時のみ有効）
- カウンタログを表示する
- クライアントソフトウェアをダウンロードする

📖 P.12 「TopAccessを起動する」

アクセスポリシーモード

TopAccessにログインするユーザアカウントに応じて、操作を行う権限や表示される項目などが異なります。
操作や表示については、ユーザアカウントが割り当てられている、ロール管理や部門管理などにより詳細が異なります。

📖 P.25 「アクセスポリシーモード」

TopAccessの条件

TopAccessを操作するには、お使いの機器がネットワークに接続され、TCP/IPが正しく設定されている必要があります。
TCP/IP設定を完了すると、Webブラウザを利用してTopAccessにアクセスすることができます。

サポートブラウザ

Windows
- Internet Explorer 8.0以上
- Firefox 24以上
- Chrome 30以上

Macintosh
- Safari 4.0以上

UNIX
- Firefox 24以上

注 意

- TopAccessでは、コンピュータに情報を保存するのにCookieを使用するので、TopAccessを正しく動作させるためにはお使いのブラウザでCookieを使用できるように設定されている必要があります。
- TopAccessが正しく動作しないときには、Cookieを削除して試してみてください。
- Webブラウザのポップアップブロック機能は解除するか、TopAccessのポップアップを許可してください。
- ネットワークパスを入力する際は、お使いのOSやブラウザに依存しない文字を使用してください。TopAccessでは、Mac OSで入力された"￥"（円マーク ）をネットワークパスのバックスラッシュとして認識できない場合があります。その場合、［option］キーを押しながら［￥マーク］キー を押して、バックスラッシュ（Unicode:0x005C）として入力してください。

補 足

TopAccessは、欧州言語の特殊文字に対応しています。入力する文字に制限がある場合には、本書の各項目に記載しています。

TopAccessを起動する

TopAccessは、WebブラウザのURLにアドレスを入力することにより起動できます。Windows Vista/Windows 7/Windows Server 2008においては、LLTD（Link Layer Topology Discovery）機能で［ネットワークマップ］からネットワークの接続状態を確認し、表示された本機のアイコンから起動することができます。

P.12「アドレスを入力して起動する」
P.14「ネットワークマップのアイコンから起動する（Windows Vista/Windows 7/Windows Server 2008）」

■ アドレスを入力して起動する

1 Webブラウザを起動し、URLに以下のアドレスを入力します。

http://<IPアドレス>または、http://<デバイス名>

アドレス(D) http://10.10.70.120/

例：

お使いの機器のIPアドレス（IPv4）が「10.10.70.120」のとき

`http://10.10.70.120`

お使いの機器のIPアドレス（IPv6）が「3ffe:1:1:10:280:91ff:fe4c:4f54」のとき

`3ffe-1-1-10-280-91ff-fe4c-4f54.ipv6-literal.net`

または

`http://[3ffe:1:1:10:280:91ff:fe4c:4f54]`

お使いの機器のデバイス名が「mfp_04998820」のとき

`http://mfp-04998820`

注 意

HTTPネットワークサービスでSSLが有効に設定されている場合は、TopAccessのアドレスを入力すると警告メッセージが表示されることがあります。その場合は、［このサイトの閲覧を続行する（推奨されません）。］をクリックして操作を続けてください。

2 TopAccessのWebページが表示されます。

補 足

TopAccessDocMon リンクを使用してTopAccess にアクセスすることもできます。TopAccessDocMon から TopAccessにアクセスする方法は、**TopAccessDocMon Help**を参照してください。

■ ネットワークマップのアイコンから起動する（Windows Vista/Windows 7/Windows Server 2008）

Windows Vista/Windows 7/Windows Server 2008のLLTD（Link Layer Topology Discovery）機能で、［ネットワークマップ］からネットワークの接続状態を確認し、表示された本機のアイコンをクリックして起動します。

P.15「識別されていないネットワークの場合（Windows Vista）」
P.18「識別されていないネットワークの場合（Windows 7）」
P.21「ネットワークマップのアイコンから起動」

補 足

アイコンの右クリックメニューより［インストール］を選択することにより、Web Serviceに必要なドライバのインストールを開始することができます。Web Serviceに必要なドライバのインストールについては、**インストールガイド**を参照してください。

注 意

- LLTD（Link Layer Topology Discovery）機能を利用する場合は、LLTDの設定を有効にしてください。
  P.183「LLTDの設定」
- Web Serviceに必要なドライバのインストールを実行する場合は、Web Service設定の設定を有効にしてください。
  P.182「Web Service設定」

□ 識別されていないネットワークの場合（Windows Vista）

1 ［スタート］から［コントロールパネル］を選択します。

［コントロールパネル］画面が表示されます。

2 ［ネットワークとインターネット］をクリックします。

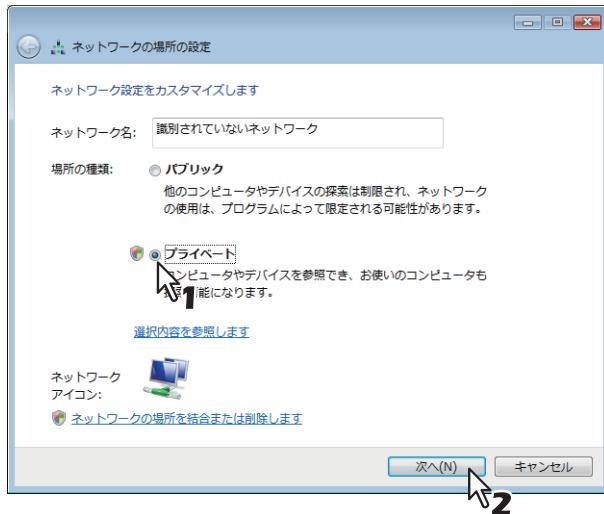
［ネットワークとインターネット］画面を表示します。

3 ［ネットワークと共有センター］をクリックします。

［ネットワークと共有センター］画面が表示されます。

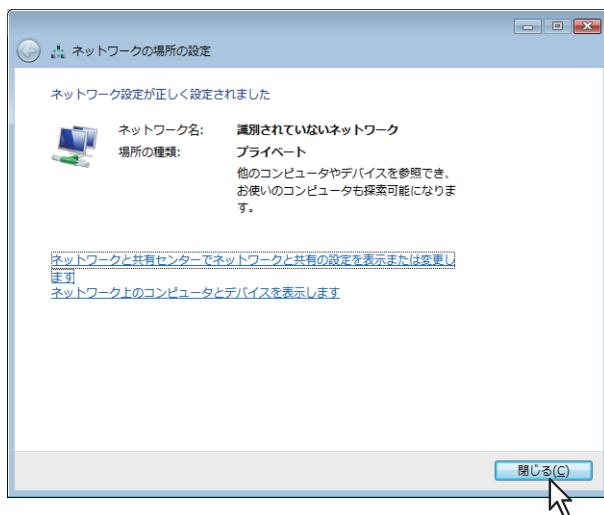
4 ［識別されていないネットワーク（パブリックネットワーク）］の［カスタマイズ］をクリックします。

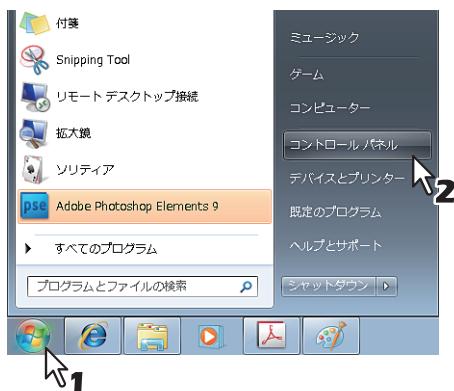
［ネットワークの場所の設定］画面が表示されます。

5 ［場所の種類］から［プライベート］をオンにし、［次へ］をクリックします。

- ［ユーザアカウント制御］ダイアログが表示されます。
- ユーザアカウント制御が無効になっている場合は、［ネットワークの場所の設定-ネットワーク設定が正しく設定されました］画面が表示されます。手順7に進みます。

6 ［ユーザアカウント制御］ダイアログの［続行］をクリックします。

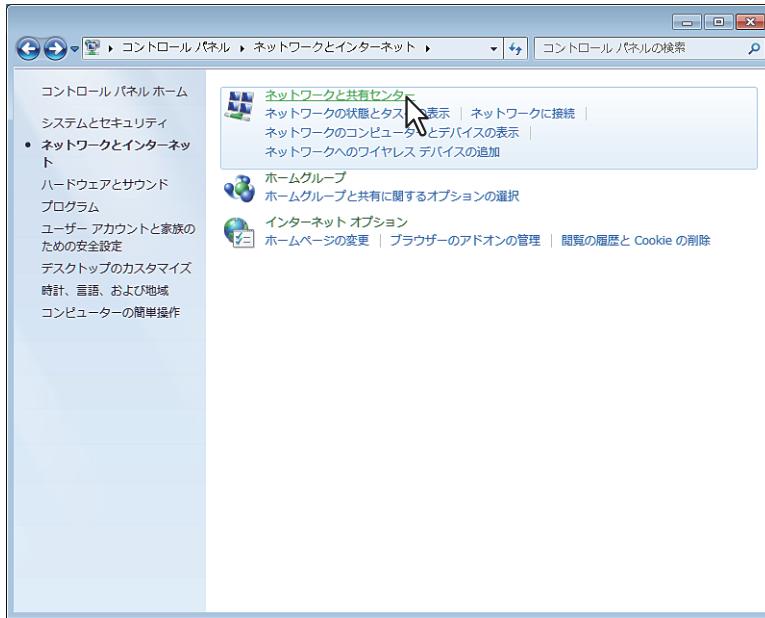
［ネットワークの場所の設定-ネットワーク設定が正しく設定されました］画面が表示されます。

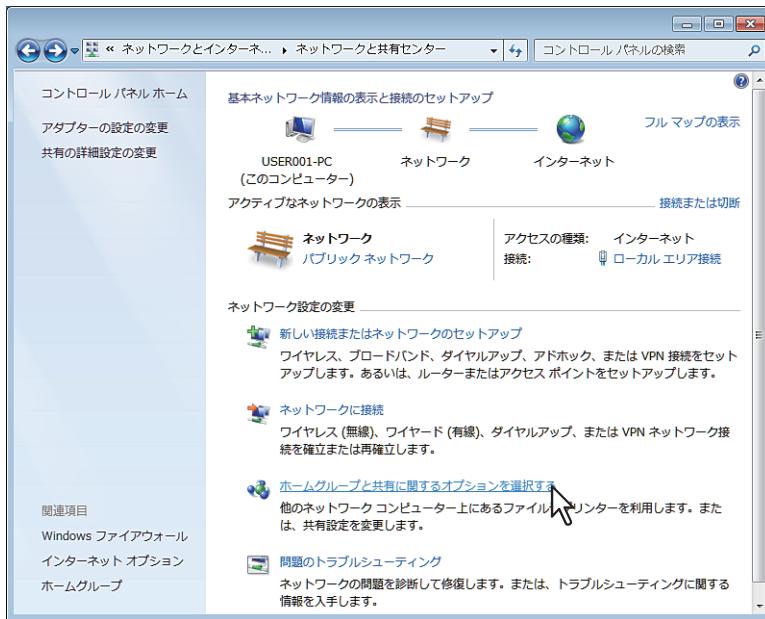
7 ［閉じる］をクリックします。

□ 識別されていないネットワークの場合（Windows 7）

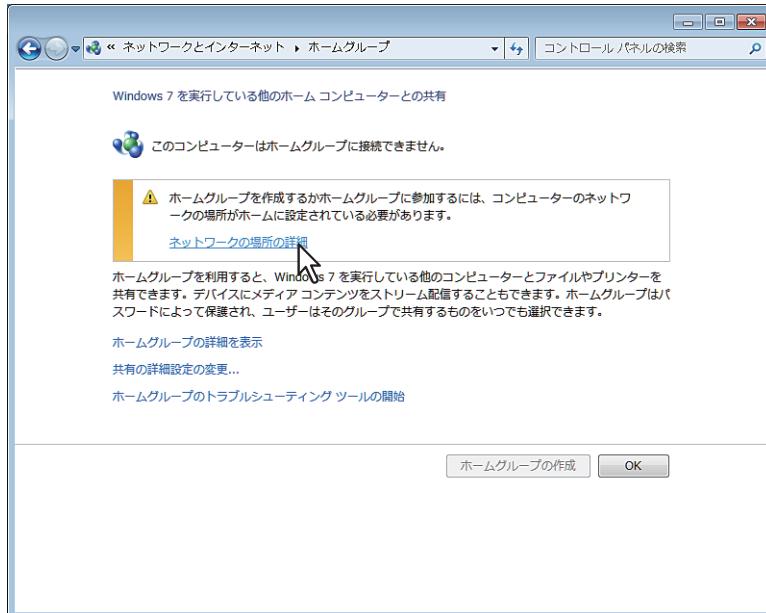
1 ［スタート］から［コントロールパネル］を選択します。

［コントロールパネル］画面が表示されます。

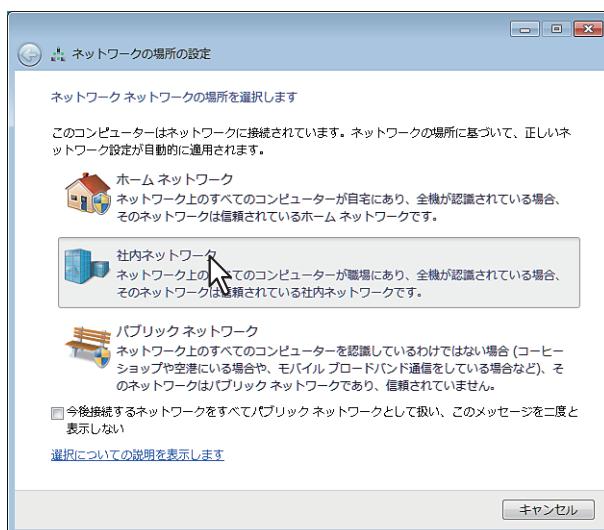
2 ［ネットワークとインターネット］をクリックします。

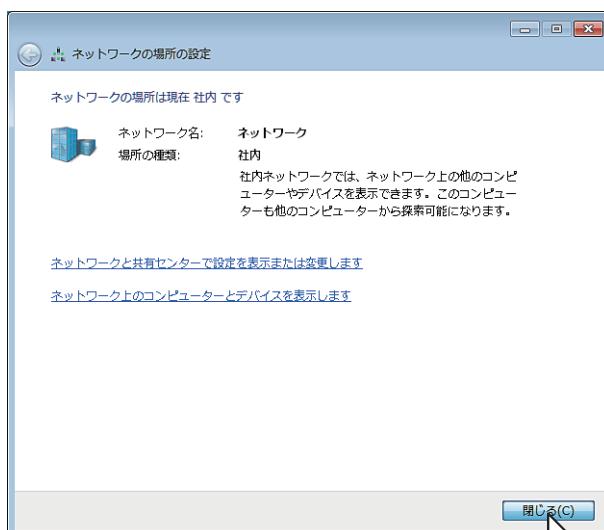
［ネットワークとインターネット］画面を表示します。

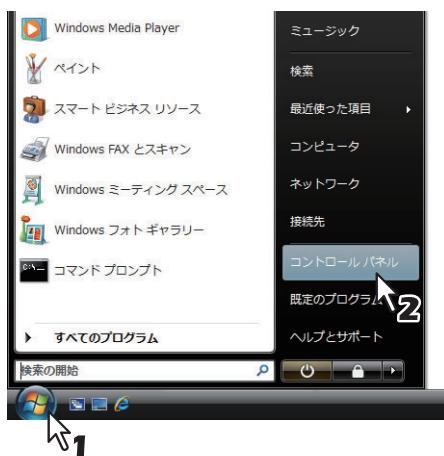
3 ［ネットワークと共有センター］をクリックします。

［ネットワークと共有センター］画面が表示されます。

4 ［ホームグループと共有に関するオプションを選択する］をクリックします。

［ホームグループ］画面が表示されます。

5 ［ネットワークの場所の詳細］をクリックします。

［ネットワークの場所の設定］画面が表示されます。

6 ［社内ネットワーク］をクリックします。

［ネットワークの場所の設定］の確認画面が表示されます。

7 ［閉じる］をクリックします。

□ ネットワークマップのアイコンから起動

1 ［スタート］から［コントロールパネル］を選択します。

［コントロールパネル］画面が表示されます。

2 ［ネットワークとインターネット］をクリックします。

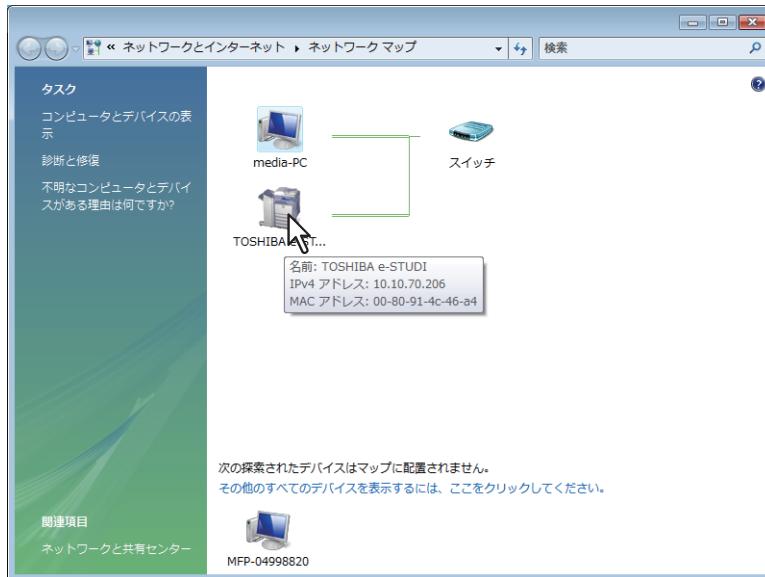
［ネットワークとインターネット］画面を表示します。

3 ［ネットワークと共有センター］をクリックします。

［ネットワークと共有センター］画面が表示されます。

4 ［ネットワークと共有センター］画面から［フルマップを表示］/［フルマップの表示］をクリックします。

［ネットワークマップ］画面にネットワーク上に接続されたデバイスのマップが表示されます。

5 マップの中から本機のアイコンをクリックします。

補 足

- アイコンにポインタを近づけると装置の名称および、IPアドレス、MACアドレスが表示されます。
- 本機のアイコンは、装置の状態に合わせて、フィニッシャ付きのアイコンと、本体のみのアイコンが表示されます。

6 TopAccessのWebページが表示されます。

TopAccessの画面説明

	項目名	機能説明
1	機能タブ	各タブは機能ごとにまとめられています。タブをクリックすると、該当する機能のメインページが表示されます。
2	メニューバー	選択した機能タブの各メニューページへアクセスします。
3	サブメニューバー	選択した機能タブやメニューの各サブメニューページへアクセスします。
4	ソフトウェアのインストール	このリンクをクリックすると、クライアントソフトウェアをインストールするページが表示されます。このページからクライアントソフトウェアをダウンロードすることができます。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。
5	トップ	このリンクをクリックすると、表示しているページの先頭へ戻ります。
6	ヘルプ	このリンクをクリックすると、オンラインヘルプが起動します。

アクセスポリシーモード

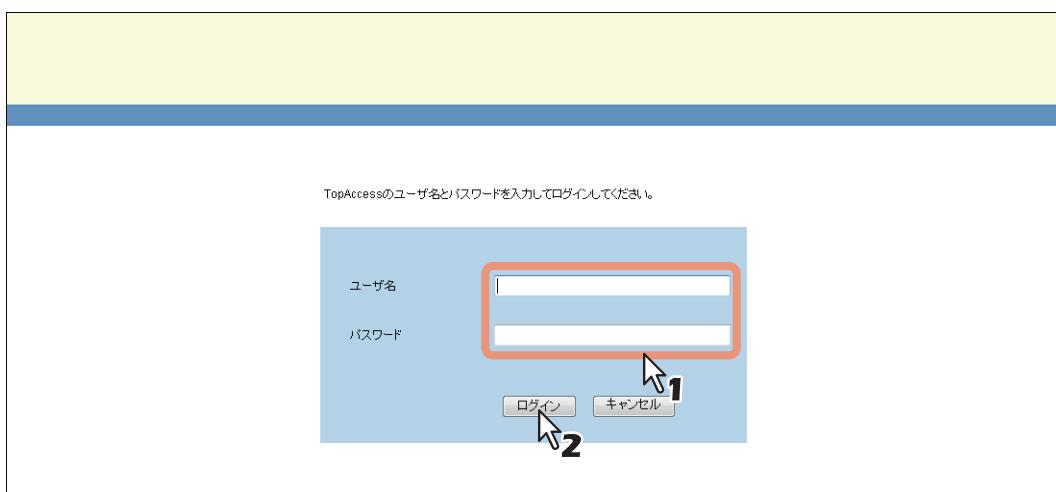
TopAccessにログインするユーザアカウントに応じて、操作を行う権限や表示される項目などが異なるアクセスポリシーモードがあります。
アクセスポリシーモードでは、ユーザアカウントに割り当てられているロールや部門などにより、操作や表示の詳細が異なります。

1 TopAccessを起動します。

P.12 「TopAccessを起動する」

2 ［ログイン］をクリックします。

ログインページが表示されます。

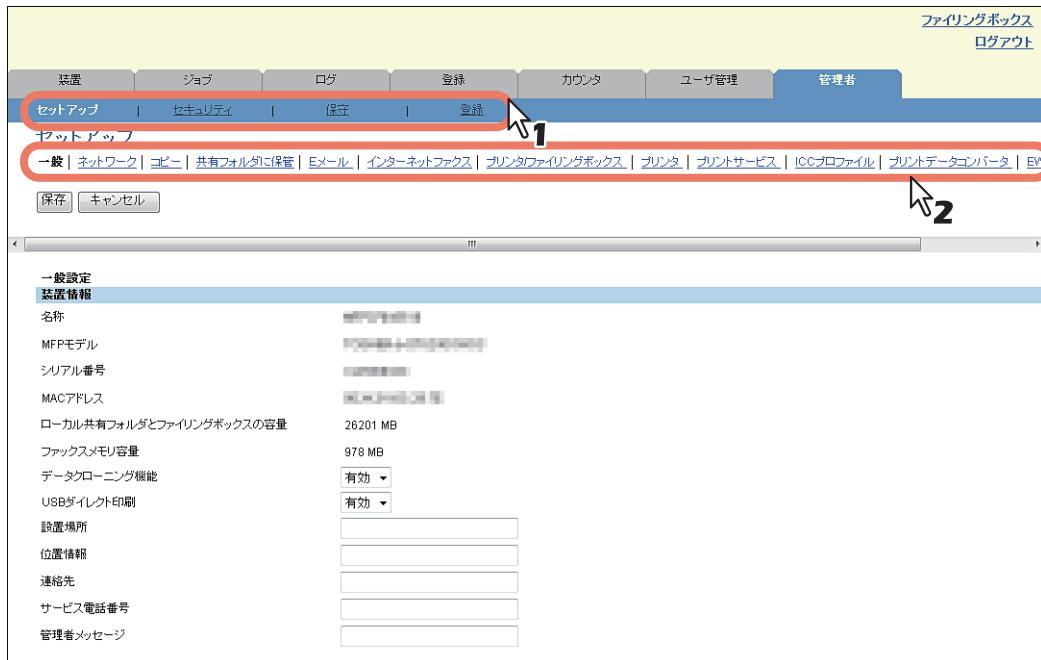
3 ログインするユーザ名とパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。

- TopAccessのアクセスポリシーに従ったユーザ名とパスワードを入力してください。
- セットアップページが表示されます。

注 意

- ログイン時にパスワードを複数回間違えて入力すると、不正なアクセスとみなされ、一定時間ログイン操作ができなくなることがあります。"ユーザアカウントがロックアウトされました" または "ユーザ名とパスワードが不正です。" と表示され、ログイン操作ができなくなった場合は、管理者にお問い合わせください。
- パスワードは伏せ字で表示されます。
- ログイン後、［セッション確保時間］で設定されている時間が経過した場合、自動的にログアウトします。

補 足

- 最初にログインする場合は、ユーザ名に "admin" 、パスワードに "123456" を入力してください。
- ユーザアカウントのロックアウト設定は、［管理者］-［セキュリティ］-［パスワードポリシー］で設定できます。
  P.284 「パスワードポリシー」
- ［セッション確保時間］は、［管理者］-［セットアップ］-［一般］-［WEB設定］で設定できます。

4 メニューとサブメニューをクリックし、目的のページを表示します。

補 足

ページ右上の［ログアウト］リンクをクリックすると、ログアウトすることができます。

2

［装置］タブ

このセクションでは、TopAccessユーザモードの［装置］タブについて説明します。

［装置］項目説明一覧

ユーザ用の［装置］タブが表示され、装置の状態を示すビットマップイメージが表示されます。［更新］をクリックすると、ページ上の情報が更新され、表示されます。
このタブページには、装置に関する以下の情報が表示されます。

	項目名	機能説明
1	装置情報	以下の情報が表示されます。 • **状態**：本機の状態を表示します。 • **名称**：本機の名称を表示します。 • **設置場所**：本機の設置場所を表示します。 • **MFPモデル**：本機のモデル名を表示します。 • **シリアル番号**：本機のシリアル番号を表示します。 • **MACアドレス**：本機のMACアドレスを表示します。 • **メインメモリサイズ（一部の機種のみ）**：メインメモリサイズを表示します。 • **ページメモリサイズ（一部の機種のみ）**：ページメモリサイズを表示します。 • **ローカル共有フォルダとファイリングボックスの容量（一部の機種のみ）**：本機のローカルフォルダとファイリングボックスの空き容量の合計を表示します。 • **ファクスメモリ容量**：本機のファクス送受信用メモリの空き容量を表示します。 • **連絡先**：本機を管理する担当者の氏名を表示します。 • **電話番号**：本機を管理する担当者の電話番号を表示します。 • **メッセージ**：管理者メッセージを表示します。 • **警告**：警告メッセージを表示します。
2	オプション	以下の情報が表示されます。 • **フィニッシャ（一部の機種のみ）**：フィニッシャの装着状態を表示します。 • **パンチユニット（一部の機種のみ）**：ホールパンチユニットの装着状態を表示します。 • **ファクス**：FAXユニットの装着状態を表示します。 • **機能拡張オプション（一部の機種のみ）**：機能拡張オプションの装着状態を表示します。 • **インサーター（一部の機種のみ）**：インサーターの装着状態を表示します。 • **自動両面ユニット（一部の機種のみ）**：自動両面ユニットの装着状態を表示します。

	項目名	機能説明
3	用紙サイズ	以下の情報が表示されます。 • **カセット**：装着されているカセットを一覧表示します。 • **紙サイズ**：各カセットにセットされている用紙のサイズを表示します。 • **用紙種類**：各カセットにセットされている用紙の種類を表示します。 • **使用用途**：各カセットにセットされている用紙の用途を表示します。 • **容量**：各カセットにセットできる最大の用紙枚数を表示します。 • **状態**：各カセットの用紙の有無を表示します。
	注 意 用紙カセットの用紙サイズの設定は、TopAccessから行うことはできません。本機操作パネルより行ってください。設定方法については、**コピーガイド**を参照してください。	
4	トナー	お使いの機器に装着されているトナーの残量が表示されます。

補 足

お使いの機種によっては、表示されない機能があります。

表示アイコンの説明

TopAccessの［装置］タブの本機機体イラスト表示部には、装置にエラーが発生したときやメンテナンスが必要なときに、その内容を示すアイコンが表示されます。以下にアイコンの意味と対処方法を説明します。

	プリンタエラー 1	推奨トナーカートリッジ以外を使用したため、印刷を中止したときに表示されます。エラーの解除方法については、**トラブルシューティングガイド**の「トナーカートリッジの交換」を参照してください。
	プリンタエラー 2	以下の場合に表示されます。 • 排紙トレイから用紙を取り除く必要がある場合。 • フィニッシャのトレイから用紙を取り除く必要がある場合。 • フィニッシャでつまったステイプル針を取り除く必要がある場合。エラーの解除方法については、**トラブルシューティングガイド**の「フィニッシャのステイプラの針づまりの解除」を参照してください。 • サドルステッチユニットでつまったステイプル針を取り除く必要がある場合。エラーの解除方法については、**トラブルシューティングガイド**の「サドルステッチユニットのステイプラの針づまり解除」を参照してください。 • ホールパンチユニットからホールパンチ屑を取り除く必要がある場合。エラーの解除方法については、**トラブルシューティングガイド**の「パンチ屑ケースの清掃」を参照してください。 • 推奨トナーカートリッジを使用していない場合の警告。エラーの解除方法については、**トラブルシューティングガイド**の「トナーカートリッジの交換」を参照してください。 • 用紙サイズ混在の印刷にサドルステッチを行おうとした場合 • 大容量給紙装置から用紙を給紙できない場合の警告 • 排紙トレイに用紙を排紙できない場合の警告
	カバーオープン	前面カバーや自動両面印刷ユニットカバーなどを閉じる必要がある場合に表示されます。
	カセットオープン	カセットを閉じる必要がある場合に表示されます。
	トナー切れ	トナーがなくなった場合に表示されます。エラーの解除方法については、**トラブルシューティングガイド**の「トナーカートリッジの交換」を参照してください。
	廃トナーボックス交換	廃トナーボックスの交換が必要な場合に表示されます。エラーの解除方法については、**トラブルシューティングガイド**の「廃トナーボックスの交換」を参照してください。
	用紙切れ	カセットの用紙がなくなった場合に表示されます。エラーの解除方法については、**コピーガイド**を参照してください。
	用紙づまり	本機機体イラストの、紙づまりが発生したと考えられる場所に表示されます。エラーの解除方法については、**トラブルシューティングガイド**の「紙づまりの解除」を参照してください。
	ステイプル切れ	フィニッシャにステイプル針を補充する必要がある場合に表示されます。エラーの解除方法については、**トラブルシューティングガイド**の「ステイプラの針の補充」を参照してください。
	サービスコール	このアイコンが表示された場合は、サービスエンジニアまたは弊社販売店にご連絡ください。

3

［ジョブ］タブ

ユーザは、TopAccessを使用してユーザ自身の印刷ジョブやファクス／インターネットファクスジョブ、スキャンジョブを表示したり、削除することができます。

[ジョブ]タブの概要説明

印刷ジョブやファクス／インターネットファクスジョブ、スキャンジョブを表示したり、削除することができます。また印刷ジョブの場合は、印刷を直ちに実行することもできます。

補 足

ユーザ認証を有効にしている場合、ログインしているユーザアカウントのジョブを操作できます。
ただし、管理権限が設定されているユーザアカウントの場合は、すべてのジョブを操作できます。

P.32「[印刷ジョブ]項目説明一覧」
P.34「[ファクス／インターネットファクスジョブ]項目説明一覧」
P.35「[スキャンジョブ]項目説明一覧」

■ [印刷ジョブ]項目説明一覧

印刷ジョブページには、以下の情報が印刷ジョブごとに表示されます。

アクセスポリシーモードで、管理権限が設定されているユーザアカウントでログインしている場合は、以下の画面が表示されます。

	項目名	機能説明
1	[削除]ボタン	TopAccessにログインしているユーザの印刷ジョブを選択した場合は、印刷ジョブを削除します。
2	[リリース]ボタン	選択した印刷ジョブが印刷キューに待機中であれば、印刷を実行します。
3	[印刷再開条件]ボタン	ジョブスキップ機能を有効にしているときにスキップした印刷ジョブを選択した場合、印刷再開条件の画面を表示します。 P.33「[印刷再開条件]画面」 P.153「ジョブスキップ設定」
4	[プライベート印刷ジョブ一括削除]ボタン	アクセスポリシーモードで、管理権限が設定されているユーザアカウントでログインしている場合に表示されます。 一覧に表示されているすべてのプライベート印刷ジョブを削除します。

	項目名	機能説明
5	［ホールド印刷ジョブ一括削除］ボタン	アクセスポリシーモードで、管理権限が設定されているユーザアカウントでログインしている場合に表示されます。 一覧に表示されているすべてのホールド印刷ジョブを削除します。
6	文書名	印刷ジョブの文書名を表示します。 機密化設定が有効になっている場合、文書名はアスタリスク（*）10文字で表示されます。 P.154 「機密化設定」
7	日時	クライアントコンピュータから印刷ジョブを送信した日時を表示します。 “年/月/日/時/分/秒”で表示されます。 例：2012/12/24 12:34:56
8	タイプ	プリンタドライバで設定されたジョブタイプを表示します。 ジョブタイプは、［通常印刷］/［予約印刷］/［プライベート印刷］/［お試し印刷］/［ホールド印刷］です。
9	状態	印刷ジョブの状態を表示します。 表示される状態は、［実行停止］/［実行待ち］/［処理待ち］/［中断中］/［スキップ］/［実行中］/［印刷中］/［スケジュール］です。
10	用紙サイズ	印刷ジョブに設定された用紙サイズを表示します。
11	ページ数	印刷ジョブの総ページ数を表示します。
12	部数	印刷ジョブの印刷部数を表示します。
13	ユーザ名	印刷ジョブを所有するユーザアカウント名を表示します。
14	ドメイン名/LDAPサーバー	印刷ジョブを所有するユーザアカウントのドメイン名またはLDAPサーバーを表示します。

補 足

- 印刷を完了したジョブは［ログ］タブに表示されます。
- 該当する表見出しをクリックすると、ページが更新され、指定した順序でジョブ一覧を並べ替えることができます。

□［印刷再開条件］画面

印刷再開の条件を表示します。

	項目名	機能説明
1	［閉じる］ボタン	［印刷再開条件］画面を閉じます。
2	中断要因	印刷が中断した要因を表示します。
3	印刷再開条件	印刷を再開するための方法を表示します。
4	用紙サイズ	印刷を中断したジョブに設定されている用紙サイズを表示します。
5	用紙タイプ	印刷を中断したジョブに設定されている用紙タイプを表示します。
6	カセット	印刷を中断したジョブに設定されている給紙方法を表示します。

■［ファクス／インターネットファクスジョブ］項目説明一覧

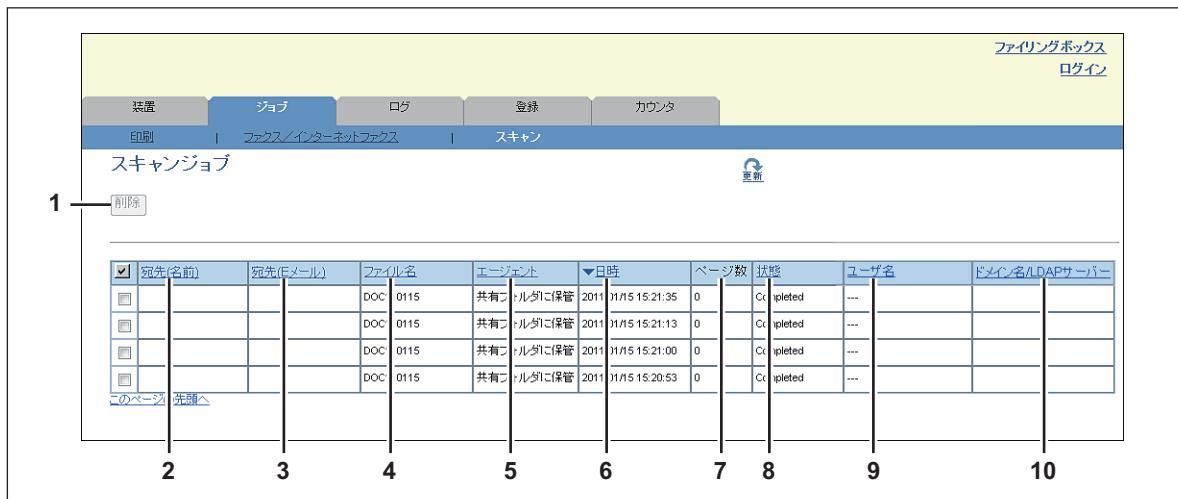
ファクス／インターネットファクスジョブページには、以下の情報がファクス／インターネットファクスジョブごとに表示されます。

	項目名	機能説明
1	［削除］ボタン	選択したファクスジョブを削除します。
2	受付番号	通信の受付番号（001 ～ 100)を表示します。
3	宛先(名前)	ファクスの宛先の名称を表示します。
4	宛先(電話番号/Eメール)	宛先の電話番号またはEメールアドレスを表示します。
5	日時	ファクス／インターネットファクスジョブを操作した日時を表示します。 “年/月/日/時/分/秒”で表示されます。 例：2012/12/24 12:34:56
6	ページ数	ファクス／インターネットファクスジョブの総ページ数を表示します。
7	時刻指定	ファクス／インターネットファクスジョブの送信予約時間を表示します。
8	状態	ファクス／インターネットファクスジョブの状態を表示します。 表示される状態は、［時刻指定］/［実行待ち］/［回線1］/［回線2］/［ネットワーク］です。
9	ユーザ名	ファクス／インターネットファクスジョブを所有するユーザアカウント名を表示します。
10	ドメイン名/LDAPサーバー	ファクス／インターネットファクスジョブを所有するユーザアカウントのドメイン名またはLDAPサーバーを表示します。

補 足

- 送信を完了したジョブは［ログ］タブに表示されます。
- 該当する表見出しをクリックすると、ページが更新され、指定した順序でジョブ一覧を並べ替えることができます。

■［スキャンジョブ］項目説明一覧

スキャンジョブページには、以下の情報がスキャンジョブごとに表示されます。

	項目名	機能説明
1	［削除］ボタン	選択したスキャンジョブを削除します。
2	宛先(名前)	Eメール送信されるスキャン文書の宛先（名前）を表示します。
3	宛先(Eメール)	Eメール送信されるスキャン文書の宛先（Eメールアドレス）を表示します。
4	ファイル名	共有フォルダかUSBに保管またはファイリングボックスに保管のスキャン文書の場合は、ファイル名を表示します。 機密化設定が有効になっている場合、ファイル名はアスタリスク（*）10文字で表示されます。 📖 P.154 「機密化設定」
5	エージェント	スキャンジョブのエージェントを表示します。 表示されるエージェントは、［Eメール］/［共有フォルダに保管］/［ファイリングボックスに保管］/［USBに保存］です。
6	日時	スキャンジョブが本機の操作パネルから送信された日時を表示します。 “年/月/日/時/分/秒”で表示されます。 例：2012/12/24 12:34:56
7	ページ数	スキャンジョブの総ページ数を表示します。
8	状態	スキャンジョブの状態を表示します。 表示される状態は、［実行待ち］/［中断中］/［実行中］/［スキャン中］です。
9	ユーザ名	スキャンジョブを所有するユーザアカウント名を表示します。
10	ドメイン名/LDAPサーバー	スキャンジョブを所有するユーザアカウントのドメイン名またはLDAPサーバーを表示します。

補 足

- スキャンを完了したジョブは［ログ］タブに表示されます。
- 該当する表見出しをクリックすると、ページが更新され、指定した順序でジョブ一覧を並べ替えることができます。

［ジョブ］設定／操作方法

P.36「ジョブを表示する」
P.37「ジョブを削除する」
P.38「プライベート印刷ジョブとホールド印刷ジョブを削除する」
P.38「印刷ジョブを実行する」
P.39「印刷再開条件を確認する」

■ ジョブを表示する

1 **［ジョブ］タブをクリックし、［印刷］、［ファクス／インターネットファクス］、［スキャン］のいずれかのメニューをクリックします。**

ジョブページが表示されます。

2 **ジョブ一覧にジョブが表示されていない場合は、ページの右上にある［更新］をクリックします。**

各ジョブの表示項目の詳細は、以下を参照してください。

P.32「［印刷ジョブ］項目説明一覧」
P.34「［ファクス／インターネットファクスジョブ］項目説明一覧」
P.35「［スキャンジョブ］項目説明一覧」

補 足

完了したジョブは［ログ］タブに表示されます。

■ ジョブを削除する

1 **［ジョブ］タブをクリックし、［印刷］、［ファクス／インターネットファクス］、［スキャン］のいずれかのメニューをクリックします。**

ジョブページが表示されます。

2 **削除したいジョブの横のチェックボックスをチェックします。**

3 **［削除］をクリックします。**

選択したジョブが削除されます。

注 意

削除を確認するには、ページ右上にある［更新］をクリックしてください。

補 足

印刷ジョブページでは、ファクス／インターネットファクスジョブおよびEメール受信印刷ジョブは削除できません。

■ プライベート印刷ジョブとホールド印刷ジョブを削除する

アクセスポリシーモードで、管理権限が設定されているユーザアカウントでログインしている場合、プライベート印刷ジョブとホールド印刷ジョブを削除できます。

1 ［ジョブ］タブをクリックし、［印刷］メニューをクリックします。

印刷ジョブページが表示されます。

2 ［プライベート印刷ジョブ一括削除］ボタンまたは［ホールド印刷ジョブ一括削除］ボタンをクリックします。

プライベート印刷ジョブまたはホールド印刷ジョブが削除されます。

注 意

すべてのプライベート印刷ジョブ、ホールド印刷ジョブを削除するには時間がかかる場合があります。

■ 印刷ジョブを実行する

印刷キューに待機中の印刷ジョブの印刷を実行します。

注 意

プライベート印刷ジョブとホールド印刷ジョブはTopAccessから印刷を実行できません。

1 ［ジョブ］タブをクリックし、［印刷］メニューをクリックします。

印刷ジョブページが表示されます。

2 印刷を実行したい印刷ジョブの横のチェックボックスをチェックします。

3 ［リリース］をクリックします。

印刷ジョブの印刷を直ちに実行します。

■ 印刷再開条件を確認する

ジョブスキップ機能を有効にしているときにスキップした印刷ジョブを印刷するための条件を確認できます。

補 足

ジョブスキップ機能については、以下を参照してください。

P.153 「ジョブスキップ設定」

1 **［ジョブ］タブをクリックし、［印刷］メニューをクリックします。**

印刷ジョブページが表示されます。

2 **ジョブの状態にスキップと表示されている印刷ジョブの横のチェックボックスをチェックします。**

3 **［印刷再開条件］をクリックします。**

印刷再開のための条件を表示します。

4

[ログ] タブ

ユーザは、TopAccessを使用して印刷ログや送受信ジャーナル、スキャンログを表示することができます。

[ログ] タブの概要説明

ジョブの履歴を確認することができます。

注 意

定期的にログをチェックし、なりすましによる本装置への不正アクセスがないことを確認してください。

補 足

- ログは、本機機体の電源を入れてからシャットダウンまで取得します。スーパースリープモードに移行した後もログは取得されます。
- 各ログは新しい順に最大100件まで表示されます。ログはエクスポートすることで、印刷ログ／送信管理記録／受信管理記録／スキャンログは最大5,000件、メッセージログは最大10,000件まで確認することができます。ハードディスクが装着されていない場合、印刷ログ／送信管理記録／受信管理記録／スキャンログ／メッセージログは最大100件まで確認することができます。最大件数を超えたログについては、古いものから削除されます。
- 初期登録ロールのAdministratorとAuditorは、すべてのログを確認することができます。初期登録ロールと権限については、以下を参照してください。
  📖 P.136 「初期登録ロールと権限」
- ユーザ認証を有効にしている場合、ログインしているユーザアカウントのログを確認できます。
  また、初期登録ロールのAdministratorとAuditorが割り当てられているユーザアカウントの場合は、すべてのログを確認できます。

📖 P.42 「[ログ閲覧] 項目説明一覧」
📖 P.49 「[ログのエクスポート] 項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>」
📖 P.50 「[ログ設定] 項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>」

■ [ログ閲覧] 項目説明一覧

📖 P.43 「印刷ログ」
📖 P.44 「送信管理記録」
📖 P.45 「受信管理記録」
📖 P.46 「スキャンログ」
📖 P.48 「メッセージログ <アクセスポリシーモード>」

□ 印刷ログ

印刷ログページには、以下の情報が印刷ログごとに表示されます。

	項目名	機能説明
1	文書名	印刷ジョブの文書名を表示します。
2	日時	クライアントコンピュータから印刷ジョブを送信した日時を表示します。
3	タイプ	印刷ジョブのタイプを表示します。
4	用紙サイズ	印刷ジョブに使用する用紙サイズを表示します。
5	ページ数	印刷ジョブの総ページ数を表示します。
6	部数	印刷ジョブの印刷部数を表示します。
7	結果	印刷ログの結果を表示します。
8	ユーザ名	印刷ジョブを所有していたユーザアカウント名を表示します。
9	ドメイン名/LDAPサーバー	印刷ジョブを所有していたユーザアカウントのドメイン名またはLDAPサーバーを表示します。

補 足

該当する表見出しをクリックすると、ページが更新され、指定した順序でログ一覧を並べ替えることができます。

□ 送信管理記録

送信管理記録ページには、以下の情報が送信ジャーナルごとに表示されます。

	項目名	機能説明
1	番号	ログの通番を表示します。
2	受付番号	通信の受付番号を表示します。
3	日時	ファクス／インターネットファクスを操作した時間を表示します。
4	通信時間	送信に要した時間を表示します。1時間以上の場合は、「59:59」と表示します。
5	ページ数	送信ジョブの総ページ数を表示します。
6	宛先(名前)	送信ジョブの宛先の名称を表示します。
7	宛先(電話番号/Eメール)	送信ジョブの宛先ファクス番号またはEメールアドレスを表示します。
8	部門	部門管理機能が有効な場合、部門番号を表示します。
9	モード	送信モード*を表示します。
10	結果	送信結果を表示します。
11	回線	使用回線を表示します。
12	ユーザ名	送信ジョブを所有していたユーザアカウント名を表示します。
13	ドメイン名/LDAPサーバー	送信ジョブを所有していたユーザアカウントのドメイン名またはLDAPサーバーを表示します。

＊ 送信モードは、2桁のアルファベットと3桁の数字、最大4桁の補足記号によって表示されます。
例：EC 603

2桁アルファベット 通信モード	3桁目 伝送速度（bps）	2桁目 解像度（pels/mm）	1桁目 符号化方式	最大4桁 補足記号
EC：ECM通信 G3：G3通信 ML：メール通信	0：2400 1：4800 2：7200 3：9600 4：12000 5：14400 6：V.34	0：8x3.85 1：8x7.7 2：8x15.4 4：16x15.4 8：300dpi B：600dpi D：150dpi	0：MH 1：MR 2：MMR 3：JBIG	P：ポーリング通信 SB：Fコード通信 SR/R：Fコード中継同報通信 SF/F：Fコード転送通信 ML：インターネットファクス通信 I：N/W-Fax通信 O：オフランプゲートウェイ通信

補 足

該当する表見出しをクリックすると、ページが更新され、指定した順序で送信ジャーナル一覧を並べ替えることができます。

□ 受信管理記録

受信管理記録ページには、以下の情報が受信ジャーナルごとに表示されます。

	項目名	機能説明
1	番号	ログの通番を表示します。
2	受付番号	通信の受付番号を表示します。
3	日時	受信を開始した日時を表示します。
4	通信時間	受信に要した時間を表示します。1時間以上の場合は、「59:59」と表示されます。
5	ページ数	受信ジョブの総ページ数を表示します。
6	送信者名	受信ジョブの送信者の名称を表示します。
7	相手先(電話番号/Eメール)	受信ジョブの送信者のファクス番号またはEメールアドレスを表示します。
8	部門	部門管理が有効な場合、部門番号を表示します。
9	モード	受信モード*を表示します。
10	結果	受信結果を表示します。
11	回線	使用回線を表示します。
12	ユーザ名	受信ジョブを所有していたユーザアカウント名を表示します。
13	ドメイン名/LDAPサーバー	受信ジョブを所有していたユーザアカウントのドメイン名またはLDAPサーバーを表示します。

＊ 受信モードは、2桁のアルファベットと3桁の数字、最大4桁の補足記号によって表示されます。
例：EC 603

2桁アルファベット 通信モード	3桁目 伝送速度（bps）	2桁目 解像度（pels/mm）	1桁目 符号化方式	最大4桁 補足記号
EC：ECM通信 G3：G3通信 ML：メール通信	0：2400 1：4800 2：7200 3：9600 4：12000 5：14400 6：V.34	0：8x3.85 1：8x7.7 2：8x15.4 4：16x15.4 8：300dpi B：600dpi D：150dpi	0：MH 1：MR 2：MMR 3：JBIG	P：ポーリング通信 SB：Fコード通信 SR/R：Fコード中継同報通信 SF/F：Fコード転送通信 ML：インターネットファクス通信 I：N/W-Fax通信 O：オンランプゲートウェイ通信

補 足

該当する表見出しをクリックすると、ページが更新され、指定した順序で受信ジャーナル一覧を並べ替えることができます。

□ スキャンログ

スキャンログページには、以下の情報がスキャンログごとに表示されます。

	項目名	機能説明
1	宛先(名前)	Eメール送信されたスキャン文書の宛先（名前）を表示します。
2	宛先(Eメール)	Eメール送信されたスキャン文書の宛先（Eメールアドレス）を表示します。
3	ファイル名	共有フォルダまたはファイリングボックスに保存されたファイル名が表示されます。 アクセスポリシーにより、表示されない場合があります。
4	エージェント	スキャンジョブのエージェントを表示します。
5	日時	スキャンジョブが本機の操作パネルから送信された日時を表示します。
6	ページ数	スキャンジョブの総ページ数を表示します。
7	モード	送信モードを6文字のコード*で表示します。
8	結果	スキャンジョブの詳細ステータスを表示します。
9	ユーザ名	スキャンジョブを所有していたユーザアカウント名を表示します。
10	ドメイン名/LDAPサーバー	スキャンジョブを所有していたユーザアカウントのドメイン名またはLDAPサーバーを表示します。

* 各コードは以下のフォーマットで表示されます。

コードフォーマット：AA B C D E

AA：ジョブタイプを表します。	
CA	コピーと共有フォルダに保管 コピーしながらファイリングボックスに保管する
CT	コピーしながらファイリングボックスに保管する（印刷なし）
FS	転送箱通信
FF	ファクス受信転送
FE	インターネットファクス受信転送
ST	スキャンしながら共有フォルダかUSBに保管する スキャンしながらファイリングボックスに保管する スキャンしながらEメール送信する
FA	ファクスと共有フォルダに保管
PA	印刷とファイリングボックスに保管
PT	印刷しながらファイリングボックスに保管
IA	N/W-Faxと共有フォルダに保管
BE	ファイリングボックスからのEメール送信
RS	リモートスキャン
MS	メタスキャン
EN	メールのレポート通知

B：通信タイプを表します。	
0	ファイリングボックス
1	Eメール（SMTP）
2	FTP
3	SMB
4	ローカルフォルダに保管
5	NetWare IPX/SPX
6	USB
7	NetWare TCP/IP
8	FTPS
9	リモートスキャンまたはWeb Serviceスキャン
C：解像度を表します。	
0	100 dpi
1	150 dpi
2	200 dpi
3	300 dpi
4	400 dpi
5	600 dpi
A	8x3.85 （line/mm）（203x98）
B	8x7.7 （line/mm）（203x196）
C	8x15.4 （line/mm）（203x391）
D	16x15.4 （line/mm）（400x391）
D：ファイル形式を表します。	
0	ファイリングボックス
1	TIFF（マルチ）
2	TIFF（シングル）
3	PDF（マルチ）または暗号化PDF（マルチ）
4	JPEG
5	PDF（シングル）または暗号化PDF（シングル）
6	高圧縮PDF（マルチ）
7	高圧縮PDF（シングル）
8	XPS（マルチ）
9	XPS（シングル）
A	DIB
B	PDF/A（マルチ）
C	PDF/A（シングル）
E：カラーモードを表します。	
B	Black
G	Gray Scale
C	Color
M	Mix

注 意

WIA（Windows Image Acquisition）ドライバを使用してBMP/JPEG/TIFF/PNGファイル形式でスキャンした場合、スキャンログ上のファイル形式はDIBになります。

補 足

該当する表見出しをクリックすると、ページが更新され、指定した順序でログ一覧を並べ替えることができます。

□ メッセージログ <アクセスポリシーモード>

メッセージログページには、お使いの機種で発生したエラーメッセージが表示されます。

補 足

- アクセスポリシーモードで、管理権限または表示権限が設定されているユーザアカウントでログインしている場合のみ表示されます。
- 初期登録ロールのAdministratorとAuditorは、すべてのメッセージログを確認することができます。初期登録ロールと権限については、以下を参照してください。
  📖 P.136 「初期登録ロールと権限」

	項目名	機能説明
1	日時	エラーが発生した日時を表示します。
2	エラーレベル	エラーのレベルを表示します。 エラー ：ユーザによって回避不可能な可能性があるエラー 警告 ：管理者によって回避可能なエラー 情報 ：一般ユーザによって回避可能なエラー、またはエラーではない
3	メッセージ	メッセージがある場合に表示します。
4	結果	エラーコードを表示します。
5	ユーザ名	メッセージに関係するユーザアカウント名を表示します。
6	ドメイン名/LDAPサーバー	メッセージに関係するユーザアカウントのドメイン名またはLDAPサーバーを表示します。

補 足

エラーコードとエラーメッセージの詳細は、**トラブルシューティングガイド**の「TopAccessによる状態の確認」を参照してください。

■［ログのエクスポート］項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>

ログを消去、またはファイルとしてエクスポートできます。

補 足

- アクセスポリシーモードで、管理権限または表示権限が設定されているユーザアカウントでログインしている場合のみ表示されます。
- エクスポートデータのファイル形式はCSV形式またはXML形式となります。初期値は［CSV］に設定されています。
- エクスポート可能なログは、印刷ログ／送信管理記録／受信管理記録／スキャンログで最大5,000件、メッセージログで最大10,000件です。ハードディスクが装着されていない場合は、最大100件です。最大件数を超えたログについては、古いものから削除されます。

	項目名	機能説明
1	印刷ログ	印刷ログを消去またはファイルとしてエクスポート（ダウンロード）できます。 **新規作成＆ログクリア**：エクスポートデータのファイル形式に従ってファイルを作成します。ファイル作成後には、ログを消去します。作成したファイルをクリックすることで表示またはダウンロードすることができます。 **ログクリア**：ログを消去します。 **新規作成**：エクスポートデータのファイル形式に従ってファイルを作成します。 作成したファイルをクリックすることで表示またはダウンロードできます。
2	送信管理記録	送信管理記録を消去またはファイルとしてエクスポート（ダウンロード）できます。 **新規作成＆ログクリア**：エクスポートデータのファイル形式に従ってファイルを作成します。ファイル作成後には、ログを消去します。作成したファイルをクリックすることで表示またはダウンロードすることができます。 **ログクリア**：ログを消去します。 **新規作成**：エクスポートデータのファイル形式に従ってファイルを作成します。 作成したファイルをクリックすることで表示またはダウンロードできます。

	項目名	機能説明
3	受信管理記録	受信管理記録を消去またはファイルとしてエクスポート（ダウンロード）できます。 **新規作成＆ログクリア**：エクスポートデータのファイル形式に従ってファイルを作成します。ファイル作成後には、ログを消去します。作成したファイルをクリックすることで表示またはダウンロードすることができます。 **ログクリア**：ログを消去します。 **新規作成**：エクスポートデータのファイル形式に従ってファイルを作成します。 作成したファイルをクリックすることで表示またはダウンロードできます。
4	スキャンログ	スキャンログを消去またはファイルとしてエクスポート（ダウンロード）できます。 **新規作成＆ログクリア**：エクスポートデータのファイル形式に従ってファイルを作成します。ファイル作成後には、ログを消去します。作成したファイルをクリックすることで表示またはダウンロードすることができます。 **ログクリア**：ログを消去します。 **新規作成**：エクスポートデータのファイル形式に従ってファイルを作成します。 作成したファイルをクリックすることで表示またはダウンロードできます。
5	メッセージログ	メッセージログを消去またはファイルとしてエクスポート（ダウンロード）できます。 **新規作成＆ログクリア**：エクスポートデータのファイル形式に従ってファイルを作成します。ファイル作成後には、ログを消去します。作成したファイルをクリックすることで表示またはダウンロードすることができます。 **ログクリア**：ログを消去します。 **新規作成**：エクスポートデータのファイル形式に従ってファイルを作成します。 作成したファイルをクリックすることで表示またはダウンロードできます。

■［ログ設定］項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>

P.50「ログ認証」
P.51「ログサイズ」

補 足

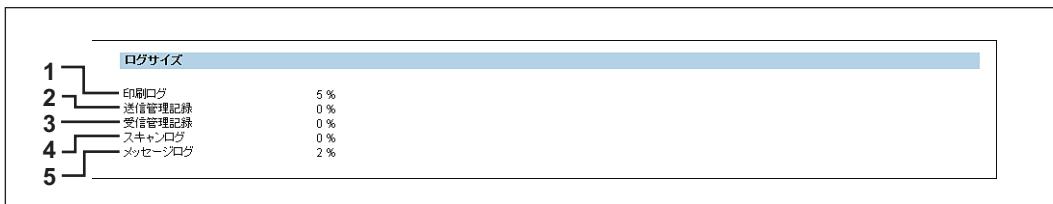
アクセスポリシーモードで、管理権限または表示権限が設定されているユーザアカウントでログインしている場合のみ表示されます。

□ ログ認証

ログ認証を使用するか設定します。

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	ログ認証の設定内容を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	設定を中止します。
3	ログ認証使用	ログ認証の使用を設定します。 ログ認証を有効にすると、ユーザのログ表示をアクセスポリシーに従って制限します。 • **有効**：ログ認証を有効にします。アクセスポリシーに従って表示が制限されます。 • **無効**：ログ認証を無効にします。すべてのユーザのログが表示されます。

□ ログサイズ

ログに記録されているサイズを表示します。

	項目名	機能説明
1	印刷ログ	印刷ジョブのログサイズを表示します。
2	送信管理記録	送信ジャーナルのログサイズを表示します。
3	受信管理記録	受信ジャーナルのログサイズを表示します。
4	スキャンログ	スキャンジョブのログサイズを表示します。
5	メッセージログ	メッセージログのログサイズを表示します。

[ログ]設定／操作方法

P.52「ログを表示する」
P.53「ログをエクスポートする」

■ ログを表示する

補 足

本機で実行したジョブのログを表示することができます。各ログは新しい順に最大100件まで表示されます。100件を超えると古いものから削除されます。

1 [ログ]タブをクリックし、[ログ閲覧]メニューをクリックします。

2 [印刷ログ]、[送信管理記録]、[受信管理記録]、[スキャンログ]、[メッセージログ]のいずれかをクリックします。

ログページが表示されます。

3 ページ右上にある[更新]をクリックし、ログ情報を更新します。

補 足

該当する表見出しをクリックすると、ページが更新され、指定した順序で一覧を並べ替えることができます。

■ ログをエクスポートする

ログをエクスポートするには、アクセスポリシーモードでログインする必要があります。
エクスポートできるログについては、以下を参照してください。
📖 P.49「［ログのエクスポート］項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>」

1 **アクセスポリシーモードでログインします。**

📖 P.25「アクセスポリシーモード」

2 **［ログ］タブをクリックし、［ログのエクスポート］メニューをクリックします。**

補 足

ファイルサイズはバイトで表示されます。

3 **エクスポートするログのファイル形式（CSV/XML）を選択します。**

4 **エクスポートするログの［新規作成］ボタンをクリックしてファイルを作成します。**

5 **ファイル名をクリックします。**

6 **ログファイルを保存します。**

使用しているブラウザが操作の確認ダイアログを表示します。ログをファイルとして保存する処理を選択し、ダイアログの手順に従って保存してください。

5

［登録］タブ

このセクションでは、テンプレートやアドレス帳、中継箱の登録方法について説明します。

[登録] タブの概要説明

テンプレート、アドレス帳、Fコード／ファクス受信転送の登録ができます。

P.56 「[テンプレート] 項目説明一覧」
P.83 「[アドレス帳] 項目説明一覧」
P.89 「[Fコード／ファクス受信転送（振分け）] 項目説明一覧」

■ [テンプレート] 項目説明一覧

P.56 「[テンプレートグループ] 画面」
P.59 「[グループ情報] 画面」
P.60 「[プライベートテンプレート] 画面」
P.61 「[グループパスワードの変更] 画面」
P.62 「[テンプレート情報] 画面」
P.63 「プライベートテンプレートの詳細設定」

□ [テンプレートグループ] 画面

テンプレートの登録状況を確認できます。
テンプレートは、お使いの機器の操作パネルから操作できるコピー、ファクス／インターネットファクス、スキャンなどのエージェント設定を保存することができます。ユーザは、操作パネルからコピー、ファクス／インターネットファクス、スキャンを行うときにそのテンプレートを選択して簡単に操作することができるようになります。

テンプレートはグループごとに管理され、1つのグループには、最大60個のテンプレートを保存することができます。ハードディスクが装着されていない場合は、各グループに最大12個のテンプレートを登録できます。
グループは、1つの共有テンプレートグループと最大200個のプライベートテンプレートグループで構成されます。ハードディスクが装着されていない場合は、最大4個のプライベートテンプレートグループで構成されます。

グループの種類	グループの説明	最大 グループ数	登録 テンプレート数
共有テンプレート グループ	共有テンプレートグループは、アクセスポリシーモードで、管理権限が設定されているユーザがテンプレートの作成や保守などの管理を行います。 登録されたテンプレートは、すべてのユーザが利用できます。	1	60（ハードディスクが装着されていない場合は12）
プライベート テンプレート グループ	プライベートテンプレートグループは、ユーザがテンプレートの作成を行います。ユーザがグループや登録するテンプレートにパスワードを設定することができるため、使用を制限することができます。なお、パスワードが設定されていないグループやテンプレートは、すべてのユーザが利用できます。	200（ハードディスクが装着されていない場合は4）	60（ハードディスクが装着されていない場合は12）

共有テンプレートグループ

	項目名	機能説明
1	番号	共有テンプレートの場合は、番号は“共有”と表示されます。
2	名称	共有テンプレートの場合は、名称は“共有テンプレートグループ”と表示されます。 クリックすると登録されているテンプレートを確認することができます。 P.101 「共有テンプレートを表示する」
3	ユーザ名	－

補 足

共有テンプレートグループのテンプレートは、アクセスポリシーモードで、管理権限が設定されているユーザが作成し管理します。共有テンプレートグループの登録については、以下の説明を参照してください。

P.354 「共有テンプレートを登録する」

プライベートテンプレートグループ

	項目名	機能説明
1	番号	グループ番号が表示されます。
2	名称	グループ名称が表示されます。 すでに登録済みの名称をクリックすると、登録されているテンプレートを確認・編集することができます。 📖 P.94 「プライベートテンプレートグループを登録・編集する」 ［未定義］をクリックすると、テンプレートを登録することができます。 📖 P.59 「［グループ情報］画面」
3	ユーザ名	グループの所有者名が表示されます。 すでに登録済みのユーザ名をクリックすると、登録されているテンプレートを確認・編集することができます。 📖 P.94 「プライベートテンプレートグループを登録・編集する」 ［未定義］をクリックすると、テンプレートを登録することができます。 📖 P.59 「［グループ情報］画面」

補 足

- 「全てのグループ」/「定義済みグループ」をクリックすることで、プライベートテンプレートグループの表示方法を変更することができます。
- プライベートテンプレートグループの登録方法、テンプレートの作成方法については、以下の説明を参照してください。
  📖 P.94 「プライベートテンプレートグループを登録・編集する」
  📖 P.97 「テンプレートを登録・編集する」

□［グループ情報］画面

新しいプライベートテンプレートグループを登録することができます。

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	入力した内容でプライベートテンプレートグループを作成します。 ［プライベートテンプレート］画面が表示され、登録するテンプレートを編集することができます。 📖 P.60「［プライベートテンプレート］画面」
2	［キャンセル］ボタン	設定を中止します。
3	番号	プライベートグループの番号が表示されます。
4	名称	プライベートグループのグループ名を入力します。
5	ユーザ名	プライベートグループの所有者名を入力します。
6	レポート通知	各テンプレートでレポート通知を有効に設定した場合に、初期設定の通知先として表示されるEメールアドレスを入力します。レポート通知を行うかどうかは、テンプレートごとに設定することができます。
7	パスワード	プライベートグループにパスワードを設定する場合にパスワードを入力します。半角の数字、#、*を含め、20文字まで入力できます。
8	パスワードの確認	確認のためにパスワードを再入力します。

□［プライベートテンプレート］画面

登録するテンプレートを編集することができます。

グループ情報

	項目名	機能説明
1	［編集］ボタン	プライベートテンプレートグループ情報を編集します。 P.59 「［グループ情報］画面」
2	［パスワード変更］ボタン	プライベートテンプレートグループのパスワードを変更します。 P.61 「［グループパスワードの変更］画面」
3	［リセット］ボタン	プライベートテンプレートグループの登録をリセットします。
4	番号	プライベートグループの番号を表示します。
5	名称	プライベートグループのグループ名を表示します。
6	ユーザ名	プライベートグループの所有者名を表示します。

テンプレートリスト

テンプレートリストを表示します。「パネル表示」/「リスト表示」をクリックすることで、表示方法を変更することができます。

パネル表示

	項目名	機能説明
1	画像	テンプレートのアイコンを表示します。 未定義アイコンをクリックすると、新しいテンプレートを登録することができます。 P.59 「［グループ情報］画面」
2	名称1/名称2	パネル設定で登録した名称を表示します。 P.63 「パネル設定（プライベートテンプレート）」

リスト表示

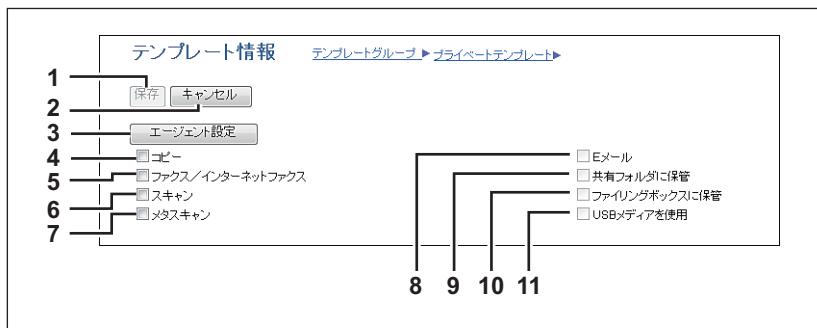
	項目名	機能説明
1	名称	パネル設定で登録した名称を表示します。 📖 P.63 「パネル設定（プライベートテンプレート）」 ［未定義］をクリックすると、新しいテンプレートを登録することができます。 📖 P.59 「［グループ情報］画面」
2	ユーザ名	パネル設定で登録したユーザ名を表示します。 ［未定義］をクリックすると、新しいテンプレートを登録することができます。 📖 P.59 「［グループ情報］画面」
3	エージェント	テンプレートに登録されているエージェントを表示します。 ［未定義］をクリックすると、新しいテンプレートを登録することができます。 📖 P.59 「［グループ情報］画面」

□［グループパスワードの変更］画面

プライベートテンプレートグループのパスワードを変更できます。

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	変更したパスワードを保存します。
2	［キャンセル］ボタン	パスワード変更を中止します。
3	旧パスワード	現在使用しているパスワードを入力します。
4	新しいパスワード	新しいパスワードを入力します。
5	パスワードの確認	確認のためにパスワードを再入力します。

□［テンプレート情報］画面

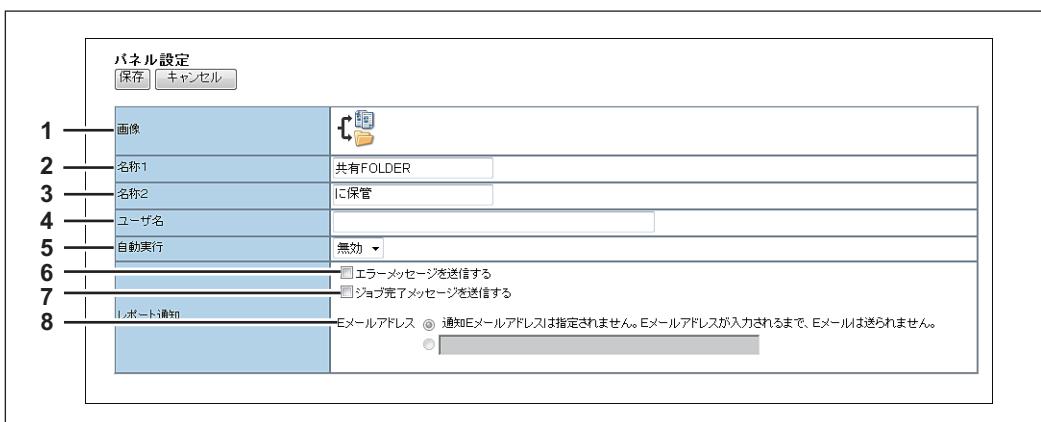
登録するテンプレートを設定します。

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	テンプレートの内容を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	操作を中止します。
3	［エージェント設定］ボタン	選択されているエージェントを設定します。 新規にエージェントを設定する場合は、テンプレートの詳細を設定できます。 📖 P.63 「プライベートテンプレートの詳細設定」
4	コピー	原稿のコピーを実行するテンプレートを作成します。原稿をほかの宛先に送信するのと同時にコピーを印刷したいときに、このエージェントを選択します。［共有フォルダに保管］または［ファイリングボックスに保管］エージェントのどちらかと組み合わせてセットアップすることができます。ハードディスクが装着されていない場合、エージェントは1つのみ選択できます。
5	ファクス／インターネットファクス	ファクスやインターネットファクス送信用のテンプレートを作成します。［共有フォルダに保管］エージェントと組み合わせてセットアップすることができます。ハードディスクが装着されていない場合、［共有フォルダに保管］および［ファイリングボックスに保管］は選択できません。
6	スキャン	スキャン用のテンプレートを作成します。［Eメール］、［共有フォルダに保管］、［ファイリングボックスに保管］または［USBメディアを使用］のいずれかを選択する必要があります。最大2つのエージェントを組み合わせることができます。ハードディスクが装着されていない場合、エージェントは1つのみ選択できます。
7	メタスキャン	メタスキャンオプションをインストールしている場合に有効になります。 メタスキャンオプションのテンプレートを作成します。 詳細については、メタスキャンオプション対応のアプリケーションのベンダーから提供されるドキュメントを参照してください。
8	Eメール	Eメールに添付して送付します。
9	共有フォルダに保管	共有フォルダに保存します。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。
10	ファイリングボックスに保管	ファイリングボックスに保存します。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。
11	USBメディアを使用	USBメディアに保存します。

□ プライベートテンプレートの詳細設定

テンプレートに登録する詳細を設定できます。

📖 P.63 「パネル設定（プライベートテンプレート）」
📖 P.64 「宛先設定（プライベートテンプレート）」
📖 P.70 「インターネットファクス設定（プライベートテンプレート）」
📖 P.70 「ファクス設定（プライベートテンプレート）」
📖 P.72 「Eメール設定（プライベートテンプレート）」
📖 P.74 「共有フォルダに保管設定（プライベートテンプレート）」
📖 P.77 「ボックス設定（プライベートテンプレート）」
📖 P.78 「USB保存設定（プライベートテンプレート）」
📖 P.80 「スキャン設定（プライベートテンプレート）」
📖 P.82 「拡張フィールド設定」
📖 P.82 「拡張フィールド属性」
📖 P.82 「パスワード設定」

パネル設定（プライベートテンプレート）

パネル設定のページでは、タッチパネル画面にテンプレートアイコンをどのように表示するかを設定します。また、テンプレートの通知機能を設定することができます。

	項目名	機能説明
1	画像	タッチパネル画面に表示されるアイコンが表示されます。選択したエージェントによって、アイコンは自動的に指定されます。
2	名称1	タッチパネル画面のアイコンの隣に表示されるテキストを入力します。半角11文字、全角5文字まで入力できます。
3	名称2	タッチパネル画面のアイコンの隣に表示されるテキストを入力します。半角11文字、全角5文字まで入力できます。
4	ユーザ名	テンプレートの所有者名を入力します。半角30文字、全角15文字まで入力できます。
5	自動実行	自動スタート機能の有効／無効を選択します。［有効］を選択した場合、タッチパネル上のテンプレートメニューからテンプレートボタンを押すと、［スタート］ボタンや［スキャン］を押さなくても操作が自動的に開始されます。
	注 意 Eメール認証（Eメール送信のユーザ認証設定）とユーザ認証（ユーザ管理設定）のユーザ名またはパスワードが異なる場合、およびEメール認証のみを実施している場合は、自動実行のテンプレート呼び出し時にも、Eメール認証のユーザ名とパスワードの入力が必要です。	
6	レポート通知：エラーメッセージを送信する	エラー発生時に指定したEメールアドレスに通知メッセージを送信します。
7	レポート通知：ジョブ完了メッセージを送信する	ジョブ完了時に指定したEメールアドレスに通知メッセージを送信します。

	項目名	機能説明
8	レポート通知：Eメールアドレス	通知メッセージを送信するEメールアドレスを指定します。プライベートグループに設定されたEメールアドレスに送信するか、または送信するEメールアドレスを設定することができます。
	注 意 レポート通知を設定した場合は、TopAccessアクセスポリシーモードの［セットアップ］メニューにある［Eメール設定］サブメニューで、Eメール送信の設定を必ず行ってください。設定方法については、以下のセクションを参照してください。 P.248 「Eメール設定をセットアップする」	

宛先設定（プライベートテンプレート）

宛先リストのページでは、ファクスやインターネットファクス、Eメール送信文書を送信する宛先を指定します。
Eメール送信エージェントの宛先を指定するときは、Eメールアドレスのみを使用することができます。
ファクス／インターネットファクスエージェントの宛先を指定するときは、ファクス番号およびEメールアドレスの両方を使用することができます。

ファクス／インターネットファクスエージェントの場合

Eメール送信エージェントの場合

注 意

宛先にファクス番号を指定するには、FAXユニットが本機に装着されている必要があります。

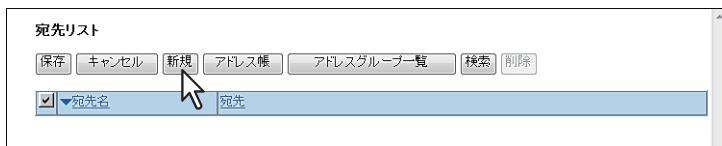
宛先を指定するには、相手先のEメールアドレスやファクス番号を手動で入力したり、アドレス帳から個人やグループを選択します。また、LDAPサービスを使って検索することもできます。
P.65 「宛先を手動で入力する」
P.66 「宛先をアドレス帳から選択する」
P.67 「グループをアドレス帳から選択する」
P.68 「LDAPサーバーを使って宛先を検索する」
P.69 「宛先リストから宛先を削除する」

宛先を手動で入力する

宛先を手動で入力し、宛先リストに追加します。

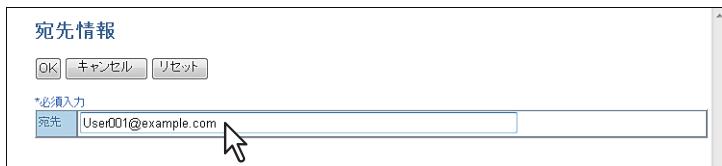
注 意

［宛先制限設定］が有効に設定されている場合、宛先を入力することはできません。
P.278 「宛先制限設定」

1 **［宛先設定］（ファクス／インターネットファクスエージェントの場合）または［TO：宛先設定］／［CC：宛先設定］／［BCC：宛先設定］（Eメール送信エージェントの場合）をクリックし、宛先リストページを開きます。**

2 **［新規］をクリックします。**

宛先情報ページが表示されます。

3 **［宛先］ボックスに宛先のEメールアドレスかファクス番号を入力します。**

注 意

FAXユニットを装着している場合にのみ、ファクス番号を宛先に指定できます。

4 **［OK］をクリックします。**

入力した宛先が宛先リストページに追加されます。

5 **複数の宛先を指定する場合は、手順2～4を繰り返します。**

補 足

宛先設定を保存する前に、宛先リストに追加した宛先を削除することができます。
P.69 「宛先リストから宛先を削除する」

6 **［保存］をクリックします。**

宛先設定が保存されます。

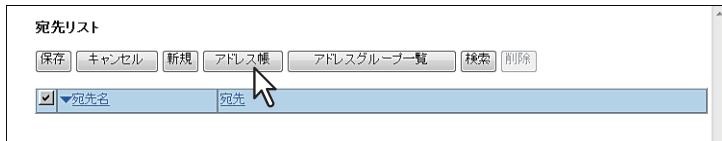
宛先をアドレス帳から選択する

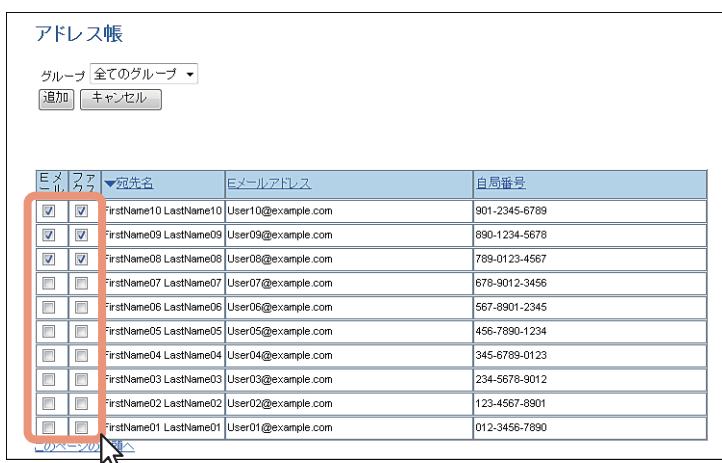
本機のアドレス帳から宛先を選択します。

注 意

［宛先制限設定］が有効に設定されている場合、宛先をアドレス帳から選択することはできません。
P.278 「宛先制限設定」

1 **［宛先設定］をクリックし、宛先リストページを開きます。**

2 **［アドレス帳］をクリックします。**

アドレス帳のページが表示されます。

3 **Eメール送信またはインターネットファクス送信の宛先を選択する場合は、選択したい宛先の［Eメール］チェックボックスをオンにします。ファクス送信の宛先を選択する場合は、目的の宛先の［ファクス］チェックボックスをオンにします。**

注 意

- Eメール送信用のテンプレートを作成している場合は、Eメールアドレスの一覧のみ表示されます。
- FAXユニットを装着している場合にのみ、ファクス番号を宛先に指定できます。

補 足

特定のグループの宛先のみを表示する場合は、［グループ］ボックスから目的のグループを選択します。

4 **［追加］をクリックします。**

選択した宛先が宛先リストページに追加されます。

補 足

宛先設定を保存する前に、宛先リストに追加した宛先を削除することができます。
P.69 「宛先リストから宛先を削除する」

5 ［保存］をクリックします。

宛先設定が保存されます。

グループをアドレス帳から選択する

本機のアドレス帳からグループを選択します。

注 意

［宛先制限設定］が有効に設定されている場合、宛先をグループアドレス帳から選択することはできません。

P.278 「宛先制限設定」

1 ［宛先設定］をクリックし、宛先リストページを開きます。

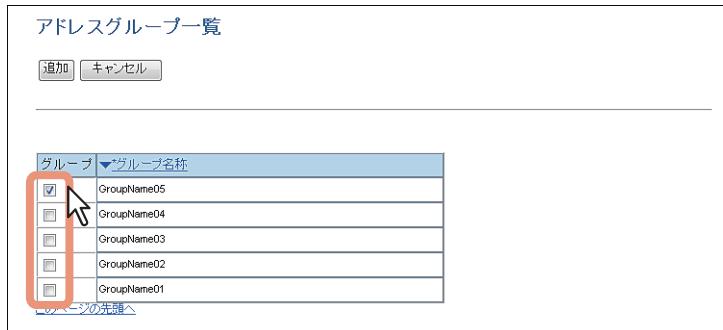
2 ［アドレスグループ一覧］をクリックします。

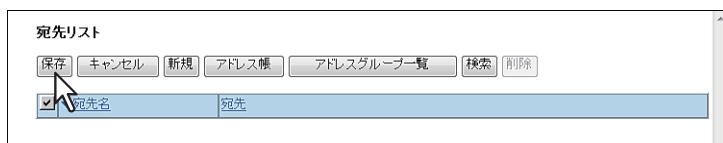
アドレスグループ一覧のページが開きます。

3 目的の宛先が所属するグループのチェックボックスをオンにします。

4 ［追加］をクリックします。

選択したグループのすべての宛先が、宛先リストページに追加されます。

補 足

宛先設定を保存する前に、宛先リストに追加した宛先を削除することができます。

P.69 「宛先リストから宛先を削除する」

5 ［保存］をクリックします。

宛先設定が保存されます。

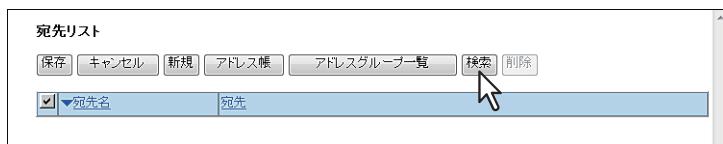
LDAPサーバーを使って宛先を検索する

登録したLDAPサーバーを使って宛先を検索します。本機のアドレス帳から宛先を検索することもできます。

注 意

検索に使用するLDAPサーバーは、アクセスポリシーモードで、管理権限が設定されているユーザによって登録されている必要があります。

P.324 「LDAPサービスを登録する」

1 ［宛先設定］をクリックし、宛先リストページを開きます。

2 ［検索］をクリックします。

連絡先検索のページが表示されます。

3 ［LDAPサーバー名］ボックスで検索するディレクトリサービス名を選択し、検索したい項目欄に検索文字を入力します。

補 足

- ［LDAPサーバー名］ボックスから本機モデル名を選択すると、本機のアドレス帳を検索することができます。
- 各項目に入力した文字列を含む宛先が検索されます。
- 空欄にした項目は無視され、入力した項目だけを用いて検索します。ただし、最低1つのボックスには情報を入力する必要があります。

4 ［検索］をクリックします。

LDAPサーバーを使った宛先の検索を開始します。検索を終了すると、検索結果が検索結果リストページに表示されます。

5 **Eメール送信またはインターネットファクス送信の宛先を選択する場合は、選択したい宛先の［Eメール］チェックボックスをオンにします。ファクス送信の宛先を選択する場合は、目的の宛先の［ファクス］チェックボックスをオンにします。**

［条件変更］をクリックすると、手順3に戻って条件を変更して検索できます。

注 意

- FAXユニットを装着している場合にのみ、ファクス番号を宛先に指定できます。
- ［company（会社名）］［department（部門名）］の値はアクセスポリシーモードで、管理権限が設定されているユーザの設定に依存します。

6 **［追加］をクリックします。**

選択した宛先が宛先リストページに追加されます。

補 足

宛先設定を保存する前に、宛先リストに追加した宛先を削除することができます。

📖 P.69 「宛先リストから宛先を削除する」

7 **［保存］をクリックします。**

宛先設定が保存されます。

宛先リストから宛先を削除する

1 **［宛先設定］をクリックし、宛先リストページを開きます。**

2 **宛先リストから削除したい宛先のチェックボックスをオンにし、［削除］をクリックします。**

選択された宛先が宛先リストから削除されます。

5 ［登録］タブ

インターネットファクス設定（プライベートテンプレート）

インターネットファクス設定のページでは、送信されるインターネットファクスのプロパティを設定します。

	項目名	機能説明
1	件名	インターネットファクスに適用する件名を設定します。デフォルト設定の［（マシン名称）からのスキャン［（テンプレート名称）］（日付）（時間）］を選択するか、目的の件名をボックスに入力します。手動で入力した場合の件名は、［（件名）（日付）（時間）］となります。
2	送信者アドレス	送信者のEメールアドレスとして適用するEメールアドレスを入力します。テンプレートを使って本機が送信した文書に対して相手先が返信する場合は、ここで設定するEメールアドレスに返信されます。半角英数字140文字まで入力できます。
3	送信者名	インターネットファクス送信に適用する送信者の名前を入力します。全角半角に関係なく64文字まで入力できます。
4	本文	インターネットファクスに適用する本文を入力します。全角半角に関係なく、スペースを含み1000文字まで入力できます。
5	ファイル形式	スキャンイメージのファイル形式を選択します。［TIFF-S］（TIFF-FX（Profile S））のみ選択することができます。
6	分割ページサイズ	メッセージの分割サイズを選択します。初期値は［分割無］に設定されています。

ファクス設定（プライベートテンプレート）

ファクス設定に関するエージェント設定のページでは、ファクス／インターネットファクスエージェントを使ってファクスをどのように送信するか設定します。

	項目名	機能説明
1	プレビュー	ファクスを送信する前にプレビュー表示するか選択します。 • **ON**：プレビューを表示します。 • **OFF**：プレビューを表示しません。

	項目名	機能説明
2	解像度	ファクスを送信する際に適用する標準の解像度を選択します。 • **普通**：標準の解像度に標準モードを適用します。このモードは、普通サイズの文字で構成されたテキスト原稿をひんぱんに送信する場合に適しています。 • **精細**：標準の解像度に精細モードを適用します。このモードは、細かい文字や細かな線画を含む原稿を送信する場合に適しています。 • **高精細**：標準の解像度に高精細モードを適用します。このモードは、特に細かい文字や精密な線画を含む原稿を送信する場合に適しています。
3	原稿モード	ファクスを送信する際に適用する標準の画質を選択します。 • **文字**：標準の画質モードに文字モードを適用します。このモードは、テキスト原稿を送信する場合に適しています。 • **文字／写真**：標準の画質モードに文字／写真モードを適用します。このモードは、テキスト、写真両方で構成された原稿を送信する場合に適しています。 • **写真**：標準の画質モードに写真モードを適用します。このモードは、写真原稿を送信する場合に適しています。
4	濃度調整	ファクスを送信する際に適用する標準の濃度を選択します。 原稿によって理想的な濃度を適用する［自動］を選択するか、手動で11段階の濃度を調整します。
5	送信方法	送信モードを選択します。 • **メモリ送信**：このモードでは、原稿をいったんメモリに保存し、自動的に送信を開始します。原稿をすみやかに返却したいときや、同じ原稿を複数の相手先に送信するときに便利な機能です。 • **ダイレクト送信**：このモードでは、相手先にダイヤルし、原稿を 1 枚ずつ送信します。送信している相手先を確認したいときに便利な機能です。原稿はメモリに保存されないため、送信できる相手先は1件です。
	補 足 ［ダイレクト送信］はファクス／インターネットファクスのテンプレート（共有フォルダに保管しない）を作成した場合に選択することができます。 ファクス／インターネットファクスと［共有フォルダに保管］を組み合わせた場合は、非表示となり選択できません。	
6	ECM	文書が電話回線のノイズや歪みなどにより影響を受けた部分があるときに、自動的に再送するECM（Error Correction Mode：自動誤り訂正モード）を有効にするかを選択します。
7	回線指定 *1	使用回線を指定するかを選択します。 • **自動**：使用回線を指定しません（回線が設置されている場合にのみ有効）。 • **回線1**：このファクスエージェントに回線1を使用します。 • **回線2**：このファクスエージェントに回線２を使用します（回線が設置されている場合にのみ有効）。
8	海外指定	文書を海外指定モードで送信するかを選択します。この機能は、長距離通信を行う場合などに、文書を通常より遅い速度で送信し、回線の影響を受けにくくします。
9	SUB/SEP	SUB番号またはSEP番号を指定したい場合に番号を入力します。
10	SID/PWD	SUB番号またはSEP番号を指定した場合に、パスワードが必要な場合は、パスワードを入力します。
11	ポーリング	このエージェントにポーリング通信を設定するかを選択します。 • **＜空欄＞**：ポーリング通信を行いません。 • **送信**：ポーリング予約を行います。この機能を使用すると、ポーリング通信のために原稿をメモリに保存することができます。 • **受信**：反転ポーリングを行います。この機能を使用すると、原稿を送信したときに、そのまま回線を切らずに相手先にセットされているポーリング原稿を受信することができます。
	注 意 ［送信］はファクス／インターネットファクスのテンプレート（共有フォルダに保管しない）を作成した場合に選択することができます。 ファクス／インターネットファクスと［共有フォルダに保管］を組み合わせた場合は、非表示となり選択できません。	
12	パスワード	ポーリングを有効にした場合に、必要に応じてポーリング文書を保存あるいは受信するための4桁のセキュリティコードを入力します。
13	電話番号(セキュリティ)	［ポーリング］ボックスで［送信］を選択した場合は、保存した文書をポーリングできる電話番号を入力します。 ［ポーリング］ボックスで［受信］を選択した場合は、相手機から文書をポーリングするための電話番号を入力します。

	項目名	機能説明
14	日時指定送信	このエージェントに時刻指定通信を許可する場合は、原稿を送信する日時を入力します。日付を「0」に設定すると、日時指定送信は無効になります。
15	優先送信	ほかのジョブよりも優先して送信を実行するかを選択します。

＊1　お使いの機種によっては選択できません。

Eメール設定（プライベートテンプレート）

Eメール設定に関するエージェント設定のページでは、送信されるEメール送信文書のプロパティを設定します。

	項目名	機能説明
1	件名	Eメールの件名を設定します。 **管理者設定のＥメール設定を使う**：［管理者］-［セットアップ］-［Eメール］で設定した件名にします。 **（マシン名称）からの送信データ［(テンプレート名称)］**：（マシン名称）からの送信データ［(テンプレート名称)］を件名にします。 **<入力ボックス>**：入力されたテキストを件名にします。 **件名に日時を付加する**：上記で選択した件名の最後に日時を付加する場合にチェックします。
	補 足 ［メタスキャン］を選択している場合、件名に変数を使用することができます。 変数については、以下を参照してください。 P.377 「XMLフォーマットファイルの変数」	
2	送信者アドレス	送信者のEメールアドレスとして適用するEメールアドレスを設定します。テンプレートを使って本機が送信した文書に対して相手先が返信する場合は、ここで設定するEメールアドレスに返信されます。 **管理者が設定した送信者アドレスを使う**：［管理者］-［セットアップ］-［Eメール］で設定した送信者アドレスを使用します。ユーザ認証またはEメール認証が有効の場合は、［管理者］-［セキュリティ］-［認証］の［Eメールアドレス設定］で設定した送信者アドレスを使用します。 **<入力ボックス>**：送信者アドレスを半角英数字（140文字）で設定します。

<table>
<tr><th></th><th>項目名</th><th>機能説明</th></tr>
<tr><td>3</td><td>送信者名</td><td>Eメール文書に適用する送信者の名前を入力します。
管理者が設定した送信者名を使う：［管理者］-［セットアップ］-［Eメール］で設定した送信者名を使用します。ユーザ認証またはEメール認証が有効の場合は、［管理者］-［セキュリティ］-［認証］の［Eメールアドレス設定］で設定した送信者名を使用します。
<入力ボックス>：送信者名を設定します。全角半角に関係なく64文字まで入力できます。</td></tr>
<tr><td>4</td><td>本文</td><td>Eメール文書に初期設定として適用する本文を入力します。全角半角に関係なく、スペースを含み1000文字まで入力できます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">5</td><td>ファイル形式</td><td>スキャンイメージのファイル形式を選択します。
• <u>TIFF(マルチ)</u>：スキャンイメージを複数ページのTIFFファイルとして保存します。
• TIFF(シングル)：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのTIFFファイルとして保存します。
• PDF(マルチ)：スキャンイメージを複数ページのPDFファイルとして保存します。
• PDF(シングル)：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDFファイルとして保存します。
• 高圧縮PDF(マルチ)：スキャンイメージを複数ページの高圧縮PDFファイルとして保存します。画質よりファイルサイズの縮小を優先したい場合に適しています。
• 高圧縮PDF(シングル)：スキャンイメージを、1ページ1ファイルの高圧縮PDFファイルとして保存します。画質よりファイルサイズの縮小を優先したい場合に適しています。
• XPS(マルチ)：スキャンイメージを複数ページのXPSファイルとして保存します。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。
• XPS(シングル)：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのXPSファイルとして保存します。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。
• JPEG：スキャンイメージを、JPEGファイルとして保存します。
• PDF/A(マルチ)：スキャンイメージを複数ページのPDF/Aファイルとして保存します。
• PDF/A(シングル)：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDF/Aファイルとして保存します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">補 足
• 強制暗号化機能が有効に設定されている場合、選択できるファイル形式はPDF（マルチ）とPDF（シングル）のみとなります。強制暗号化機能については、設定管理ガイドを参照してください。
• XPSファイルで保存したデータは、お使いのコンピュータがWindows Vista/Windows Server 2003 SP2以上に.NET Framework 3.0がインストールされた環境で使用することができます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">6</td><td>暗号化</td><td>ファイル形式でPDF(マルチ)またはPDF(シングル)を選択したとき、PDFを暗号化します。
暗号化：PDFを暗号化する場合にオンにします。
ユーザパスワード：暗号化PDFを開くためのパスワードを入力します
マスタパスワード：PDFの暗号化設定を変更するためのパスワードを入力します。
暗号化レベル：暗号化レベルを選択します。
• 40-bit RC4：Acrobat 3.0, PDF V1.1に互換性のある暗号化レベルを設定します。
• 128-bit RC4：Acrobat 5.0, PDF V1.4に互換性のある暗号化レベルを設定します。
• <u>128-bit AES</u>：Acrobat 7.0, PDF V1.6に互換性のある暗号化レベルを設定します。
権限：暗号化PDFの権限を設定する項目をオンにします。
• 印刷を許可する：作成される暗号化PDFファイルの印刷を許可します。
• 文書の変更を許可する：作成される暗号化PDFファイルの文書の変更を許可します。
• 内容のコピーと抽出を許可する：作成される暗号化PDFファイルのコピーと抽出を許可します。
• アクセシビリティを有効にする：アクセシビリティを有効にします。</td></tr>
<tr><td colspan="2">補 足
• 強制暗号化機能が有効に設定されている場合、［暗号化］チェックボックスをオフにすることはできません。強制暗号化機能については、設定管理ガイドを参照してください。
• 工場出荷時の状態では、ユーザパスワードとマスタパスワードは設定されていません。
• 半角の英数字で、1文字以上32文字まで入力できます。
• ユーザパスワードとマスタパスワードは、同じパスワードを設定することはできません。

注 意
各パスワードはユーザが変更することを許可されている場合のみ入力できます。マスタパスワードの変更が許可されていない場合は、暗号化レベルおよび権限の設定を変更することはできません。暗号化の詳細設定については設定管理ガイドを参照してください。ユーザパスワードおよびマスタパスワードの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。</td></tr>
</table>

	項目名	機能説明
7	ファイル名	初期設定として使用されるファイル名を入力します。デフォルト設定の［DocYYMMDD］を選択するか、目的のファイル名をボックスに入力します。 ファイル名に日付と時刻を付加したい場合は、［ファイル名に日時を付加する］チェックボックスをオンにします。
	補 足 ［メタスキャン］を選択している場合、［ファイル名］の［ファイル名に日時を付加する］を選択すると、メタデータのファイル名にも適用されます。	
8	分割送信サイズ	メッセージの分割サイズを選択します。初期値は［分割無］に設定されています。

共有フォルダに保管設定（プライベートテンプレート）

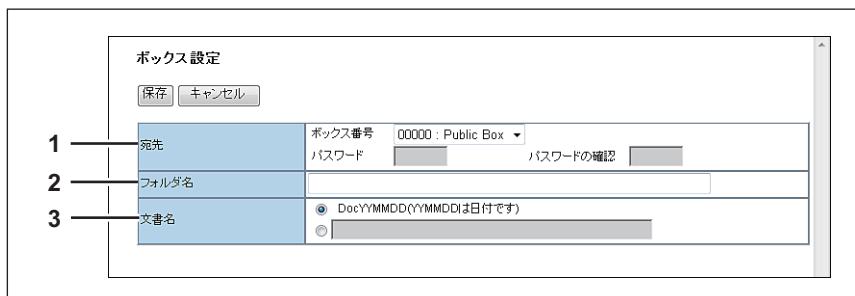
共有フォルダに保管設定のページでは、スキャンファイルの保存方法および保存先を設定します。

<table>
<tr><th></th><th>項目名</th><th>機能説明</th></tr>
<tr><td>1</td><td>ファイル形式</td><td>スキャンファイルの保存形式を選択します。
• TIFF(マルチ)：スキャンイメージを複数ページのTIFFファイルとして保存します。
• TIFF(シングル)：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのTIFFファイルとして保存します。
• PDF(マルチ)：スキャンイメージを複数ページのPDFファイルとして保存します。
• PDF(シングル)：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDFファイルとして保存します。
• 高圧縮PDF(マルチ)：スキャンイメージを複数ページの高圧縮PDFファイルとして保存します。画質よりファイルサイズの縮小を優先したい場合に適しています。
• 高圧縮PDF(シングル)：スキャンイメージを、1ページ1ファイルの高圧縮PDFファイルとして保存します。画質よりファイルサイズの縮小を優先したい場合に適しています。
• XPS(マルチ)：スキャンイメージを複数ページのXPSファイルとして保存します。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。
• XPS(シングル)：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのXPSファイルとして保存します。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。
• JPEG：スキャンイメージを、JPEGファイルとして保存します。
• PDF/A(マルチ)：スキャンイメージを複数ページのPDF/Aファイルとして保存します。
• PDF/A(シングル)：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDF/Aファイルとして保存します。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">補 足
• 強制暗号化機能が有効に設定されている場合、選択できるファイル形式はPDF（マルチ）とPDF（シングル）のみとなります。強制暗号化機能については、設定管理ガイドを参照してください。
• XPSファイルで保存したデータは、お使いのコンピュータがWindows Vista/Windows Server 2003 SP2以上に.NET Framework 3.0がインストールされた環境で使用することができます。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>暗号化</td><td>ファイル形式でPDF（マルチ）またはPDF（シングル）を選択したとき、PDFを暗号化します。
暗号化：PDFを暗号化する場合にオンにします。
ユーザパスワード：暗号化PDFを開くためのパスワードを入力します
マスタパスワード：PDFの暗号化設定を変更するためのパスワードを入力します。
暗号化レベル：暗号化レベルを選択します。
• 40-bit RC4：Acrobat 3.0, PDF V1.1に互換性のある暗号化レベルを設定します。
• 128-bit RC4：Acrobat 5.0, PDF V1.4に互換性のある暗号化レベルを設定します。
• 128-bit AES：Acrobat 7.0, PDF V1.6に互換性のある暗号化レベルを設定します。
権限：暗号化PDFの権限を設定する項目をオンにします。
• 印刷を許可する：作成される暗号化PDFファイルの印刷を許可します。
• 文書の変更を許可する：作成される暗号化PDFファイルの文書の変更を許可します。
• 内容のコピーと抽出を許可する：作成される暗号化PDFファイルのコピーと抽出を許可します。
• アクセシビリティを有効にする：アクセシビリティを有効にします。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">補 足
• 強制暗号化機能が有効に設定されている場合、［暗号化］チェックボックスをオフにすることはできません。強制暗号化機能については、設定管理ガイドを参照してください。
• 工場出荷時の状態では、ユーザパスワードとマスタパスワードは設定されていません。
• 半角の英数字で、1文字以上32文字まで入力できます。
• ユーザパスワードとマスタパスワードは、同じパスワードを設定することはできません。
注 意
各パスワードはユーザが変更することを許可されている場合のみ入力できます。マスタパスワードの変更が許可されていない場合は、暗号化レベルおよび権限の設定を変更することはできません。暗号化の詳細設定については設定管理ガイドを参照してください。ユーザパスワードおよびマスタパスワードの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。</td></tr>
<tr><td>3</td><td>宛先／ローカルフォルダを使用</td><td>スキャンファイルを本機の共有フォルダ（「FILE_SHARE」フォルダ）に保存します。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">補 足
［メタスキャン］を選択している場合、宛先は1つしか指定できません。</td></tr>
</table>

	項目名	機能説明
4	宛先／リモート1	スキャンファイルをネットワークフォルダに保存する場合にオンにします。アクセスポリシーモードで、管理権限が設定されているユーザが、［セットアップ］メニューの［共有フォルダに保管］サブメニューで、リモート1をどのようにセットアップしたかによって設定方法は異なります。 ［次のネットワークフォルダに保存する］を選択した場合は、［アドミン設定を使用］のみ選択可能です。その場合、保存に使用するプロトコルおよび保存先のネットワークパスが表示されます。 ［ユーザがネットワークフォルダを指定することを認める］を選択した場合は、［ユーザ設定を使用］を選択し、以下の項目を入力してファイルを保存する宛先を設定します。 **プロトコル** スキャンファイルをネットワークフォルダに転送するときに使用するプロトコルを選択します。 • **SMB**：SMBプロトコルを使用してスキャンファイルをネットワークフォルダに転送します。 • **FTP**：スキャンファイルをFTPサーバーに転送します。 • **FTPS**：スキャンファイルをFTP over SSLでFTPサーバーに転送します。 • **NetWare IPX/SPX**：スキャンファイルをIPX/SPXプロトコルを介してNetWareサーバーに転送します。 • **NetWare TCP/IP**：スキャンファイルをTCP/IPプロトコルを介してNetWareサーバーに転送します。 **サーバー名称** プロトコルでFTPを選択した場合は、スキャンファイルを転送するFTPサーバー名またはIPアドレスを入力します。たとえば、スキャンファイルをFTPサーバーの「ftp://192.168.1.1/user/scanned」というFTPフォルダに転送する場合は、このボックスに「192.168.1.1」と入力します。 プロトコルでNetWare IPX/SPXを選択した場合は、スキャンファイルを転送するNetWareサーバー名または、Tree/Context（NDSが使用可能な環境の場合）を入力します。 プロトコルでNetWare TCP/IPを選択した場合は、スキャンファイルを転送するNetWareサーバーのIPアドレスを入力します。 半角英数字と記号で64文字まで入力できます。 **コマンドポート** プロトコルでFTPを選択した場合に、コマンド実行に使用するポート番号を入力します。通常は、初期状態で入力された「-」のままにします。「-」にした場合は、ネットワークの設定ページの［FTPクライアント］で設定したポート番号（初期値）が適用されます。初期設定のポート番号とは別のポート番号を指定したい場合のみこの値を変更します。数字と「-」（ハイフン）を使用して、0から65535までの値を入力できます。初期値は「-」に設定されています。 **ネットワークパス** プロトコルにSMBを選択した場合は、ネットワークフォルダへのネットワークパスを入力します。たとえば、SMBサーバー名が「Client01」というコンピュータの「users￥scanned」というフォルダを指定する場合は、「￥￥Client01￥users￥scanned」と入力します。 プロトコルにFTPを選択した場合は、指定したFTPサーバーのディレクトリを入力します。たとえば、FTPサーバーの「ftp://192.168.1.1/user/scanned」というフォルダを指定する場合は、「user/scanned」と入力します。 プロトコルにNetWare IPX/SPXまたはNetWare TCP/IPを選択した場合は、指定したNetWareサーバーのディレクトリを入力します。たとえば、NetWareサーバーの「sys￥scan」というフォルダを指定する場合は、「￥sys￥scan」と入力します。 半角英数字と記号で128文字まで入力できます。 **ログインユーザ名** 必要に応じて、SMBサーバー、FTPサーバー、またはNetWareサーバーにアクセスするためのログインユーザ名を入力します。プロトコルにFTPを選択した場合、このボックスを空欄にすると、匿名でのログインと判断されます。「<>":;」以外の半角英数字と記号で32文字まで入力できます。スペース１文字のみのユーザ名は使えません。 **パスワード** 必要に応じて、SMBサーバー、FTPサーバー、またはNetWareサーバーにアクセスするためのパスワードを入力します。半角英数字と記号、スペースを含み32文字まで入力できます。スペース1文字のみも可能です。 **パスワードの確認** 確認のためにパスワードを再入力します。
	補 足 ハードディスクが装着されていない場合および［メタスキャン］を選択している場合、宛先は1つしか指定できません。	

	項目名	機能説明
5	宛先／リモート2	スキャンファイルをネットワークフォルダに保存する場合にオンにします。アクセスポリシーモードで、管理権限が設定されているユーザが［セットアップ］メニューの［共有フォルダに保管］サブメニューで、リモート2をどのようにセットアップしたかによって設定方法は異なります。 リモート2がアクセスポリシーモードで、管理権限が設定されているユーザにより指定されたネットワークフォルダを使用するように設定されている場合は、［アドミン設定を使用］のみ選択可能です。その場合、保存に使用するプロトコルおよび保存先のネットワークパスが表示されます。 ネットワークフォルダを自由に指定することが許可されている場合は、［ユーザ設定を使用］を選択し、ファイルを保存する宛先を設定します。設定する項目はリモート1と同様です。
	補 足 ハードディスクが装着されていない場合および［メタスキャン］を選択している場合、宛先は1つしか指定できません。	
6	ファイル名	スキャンファイルの名前の付け方を選択します。デフォルト設定の［DocYYMMDD］を選択するか、目的のファイル名を入力します。 ファイル名に日付と時刻を付加したい場合は、［ファイル名に日時を付加する］チェックボックスをオンにします。
	補 足 ［メタスキャン］を選択している場合、［ファイル名］の［ファイル名に日時を付加する］を選択すると、メタデータのファイル名にも適用されます。	

ボックス設定（プライベートテンプレート）

ボックス設定のページでは、ファイリングボックスにスキャンイメージをどのように保存するかを設定します。

	項目名	機能説明
1	宛先	スキャンイメージを保存するファイリングボックスを指定します。 **ボックス番号**：スキャンイメージを保存するボックス番号を選択します。 **パスワード**：指定したボックスにパスワードが設定されている場合は、パスワードを入力します。 **パスワードの確認**：確認のためにパスワードを再入力します。
2	フォルダ名	スキャンイメージをファイリングボックス内のフォルダに保存したい場合は、保存するフォルダ名を入力します。あらかじめフォルダがない場合は、入力したフォルダ名で自動的に作成され、保存されます。64文字まで入力できます。
3	文書名	スキャンファイルの名前の付け方を選択します。デフォルト設定の［DocYYMMDD］を選択するか、目的の文書名を入力します。

USB保存設定（プライベートテンプレート）

USB保存設定のページでは、USBメディアに保存する方法を設定します。

	項目名	機能説明
1	ファイル形式	スキャンファイルの保存形式を選択します。 • **TIFF(マルチ)**：スキャンイメージを複数ページのTIFFファイルとして保存します。 • **TIFF(シングル)**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのTIFFファイルとして保存します。 • **PDF(マルチ)**：スキャンイメージを複数ページのPDFファイルとして保存します。 • **PDF(シングル)**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDFファイルとして保存します。 • **高圧縮PDF(マルチ)**：スキャンイメージを複数ページの高圧縮PDFファイルとして保存します。画質よりファイルサイズの縮小を優先したい場合に適しています。 • **高圧縮PDF(シングル)**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルの高圧縮PDFファイルとして保存します。画質よりファイルサイズの縮小を優先したい場合に適しています。 • **XPS(マルチ)**：スキャンイメージを複数ページのXPSファイルとして保存します。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。 • **XPS(シングル)**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのXPSファイルとして保存します。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。 • **JPEG**：スキャンイメージを、JPEGファイルとして保存します。 • **PDF/A(マルチ)**：スキャンイメージを複数ページのPDF/Aファイルとして保存します。 • **PDF/A(シングル)**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDF/Aファイルとして保存します。
	補 足 • 強制暗号化機能が有効に設定されている場合、選択できるファイル形式はPDF（マルチ）とPDF（シングル）のみとなります。強制暗号化機能については、**設定管理ガイド**を参照してください。 • XPSファイルで保存したデータは、お使いのコンピュータがWindows Vista/Windows Server 2003 SP2以上に.NET Framework 3.0がインストールされた環境で使用することができます。	

<table>
<tr><th></th><th>項目名</th><th>機能説明</th></tr>
<tr><td rowspan="2">2</td><td>暗号化</td><td>ファイル形式でPDF(マルチ)またはPDF(シングル)を選択したとき、PDFを暗号化します。
暗号化：PDFを暗号化する場合にオンにします。
ユーザパスワード：暗号化PDFを開くためのパスワードを入力します
マスタパスワード：PDFの暗号化設定を変更するためのパスワードを入力します。
暗号化レベル：暗号化レベルを選択します。
• 40-bit RC4：Acrobat 3.0, PDF V1.1に互換性のある暗号化レベルを設定します。
• 128-bit RC4：Acrobat 5.0, PDF V1.4に互換性のある暗号化レベルを設定します。
• 128-bit AES：Acrobat 7.0, PDF V1.6に互換性のある暗号化レベルを設定します。
権限：暗号化PDFの権限を設定する項目をオンにします。
• 印刷を許可する：作成される暗号化PDFファイルの印刷を許可します。
• 文書の変更を許可する：作成される暗号化PDFファイルの文書の変更を許可します。
• 内容のコピーと抽出を許可する:作成される暗号化PDFファイルのコピーと抽出を許可します。
• アクセシビリティを有効にする：アクセシビリティを有効にします。</td></tr>
<tr><td colspan="2">補 足
• 強制暗号化機能が有効に設定されている場合、[暗号化] チェックボックスをオフにすることはできません。強制暗号化機能については、設定管理ガイドを参照してください。
• 工場出荷時の状態では、ユーザパスワードとマスタパスワードは設定されていません。
• 半角の英数字で、1文字以上32文字まで入力できます。
• ユーザパスワードとマスタパスワードは、同じパスワードを設定することはできません。

注 意
各パスワードはユーザが変更することを許可されている場合のみ入力できます。マスタパスワードの変更が許可されていない場合は、暗号化レベルおよび権限の設定を変更することはできません。暗号化の詳細設定については設定管理ガイドを参照してください。ユーザパスワードおよびマスタパスワードの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3</td><td>ファイル名</td><td>初期設定として使用されるファイル名を入力します。デフォルト設定の［DocYYMMDD］を選択するか、目的のファイル名をボックスに入力します。
ファイル名に日付と時刻を付加したい場合は、［ファイル名に日時を付加する］チェックボックスをオンにします。</td></tr>
<tr><td colspan="2">補 足
［メタスキャン］を選択している場合、［ファイル名］の［ファイル名に日時を付加する］を選択すると、メタデータのファイル名にも適用されます。</td></tr>
</table>

スキャン設定（プライベートテンプレート）

スキャン設定ページでは、スキャンエージェントを選択した場合に、どのように原稿をスキャンするかを設定します。

	項目名	機能説明
1	プレビュー	原稿のスキャン後、スキャンイメージを操作パネル上に表示するかを選択します。 • **OFF**：スキャンイメージを表示しません。 • **ON**：スキャンイメージを表示します。
2	両面スキャン	原稿の片面をスキャンするか、両面をスキャンするかを選択します。自動両面原稿送り装置が装着されている場合のみ、使用できます。 • **片面**：原稿の片面をスキャンします。 • **両面左右開き**：両面左右開きでスキャンします。 • **両面上下開き**：両面上下開きでスキャンします。
3	画像回転	スキャンイメージをどのように回転させるかを選択します。
4	カラーモード	スキャンのカラーモードを選択します。 • **ブラック**：モノクロでスキャンします。 • **グレースケール**：グレースケールでスキャンします。 • **フルカラー**：フルカラーでスキャンします。 • **オートカラー**：オートカラーでスキャンします。
	注 意 • ［カラーモード］の設定は、共有フォルダに保管設定の［ファイル形式］およびEメール設定の［ファイル形式］で［高圧縮PDF（マルチ）］または［高圧縮PDF（シングル）］を選択した場合は、設定できません。 • ［オートカラー］を選択した場合、［ファイル形式］で［JPEG］と［TIFF（マルチ）］は選択できません。また、［ブラック］を選択した場合は、［JPEG］を選択できません。	
5	解像度	スキャンの解像度を選択します。
	注 意 ［解像度］の設定は、共有フォルダに保管設定の［ファイル形式］およびEメール設定の［ファイル形式］で［高圧縮PDF（マルチ）］または［高圧縮PDF（シングル）］を選択した場合は、設定できません。	

	項目名	機能説明
6	Jpeg圧縮率	スキャンデータの圧縮率を選択します。
		注意 • カラーモードで［ブラック］を選択した場合は設定できません。 • ［Jpeg圧縮率］の設定は、共有フォルダに保管設定の［ファイル形式］およびEメール設定の［ファイル形式］で［高圧縮PDF（マルチ）］または［高圧縮PDF（シングル）］を選択した場合は、設定できません。
7	原稿モード	原稿の種類を選択します。 • **文字**：原稿モードに文字モードを使用します。 • **文字／写真**：原稿モードに文字／写真モードを使用します。一部の機種では、カラーモードで［ブラック］を選択している場合のみ設定できます。*1 • **写真**：原稿モードに写真モードを使用します。 • **印刷写真** *1：原稿モードに印刷写真モードを使用します。一部の機種では、カラーモードで［フルカラー］または［オートカラー］を選択している場合のみ設定できます。 • **ブルー原稿** *2：原稿モードにブルー原稿モードを使用します。カラーモードで［ブラック］を選択している場合のみ設定できます。
		注意 カラーモードで［グレースケール］を選択した場合は設定できません。
8	濃度調整	スキャンの濃度を選択します。 ［自動］を選択すると、原稿に応じた理想的なコントラストを自動的に適用します。手動で濃度を調節する場合は、11段階に調節することができます。選択値を右側に設定するほど、画像全体の濃度が濃くなります。
		注意 カラーモードで［グレースケール］［フルカラー］または［オートカラー］を選択した場合は、［自動］は設定できません。その場合は、手動で設定してください。
9	原稿サイズ	原稿サイズを選択します。 ［自動］を選択すると、原稿サイズを自動的に検出します。［原稿サイズ混在］を選択すると、サイズの異なる用紙が混在する原稿をスキャンすることができます。また、目的の原稿サイズを選択することもできます。
10	下地調整	スキャンの背景色の濃度を選択します。背景色の濃度は9段階に調節することができます。選択値を右側に設定するほど、背景色の濃度が濃くなります。
11	コントラスト	スキャンのコントラストを選択します。コントラストは9段階に調節することができます。選択値を右側に設定するほど、コントラストが強くなります。
		注意 カラーモードで［ブラック］または［グレースケール］を選択した場合は設定できません。
12	シャープネス	スキャンのシャープネスを選択します。シャープネスの強度は9段階に調節することができます。選択値を右側に設定するほど、画質がシャープになります。
13	彩度	スキャンの彩度を選択します。彩度は7段階に調節することができます。選択値を右側に設定するほど、画質が鮮やかになります。
		注意 カラーモードで［ブラック］または［グレースケール］を選択した場合は設定できません。
14	RGB調整	スキャンのRGB濃度を選択します。濃度は色ごとに9段階に調節することができます。選択値を右側に設定するほど、設定した色の濃度が濃くなります。
		注意 カラーモードで［ブラック］または［グレースケール］を選択した場合は設定できません。
15	白紙ページ除去	原稿に白紙ページが含まれていた場合、スキャン結果から白紙ページを自動的に省くかを選択します。 • **OFF**：白紙ページを含めます。 • **ON**：白紙ページを省きます。
16	原稿外消去	原稿ガラス上に原稿をセットし、原稿カバーを開けた状態でスキャンした場合、原稿以外の部分を消去するかを選択します。消去された部分は白色になります。 原稿以外の部分を消去する場合は、消去する部分を判定するための基準を、7段階に調節することができます。基準を右側に設定するほど、消去する部分を増やすことができます。なお、初期設定では［OFF］が選択されています。

	項目名	機能説明
17	原稿送り装置スジ低減	自動両面原稿送り装置で原稿をスキャンした際に、画像にスジが目立つ場合に設定します。 • **なし**：スジ低減しません。 • **低**／**中**／**高**：スジ低減の強さを選択します。高を選択すると、効果が強く表れます。
	注 意 効果を強くすると、色文字が薄くなります。	

＊1　カラー印刷に対応した機種のみ可能となります。
＊2　Loops LP301のデフォルトです。

拡張フィールド設定

メタスキャンの拡張フィールドを設定します。
［管理者］-［登録］-［拡張フィールド定義］で登録したフィールドを選択します。

	項目名	機能説明
1	拡張フィールド定義番号	登録済みの拡張フィールド定義を選択します。

拡張フィールド属性

選択された登録済み拡張フィールド定義で設定されている［拡張フィールド属性］が表示されます。
ここで設定した値が、メタスキャン実行時に操作パネルに表示される［拡張フィールド属性］のデフォルト値になります。
［拡張フィールド属性］の名称の前に、アスタリスク（*）が表示されている項目は、必ず入力する必要があります。

パスワード設定

パスワード設定ページでは、プライベートテンプレートのパスワードを設定します。

	項目名	機能説明
1	パスワード	設定するパスワードを入力します。
2	パスワードの確認	確認のためにパスワードを再入力します。

■［アドレス帳］項目説明一覧

📖 P.83 「［アドレス帳］画面」
📖 P.84 「［宛先情報］画面」
📖 P.85 「［ファクス設定］画面」
📖 P.86 「［宛先検索］画面」
📖 P.87 「［検索結果リスト］画面」
📖 P.87 「［グループ情報］画面」

□［アドレス帳］画面

Eメール送信、インターネットファクス送信やファクス送信を実行する際に指定する、連絡先リストを管理できます。

補 足

- 「アドレス帳」/「グループ」をクリックすることで、アドレス帳一覧と複数の連絡先を割り当てたグループ一覧を切り替えて表示することができます。
- アドレス帳の管理は、本機の操作パネルから行うこともできます。操作パネルからアドレス帳を管理する方法については、**設定管理ガイド**を参照してください。

アドレス帳

	項目名	機能説明
1	［新規追加］ボタン	アドレス帳に新しい連絡先を追加します。 📖 P.84 「［宛先情報］画面」
2	［検索］ボタン	アドレス帳から連絡先を検索します。 📖 P.86 「［宛先検索］画面」
3	グループ	アドレス帳一覧に表示するグループを選択します。 • **全てのグループ**：すべてのグループを表示します。 • **登録されたグループ**：登録されたグループだけを表示します。
4	ID	連絡先の登録ID番号を表示します。 📖 P.84 「［宛先情報］画面」
5	名称	連絡先に登録されている名称を表示します。 📖 P.84 「［宛先情報］画面」
6	Eメールアドレス	連絡先に登録されているEメールアドレスを表示します。 📖 P.84 「［宛先情報］画面」
7	電話番号	連絡先に登録されている電話番号を表示します。 📖 P.84 「［宛先情報］画面」

グループ

	項目名	機能説明
1	［新規］ボタン	新しいグループを追加します。 P.87 「［グループ情報］画面」
2	ID	グループの登録ID番号を表示します。 P.87 「［グループ情報］画面」
3	グループ名称	グループに登録されている名称を表示します。 P.87 「［グループ情報］画面」
4	アドレス帳	グループに登録されているアドレス帳の件数を表示します。

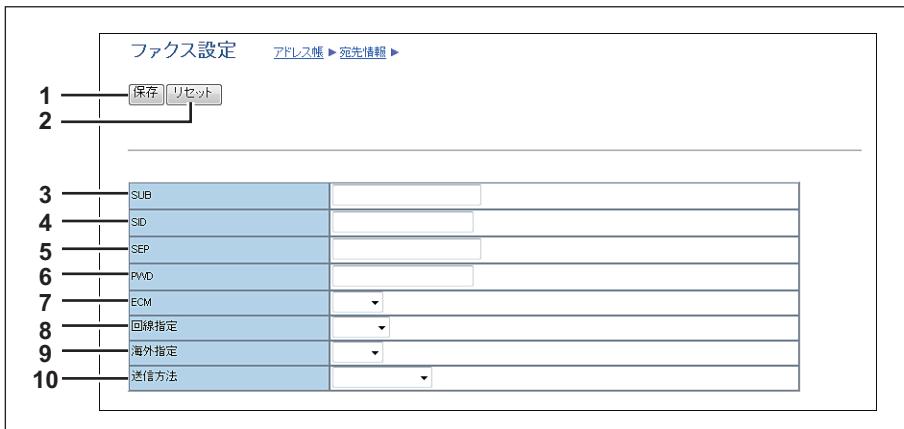
□［宛先情報］画面

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	入力した情報を登録します。
2	［キャンセル］ボタン	連絡先の追加や編集を中止します。
3	［リセット］ボタン	各ボックスに入力した情報を消去します。
4	［削除］ボタン	表示している連絡先を削除します。
5	［ファクス設定］ボタン	ファクス用の連絡先を登録します。 P.85 「［ファクス設定］画面」
6	姓	連絡先の姓を入力します。全角半角に関係なく32文字まで入力できます。使用できない文字を入力した場合「！」で置き換えられます。
7	名	連絡先の名を入力します。全角半角に関係なく32文字まで入力できます。使用できない文字を入力した場合「！」で置き換えられます。
8	フリガナ	フリガナを入力します。全角半角に関係なくカタカナで64文字まで入力できます。
9	Eメールアドレス	連絡先のEメールアドレスを入力します。半角英数字で192文字まで入力できます。
10	電話番号	連絡先のファクス番号を入力します。半角数字で128文字まで入力できます。

	項目名	機能説明
11	電話番号2	連絡先の第2ファクス番号を入力します。半角数字で128文字まで入力できます。
12	会社名	連絡先の会社名を入力します。全角半角に関係なく64文字まで入力できます。使用できない文字を入力した場合「！」で置き換えられます。
13	部署名	連絡先の部門名を入力します。全角半角に関係なく64文字まで入力できます。使用できない文字を入力した場合「！」で置き換えられます。
14	備考	連絡先のコメントを入力します。全角半角に関係なく256文字まで入力できます。使用できない文字を入力した場合「！」で置き換えられます。

注意

- 連絡先を登録するには、［姓］または［名］および、［Eメールアドレス］または［電話番号］のどちらか一方を必ず入力する必要があります。
- ［電話番号］および［電話番号2］には、特別な場合以外は、「-」を含めずに入力してください。（「-」を入れるとポーズが入り3秒間ダイヤルの間隔が空きます。）
- 原稿をファクス送信するには、FAXユニットが必要です。このユニットを装着していない場合は、ファクス番号を設定してもファクス送信を実行することはできません。

□［ファクス設定］画面

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	入力した情報を登録します。
2	［リセット］ボタン	連絡先に設定したファクス設定をデフォルト状態に戻します。
3	SUB	連絡先のファクスのメールボックスへ原稿を送信する場合は、メールボックス番号を入力します。数字と「#」、「*」を使用して20文字まで入力できます。
4	SID	連絡先ファクスのメールボックスへファクスを入力するためのパスワードを入力します。数字と「#」、「*」を使用して20文字まで入力できます。
5	SEP	連絡先ファクスのメールボックスから文書を取り込む場合は、メールボックス番号を入力します。数字と「#」、「*」を使用して20文字まで入力できます。
6	PWD	連絡先ファクスのメールボックスから文書を取り込むためのパスワードを入力します。数字と「#」、「*」を使用して20文字まで入力できます。
7	ECM	ECM（Error Correction Mode：自動誤り訂正方式）を有効にするか、無効にするかを選択します。［ON］を選択した場合、電話回線のノイズや歪みに影響を受けエラーとなった原稿部分を自動的に再送信するので、画像の乱れのない通信を可能にします。
8	回線指定	使用回線を指定するかを選択します。空欄を選択すると、自動的に使用回線を選択します。ただし、［回線2］は回線増設ユニットがインストールされている場合にのみ、適用されます。
9	海外指定	文書を海外指定モードで送信するかを選択します。［ON］を選択した場合、通常より遅いスピードで文書を送信し、回線の影響を受けにくくします。
10	送信方法	文書を［メモリ送信］モードで送信するか、または［ダイレクト送信］モードで送信するかを選択します。

□［宛先検索］画面

LDAPサーバーで連絡先を検索し、その連絡先を本機のアドレス帳に追加します。

補 足

LDAP検索を利用するには、ディレクトリサービスがアクセスポリシーモードで、管理権限が設定されているユーザによってセットアップされている必要があります。LDAP検索を操作する前に、ディレクトリサービスがセットアップされているかをご確認ください。

	項目名	機能説明
1	［検索］ボタン	入力した内容で連絡先を検索します。 P.87 「［検索結果リスト］画面」
2	［キャンセル］ボタン	宛先検索を中止します。
3	LDAPサーバー名	検索に使用するLDAPサーバーを選択します。
4	姓	検索条件を入力します。
5	名	
6	Eメールアドレス	
7	電話番号	
8	会社名	
9	部署名	

補 足

- ［LDAPサーバー名］ボックスから「MFPローカル」を選択すると、本機のアドレス帳を検索することができます。
- 各項目に入力した文字列を含む連絡先が、TopAccessによって検索されます。
- 空欄にした項目は無視され、入力した項目だけを用いて検索します。ただし、少なくとも1つのボックスには文字や文字列を入力する必要があります。

□ ［検索結果リスト］画面

検索結果リストから選択して、アドレス帳に追加します。

	項目名	機能説明
1	［追加］ボタン	検索結果リストで選択されている連絡先をアドレス帳に追加します。
2	［キャンセル］ボタン	検索結果リスト表示を中止します。
3	［検索条件変更］ボタン	［宛先検索］画面に戻ります。検索条件を変更して、再度検索できます。
4	該当件数	検索された連絡先の件数を表示します。
5	チェックボックス	アドレス帳に登録する連絡先をチェックします。
6	宛先名	検索結果を表示します。
7	Eメールアドレス	
8	電話番号	

□ ［グループ情報］画面

複数の連絡先を割り当てたグループを作成します。
グループ機能を使用すれば、Eメール送信やインターネットファクス送信、ファクス送信を複数の連絡先へ実行する際に、それらの連絡先を個別に選択する手間を省くことができます。

	項目名	機能説明
1	［OK］ボタン	選択した連絡先をグループとして登録します。
2	［キャンセル］ボタン	グループ登録を中止します。
3	［リセット］ボタン	内容をリセットします。
4	［削除］ボタン	表示しているグループを削除します。
5	グループ名称	グループ名称を入力します。全角半角に関係なく20文字まで入力できます。
6	ID	連絡先の登録ID番号を表示します。
7	Eメール	連絡先にEメールの情報が設定されている場合、Eメールアドレスをグループ登録するときに選択します。

	項目名	機能説明
8	ファクス	連絡先に電話番号の情報が設定されている場合に、ファクス番号をグループ登録するときに選択します。
9	宛先名	連絡先に登録されている宛先名が表示されます。
10	Ｅメールアドレス	連絡先に登録されているEメールアドレスが表示されます。
11	電話番号	連絡先に登録されている電話番号が表示されます。

■［Fコード／ファクス受信転送（振分け）］項目説明一覧

Fコード通信とは、Fコード通信機能に対応したファクス機器どうしで通信する機能であり、メールボックスを使用して原稿の登録や取り出しを行うことができます。
Fコード通信に使用するメールボックスには親展/掲示板/転送の3種類があり、これらは事前に設定しておく必要があります。また、機密性を確保するため、すべてのメールボックスに対してパスワードを設定することができます。

注 意

メールボックスを管理するには、FAXユニットが本機に装着されている必要があります。

補 足

メールボックスの管理は、本機の操作パネルから行うことができます。

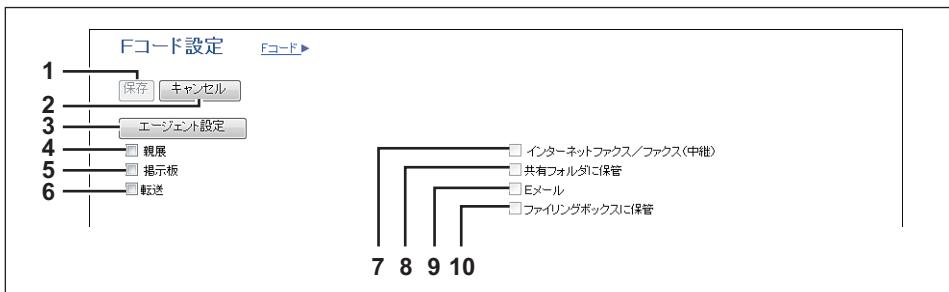
📖 P.89 「［Fコード／ファクス受信転送（振分け）］画面」
📖 P.90 「［Fコード設定］画面」
📖 P.91 「Fコード設定（メールボックス）」
📖 P.92 「宛先設定（メールボックス）」
📖 P.92 「インターネットファクス設定（メールボックス）」
📖 P.92 「中継孫局送信（メールボックス）」
📖 P.93 「共有フォルダに保管設定（メールボックス）」
📖 P.93 「Eメール設定（メールボックス）」
📖 P.93 「ボックス設定（メールボックス）」

□［Fコード／ファクス受信転送（振分け）］画面

Fコード通信に使用するメールボックスを管理できます。

	項目名	機能説明
1	［新規］ボタン	Fコード用のメールボックスを新規作成します。 📖 P.90 「［Fコード設定］画面」
2	ボックス番号	登録されているボックス番号を表示します。
3	ユーザ名	登録されているボックスのユーザ名を表示します。
4	エージェント	ボックスに割り当てられているエージェントを表示します。
5	コメント	登録されているコメントを表示します。

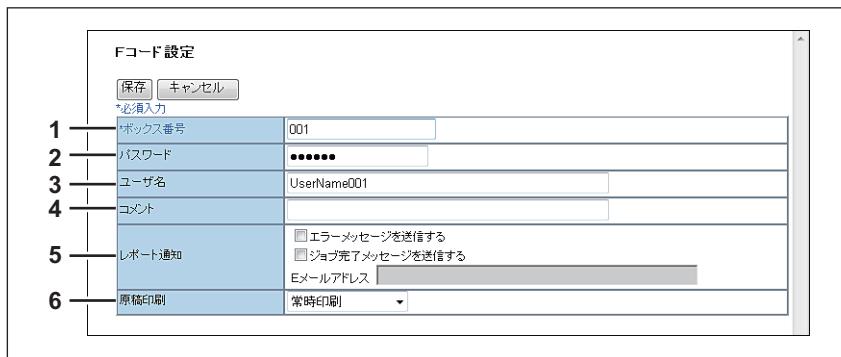
□［Fコード設定］画面

ボックスを設定できます。

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	設定したボックスを登録します。
2	［キャンセル］ボタン	ボックスの設定を中止します。
3	［エージェント設定］ボタン	転送メールボックスに適用するエージェントを設定します。ハードディスクが装着されていない場合、エージェントは1つのみ選択できます。
4	親展	親展のメールボックスを作成します。 親展メールボックスは、1回のみ取り出し可能なファクス原稿を保管する場合に使用します。メールボックスから原稿を取り出すと、メモリに保存されている原稿を消去します。同じボックス番号で登録をすると、前の原稿に追加して保存します。 📖 P.91 「Fコード設定（メールボックス）」
5	掲示板	掲示板のメールボックスを作成します。 掲示板メールボックスは、繰り返し取り出し可能なファクス原稿を保管する場合に使用します。メールボックスから原稿を取り出しても、メモリに保存されている原稿は消えません。同じボックス番号で登録をすると、新しい原稿に書き換えられます。 📖 P.91 「Fコード設定（メールボックス）」
6	転送	中継同報のメールボックスを作成します。選択した場合は、［インターネットファクス／ファクス（中継）］［共有フォルダに保管］［Eメール送信］［ファイリングボックスに保管］から中継同報に使用するエージェントを選択します。 転送メールボックスは、ファクス原稿を指定した宛先に自動的に転送したい場合に使用します。
7	インターネットファクス／ファクス（中継）	インターネットファクスまたはファクスへの中継同報メールボックスを作成します。このエージェントは、共有フォルダに保管エージェントまたはファイリングボックスに保管エージェントと組み合わせてセットアップすることができます。 📖 P.91 「Fコード設定（メールボックス）」 📖 P.92 「宛先設定（メールボックス）」 📖 P.92 「インターネットファクス設定（メールボックス）」 📖 P.92 「中継孫局送信（メールボックス）」
8	共有フォルダに保管	共有フォルダ転送メールボックスを作成します。このエージェントは、インターネットファクス／ファクス（中継）エージェント、Eメール送信エージェント、ファイリングボックスに保管エージェントのどれかと組み合わせてセットアップすることができます。 📖 P.91 「Fコード設定（メールボックス）」 📖 P.93 「共有フォルダに保管設定（メールボックス）」
9	Eメール	Eメール転送メールボックスを作成します。このエージェントは、共有フォルダに保管エージェントまたはファイリングボックスに保管エージェントと組み合わせてセットアップすることができます。 📖 P.91 「Fコード設定（メールボックス）」 📖 P.93 「Eメール設定（メールボックス）」
10	ファイリングボックスに保管	ファイリングボックス転送メールボックスを作成します。このエージェントは、インターネットファクス／ファクス（中継）エージェント、共有フォルダに保管エージェント、またはEメール送信エージェントと組み合わせてセットアップすることができます。 📖 P.91 「Fコード設定（メールボックス）」 📖 P.93 「ボックス設定（メールボックス）」

□ Fコード設定（メールボックス）

Fコード設定ページでは、ボックス番号、パスワード、所有者、コメントや通知設定など、全般的な情報をセットアップすることができます。

注 意

- 親展ボックスまたは掲示板ボックスを作成する場合は、［レポート通知］および［原稿印刷］は表示されません。
- 相手先の登録と自局の設定が一致しないと F コード通信はできません。ボックス番号を入力する前に、相手先のボックス番号、自局番号がどのように登録されているかを通信管理記録で確認してください。

	項目名	機能説明
1	ボックス番号	メールボックスのボックス番号を入力します。半角の数字、#、*を含め、20文字まで入力できます。 また、転送メールボックスを作成している場合は、相手先のファクス番号を入力して、受信ファクス転送（送信者情報）機能を設定することもできます。相手先のファクス番号（相手先が自局番号として登録した番号）を指定した場合、指定したファクス番号から受信したファクス原稿は、メールボックスに設定された転送先へ転送されます。
	注 意 • 受信ファクス転送（送信者情報）機能は、転送メールボックスにのみ設定することができます。エージェントの選択で［親展］または［掲示板］を選択した場合は、ファクス番号を指定することはできません。 • 指定したファクス番号からボックス番号（またはサブアドレス）が指定されたファクス原稿を受信した場合は、受信ファクス転送（送信者情報）機能を利用せずに指定されたボックス番号（またはサブアドレス）の設定に従って受信ファクスを処理します。	
2	パスワード	メールボックスをパスワードで保護する場合は、パスワードを入力します。半角の数字、#、*を含め、20文字まで入力できます。
3	ユーザ名	メールボックスの所有者を入力します。半角／全角にかかわらず30文字まで入力できます。
4	コメント	コメントを入力します。半角／全角にかかわらず30文字まで入力できます。
5	レポート通知	レポート通知の方法を設定します。 **エラーメッセージを送信する**：エラーが発生した場合に、指定したEメールアドレスに通知メッセージを送信します。 **ジョブ完了メッセージを送信する**：ジョブの完了時に、指定したEメールアドレスに通知メッセージを送信します。 **Eメールアドレス**：通知メッセージが送信されるEメールアドレスを入力します。半角英数字192文字まで入力できます。
	注 意 レポート通知を設定した場合は、TopAccessアクセスポリシーモードの［セットアップ］メニューにある［Eメール設定］サブメニューで、Eメール送信の設定を必ず行ってください。設定方法については、以下のセクションを参照してください。 📖 P.248 「Eメール設定をセットアップする」	
6	原稿印刷	このメールボックスに送信される文書を本機で印刷するか選択します。 • **常時印刷**：送信された文書を常に印刷します。 • **エラー時のみ印刷**：指定したすべての転送がエラーになったときに原稿を印刷します。

□ 宛先設定（メールボックス）

連絡先リストのページでは、ファクスやインターネットファクス中継転送およびEメール転送する宛先を指定します。
Eメール転送エージェントの宛先を指定するときは、Eメールアドレスのみを使用することができます。
ファクス／インターネットファクス（中継）エージェントの宛先を指定するときは、ファクス番号およびEメールアドレスの両方を使用することができます。

宛先を指定するには、相手先のEメールアドレスやファクス番号を手動で入力したり、アドレス帳から個人やグループを選択します。また、LDAPサービスを使って検索することもできます。

注 意

ファクス／インターネットファクス（中継）エージェントの宛先を設定する場合は、手動による宛先の設定およびLDAPサービスを使用した宛先の設定はできません。

操作方法は、以下の手順と同じです。
P.64 「宛先設定（プライベートテンプレート）」

□ インターネットファクス設定（メールボックス）

インターネットファクス設定のページでは、送信されるインターネットファクスのプロパティを設定します。
操作方法は、以下の手順と同じです。
P.70 「インターネットファクス設定（プライベートテンプレート）」

□ 中継孫局送信（メールボックス）

中継孫局結果表を送信する宛先を設定します。

	項目名	機能説明
1	［追加］ボタン	中継孫局結果表を送信する設定を追加します。
2	［キャンセル］ボタン	設定を中止します。
3	［リセット］ボタン	設定内容をリセットします。
4	入力ボックス	送信先のEメールアドレスまたはファクス番号を入力します。
5	宛先一覧	登録されている宛先を一覧表で表示します。送信するEメールアドレスまたはファクス番号を選択します。

注 意

中継孫局結果表の宛先には、複数の宛先を指定することはできません。

□ 共有フォルダに保管設定（メールボックス）

共有フォルダに保管設定ページでは、受信したファクスの保存方法および保存先を設定します。
操作方法は、プライベートテンプレートの登録と同じです。
操作方法は、以下の手順と同じです。
P.74 「共有フォルダに保管設定（プライベートテンプレート）」

注 意

ただし、メールボックスの共有フォルダに保管設定ページでは、保存先にUSBメディアを指定することはできません。

□ Eメール設定（メールボックス）

Eメール設定のエージェント設定ページでは、Eメール転送文書の本文をセットアップします。
操作方法は、プライベートテンプレートの登録と同じです。
操作方法は、以下の手順と同じです。
P.72 「Eメール設定（プライベートテンプレート）」

□ ボックス設定（メールボックス）

ドキュメントボックス設定のページでは、受信したファクスをファイリングボックスにどのように保存するかを設定します。
操作方法は、以下の手順と同じです。
P.77 「ボックス設定（プライベートテンプレート）」

[登録]設定／操作方法

📖 P.94 「テンプレートを管理する」
📖 P.102 「アドレス帳を管理する」
📖 P.108 「メールボックスを管理する」

■ テンプレートを管理する

📖 P.94 「プライベートテンプレートグループを登録・編集する」
📖 P.97 「テンプレートを登録・編集する」
📖 P.101 「共有テンプレートを表示する」

□ プライベートテンプレートグループを登録・編集する

テンプレートを作成する前にテンプレートを管理するプライベートグループを定義する必要があります。プライベートグループを部門やユーザごと、または用途別などに作成して、テンプレートを分類することができます。
また、プライベートグループにはパスワードを設定し登録したテンプレートを保護することもできます。

補 足

- 最大200個のプライベートグループを作成することができます。ハードディスクが装着されていない場合は、最大4個のプライベートグループを作成することができます。プライベートグループを作成するには、グループ名や所有者、Eメール通知設定を定義します。
- 必要とするテンプレートがアクセスポリシーモードで、管理権限が設定されているユーザやほかのユーザによってすでに作成されている可能性があります。テンプレートやグループを新たに作成する場合は、すでに登録されているテンプレートを確認し、どのテンプレートが利用できるかをご確認ください。

1 **[登録]タブをクリックし、[テンプレート]メニューをクリックします。**

テンプレートグループページが表示されます。

2 **新規プライベートグループを作成する場合は、[未定義]グループリンクをクリックします。グループ情報を編集したい場合は、定義済みのグループ名リンクをクリックします。**

- 未定義のグループを選択した場合は、グループ情報の登録ページが表示されます。手順5に進みます。
- パスワードが設定されていない定義済みのグループを選択した場合は、選択したグループのプライベートテンプレート一覧ページが表示されます。手順4に進みます。
- パスワードが設定されている定義済みのグループを選択した場合は、[グループパスワードの入力]ページが表示されます。次の手順に進みます。

補 足

- 初期表示では、200個のプライベートグループのすべてが表示されます。ハードディスクが装着されていない場合は、4個のプライベートグループのすべてが表示されます。[定義済みグループ] リンクをクリックすると、定義済みのプライベートグループのみを表示させることができます。
- 作成または編集するプライベートグループの番号が事前に分かっている場合は、[ジャンプ] リンクで目的の番号をクリックします。

3 **[グループパスワードの入力] ページが表示された場合は、選択したプライベートグループのパスワードを入力し、[OK] をクリックします。**

グループ情報ページが表示されます。

4 **[編集]、[パスワード変更]、[リセット] のいずれかをクリックします。**

[リセット] を選択した場合は、必要のないプライベートグループをリセットし、未定義のプライベートグループに戻すことができます。手順7に進みます。

注 意

プライベートグループをリセットすると、登録されているテンプレートもすべて削除されます。

5 必要に応じて、以下の項目を入力します。

このページでは、以下の設定を行うことができます：

P.59 「［グループ情報］画面」

このページでは、以下の設定を行うことができます：

P.61 「［グループパスワードの変更］画面」

6 ［保存］をクリックし、変更を適用します。

7 ［OK］をクリックします。

手順4で［編集］を選択した場合はこの手順は不要です。

□ テンプレートを登録・編集する

各プライベートグループには最大60個のテンプレートを作成することができます。ハードディスクが装着されていない場合、各プライベートグループには最大12個のテンプレートを作成することができます。プライベートテンプレート登録では、本機の操作パネルに表示されるテンプレート名やエージェント設定を指定することができます。また、プライベートテンプレートごとにパスワードを設定し保護することができます。

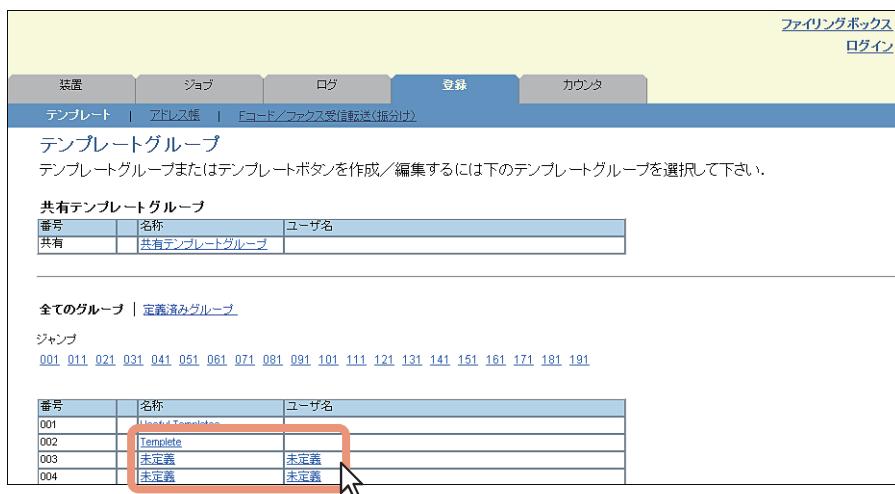
補 足

各テンプレートには、以下のエージェントを組み合わせて設定することができます。

- コピーエージェントは、[共有フォルダに保管] または [ファイリングボックスに保管] と組み合わせることができます。
- ファクス／インターネットファクスエージェントは、[共有フォルダに保管] と組み合わせることができます。
- スキャンエージェントは、[共有フォルダに保管]、[Eメール送信]、[ファイリングボックスに保管] のうち、最高2つのエージェントを組み合わせることができます。

1 [登録] タブをクリックし、[テンプレート] メニューをクリックします。

テンプレートグループページが表示されます。

2 プライベートテンプレートを登録または編集したい定義済みのグループ名リンクをクリックします。

- パスワードが設定されていない定義済みのグループを選択した場合は、選択したグループのプライベートテンプレート一覧ページが表示されます。手順4に進みます。
- パスワードが設定されている定義済みのグループを選択した場合は、[グループパスワードの入力] ページが表示されます。次の手順に進みます。

補 足

- 初期表示では、200個のプライベートグループのすべてが表示されます。ハードディスクが装着されていない場合は、4個のプライベートグループのすべてが表示されます。[定義済みグループ] リンクをクリックすると、定義済みのプライベートグループのみを表示させることができます。
- 定義または編集するプライベートグループ番号が事前に分かっている場合は、[ジャンプ] リンクをクリックします。

3 ［グループパスワードの入力］ページが表示された場合は、選択したプライベートグループのパスワードを入力し、［OK］をクリックします。

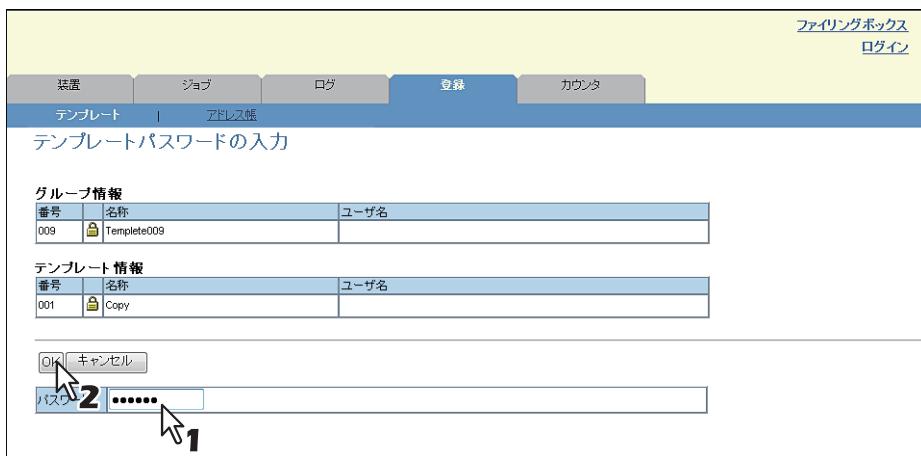
プライベートテンプレート一覧ページが表示されます。

4 新しいテンプレートを作成する場合は、テンプレートリストから［未定義］アイコンをクリックします。既存のテンプレートを編集するときは定義済みアイコンをクリックします。

- テンプレートリストがリスト表示で表示されている場合は、［未定義］テンプレート名をクリックし、新規テンプレートを登録します。既存のテンプレートを編集する場合は、定義済みのテンプレート名をクリックします。
- 未定義のテンプレートアイコンをクリックした場合は、エージェントの選択ページが表示されます。この場合は、手順7に進みます。
- パスワードが設定されていない定義済みテンプレートアイコンをクリックした場合は、テンプレート情報ページが表示されます。この場合は、手順6に進みます。
- パスワードが設定されている定義済みテンプレートアイコンをクリックした場合は、［テンプレートパスワードの入力］ページが表示されます。この場合は、次の手順に進みます。

補 足

- ［パネル表示］または［リスト表示］のどちらかをクリックすると、テンプレートリストの表示を切り替えることができます。
- 定義または編集するプライベートテンプレートが事前に分かっている場合は、［ジャンプ］リンクをクリックします。

5 ［テンプレートパスワードの入力］ページが表示された場合は、選択したプライベートテンプレートのパスワードを入力し、［OK］をクリックします。

テンプレート情報ページが表示されます。

6 ［テンプレート情報］ページの［編集］、［パスワード変更］、［テンプレートリセット］のいずれかをクリックします。

［テンプレートリセット］を選択した場合は、不要なプライベートテンプレートをリセットし、未定義のテンプレートに戻します。手順10に進みます。

7 必要に応じて、以下の項目を入力します。

- **手順6で［編集］を選択した場合は、エージェントを選択し［エージェント設定］をクリックします。**

このページでは、以下の設定を行うことができます：

P.62 「［テンプレート情報］画面」

- **手順6で［パスワード変更］を選択した場合は、以下の項目を入力し、手順9に進みます。**

このページでは、以下の設定を行うことができます：
📖 P.61 「［グループパスワードの変更］画面」

8 ページに表示されている各ボタンをクリックし、テンプレートプロパティを編集します。

［パネル設定］	テンプレートのアイコン設定を指定します。 📖 P.63 「パネル設定（プライベートテンプレート）」
［宛先設定］	送信する宛先を指定します。ファクス／インターネットファクスエージェントまたはEメール送信エージェントを作成するときに設定します。 📖 P.64 「宛先設定（プライベートテンプレート）」
［インターネットファクス設定］	インターネットファクスをどのように送信するかを設定します。ファクス／インターネットファクスエージェントを作成するときに設定します。 📖 P.70 「インターネットファクス設定（プライベートテンプレート）」
［ファクス設定］	ファクスとして文書をどのように送信するかを設定します。ファクス／インターネットファクスエージェントを作成するときに設定します。 📖 P.70 「ファクス設定（プライベートテンプレート）」
［Eメール設定］	Eメールメッセージとして文書をどのように送信するかを設定します。Eメール送信エージェントを作成するときに設定します。 📖 P.72 「Eメール設定（プライベートテンプレート）」
［共有フォルダに保管設定］	本機の共有フォルダ、USBメディアまたはネットワークフォルダに文書をどのように保存するかを設定します。共有フォルダに保管エージェントを作成するときに設定します。 📖 P.74 「共有フォルダに保管設定（プライベートテンプレート）」
［ボックス設定］	ファイリングボックスに文書をどのように保存するかを設定します。ファイリングボックスに保管エージェントを作成するときに設定します。 📖 P.77 「ボックス設定（プライベートテンプレート）」
［USBメディアを使用］	USBメディアに文書をどのように保存するか設定します。 📖 P.78 「USB保存設定（プライベートテンプレート）」
［スキャン設定］	文書をどのようにスキャンするかを設定します。共有フォルダに保管エージェント、Eメール送信エージェントおよびファイリングボックスに保管エージェントを作成するときに有効です。 📖 P.80 「スキャン設定（プライベートテンプレート）」
［拡張フィールド設定］	拡張フィールド定義情報と拡張フィールド設定を設定します。 📖 P.82 「拡張フィールド設定」
［パスワード設定］	プライベートテンプレートにパスワードを設定します。 📖 P.82 「パスワード設定」

9 ［保存］をクリックします。

10 ［OK］をクリックします。

手順6で［編集］を選択した場合はこの手順は不要です。

□ 共有テンプレートを表示する

ユーザは、共有グループのテンプレートリストを表示させ、どのテンプレートが使用できるかを確認することができます。

共有グループのテンプレートを表示する

1 **［登録］タブをクリックし、［テンプレート］メニューをクリックします。**

テンプレートグループページが表示されます。

2 **［共有テンプレートグループ］リンクをクリックします。**

3 **共有グループのテンプレートリストが表示されます。**

補 足

- ［パネル表示］または［リスト表示］のどちらかをクリックすると、テンプレートリストの表示を切り替えることができます。
- 確認する共有テンプレート番号が事前に分かっている場合は、目的の番号の［ジャンプ］リンクをクリックします。

■ アドレス帳を管理する

P.102 「アドレス帳の連絡先を管理する」
P.106 「アドレス帳のグループを管理する」

□ アドレス帳の連絡先を管理する

アドレス帳の連絡先を管理するには、以下の2つの方法があります。

- 手動で連絡先を追加・編集・削除する
  P.102 「手動で連絡先を追加・編集・削除する」
- LDAPサーバーを使って連絡先を検索し、追加する
  P.105 「LDAPサーバーを使って新規連絡先を追加する」

手動で連絡先を追加・編集・削除する

連絡先に関する情報を手動で入力し、その連絡先を追加、編集することができます。また、連絡先をアドレス帳から削除することもできます。

1 **[登録]タブをクリックし、[アドレス帳]メニューをクリックします。**

アドレス帳ページが表示されます。

2 **[新規追加]をクリックし、新規連絡先を追加します。または、連絡先一覧で編集・削除したい連絡先に対応するリンクをクリックします。**

宛先情報ページが表示されます。

3 **宛先情報に関する以下の項目を入力します。[削除]をクリックするとアドレス帳から連絡先が削除されます。**

このページでは、以下の設定を行うことができます：

P.84「[宛先情報]画面」

4 **ファクスの連絡先を登録しているときは、[ファクス設定]をクリックします。そのほかの場合は、手順6へ進みます。**

ファクス設定ページが表示されます。

5 **宛先のファクス装置本体の性能に合わせ、以下の項目を入力し、[保存]をクリックします。**

このページでは、以下の設定を行うことができます：

P.85「[ファクス設定]画面」

6 宛先情報ページで［保存］をクリックし、新規連絡先を追加します。

LDAPサーバーを使って新規連絡先を追加する

LDAPサーバーで連絡先を検索し、その連絡先を本機のアドレス帳に追加することができます。LDAP検索を利用するには、ディレクトリサービスがアクセスポリシーモードで、管理権限が設定されているユーザによってセットアップされている必要があります。LDAP検索を操作する前に、ディレクトリサービスがセットアップされているかをご確認ください。

LDAPサーバーから新規連絡先を追加する

1 ［登録］タブをクリックし、［アドレス帳］メニューをクリックします。

アドレス帳ページが表示されます。

2 ［検索］をクリックします。

宛先検索ページが表示されます。

3 ［LDAPサーバー名］ボックスで検索するディレクトリサービス名を選択し、検索したい項目欄に検索文字を入力します。

補 足

- ［LDAP サーバー名］ボックスから本機モデル名を選択すると、本機のアドレス帳を検索することができます。
- 各項目に入力した文字列を含む連絡先が、TopAccessによって検索されます。
- 空欄にした項目は無視され、入力した項目だけを用いて検索します。ただし、少なくとも1つのボックスには文字や文字列を入力する必要があります。

4 ［検索］をクリックします。

TopAccessがLDAPサーバーで連絡先の検索を開始します。検索を終了すると、検索結果が検索アドレス一覧ページに表示されます。

5 アドレス帳に追加したい連絡先に対応するチェックボックスをオンにします。

［条件変更］をクリックすると、手順3に戻って条件を変更して検索できます。

一覧に表示されたすべてのユーザを選択する場合は、☑ボタンをクリックします。

注 意

［company（会社名）］［department（部門名）］の値はアクセスポリシーモードで、管理権限が設定されているユーザの設定に依存します。

6 ［追加］をクリックします。

選択した連絡先がアドレス帳に追加されます。

□ アドレス帳のグループを管理する

複数の連絡先を割り当てたグループを作成することができます。このグループ機能を使用すれば、Eメール送信やインターネットファクス送信、ファクス送信を複数の連絡先へ実行する際に、それらの連絡先を個別に選択する手間を省くことができます。また、既存のグループを削除することもできます。

1 ［登録］タブをクリックし、［アドレス帳］メニューをクリックします。

アドレス帳ページが表示されます。

2 ［グループ］サブメニューをクリックします。

グループ一覧が表示されます。

3 ［新規］をクリックし、新規グループを追加します。または、グループ一覧で編集・削除したいグループのリンクをクリックします。

グループ情報ページが表示されます。

4 **［グループ名称］欄に、グループ名を入力します。［削除］をクリックすると、選択したグループが削除されます。**

補 足

- ［グループ名称］欄に入力した情報を消去する場合は、［リセット］をクリックします。
- グループの追加や編集を中止する場合は、［キャンセル］をクリックします。

5 **グループに追加したいユーザの［Eメール］チェックボックスおよび［ファクス］チェックボックスをオンにします。**

注 意

原稿をファクス送信するには、FAXユニットが必要です。このユニットを装着していない場合は、ファクス番号を設定してもファクス送信を実行することはできません。

6 **［OK］をクリックします。**

グループが作成されます。

■ メールボックスを管理する

注 意

メールボックスを管理するには、FAXユニットが本機に装着されている必要があります。

補 足

メールボックスの管理は、本機の操作パネルから行うことができます。操作パネルからメールボックスを管理する方法については、**FAXユニット 取扱説明書**を参照してください。

本機は、Fコード通信をサポートしており、メールボックス局によってあらかじめ開設されたメールボックスを使用して原稿の登録、取り出しを行います。

□ メールボックスをセットアップする

Fコード通信を使用するには、メールボックス局をセットアップする必要があります。最大300個のメールボックスをセットアップすることができます。
設定したメールボックスは削除することもできます。

注 意

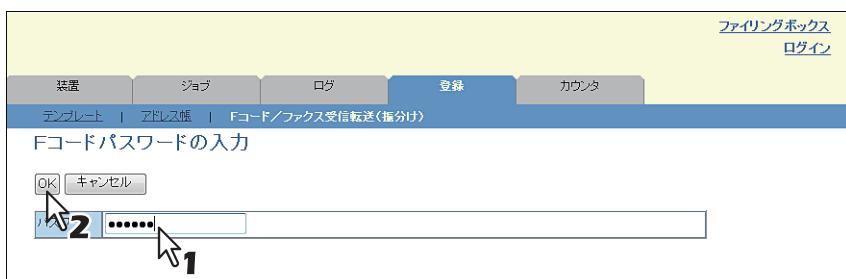
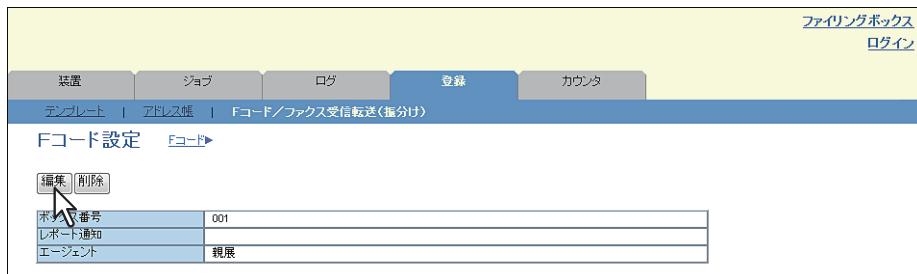
削除するメールボックスに文書が存在する場合は、この操作は、そのメールボックスから文書を取り込む、印刷するまたは削除するまで実行することはできません。

1 ［登録］タブを選択し、［Fコード／ファクス受信転送（振分け）］メニューをクリックします。

Fコード／ファクス受信転送（振分け）ページが表示されます。

2 ［新規］をクリックし、新規メールボックスをセットアップします。または、メールボックス一覧で編集・削除したいボックス番号リンクをクリックします。

- ［新規］をクリックした場合は、手順5へ進みます。
- パスワードで保護されていないボックス番号リンクをクリックした場合は、手順4へ進みます。
- パスワードで保護されているボックス番号リンクをクリックした場合は、次の手順へ進みます。

3 パスワードを入力し、［OK］をクリックします。

4 ［編集］または［削除］をクリックします。

［削除］をクリックした場合は、削除の確認ダイアログボックスが表示されるので［OK］をクリックします。

5 エージェントを選択し、［エージェント設定］をクリックします。

このページでは、以下の設定を行うことができます：

P.90「［Fコード設定］画面」

6 ページに表示される各ボタンをクリックし、メールボックスのプロパティを設定します。

［Fコード設定］	メールボックス設定をセットアップします。 P.91「Fコード設定（メールボックス）」
［宛先設定］	送信先をセットアップします。この項目は、インターネットファクス／ファクス（中継）エージェントまたはEメール送信エージェントを作成するときに有効です。 P.92「宛先設定（メールボックス）」
［インターネットファクス設定］	文書をインターネットファクスとしてどのように送信するかをセットアップします。この項目は、インターネットファクス／ファクス（中継）エージェントを作成するときに有効です。 P.92「インターネットファクス設定（メールボックス）」
［中継孫局送信］	転送を行った際に中継孫局結果表を送信する宛先を設定します。インターネットファクス／ファクス（中継）エージェントを作成するときに設定します。 P.92「中継孫局送信（メールボックス）」
［Eメール設定］	文書をEメールメッセージとしてどのように送信するかをセットアップします。この項目は、Eメール送信エージェントを作成するときに有効です。 P.93「Eメール設定（メールボックス）」
［共有フォルダに保管設定］	文書をお使いのコンピュータのハードディスクまたはネットワークフォルダにどのように保存するかをセットアップします。この項目は、共有フォルダに保管エージェントを作成するときに有効です。 P.93「共有フォルダに保管設定（メールボックス）」
［ボックス設定］	文書をボックスにどのように保存するかをセットアップします。この項目は、ファイリングボックスに保管エージェントを作成するときに有効です。 P.93「ボックス設定（メールボックス）」

7 メールボックスのプロパティ設定を完了したら、［保存］をクリックします。

設定したメールボックスのプロパティが登録されます。

6

［カウンタ］タブ

このセクションでは、TopAccessの［カウンタ］タブについて説明します。

［カウンタ］タブの概要説明

［カウンタ］タブでは、印刷、コピーおよびスキャンしたページ数の記録を確認できます。

📖 P.112 「［カウンタ］項目説明一覧」

■［カウンタ］項目説明一覧

📖 P.112 「［トータルカウンタ］画面」
📖 P.114 「［部門管理カウンタ］画面」
📖 P.115 「［部門カウンタ］画面 <アクセスポリシーモード>」
📖 P.116 「［部門管理情報］画面」
📖 P.118 「［ユーザカウンタ］画面 <アクセスポリシーモード>」
📖 P.119 「［ユーザ情報］画面 <アクセスポリシーモード>」
📖 P.121 「［割当設定］画面 <アクセスポリシーモード>」

□［トータルカウンタ］画面

プリントカウンタとスキャンカウンタのトータルカウンタ、スモールサイズとラージサイズ別のトータルカウンタを表示します。

カラー機

トータルカウンタ

1 プリントカウンタ

	コピー	ファクス	プリンタ	リスト	トータル
フルカラー	426	-	4866	-	5292
2色/単色カラー	0	-	5	-	5
ブラック	270	0	2243	8	2521

2 プリントカウンタ(スモール)

	コピー	ファクス	プリンタ	リスト	トータル
フルカラー	412	-	4458	-	4870
2色/単色カラー	0	-	5	-	5
ブラック	130	0	1983	8	2121

3 プリントカウンタ(ラージ)

	コピー	ファクス	プリンタ	リスト	トータル
フルカラー	14	-	408	-	422
2色/単色カラー	0	-	0	-	0
ブラック	140	0	260	0	400

4 スキャンカウンタ

	コピー	ネットワーク	ファクス	トータル
フルカラー	331	2101	-	2432
2色/単色カラー	0	-	-	0
ブラック	225	730	0	955

5 スキャンカウンタ(スモール)

	コピー	ネットワーク	ファクス	トータル
フルカラー	318	2076	-	2394
2色/単色カラー	0	-	-	0
ブラック	133	697	0	830

6 スキャンカウンタ(ラージ)

	コピー	ネットワーク	ファクス	トータル
フルカラー	13	25	-	38
2色/単色カラー	0	-	-	0
ブラック	92	33	0	125

印刷枚数カウンタ

	コピー	ファクス	プリンタ	リスト	トータル
8 スモール	1	0	0	13	14
9 ラージ	0	0	0	0	0
7 トータル	1	0	0	13	14

モノクロ機

トータルカウンタ

プリントカウンタ

	コピー	ファクス	プリンタ	リスト	トータル
スモール	1288	0	182	60	1530
ラージ	24	0	0	24	48
トータル	1312	0	182	84	1578

スキャンカウンタ

	コピー	ネットワーク	ファクス	トータル
スモール(フルカラー)	-	50	-	50
ラージ(フルカラー)	-	0	-	0
スモール(ブラック)	1307	14	0	1321
ラージ(ブラック)	23	6	0	29
トータル	1330	70	0	1400

印刷枚数カウンタ

	コピー	ファクス	プリンタ	リスト	トータル
スモール	1	0	0	13	14
ラージ	0	0	0	0	0
トータル	1	0	0	13	14

	カウンタの種類	説明
1	プリントカウンタ	出力トータルカウント値を表示します。 カラー印刷に対応した機種とそれ以外の機種では、表示される項目が異なります。
2	プリントカウンタ(スモール)	出力トータルカウント値の詳細を、お使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。
3	プリントカウンタ(ラージ)	
4	スキャンカウンタ	スキャンした原稿のトータルカウント値を表示します。 カラー印刷に対応した機種とそれ以外の機種では、表示される項目が異なります。
5	スキャンカウンタ(スモール)	スキャンした原稿のトータルカウント値の詳細を、お使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。
6	スキャンカウンタ(ラージ)	
7	印刷枚数カウンタ	印刷用紙枚数のトータルカウント値を表示します。
8	印刷枚数カウンタ(スモール)	印刷用紙枚数のトータルカウント値の詳細を、お使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。
9	印刷枚数カウンタ(ラージ)	

プリントカウンタ/プリントカウンタ（スモール）/プリントカウンタ（ラージ）

プリントカウンタ

	コピー	ファクス	プリンタ	リスト	トータル
フルカラー	426	-	4866	-	5292
2色カラー	0	-	5	-	5
ブラック	270	0	2243	8	2521

プリントカウンタ(スモール)

	コピー	ファクス	プリンタ	リスト	トータル
フルカラー	412	-	4458	-	4870
2色カラー	0	-	5	-	5
ブラック	130	0	1983	8	2121

プリントカウンタ(ラージ)

	コピー	ファクス	プリンタ	リスト	トータル
フルカラー	14	-	408	-	422
2色カラー	0	-	0	-	0
ブラック	140	0	260	0	400

	カウンタ	説明
1	コピーカウンタ	コピー操作で印刷した枚数を表示します。
2	ファクスカウンタ	ファクス受信で印刷した枚数を表示します。
3	プリンタカウンタ	印刷操作およびEメール受信（インターネットファクス受信）で印刷した枚数を表示します。
4	リストカウンタ	システムページ印刷で印刷した枚数を表示します。

スキャンカウンタ/スキャンカウンタ（スモール）/スキャンカウンタ（ラージ）

スキャンカウンタ

	コピー	ネットワーク	ファクス	トータル
フルカラー	331	2101	-	2432
2色カラー	0	-	-	0
ブラック	225	730	0	955

スキャンカウンタ(スモール)

	コピー	ネットワーク	ファクス	トータル
フルカラー	318	2076	-	2394
2色カラー	0	-	-	0
ブラック	133	697	0	830

スキャンカウンタ(ラージ)

	コピー	ネットワーク	ファクス	トータル
フルカラー	13	25	-	38
2色カラー	0	-	-	0
ブラック	92	33	0	125

	カウンタ	説明
1	コピーカウンタ	コピー操作でスキャンした枚数を表示します。
2	ネットワークカウンタ	スキャン操作でスキャンした原稿枚数を表示します。
3	ファクスカウンタ	ファクス送信でスキャンした枚数を表示します。

□［部門管理カウンタ］画面

部門ごとのトータルカウンタ情報を表示します。

	項目名	機能説明
1	部門コード	確認したい部門の部門コードを入力し、［設定］ボタンをクリックします。
2	番号	管理部門が登録されている番号を表示します。
3	部門名称	部門名称を表示します。 部門名をクリックすると情報を確認できます。 📖 P.116 「［部門管理情報］画面」
4	部門コード	部門コードを表示します。
5	トータルプリント	出力トータルカウント値を表示します。
6	トータルスキャン	スキャンした原稿のトータルカウント値を表示します。
7	ファクス送信	ファクス送信した枚数を表示します。
8	ファクス受信	ファクス受信した枚数を表示します。

□ ［部門カウンタ］画面 <アクセスポリシーモード>

	項目名	機能説明
1	番号	管理部門が登録されている番号を表示します。
2	部門名称	部門名称を表示します。 部門名をクリックすると情報を確認できます。 📖 P.116「［部門管理情報］画面」
3	部門コード	部門コードを表示します。
4	トータルプリント	出力トータルカウント値を表示します。
5	トータルスキャン	スキャンした原稿のトータルカウント値を表示します。
6	ファクス送信	ファクス送信した枚数を表示します。
7	ファクス受信	ファクス受信した枚数を表示します。

□［部門管理情報］画面

カラー機

部門管理情報

閉じる

部門番号	2
部門名称	DepartmentName01
部門コード	123456
カラー割当設定	OFF
カラー割当	
カラー割当初期値	
ブラック割当設定	OFF
ブラック割当	
ブラック割当初期値	

トータルカウンタ

	フルカラー	2色/単色カラー	ブラック	トータル
コピー	0	0	0	0
ファクス	-	-	0	0
プリンタ	0	0	0	0
リスト	-	-	0	0
トータル	0	0	0	0

コピー

	フルカラー	2色/単色カラー	ブラック	トータル
スモール	0	0	0	0
ラージ	0	0	0	0

ファクス

	フルカラー	2色/単色カラー	ブラック	トータル
スモール	-	-	0	0
ラージ	-	-	0	0

プリンタ

	フルカラー	2色/単色カラー	ブラック	トータル
スモール	0	0	0	0
ラージ	0	0	0	0

リスト

	フルカラー	2色/単色カラー	ブラック	トータル
スモール	-	-	0	0
ラージ	-	-	0	0

スキャンカウンタ

	フルカラー	2色/単色カラー	ブラック	トータル
コピー(スモール)	0	0	0	0
コピー(ラージ)	0	0	0	0
ファクス(スモール)	-	-	0	0
ファクス(ラージ)	-	-	0	0
ネットワーク(スモール)	0	-	0	0
ネットワーク(ラージ)	0	-	0	0
トータル	0	0	0	0

ファクス通信カウンタ

	送信	受信	トータル
スモール	0	0	0
ラージ	0	0	0

印刷枚数カウンタ

	コピー	ファクス	プリンタ	リスト	トータル
スモール	0	0	0	0	0
ラージ	0	0	0	0	0
トータル	0	0	0	0	0

モノクロ機

部門管理情報

閉じる

部門番号	1
部門名称	DepartmentName01
部門コード	123456
割当設定	OFF
割当	
割当初期値	

プリントカウンタ

	コピー	ファクス	プリンタ	リスト	トータル
スモール	0	0	0	0	0
ラージ	0	0	0	0	0
トータル	0	0	0	0	0

スキャンカウンタ

	コピー	ファクス	ネットワーク	トータル
スモール(フルカラー)	-	-	0	0
ラージ(フルカラー)	-	-	0	0
スモール(ブラック)	0	0	0	0
ラージ(ブラック)	0	0	0	0
トータル	0	0	0	0

ファクス通信カウンタ

	送信	受信	トータル
スモール	0	0	0
ラージ	0	0	0

印刷枚数カウンタ

	コピー	ファクス	プリンタ	リスト	トータル
スモール	0	0	0	0	0
ラージ	0	0	0	0	0
トータル	0	0	0	0	0

	項目名		機能説明
1	［閉じる］ボタン		［部門管理情報］画面を閉じます。
2	部門番号		管理部門が登録されている番号を表示します。
3	部門名称		部門名称を表示します。
4	部門コード		部門コードを表示します。
5	カラー割当設定		• **OFF**：カラー出力制限を行いません。 • **ON**：カラー出力制限を行います。
		カラー割当	カラー出力できる残数が表示されます。
		カラー割当初期値	ユーザに割り当てる初期値を表示します。
6	ブラック割当設定／割当設定		• **OFF**：モノクロ出力制限を行いません。 • **ON**：モノクロ出力制限を行います。
		ブラック割当／割当	モノクロ出力できる残数が表示されます。
		ブラック割当初期値／割当初期値	ユーザに割り当てる初期値を表示します。
7	トータルカウンタ		トータルカウンタを表示します。
8	コピー		コピー操作で印刷された枚数を表示します。
9	ファクス		ファクス受信で印刷した枚数を表示します。
10	プリンタ		印刷操作およびEメール受信（インターネットファクス受信）で印刷された枚数を表示します。
11	リスト		システムページ印刷で印刷された枚数を表示します。
12	スキャンカウンタ		スキャン操作でスキャンした原稿枚数を表示します。 お使いの機器で設定されている用紙サイズに応じてスモールサイズとラージサイズに分類して表示します。
13	ファクス通信カウンタ		通信記録を表示します。
14	印刷枚数カウンタ		機能別の印刷用紙枚数を表示します。 お使いの機器で設定されている用紙サイズに応じてスモールサイズとラージサイズに分類して表示します。

□ [ユーザカウンタ] 画面 <アクセスポリシーモード>

ログインしているユーザごとのトータルカウンタ情報を表示します。

補 足

管理者権限でログインしている場合、すべてのユーザのトータルカウンタが表示されます。

	項目名	機能説明
1	番号	ユーザが登録されている番号を表示します。
2	ユーザ名	ユーザ名称を表示します。 ユーザ名をクリックすると情報を確認できます。 📖 P.119 「[ユーザ情報] 画面 <アクセスポリシーモード>」
3	ドメイン名/LDAPサーバー	ユーザアカウントのドメイン名またはLDAPサーバーを表示します。
4	トータルプリント	出力トータルカウント値を表示します。
5	トータルスキャン	スキャンした原稿のトータルカウント値を表示します。
6	ファクス送信	ファクス送信した枚数を表示します。
7	ファクス受信	ファクス受信した枚数を表示します。

モノクロ機

	項目名	機能説明
1	［閉じる］ボタン	［ユーザ情報］画面を閉じます。
2	ユーザ名	ユーザ名を表示します。
3	ドメイン名/LDAPサーバー	登録されているドメイン名またはLDAPサーバーを表示します。
4	認証方法	ユーザの認証方法を表示します。
5	パスワード	パスワードは表示できません。 パスワードを変更する場合は、［ユーザアカウント］項目でパスワードをリセットしてください。 📖 P.129 「［パスワード入力］画面」
6	ロール割り当て	登録されているロールを表示します。
7	グループ割り当て	登録されているグループを表示します。
8	部門番号	登録されている部門を表示します。
9	パネル表示言語	登録されているタッチパネルの表示言語を表示します。
10	パネルキーボードのレイアウト	登録されているタッチパネルに表示されるキーボードのパターンを表示します。
11	カラー割当設定	• **OFF**：カラー出力制限を行いません。 • **ON**：カラー出力制限を行います。
	カラー割当	カラー出力できる残数が表示されます。
	カラー割当初期値	ユーザに割り当てる初期値を表示します。
12	ブラック割当設定／割当設定	• **OFF**：モノクロ出力制限を行いません。 • **ON**：モノクロ出力制限を行います。
	ブラック割当／割当	モノクロ出力できる残数が表示されます。
	ブラック割当初期値／ 割当初期値	ユーザに割り当てる初期値を表示します。
13	トータルカウンタ	トータルカウンタを表示します。
14	コピー	コピー操作で印刷された枚数を表示します。
15	ファクス	ファクス受信で印刷した枚数を表示します。
16	プリンタ	印刷操作およびEメール受信（インターネットファクス受信）で印刷された枚数を表示します。 カラー印刷に対応した機種とそれ以外の機種では、表示される項目が異なります。
17	リスト	システムページ印刷で印刷された枚数を表示します。
18	スキャンカウンタ	スキャン操作でスキャンした原稿枚数を表示します。 お使いの機器で設定されている用紙サイズに応じてスモールサイズとラージサイズに分類して表示します。 カラー印刷に対応した機種とそれ以外の機種では、表示される項目が異なります。
19	ファクス通信カウンタ	通信記録を表示します。

	項目名	機能説明
20	印刷枚数カウンタ	機能別の印刷用紙枚数を表示します。 お使いの機器で設定されている用紙サイズに応じてスモールサイズとラージサイズに分類して表示します。

□ [割当設定] 画面 <アクセスポリシーモード>

印刷枚数による割当管理またはジョブによる割当管理を設定できます。ジョブによる割当管理では、ジョブごとに重み付けを変えてカウントすることもできます。

	項目名	機能説明
1	[保存] ボタン	割当設定を保存します。
2	[キャンセル] ボタン	設定を中止します。
3	ブラック/カラー割当	モノクロ出力枚数とカラー出力枚数で、割当管理を行います。
	補 足 モノクロ機では [ブラック割当] と表示され、モノクロ出力枚数で割当管理を行います。	
4	ジョブ割当	ジョブごとに重み付けをして、印刷ジョブとスキャンジョブのトータル割当を算出し、割当管理を行います。 以下のジョブの重み付けを変えられます。 • 印刷 - スモールカラー - ラージカラー - スモール2色／単色カラー - ラージ2色／単色カラー - スモールブラック - ラージブラック • スキャン - カラー - ブラック
	補 足 • モノクロ機の印刷では、スモールブラックとラージブラックの重み付けのみを変更できます。 • 各ジョブの重み付けは 0.00 - 99.99の範囲で変えられます。印刷の初期値は1.00、スキャンの初期値は0.00です。たとえば、印刷のスモールブラックの重み付けを0.50とした場合は、ユーザがスモールブラックで2枚出力すると、ユーザの割当が1.00減算されます。	

[カウンタ]設定／操作方法

P.122「カウンタを表示する」

■ カウンタを表示する

本機は、印刷、コピーおよびスキャンしたページ数の記録を保存し、各カウンタとして管理します。これらのカウンタは、トータルまたは部門別に表示されます。ここでは、各カウンタの表示方法および部門別カウンタの管理方法を説明します。

P.122「トータルカウンタを表示する」
P.123「部門カウンタを表示する」

注 意

ユーザはトータルカウンタをリセットすることはできません。ただし、アクセスポリシーモードで、管理権限が設定されているユーザは操作パネルからカウンタをリセットすることができます。**設定管理ガイド**を参照してください。

□ トータルカウンタを表示する

[トータル]メニューには、スモールサイズのコピーおよび印刷カウンタ、ラージサイズのコピーおよび印刷カウンタ、スキャンカウンタ別にトータルカウンタ情報が表示されます。

1 [カウンタ]タブをクリックし、[トータル]メニューをクリックします。

トータルカウンタページが表示されます。

2 トータルカウンタを確認します。

ファイリングボックス
ログイン

装置 | ジョブ | ログ | 登録 | カウンタ

トータル | 部門管理

トータルカウンタ

プリントカウンタ

	コピー	ファクス	プリンタ	リスト	トータル
フルカラー	426	-	4866	-	5292
2色カラー	0	-	5	-	5
ブラック	270	0	2243	8	2521

プリントカウンタ(スモール)

	コピー	ファクス	プリンタ	リスト	トータル
フルカラー	412	-	4458	-	4870
2色カラー	0	-	5	-	5
ブラック	130	0	1983	8	2121

プリントカウンタ(ラージ)

	コピー	ファクス	プリンタ	リスト	トータル
フルカラー	14	-	408	-	422
2色カラー	0	-	0	-	0
ブラック	140	0	260	0	400

スキャンカウンタ

	コピー	ネットワーク	ファクス	トータル
フルカラー	331	2101	-	2432
2色カラー	0	-	-	0
ブラック	225	730	0	955

スキャンカウンタ(スモール)

	コピー	ネットワーク	ファクス	トータル
フルカラー	318	2076	-	2394
2色カラー	0	-	-	0
ブラック	133	697	0	830

スキャンカウンタ(ラージ)

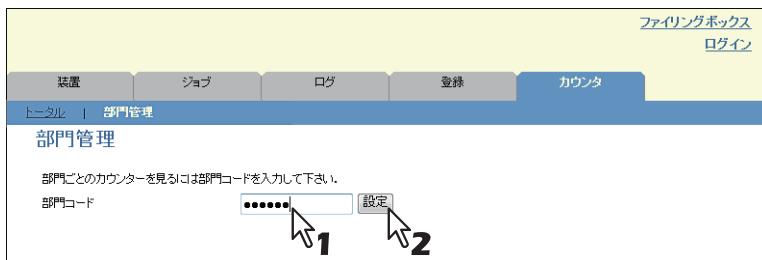
	コピー	ネットワーク	ファクス	トータル
フルカラー	13	25	-	38
2色カラー	0	-	-	0
ブラック	92	33	0	125

□ 部門カウンタを表示する

［部門管理］メニューでは、特定の部門のカウンタ情報を確認することができます。部門カウンタを表示するには、該当する部門の部門コードを入力する必要があります。

1 **［カウンタ］タブをクリックし、［部門管理］メニューをクリックします。**

部門管理ページが表示されます。

2 **［部門コード］ボックスに、カウンタを確認したい部門の部門コードを入力し、［設定］をクリックします。**

指定した部門の部門カウンタが表示されます。

3 **部門カウンタの詳細を表示したい場合は、部門名称リンクをクリックします。**

4 **部門管理情報ページが表示されます。**

部門管理情報

閉じる

部門番号　1
部門名称　DepartmentName01
部門コード　123456

トータルカウンタ

	フルカラー	2色カラー	ブラック	トータル
コピー	0	0	0	0
ファクス	-	-	0	0
プリンタ	0	0	0	0
リスト	-	-	0	0
トータル	0	0	0	0

コピー

	フルカラー	2色カラー	ブラック	トータル
スモール	0	0	0	0
ラージ	0	0	0	0

ファクス

	フルカラー	2色カラー	ブラック	トータル
スモール	-	-	0	0
ラージ	-	-	0	0

プリンタ

	フルカラー	2色カラー	ブラック	トータル
スモール	0	0	0	0
ラージ	0	0	0	0

リスト

	フルカラー	2色カラー	ブラック	トータル
スモール	-	-	0	0
ラージ	-	-	0	0

スキャンカウンタ

	フルカラー	2色カラー	ブラック	トータル
コピー(スモール)	0	0	0	0
コピー(ラージ)	0	0	0	0
ファクス(スモール)	-	-	0	0
ファクス(ラージ)	-	-	0	0
ネットワーク(スモール)	0	-	0	0
ネットワーク(ラージ)	0	-	0	0
トータル	0	0	0	0

ファクス通信カウンタ

	送信	受信	トータル
スモール	0	0	0
ラージ	0	0	0

7

[ユーザ管理] タブ

このセクションでは、TopAccessでユーザを管理する方法について説明します。

[ユーザ管理] タブの概要説明

📖 P.126 「[ユーザアカウント] 項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>」
📖 P.134 「[グループ管理] 項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>」
📖 P.136 「[ロール管理] 項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>」
📖 P.141 「[部門管理] 項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>」
📖 P.145 「[エクスポート／インポート] 項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>」

■ [ユーザアカウント] 項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>

アクセスポリシーモードでログインしている場合、ユーザアカウントに関する検索や設定ができます。

📖 P.127 「[ユーザアカウント検索] 画面」
📖 P.128 「[ユーザ情報作成] 画面」
📖 P.129 「[パスワード入力] 画面」
📖 P.130 「[ユーザ情報] 画面」
📖 P.132 「[ロール割り当て] 画面」
📖 P.133 「[グループ割り当て] 画面」

	項目名	機能説明
1	[検索] ボタン	登録されているユーザを検索します。 📖 P.127 「[ユーザアカウント検索] 画面」
2	[新規] ボタン	新しいユーザ情報を登録します。 📖 P.128 「[ユーザ情報作成] 画面」
3	[削除] ボタン	ユーザアカウント一覧で選択しているユーザを削除します。 初期登録ユーザは削除できません。
4	[全削除] ボタン	登録されているすべてのユーザを削除します。(初期登録ユーザを除く)
5	[ロック解除] ボタン	ユーザアカウント一覧で選択しているユーザがロック状態の場合にロックを解除します。
6	[全キャッシュ情報削除] ボタン	認証サーバー障害発生時に使用する認証情報を、全部削除します。
7	[パスワードリセット] ボタン	ユーザアカウント一覧で選択しているユーザのパスワードをリセットします。 📖 P.129 「[パスワード入力] 画面」
8	[割当初期化] ボタン	ユーザアカウント一覧で選択しているユーザに設定されている割当設定を初期化します。
9	[全割当初期化] ボタン	すべての割当設定を初期化します。

	項目名	機能説明
10	［カウンタリセット］ボタン	ユーザアカウント一覧で選択しているユーザに設定されているカウンタをリセットします。
11	［全カウンタクリア］ボタン	すべての部門に設定されているカウンタをリセットします。
12	番号	ユーザの登録番号を表示します。 10001～10007は初期登録ユーザに割り当てられています。
13	ユーザ名	ユーザ名を表示します。 Undefined、Admin、Service、Auditor、Faxope、Guest、Printope、Remote-access-serviceは初期登録ユーザです。 ユーザ名をクリックすると、ユーザ情報を確認することができます。 P.130 「［ユーザ情報］画面」
14	ドメイン名/LDAPサーバー	ユーザ情報で登録されているドメイン名またはLDAPサーバーを表示します。
15	部門番号	ユーザ情報で登録されている部門番号を表示します。
16	状態	ユーザの状態を表示します。

□［ユーザアカウント検索］画面

登録ユーザを検索することができます。
検索する項目をチェックして検索条件を入力または選択します。

	項目名	機能説明
1	番号	検索するユーザ番号を入力します。 1～10000の範囲で検索条件を入力します。ハードディスクが装着されていない場合は、1～100の範囲で検索条件を入力します。
2	部門番号	検索する部門番号を選択します。
3	ユーザ名	検索するユーザ名を入力します。 入力した文字列で前方一致検索します。
4	ドメイン名/LDAPサーバー	検索するドメイン名またはLDAPサーバーを入力します。
5	［検索］ボタン	入力/選択した条件でユーザを検索します。

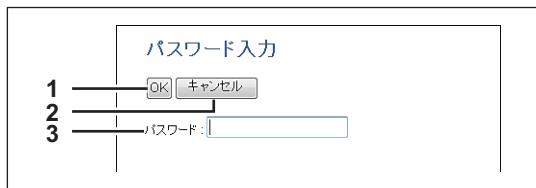
□ ［ユーザ情報作成］画面

新しいユーザ情報を登録することができます。

<table>
<tr><th></th><th>項目名</th><th>機能説明</th></tr>
<tr><td>1</td><td>［保存］ボタン</td><td>入力/設定した内容でユーザ情報を保存します。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>［キャンセル］ボタン</td><td>ユーザ情報作成を中止します。</td></tr>
<tr><td>3</td><td>ユーザ名</td><td>ユーザ名を入力します。128文字まで入力できます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">4</td><td>Windowsドメイン/LDAP認証時も有効となるローカルユーザとして登録</td><td>外部認証で管理されているMFPに対し、キャッシュ内情報による内部認証でログインできるローカルユーザとして登録されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">補 足
「Windowsドメイン/LDAP認証時も有効となるローカルユーザを登録する」にチェックが入っている場合にのみ設定できます。
P.272 「Windowsドメイン認証」
P.274 「LDAP認証」</td></tr>
<tr><td>5</td><td>ドメイン名/LDAPサーバー</td><td>ドメイン名またはLDAPサーバーを選択します。</td></tr>
<tr><td>6</td><td>認証方法</td><td>ユーザの認証方法を選択します。
• 内部認証：お使いの機器の内部認証を使用します。
• Windowsドメイン認証：Windowsドメインで管理しているネットワーク認証を使用します。
• LDAP認証：LDAPで管理しているネットワーク認証を使用します。</td></tr>
<tr><td>7</td><td>パスワード</td><td>パスワードを入力します。半角英数字と記号（! # ( ) * + , - . / : ; = ? @ $ ^ _ ` { | } ~ \ スペース）で64文字まで入力できます。
＊　ここでは￥マークを「\（バックスラッシュ）」で表記しています。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">8</td><td>PINコード</td><td>ユーザのPINコードを入力します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">注 意
• PINコードは最大32桁の数字（0-9）です。最少桁数は、［ユーザ認証設定］画面で設定します。
P.270 「ユーザー認証設定」
• 内容を修正した場合は、次回ログイン時から有効になります。
• Windowsドメイン認証またはLDAP認証でPINコードを使用する場合は、全てのユーザに固有のPINコードを割り当ててください。</td></tr>
<tr><td>9</td><td>カード情報</td><td>カード認証に必要な情報を入力します。</td></tr>
</table>

	項目名	機能説明
10	ロール割り当て	［認証方式］で「内部認証」を選択している場合に設定できます。 登録されているロールを選択します。［編集］ボタンをクリックして表示される画面でロールを選択します。 P.132 「［ロール割り当て］画面」
11	グループ割り当て	［認証方式］で「内部認証」を選択している場合に設定できます。 登録されているグループを選択します。［編集］ボタンをクリックして表示される画面でグループを選択します。 P.133 「［グループ割り当て］画面」
12	部門番号	登録されている部門を選択します。 P.141 「［部門管理］項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>」
13	パネル表示言語	タッチパネルの表示言語を選択します。
14	パネルキーボードのレイアウト	タッチパネルに表示されるキーボードのパターンを選択します。
15	カラー割当設定	• **OFF**：カラー出力制限を行いません。 • **ON**：カラー出力制限を行います。
	カラー割当	カラー出力できる残数が表示されます。［カラー割当初期値］に入力した値が、カラー出力するごとに減算され、0になると出力が制限されます。残数は、手動で任意の値に変更することができます。
	カラー割当初期値	ユーザに割り当てる初期値を入力します。99,999,999まで入力できます。
16	ブラック割当設定	• **OFF**：モノクロ出力制限を行いません。 • **ON**：モノクロ出力制限を行います。
	ブラック割当	モノクロ出力できる残数が表示されます。［ブラック割当初期値］に入力した値が、モノクロ出力するごとに減算され、0になると出力が制限されます。残数は、手動で任意の値に変更することができます。
	ブラック割当初期値	ユーザに割り当てる初期値を入力します。99,999,999まで入力できます。

□ ［パスワード入力］画面

［パスワード入力］画面は、［ユーザアカウント］項目説明一覧でパスワードを変更するユーザのチェックボックスにチェックを付け、［パスワードリセット］ボタンをクリックすると表示されます。

	項目名	機能説明
1	［OK］ボタン	入力したパスワードを保存します。
2	［キャンセル］ボタン	パスワードの変更を中止します。
3	パスワード	新しいパスワードを入力します。

□［ユーザ情報］画面

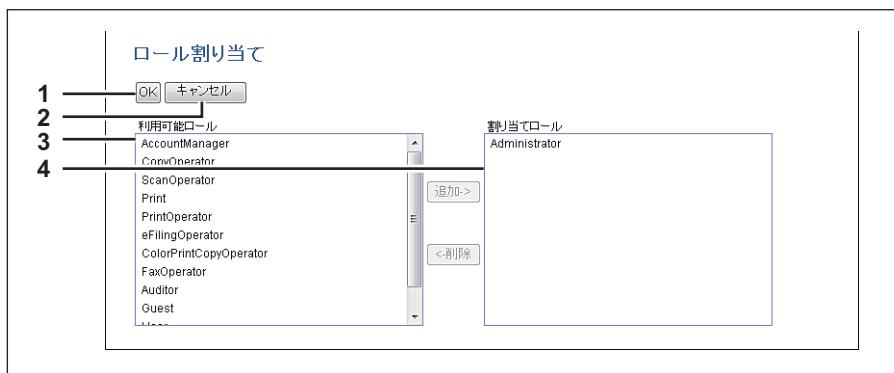
登録されているユーザ情報を更新することができます。

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	入力/設定した内容でユーザ情報を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	ユーザ情報変更を中止します。
3	［削除］ボタン	表示しているユーザをユーザアカウントから削除します。
4	［カウンタリセット］ボタン	カウンタをリセットします。

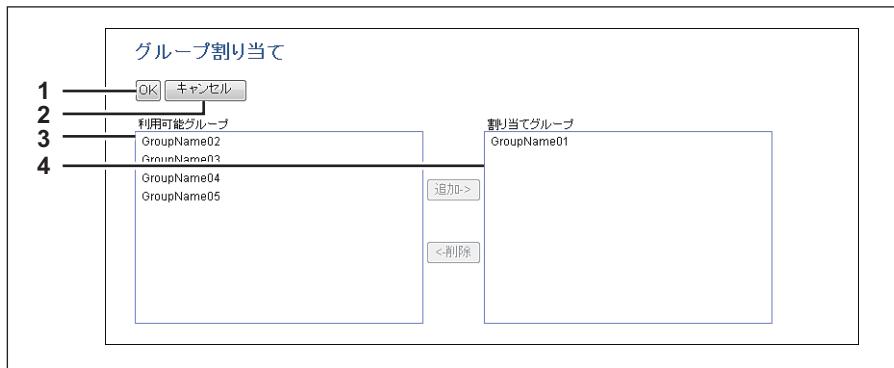
<table>
<tr><th></th><th>項目名</th><th>機能説明</th></tr>
<tr><td rowspan="2">5</td><td>ユーザ名</td><td>ユーザ名を表示します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">注 意
内容を修正した場合は、次回ログイン時から有効になります。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">6</td><td>Windowsドメイン/LDAP認証時も有効となるローカルユーザとして登録</td><td>外部認証で管理されているMFPに対し、キャッシュ内情報による内部認証でログインできるローカルユーザとして登録されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">補 足
「Windowsドメイン/LDAP認証時も有効となるローカルユーザを登録する」にチェックが入っている場合にのみ設定できます。
📖 P.272 「Windowsドメイン認証」
📖 P.274 「LDAP認証」</td></tr>
<tr><td>7</td><td>ドメイン名/LDAPサーバー</td><td>登録されているドメイン名またはLDAPサーバーを表示します。変更する場合は選択します。
認証方法が［Windowsドメイン認証］または［LDAP認証］の場合のみ選択できます。</td></tr>
<tr><td>8</td><td>認証方法</td><td>ユーザの認証方法を表示します。
• 内部認証：お使いの機器の内部認証を使用します。
• Windowsドメイン認証：Windowsドメインで管理しているネットワーク認証を使用します。
• LDAP認証：LDAPで管理しているネットワーク認証を使用します。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">9</td><td>パスワード</td><td>認証方法が［内部認証］の場合のみ、パスワードを変更できます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">注 意
内容を修正した場合は、次回ログイン時から有効になります。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">10</td><td>PINコード</td><td>ユーザ認証用のPINコードを表示します。認証方法が［内部認証］の場合のみ設定できます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">注 意
• PINコードは最大32桁の数字（0-9）です。最少桁数は、［ユーザ認証設定］画面で設定します。
📖 P.270 「ユーザー認証設定」
• 内容を修正した場合は、次回ログイン時から有効になります。
• Windowsドメイン認証またはLDAP認証でPINコードを使用する場合は、全てのユーザに固有のPINコードを割り当ててください。</td></tr>
<tr><td>11</td><td>カード情報</td><td>カード認証に必要な情報を入力します。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">12</td><td>ロール割り当て</td><td>［認証方式］で「内部認証」を選択している場合に設定できます。
登録されているロールを表示します。変更する場合は［編集］ボタンをクリックして表示される画面でロールを選択します。
📖 P.132 「［ロール割り当て］画面」</td></tr>
<tr><td colspan="2">注 意
内容を修正した場合は、次回ログイン時から有効になります。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">13</td><td>グループ割り当て</td><td>［認証方式］で「内部認証」を選択している場合に設定できます。
登録されているグループを表示します。変更する場合は［編集］ボタンをクリックして表示される画面でグループを選択します。
📖 P.133 「［グループ割り当て］画面」</td></tr>
<tr><td colspan="2">注 意
内容を修正した場合は、次回ログイン時から有効になります。</td></tr>
<tr><td>14</td><td>部門番号</td><td>登録されている部門を表示します。変更する場合は選択します。
📖 P.141 「［部門管理］項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>」</td></tr>
<tr><td>15</td><td>パネル表示言語</td><td>登録されているタッチパネルの表示言語を表示します。変更する場合は選択します。</td></tr>
<tr><td>16</td><td>パネルキーボードのレイアウト</td><td>登録されているタッチパネルに表示されるキーボードのパターンを表示します。変更する場合は選択します。</td></tr>
</table>

	項目名	機能説明
17	カラー割当設定	• **OFF**：カラー出力制限を行いません。 • **ON**：カラー出力制限を行います。
	カラー割当	カラー出力できる残数が表示されます。［カラー割当初期値］に入力した値が、カラー出力するごとに減算され、0になると出力が制限されます。残数は、手動で任意の値に変更することができます。
	カラー割当初期値	ユーザに割り当てる初期値を入力します。99,999,999まで入力できます。
18	ブラック割当設定	• **OFF**：モノクロ出力制限を行いません。 • **ON**：モノクロ出力制限を行います。
	ブラック割当	モノクロ出力できる残数が表示されます。［ブラック割当初期値］に入力した値が、モノクロ出力するごとに減算され、0になると出力が制限されます。残数は、手動で任意の値に変更することができます。
	ブラック割当初期値	ユーザに割り当てる初期値を入力します。99,999,999まで入力できます。
19	トータルカウンタ	トータルカウンタを表示します。
20	コピー	コピー操作で印刷された枚数を表示します。
21	ファクス	ファクス受信で印刷した枚数を表示します。
22	プリンタ	印刷操作およびEメール受信（インターネットファクス受信）で印刷された枚数を表示します。
23	リスト	システムページ印刷で印刷された枚数を表示します。
24	スキャンカウンタ	スキャン操作でスキャンした原稿枚数を表示します。
25	ファクス通信カウンタ	通信記録を表示します。
26	印刷枚数カウンタ	機能別の印刷用紙枚数を表示します。 お使いの機器で設定されている用紙サイズに応じてスモールサイズとラージサイズに分類して表示します。

□［ロール割り当て］画面

割り当てるロールを選択します。

	項目名	機能説明
1	［OK］ボタン	設定したロール割り当て内容を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	ロールの割り当てを中止します。
3	利用可能ロール	登録されているロール一覧が表示されます。 割り当てるロールを選択して、［追加］ボタンをクリックします。
4	割り当てロール	割り当てるロール一覧が表示されます。 割り当てを取りやめるロールを選択して、［削除］ボタンをクリックします。

□［グループ割り当て］画面

割り当てるグループを選択します。

	項目名	機能説明
1	［OK］ボタン	設定したグループ割り当て内容を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	グループの割り当てを中止します。
3	利用可能グループ	登録されているグループ一覧が表示されます。 割り当てるグループを選択して、［追加］ボタンをクリックします。
4	割り当てグループ	割り当てるグループ一覧が表示されます。 割り当てを取りやめるグループを選択して、［削除］ボタンをクリックします。

■［グループ管理］項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>

アクセスポリシーモードでログインしている場合、登録されているロールをグループとして管理することができます。

📖 P.134 「［グループ情報作成］画面」
📖 P.135 「［グループ情報］画面」

	項目名	機能説明
1	［新規］ボタン	新しいグループを登録します。 📖 P.134 「［グループ情報作成］画面」
2	［削除］ボタン	グループ一覧で選択しているグループを削除します。
3	［全削除］ボタン	すべてのグループを削除します。
4	グループ名称	グループ名を表示します。 グループ名をクリックすると、グループ情報を確認することができます。 📖 P.135 「［グループ情報］画面」

□［グループ情報作成］画面

新しいグループを登録することができます。

<table>
<tr><th></th><th>項目名</th><th>機能説明</th></tr>
<tr><td>1</td><td>［保存］ボタン</td><td>入力/設定した内容でグループ情報を保存します。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>［キャンセル］ボタン</td><td>グループ情報作成を中止します。</td></tr>
<tr><td>3</td><td>グループ名称</td><td>グループ名を入力します。
半角の英数字や「" '（）* + , / : ; ＜＝＞ ?［ ¥ ］ '{ | } ~」以外の記号で、最大128文字まで入力できます。</td></tr>
<tr><td>4</td><td>ロール割り当て</td><td>グループに割り当てるロールを選択します。［編集］ボタンをクリックして表示される画面でロールを選択します。
📖 P.132 「［ロール割り当て］画面」</td></tr>
</table>

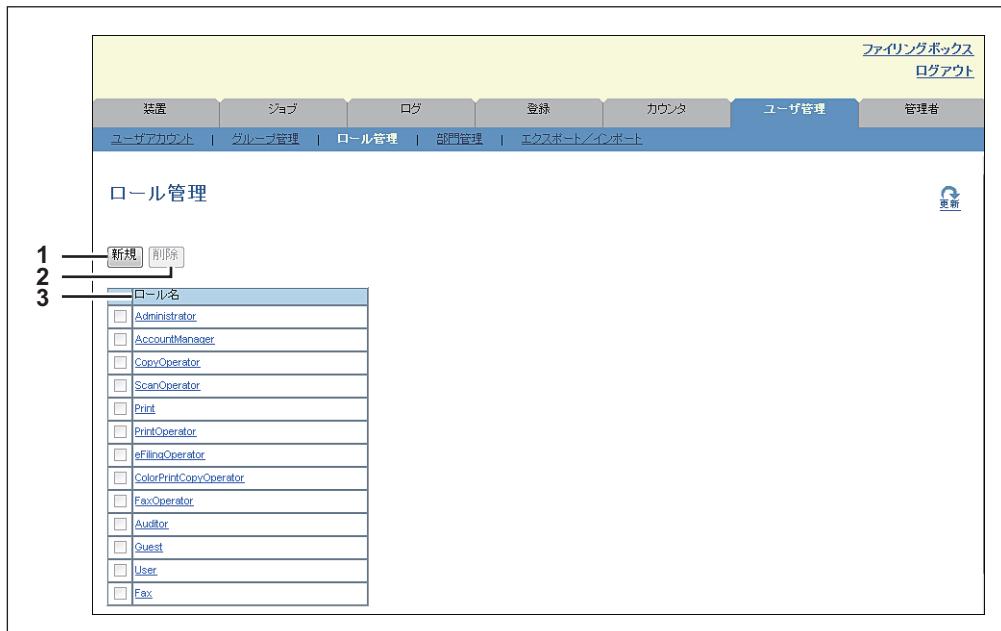
□［グループ情報］画面

グループに登録されているロールを確認することができます。

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	入力/設定した内容でグループ情報を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	グループ情報作成を中止します。
3	グループ名称	グループ名を表示します。
4	ロール割り当て	グループに割り当てるロールを表示します。変更する場合は［編集］ボタンをクリックして表示される画面でロールを選択します。 📖 P.132 「［ロール割り当て］画面」

■ [ロール管理] 項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>

アクセスポリシーモードでログインしている場合、ロールを管理/登録することができます。

📖 P.136 「初期登録ロールと権限」
📖 P.138 「[ロールの新規作成] 画面」
📖 P.140 「[ロール編集] 画面」

	項目名	機能説明
1	[新規] ボタン	新しいロールを登録します。 📖 P.138 「[ロールの新規作成] 画面」
2	[削除] ボタン	ロール一覧で選択しているロールを削除します。 初期登録ロールは削除できません。
3	ロール名	ロール名を表示します。 初期登録ロールについては、以下を参照してください。 📖 P.136 「初期登録ロールと権限」 ロール名をクリックすると、ロール情報を確認することができます。 📖 P.140 「[ロール編集] 画面」

□ 初期登録ロールと権限

初期登録ロールの権限は、下表のとおりです。
下表の「権限項目」列と「権限によって可能な操作（機能）」列は、[ロールの新規作成] 画面の「6 機能一覧」に表示される機能です。

📖 P.138 「[ロールの新規作成] 画面」

初期登録ロール名	権限項目	権限によって可能な操作（機能）
Administrator	スキャン機能 *1	ファイリングボックスに保管
	出力設定 *2	カラー印刷
	ファイリングボックス	ファイリングボックスへのアクセス ファイリングボックスの削除
	デバイス設定	デバイス設定
	ユーザ/部門管理	ユーザ/部門管理
	ログ管理	閲覧 エクスポート
	ジョブ管理	ジョブ操作
AccountManager	ユーザ/部門管理	ユーザ/部門管理
CopyOperator	コピー機能	コピージョブ

初期登録ロール名	権限項目	権限によって可能な操作（機能）
ScanOperator	スキャン機能	共有フォルダへ保存 リモート保存 Ｅメール送信 リモートスキャン/WSスキャン（Pull）
	ローカルファイル保存	ローカル保存 USB保存
	リモート	Ｅメール送信 リモート保存 WS Scan(Push)
Print	印刷機能 *1	印刷ジョブ
PrintOperator	印刷機能 *1	印刷管理
	出力設定 *2	カラー印刷
eFilingOperator	スキャン機能 *1	ファイリングボックスに保管
	ファイリングボックス	ファイリングボックスへのアクセス
ColorPrintCopyOperator	コピー機能	コピージョブ カラーコピー
	印刷機能 *1	印刷ジョブ カラー印刷
	出力設定	カラー印刷
FaxOperator	ファクス/インターネットファクス機能	インターネットファクス送信 ファクス送信 ファクス受信印刷 *3
Auditor	ログ管理 *1	閲覧
Guest	（権限設定なし）	（設定なし）
User	コピー機能	コピージョブ カラーコピー *2 共有フォルダへ保存 リモート保存 ファイリングボックスに保管
	印刷機能 *1	印刷ジョブ カラー印刷 *2 ファイリングボックスに保管
	スキャン機能	共有フォルダへ保存 リモート保存 Ｅメール送信 ファイリングボックスに保管 リモートスキャン/WSスキャン（Pull）
	ファクス/インターネットファクス機能 *1	インターネットファクス送信 ファクス送信 共有フォルダへ保存 リモート保存
	出力設定 *2	カラー印刷
	ローカルファイル保存	ローカル保存 USB保存
	リモート	Ｅメール送信 リモート保存 WS Scan(Push)
	ファイリングボックス	ファイリングボックスへのアクセス
Fax	ファクス/インターネットファクス機能 *1	インターネットファクス送信 ファクス送信

＊1　一部の操作（機能）のみ可能となります。
＊2　カラー印刷に対応した機種のみ可能となります。
＊3　ファクス受信印刷機能については、サービスエンジニアにお問い合わせください。

□ [ロールの新規作成] 画面

新しいロールを登録することができます。

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	入力/設定した内容でロールを保存します。
2	［キャンセル］ボタン	ロール作成を中止します。
3	ロール名	ロール名を入力します。 半角英数字128文字まで入力できます。
4	ベースロール	新しいロールのベースとなるロールを選択します。 ベースとして選択できるロールは、作成済みのロールか初期登録ロールのCopyOperator、ScanOperator、Print、PrintOperator、eFilingOperator、ColorPrintCopyOperator、FaxOperator、Guest、User、Faxから選択します。

	項目名			機能説明
5	MFP機能			ロールに割り当てる権限を選択します。
	コピー機能			コピー機能のすべてを割り当てます。
		コピージョブ		コピージョブを割り当てます。
	印刷機能			印刷機能のすべてを割り当てます。
		印刷ジョブ		印刷ジョブを割り当てます。
			USBダイレクト印刷	USBダイレクト印刷を割り当てます。
		印刷管理		印刷管理を割り当てます。
	EWB機能 *1			EWB機能のすべてを割り当てます。
		EWBへのアクセス		EWBへのアクセスを割り当てます。
	スキャン機能			スキャン機能のすべてを割り当てます。
		リモートスキャン/WSスキャン（Pull）		リモートスキャンまたはWSスキャン（Pull）を割り当てます。
	ファクス/インターネットファクス機能			ファクス/インターネットファクス機能のすべてを割り当てます。
		インターネットファクス送信		インターネットファクス送信を割り当てます。
		ファクス送信		ファクス送信を割り当てます。
		ファクス受信印刷		ファクス／インターネットファクス受信印刷を割り当てます。
	出力設定 *2			出力設定のすべてを割り当てます。
		カラー印刷		カラー印刷を割り当てます。
	ローカルファイル保存			ローカルファイル保存のすべてを割り当てます。
		ローカル保存		ローカル保存を割り当てます。
		USB保存		USB保存を割り当てます。
	リモート			リモートのすべてを割り当てます。
		Ｅメール送信		Ｅメール送信を割り当てます。
		リモート保存		リモート保存を割り当てます。
		WS Scan(Push)		WS Scan(Push)を割り当てます。
	ファイリングボックス			ファイリングボックスのすべてを割り当てます。
		ファイリングボックスへのアクセス		ファイリングボックスへのアクセスを割り当てます。
6	機能一覧			「MFP機能」によって選択される、ロールに割り当てた権限によって可能な操作（機能）の有効/無効を表示します。 「MFP機能」で1つの項目を選択した場合でも、「機能一覧」で複数の機能が操作可能になる場合があります。 例）「MFP機能」の「リモート」で「Eメール送信」にチェックを入れると、「機能一覧」で「スキャン機能」の「Eメール」と「リモート」の「Eメール送信」が有効になります。

＊1　EWB（Embedded Web Browser）機能を使用するには、外部連携オプションが必要です。
＊2　カラー印刷に対応した機種のみ可能となります。

□ [ロール編集] 画面

ロールを確認/編集することができます。
初期登録ロールは編集できません。

<table>
<tr><th></th><th>項目名</th><th>機能説明</th></tr>
<tr><td>1</td><td>[保存] ボタン</td><td>編集した内容でロールを保存します。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>[キャンセル] ボタン</td><td>ロール編集を中止します。</td></tr>
<tr><td>3</td><td>ロール名</td><td>ロール名を変更する場合は入力します。
半角の英数字や「" ' ( ) * + , / : ; < = > ? [¥] ' { | } ~」以外の記号で、最大128文字まで入力できます。</td></tr>
<tr><td>4</td><td>MFP機能</td><td>ロールに割り当てるMFP機能を選択します。割り当てる機能を選択します。
設定項目の詳細は、以下を参照してください。
📖 P.138 「[ロールの新規作成] 画面」</td></tr>
<tr><td>5</td><td>デバイス管理</td><td>初期登録ロールに割り当てられているデバイス管理の権限を表示します。(初期登録ロールのみ)
📖 P.136 「初期登録ロールと権限」</td></tr>
<tr><td>6</td><td>機能一覧</td><td>ロールに割り当てた内容を機能別で表示します。
設定項目の詳細は、以下を参照してください。
📖 P.138 「[ロールの新規作成] 画面」</td></tr>
</table>

■［部門管理］項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>

アクセスポリシーモードでログインしている場合、部門管理を登録することができます。

📖 P.142 「［部門管理情報］画面」
📖 P.143 「［部門管理情報］（編集）画面」

	項目名	機能説明
1	［新規］ボタン	新しい部門を登録します。 📖 P.142 「［部門管理情報］画面」
2	［全部門のカウンタリセット］ボタン	全部門のカウンタをリセットします。
3	［全割当初期化］ボタン	全部門の割当を初期化します。
4	［全部門削除］ボタン	登録されている部門を削除します。
5	番号	部門の登録番号を表示します。
6	部門名称	部門名を表示します。 部門名をクリックすると、部門管理情報を確認することができます。 📖 P.143 「［部門管理情報］（編集）画面」
7	部門コード	部門コードを表示します。
8	トータルプリント	部門のトータルプリント枚数を表示します。
9	トータルスキャン	部門のトータルスキャン枚数を表示します。
10	ファクス送信	部門のトータルファクス送信枚数を表示します。
11	ファクス受信	部門のトータルファクス受信枚数を表示します。

□［部門管理情報］画面

新しい部門を登録することができます。

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	入力/設定した内容で部門情報を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	部門情報の作成を中止します。
3	部門名称	部門名を入力します。 半角文字で40文字、全角文字で20文字まで入力できます。
4	部門コード	部門コードを入力します。 半角数字63文字まで入力できます。
5	カラー割当設定	• **OFF**：カラー出力制限を行いません。 • **ON**：カラー出力制限を行います。
	カラー割当	カラー出力できる残数が表示されます。［カラー割当初期値］に入力した値が、カラー出力するごとに減算され、0になると出力が制限されます。残数は、手動で任意の値に変更することができます。
	カラー割当初期値	部門に割り当てる初期値を入力します。99,999,999まで入力できます。
6	ブラック割当設定	• **OFF**：モノクロ出力制限を行いません。 • **ON**：モノクロ出力制限を行います。
	ブラック割当	モノクロ出力できる残数が表示されます。［ブラック割当初期値］に入力した値が、モノクロ出力するごとに減算され、0になると出力が制限されます。残数は、手動で任意の値に変更することができます。
	ブラック割当初期値	部門に割り当てる初期値を入力します。99,999,999まで入力できます。

□ ［部門管理情報］（編集）画面

部門管理情報を確認/編集することができます。

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	入力/設定した内容で部門情報を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	部門情報の作成を中止します。
3	［カウンタリセット］ボタン	カウンタをリセットします。
4	［削除］ボタン	表示している部門を削除します。
5	部門番号	部門の登録番号を表示します。
6	部門名称	部門名を変更する場合は入力します。 半角文字で40文字、全角文字で20文字まで入力できます。
7	部門コード	部門コードを変更する場合は入力します。 半角数字63文字まで入力できます。
8	カラー割当設定	• **OFF**：カラー出力制限を行いません。 • **ON**：カラー出力制限を行います。
	カラー割当	カラー出力できる残数が表示されます。［カラー割当初期値］に入力した値が、カラー出力するごとに減算され、0になると出力が制限されます。
	カラー割当初期値	部門に割り当てる初期値を入力します。99,999,999まで入力できます。

	項目名		機能説明
9	ブラック割当設定		• **OFF**：モノクロ出力制限を行いません。 • **ON**：モノクロ出力制限を行います。
		ブラック割当	モノクロ出力できる残数が表示されます。［ブラック割当初期値］に入力した値が、モノクロ出力するごとに減算され、0になると出力が制限されます。
		ブラック割当初期値	部門に割り当てる初期値を入力します。99,999,999まで入力できます。
10	トータルカウンタ		トータルカウンタを表示します。
11	コピー		コピー操作で印刷された枚数を表示します。
12	ファクス		ファクス受信で印刷した枚数を表示します。
13	プリンタ		印刷操作およびEメール受信（インターネットファクス受信）で印刷された枚数を表示します。
14	リスト		システムページ印刷で印刷された枚数を表示します。
15	スキャンカウンタ		スキャン操作でスキャンした原稿枚数を表示します。
16	ファクス通信カウンタ		通信記録を表示します。
17	印刷枚数カウンタ		機能別の印刷用紙枚数を表示します。 お使いの機器で設定されている用紙サイズに応じてスモールサイズとラージサイズに分類して表示します。

■ [エクスポート／インポート] 項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>

アクセスポリシーモードでログインしている場合、お使いの機器の設定をエクスポート／インポートすることができます。

📖 P.145 「エクスポート」
📖 P.147 「インポート」

□ エクスポート

注 意

エクスポートしたユーザ情報については、ユーザ情報に不正にアクセスされたり、ユーザ情報が改ざんされないようにデータを管理してください。

	項目名	機能説明
1	ユーザ情報(スモール/ラージカウンタ)	ユーザ情報（スモール/ラージカウンタ）のエクスポート用のファイルを作成します。 ［新規作成］ボタンをクリックするとファイルを作成します。 すでにファイルを作成してある場合は、ファイル名、ファイルサイズ、作成日が表示されます。 ファイルをエクスポートする場合は、ファイル名をクリックして表示されるダイアログに従ってください。
2	ユーザ情報	ユーザ情報のエクスポート用のファイルを作成します。 ［新規作成］ボタンをクリックするとファイルを作成します。 すでにファイルを作成してある場合は、ファイル名、ファイルサイズ、作成日が表示されます。 ファイルをエクスポートする場合は、ファイル名をクリックして表示されるダイアログに従ってください。
3	ユーザ情報(全カウンタ)	ユーザ情報（全カウンタ）のエクスポート用のファイルを作成します。 ［新規作成］ボタンをクリックするとファイルを作成します。 すでにファイルを作成してある場合は、ファイル名、ファイルサイズ、作成日が表示されます。 ファイルをエクスポートする場合は、ファイル名をクリックして表示されるダイアログに従ってください。
4	複合(ユーザ情報＋ロール＋グループ)	複合（ユーザ情報＋ロール＋グループ）のエクスポート用のファイルを作成します。 ［新規作成］ボタンをクリックするとファイルを作成します。 すでにファイルを作成してある場合は、ファイル名、ファイルサイズ、作成日が表示されます。 ファイルをエクスポートする場合は、ファイル名をクリックして表示されるダイアログに従ってください。
5	複合(全カウンタ＋ロール＋グループ)	複合（全カウンタ＋ロール＋グループ）のエクスポート用のファイルを作成します。 ［新規作成］ボタンをクリックするとファイルを作成します。 すでにファイルを作成してある場合は、ファイル名、ファイルサイズ、作成日が表示されます。 ファイルをエクスポートする場合は、ファイル名をクリックして表示されるダイアログに従ってください。
6	LDAPロール	LDAP ロールのエクスポート用のファイルを作成します。ロール情報設定ファイルをインポートしている場合は、インポートしたファイルが作成されます。 ［新規作成］ボタンをクリックするとファイルを作成します。 すでにファイルを作成してある場合は、ファイル名、ファイルサイズ、作成日が表示されます。 ファイルをエクスポートする場合は、ファイル名をクリックして表示されるダイアログに従ってください。 P.389 「外部認証の属性をMFPのロールとして使う」
7	部門情報(スモール/ラージカウンタ)	部門情報（スモール/ラージカウンタ）のエクスポート用のファイルを作成します。 ［新規作成］ボタンをクリックするとファイルを作成します。 すでにファイルを作成してある場合は、ファイル名、ファイルサイズ、作成日が表示されます。 ファイルをエクスポートする場合は、ファイル名をクリックして表示されるダイアログに従ってください。
8	部門情報	部門情報のエクスポート用のファイルを作成します。 ［新規作成］ボタンをクリックするとファイルを作成します。 すでにファイルを作成してある場合は、ファイル名、ファイルサイズ、作成日が表示されます。 ファイルをエクスポートする場合は、ファイル名をクリックして表示されるダイアログに従ってください。

	項目名	機能説明
9	部門情報(全カウンタ)	部門情報（全カウンタ）のエクスポート用のファイルを作成します。 [新規作成] ボタンをクリックするとファイルを作成します。 すでにファイルを作成してある場合は、ファイル名、ファイルサイズ、作成日が表示されます。 ファイルをエクスポートする場合は、ファイル名をクリックして表示されるダイアログに従ってください。
	補 足 エクスポートしたファイルは、[インポート] - [部門コード] で“部門コード”と“部門カウンタ”をインポートするファイルとして使用できます。 P.147 「インポート」	

□ インポート

	項目名	機能説明
1	ユーザ情報	ユーザ情報のファイルをインポートします。 [参照] ボタンをクリックしてインポートするファイルを選択し、[開く] をクリックします。 ファイル名を確認して、[インポート] ボタンをクリックします。
2	複合(ユーザ情報＋ロール＋グループ)	複合（ユーザ情報＋ロール＋グループ）のファイルをインポートします。 [参照] ボタンをクリックしてインポートするファイルを選択し、[開く] をクリックします。 ファイル名を確認して、[インポート] ボタンをクリックします。
3	LDAPロール	WindowsドメインLDAP認証およびLDAP認証用のロール情報設定ファイルをインポートするときに使います。 [参照] ボタンをクリックしてインポートするファイルを選択し、[開く] をクリックします。 ファイル名を確認して、[インポート] ボタンをクリックします。
4	部門コード	部門コードのファイルをインポートします。 [参照] ボタンをクリックしてインポートするファイルを選択し、[開く] をクリックします。 インポート方法を [上書き]、[追記]、[追加とカウンタクリア] から選択してから、[インポート] ボタンをクリックします

8

[管理者] タブ

このセクションでは、TopAccessのアクセスポリシーモードから、機器の設定やネットワーク設定、ユーザやグループ管理を行うことができる管理者機能について説明します。

[セットアップ] 項目説明一覧

補 足

[セットアップ] メニューは [管理者] タブから、アクセスポリシーモードで管理権限が設定されているユーザがアクセスできます。
アクセス方法は、以下を参照してください。
📖 P.25 「アクセスポリシーモード」

■ 一般設定

装置情報、節電、日付、時刻やWebの全般的な設定などの一般設定をセットアップすることができます。

補 足

[一般] サブメニューは、[管理者] タブの [セットアップ] メニューからアクセスできます。
アクセス方法、[セットアップ] メニューについては、以下を参照してください。
📖 P.25 「アクセスポリシーモード」
📖 P.150 「[セットアップ] 項目説明一覧」

□ 装置情報

［装置］タブページに表示される装置情報の内容を設定します。

	項目名	機能説明
1	名称	お使いの機器の装置名を表示します。
2	MFPモデル	お使いの機器のモデル名を表示します。
3	シリアル番号	お使いの機器のシリアル番号を表示します。
4	MACアドレス	お使いの機器のMACアドレスを表示します。
5	ローカル共有フォルダとファイリングボックスの容量	お使いの機器のローカル共有フォルダとファイリングボックスの空き容量を表示します。
6	ファクスメモリ容量	お使いの機器のファクス送受信で利用可能な容量を表示します。
7	データクローニング機能	お使いの機器の設定などをほかの機体に移行する場合に有効にします。
8	USBダイレクト印刷	USBダイレクト印刷機能を有効にするか無効にするかを選択します。USBダイレクト印刷は、一部の機種のみ使用できます。
9	設置場所	お使いの機器の設置場所を入力します。この情報は、ユーザがTopAccessを起動したときに開かれる［装置］タブページに表示されます。
10	位置情報	緯度と経度を入力します。緯度、経度の順に入力し、緯度と経度はカンマで区切ってください。また、必要に応じて精度なども入力してください。半角英数字と記号（! $ % & ' ( ) * : + ; [, - =] . ˜）で、64文字まで入力できます。 （入力例）geo:00.00,90.00
11	連絡先	お使いの機器を管理する担当者の名前を入力します。この情報は、ユーザがTopAccessを起動したときに開かれる［装置］タブページに表示されます。
12	サービス電話番号	お使いの機器のサービス担当者の電話番号を入力します。この情報は、ユーザがTopAccessを起動したときに開かれる［装置］タブページに表示されます。
13	管理者メッセージ	ユーザに通知したいお使いの機器に関するメッセージを入力します。この情報は、ユーザがTopAccessを起動したときに開かれる［装置］タブページに表示されます。

□ 機能設定

補 足

オプションの装着状況や設定によっては、変更できない項目があります。詳細については、サービスエンジニアにお問い合わせください。

	項目名	機能説明
1	ローカルHDDへ保存	ローカルHDDへ保存機能を有効にするか無効にするかを選択します。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。
2	ファイリングボックス	ファイリングボックス機能を有効にするか無効にするかを選択します。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。
3	Eメール送信	Eメール送信機能を有効にするか無効にするかを選択します。
4	FTP保存	FTP保存機能を有効にするか無効にするかを選択します。
5	FTPS保存	FTPS保存機能を有効にするか無効にするかを選択します。
6	USBメディアを使用	USBメディアの使用を有効にするか無効にするかを選択します。
7	SMB保存	SMB保存機能を有効にするか無効にするかを選択します。
8	Netware保存	Netware保存機能を有効にするか無効にするかを選択します。
9	インターネットファクス送信	インターネットファクス送信機能を有効にするか無効にするかを選択します。
10	ファクス送信	ファクス送信機能を有効にするか無効にするかを選択します。
11	ネットワークインターネットファクス	ネットワークインターネットファクス機能を有効にするか無効にするかを選択します。
12	ネットワークファクス	ネットワークファクス機能を有効にするか無効にするかを選択します。
13	Web Serviceスキャン	Web Serviceスキャン機能を有効にするか無効にするかを選択します。
14	Twain スキャン	Twain スキャン機能を有効にするか無効にするかを選択します。
15	外部コントローラへのスキャン	外部コントローラへのスキャン機能を有効にするか無効にするかを選択します。

□ ロングファイル名設定

プライベート印刷などで使用するファイル名が長い場合、本機の操作パネルでは、文字数制限で表示できない部分があります。ロングファイル名設定では、ファイル名の表示方法を設定します。

	項目名	機能説明
1	ロングファイル名表示設定	ファイル名の表示方法を選択します。 • **先頭を表示**：ファイル名の先頭から表示し、表示できない部分は「...」で省略します。 • **末尾を表示**：ファイル名の末尾を判断できるように表示します。 • **先頭と末尾を表示**：ファイル名の先頭と末尾が分かるように表示します。 • **表示可能文字数のみを表示**：ファイル名を省略しないで表示します。

□ ファイリングボックス通知情報イベント

ファイリングボックスに保存されたファイルの保存期限を知らせるEメールの送信条件を設定します。

	項目名	機能説明
1	文書削除事前通知	ファイリングボックス内のファイルの保存期限が迫ったことを知らせるEメールを、保存期限の何日前に送信するかを選択します。日数は0（通知しない）または1～99日の範囲で設定することができます。

□ ジョブスキップ設定

	項目名	機能説明
1	ジョブスキップ設定	印刷条件に合わないジョブをスキップする機能を有効にするか無効にするかを選択します。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。

□ 管理者によるアドレス帳操作制限

	項目名	機能説明
1	制限なし	すべてのユーザがアドレス帳の操作を行うことができます。
2	管理者のみ操作可能	アクセスポリシーが管理者として設定されているユーザのみがアドレス帳の操作を行うことができます。

□ 機密化設定

ジョブに表示される文書名をアスタリスク(*)で伏せ字にするか設定します。

	項目名	機能説明
1	文書名	ジョブの文書名をアスタリスク(*)10文字で伏せ字にします。 • **有効**：文書名を伏せ字にして表示します。 • **無効**：文書名を表示します。

□ 節電モード設定

お使いの機器の節電モードの設定を行います。
節電モードの種類や移行手順については、**かんたん操作ガイド**を参照してください。

	項目名	機能説明
1	オートクリア	お使いの機器のアイドル状態が続いた場合に、タッチパネル画面をデフォルト表示に戻すまでの時間を選択します。
	補 足 オートクリアの設定を変更した場合、設定変更後の値が適用されます。また、オートクリアしたことはログに保存されます。	
2	自動節電時間	お使いの機器のアイドル状態が続いた場合に、自動的に低電力モードに移行するまでの時間を選択します。
3	スリープ移行時間	お使いの機器のアイドル状態が続いた場合に、自動的にスリープモードに移行するまでの時間を選択します。
4	スーパースリープ *1	お使いの機器の低電力モードが一定時間経過した場合、または操作パネルの［節電］ボタンを押した場合に、スーパースリープモードに移行するかを設定します。
	注 意 • 本機に無線LANモジュール、e-BRIDGE ID Gateが装着されている場合、またはIPsec機能が有効な場合は、スーパースリープモードを「無効」から変更できません。 • スーパースリープモード中のお使いの機器をネットワーク検索できないなど、ネットワーク接続できない場合は、検索などを再試行してください。 • お使いの機器の動作状態によっては、設定時間どおりに移行しない場合があります。	
5	スリープ移行時間経過後のモード *2	「スリープ移行時間」で設定した時間を過ぎた後、移行するモードを設定します。
6	スリープモード *1	「スリープ移行時間」で設定した時間を過ぎた後、移行するモードを設定します。

＊1　お使いの機種によっては選択できません。
＊2　一部のモノクロ機のみ使用できます。

お使いの機器がスーパースリープモードに移行するには、以下のネットワーク設定を行う必要があります。

- IPv6設定で［ステートレスアドレスを使用する］以外を選択する。
  P.162 「IPv6の設定」
- IPX/SPX設定でIPX/SPX使用を無効に設定する。
  P.163 「IPX/SPXの設定」

- AppleTalk設定でAppleTalk使用を無効に設定する。
  📖 P.164 「AppleTalkの設定」
- POP3設定で次のいずれかの設定になっていること。
  - POP3クライアント使用：無効
  - POP3サーバーアドレス：未入力
  - アカウント名：未入力
  - ポーリングレート：0分
  📖 P.175 「POP3の設定」
- IEEE 802.1X認証を無効にする。
  有線LAN環境におけるIEEE 802.1X認証方法については、**設定管理ガイド**の以下の章を参照してください。
  第2章「設定項目（管理者設定）」－「IEEE 802.1X認証設定」

お使いの機器のスーパースリープモード中のネットワークアクセス設定については、以下のページを参照してください。
📖 P.183 「スーパースリープモードからの復帰設定」

□ 日付と時間

日付、時刻、タイムゾーン、日付表示形式を設定します。

補 足

SNTP機能を有効にすると日付と時間の設定が設定できなくなります。

	項目名	機能説明
1	年/月/日/時刻	年/月の値を各ボックスで選択します。また、日/時刻の値を各ボックスに入力します。
2	タイムゾーン	本機を設置する場所のタイムゾーンを選択します。
3	日付表示形式	日付表示のフォーマットを選択します。

□ SNTP設定

SNTPでは、SNTPサービスを使用して本機の時間設定を同期するかどうかを設定することができます。

	項目名	機能説明
1	SNTP使用	SNTP(Simple Network Time Protocol)を有効にするか無効にするかを選択します。有効にした場合は、SNTPサービスを利用して本機の時間設定を自動的に更新することができます。
	補 足 有効にすると［日付と時間の設定］が設定できなくなります。	
2	プライマリSNTPアドレス	［SNTP使用］を有効にした場合に、プライマリSNTPサーバーアドレスのIPアドレスまたはFQDNを入力します。

	項目名	機能説明
3	セカンダリSNTPアドレス	［SNTP使用］を有効にした場合に、必要に応じてセカンダリSNTPサーバーアドレスのIPアドレスまたはFQDNを入力します。
	補 足 TCP/IPの設定で［SNTPサーバアドレス取得］オプションを有効にした場合は、DHCPサーバーからSNTPサーバーアドレスを取得することができます。 P.158 「TCP/IPの設定」	
4	ポーリングレート	お使いの機器が時間を確認するために、どのくらいの間隔でSNTPサーバーにアクセスするか指定します。
5	ポート番号	SNTPで使用するポート番号を入力します。通常、「123」を使用します。
6	NTP認証	NTP認証を有効にするか無効にするかを選択します。

□ サマータイム設定

サマータイムへの切り替えに必要な設定をここで行います。

	項目名	機能説明
1	サマータイム	サマータイムへの切り替えを行う場合には［有効］を選択します。初期値は［無効］です。
2	標準時間との差	現地標準時間からの時間差を選択します。0時間を除く-2時間から+2時間までを、30分単位で選択できます。初期値は+1時間です。
3	日時	サマータイムの適用期間を設定します。 • **開始**:サマータイムの開始日時を選択または入力します。 • **終了**:サマータイムの終了日時を選択または入力します。

補 足

- サマータイムの適用期間中に設定を変更すると、変更内容がそのまま本機の時刻に反映されます。適用期間中に設定を［無効］にした場合は、表示されている時刻が現在の時刻になるため、時刻が正しいか、確認してください。SNTP設定が有効の場合、SNTPサーバーに同期すると、正しい時刻に設定されます。
  P.155 「日付と時間」
- 設定した切り替え日時に本機の電源が入っていない場合、次回起動時に切り替えを行います。
- 切り替え後はウィークリータイマーにもサマータイムが適用されます。

注 意

- 切り替え日時の［開始］と［終了］は、本機に設定された時間を基準に設定してください。
  P.155 「日付と時間」
- 切り替え日時の［開始］と［終了］が同月に設定された場合は、自動切り替えを行いません。

□ WEB設定

TopAccessのセッション確保時間を設定します。

	項目名	機能説明
1	セッション確保時間	TopAccessのセッションデータを保持する時間を入力します。5から999の範囲を整数で入力します。この設定は、ファイリングボックスWebユーティリティのセッションデータを保持する時間としても適用されます。初期値は10分です。

補 足

- アクセスポリシーモードでログインしている場合、操作を行わずにセッション確保時間が経過すると、自動的にログアウトします。
- セッション確保時間の設定を変更した場合、ログイン中のユーザがTopAccessを操作すると、セッション確保時間は設定変更後の値が適用されます。また、自動的にログアウトしたことはログに保存されます。

□ メニュー設定

ユーザ認証有効時の、操作パネルの［メニュー］初期画面を設定します。

	項目名	機能説明
1	メニュー画面初期表示設定	［メニュー］初期画面として、ユーザメニューを表示させるか、共有メニューを表示させるかを選択します。 • ユーザ：ユーザメニューを表示させます。 • 共有　：共有メニューを表示させます。

■ ネットワーク設定

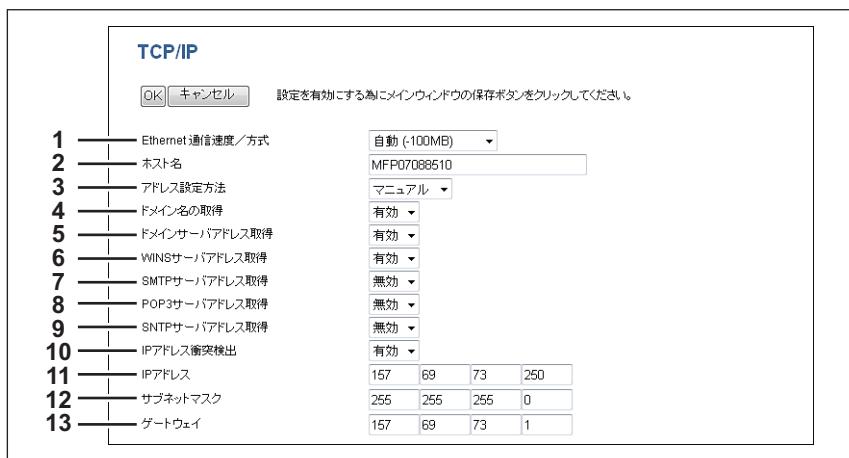
TCP/IP、フィルタリング、IPX/SPX、AppleTalk、Bonjour、LDAP、DNS、DDNS、SMB、NetWare、HTTP、SMTPクライアント、SMTPサーバー、POP3、SNTP設定、FTPクライアント、FTPサーバー、SNMP、セキュリティ設定などのネットワーク設定をセットアップすることができます。

補 足

[ネットワーク] サブメニューは、[管理者] タブの [セットアップ] メニューからアクセスできます。
アクセス方法、[セットアップ] メニューについては、以下を参照してください。
P.25 「アクセスポリシーモード」
P.150 「[セットアップ] 項目説明一覧」

P.158 「TCP/IPの設定」
P.161 「フィルタリングの設定」
P.162 「IPv6の設定」
P.163 「IPX/SPXの設定」
P.164 「AppleTalkの設定」
P.164 「Bonjourの設定」
P.165 「LDAPの設定」
P.165 「DNSの設定」
P.166 「DDNSの設定」
P.168 「SMBの設定」
P.171 「NetWareの設定」
P.171 「HTTPの設定」
P.172 「SMTPクライアントの設定」
P.174 「SMTPサーバーの設定」
P.175 「POP3の設定」
P.176 「FTPクライアントの設定」
P.177 「FTPサーバーの設定」
P.178 「SLPの設定」
P.179 「SNMPの設定」
P.182 「Web Service設定」
P.183 「LLTDの設定」
P.183 「スーパースリープモードからの復帰設定」
P.186 「IPセキュリティの設定」

□ TCP/IPの設定

TCP/IPを介した通信を有効にするには、TCP/IPプロトコルを設定します。TopAccess、SMB印刷、Raw TCPまたはLPR印刷、IPP印刷、Eメール送信、インターネットファクスの各機能を使用するには、TCP/IPを設定する必要があります。

	項目名	機能説明
1	Ethernet通信速度／方式	Ethernet通信速度を選択します。初期値は［自動 (-100MB)］または［自動］に設定されています。
	注 意 • 特定のEthernet速度を選択する場合は、接続しているネットワークの速度と同じ設定にする必要があります。Ethernetの設定が分からない場合は、[自動 (-100MB)] または [自動] を選択してください。 • 設定を行ってもネットワークの接続が不安定な場合は、本機の電源を一度オフにした後、再度オンにしてください。	

<table>
<tr><th></th><th>項目名</th><th>機能説明</th></tr>
<tr><td>2</td><td>ホスト名</td><td>お使いの機器のホスト名を入力します。半角の英数字、「-」を含め、63文字まで入力できます。
先頭の文字と最後の文字には「-」は使用できません。初期値はMFP名称に設定されています。</td></tr>
<tr><td>3</td><td>アドレス設定方法</td><td>IPアドレスの設定方法を選択します。
• マニュアル：固定の IP アドレスを手動で設定します。このオプションを選択したときは、［IPアドレス］ボックスにIPアドレスを入力します。
• <u>自動</u>：AutoIP機能またはDHCPを使って、IPアドレスを自動で割り付けます。ネットワークがDHCPをサポートしている場合は、IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、プライマリWINSサーバーアドレス、セカンダリWINSサーバーアドレス、POP3サーバーアドレス、SMTPサーバーアドレスを自動的にDHCPサーバーから取得することができます。ネットワークがDHCPをサポートしていない場合は、AutoIP機能を使用してIPアドレスを割り付けます。
• 自動IPなし：AutoIP機能を使用せずDHCPのみを使ってIPアドレスを自動で割り付けます。ネットワークがDHCPをサポートしている場合はIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、プライマリWINSサーバーアドレス、セカンダリWINSサーバーアドレス、POP3サーバーアドレス、SMTPサーバーアドレスを自動的にDHCPサーバーから取得することができます。DHCPサーバーと通信できない場合は、前回使用したIPアドレスをそのまま使用します。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">4</td><td>ドメイン名の取得</td><td>ドメイン名をDHCPサーバーから自動的に取得する場合は、［有効］に設定します。この設定は［アドレス設定方法］オプションで［自動IPなし］または［自動］が設定されている場合のみ適用されます。初期値は［有効］に設定されています。</td></tr>
<tr><td colspan="2">注 意
DHCPサーバーがドメイン名のデータを持っていない場合は、DDNS設定のドメイン名に手動で正しい値を設定しても、反映されず値が空欄になります。その場合は、この設定を［無効］に設定し、DDNS設定で正しいドメイン名を入力してください。
P.166 「DDNSの設定」</td></tr>
<tr><td rowspan="2">5</td><td>ドメインサーバアドレス取得</td><td>ドメインサーバーアドレスをDHCPサーバーから自動的に取得する場合は、［有効］に設定します。この設定は［アドレス設定方法］オプションで［自動IPなし］または［自動］が設定されている場合のみ適用されます。初期値は［有効］に設定されています。</td></tr>
<tr><td colspan="2">注 意
DHCPサーバーがプライマリおよびセカンダリDNSサーバーアドレスのデータを持っていない場合は、DNS設定のプライマリおよびセカンダリDNSサーバーアドレスに手動で正しい値を設定しても、反映されず値が空欄になります。その場合は、この設定を［無効］に設定し、DNS設定で正しいプライマリおよびセカンダリDNSサーバーアドレスを入力してください。
P.165 「DNSの設定」</td></tr>
<tr><td rowspan="2">6</td><td>WINSサーバアドレス取得</td><td>WINSサーバーアドレスをDHCPサーバーから自動的に取得する場合は、［有効］に設定します。この設定は［アドレス設定方法］オプションで［自動IPなし］または［自動］が設定されている場合のみ適用されます。初期値は［有効］に設定されています。</td></tr>
<tr><td colspan="2">注 意
DHCPサーバーがプライマリおよびセカンダリWINSサーバーアドレスのデータを持っていない場合は、SMB設定のプライマリおよびセカンダリWINSサーバーアドレスに手動で正しい値を設定しても、反映されず値が空欄になります。その場合は、この設定を［無効］に設定し、SMB設定で正しいプライマリおよびセカンダリWINSサーバーアドレスを入力してください。
P.168 「SMBの設定」</td></tr>
<tr><td rowspan="2">7</td><td>SMTPサーバアドレス取得</td><td>SMTPサーバーアドレスをDHCPサーバーから自動的に取得する場合は、［有効］に設定します。この設定は［アドレス設定方法］オプションで［自動IPなし］または［自動］が設定されている場合のみ適用されます。初期値は［無効］に設定されています。</td></tr>
<tr><td colspan="2">注 意
DHCPサーバーがSMTPサーバーアドレスのデータを持っていない場合は、SMTPクライアント設定のSMTPサーバーアドレスに手動で正しい値を設定しても、反映されず値が空欄になります。その場合は、この設定を［無効］に設定し、SMTPクライアント設定で正しいSMTPサーバーアドレスを入力してください。
P.172 「SMTPクライアントの設定」</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th></th><th>項目名</th><th>機能説明</th></tr>
<tr><td rowspan="2">8</td><td>POP3サーバアドレス取得</td><td>POP3サーバーアドレスをDHCPサーバーから自動的に取得する場合は、［有効］に設定します。この設定は［アドレス設定方法］オプションで［自動IPなし］または［自動］が設定されている場合のみ適用されます。初期値は［無効］に設定されています。</td></tr>
<tr><td colspan="2">注 意
DHCPサーバーがPOP3サーバーアドレスのデータを持っていない場合は、POP3設定のPOP3サーバーアドレスに手動で正しい値を設定しても、反映されず値が空欄になります。その場合は、この設定を［無効］に設定し、POP3設定で正しいPOP3サーバーアドレスを入力してください。
P.175 「POP3の設定」</td></tr>
<tr><td rowspan="2">9</td><td>SNTPサーバアドレス取得</td><td>SNTPサーバーアドレスをDHCPサーバーから自動的に取得する場合は、［有効］に設定します。この設定は［アドレス設定方法］オプションで［自動IPなし］または［自動］が設定されている場合のみ適用されます。初期値は［無効］に設定されています。</td></tr>
<tr><td colspan="2">注 意
DHCPサーバーがSNTPサーバーアドレスのデータを持っていない場合は、SNTP設定のSNTPサーバーアドレスに手動で正しい値を設定しても、反映されず値が空欄になります。その場合は、この設定を［無効］に設定し、SNTP設定で正しいSNTPサーバーアドレスを入力してください。
P.155 「SNTP設定」</td></tr>
<tr><td>10</td><td>IPアドレス衝突検出</td><td>IPアドレスの衝突を検出するかを設定します。［有効］に設定した場合、衝突を検出すると操作パネル上にメッセージが表示されます。初期値は［有効］に設定されています。</td></tr>
<tr><td>11</td><td>IPアドレス</td><td>［アドレス設定方法］ボックスで［マニュアル］を選択したときに、お使いの機器に設定する固定のIPアドレスを入力します。第1オクテットは1～126、128～223、第2～第4オクテットは0～255の設定が可能です。</td></tr>
<tr><td>12</td><td>サブネットマスク</td><td>［アドレス設定方法］ボックスで［マニュアル］を選択したときに、必要に応じてサブネットマスクを入力します。0 0 0 0～255 255 255 255の範囲で設定します。
ただし、0.0.0.0 と 255.255.255.255は設定できません。</td></tr>
<tr><td>13</td><td>ゲートウェイ</td><td>［アドレス設定方法］ボックスで［マニュアル］を選択したときに、必要に応じてゲートウェイアドレスを入力します。0 0 0 0～255 255 255 255の範囲で設定します。</td></tr>
</table>

□ フィルタリングの設定

本機へアクセスするクライアントを制限したい場合は、フィルタリングを設定します。フィルタリングの設定は、IPアドレスまたはMACアドレスで指定することができます。

注 意

IPアドレスのフィルタリング設定よりもMACアドレスのフィルタリング設定の方が、より優先的に使用されます。

	項目名	機能説明
1	IPフィルタリング使用	IPアドレスでフィルタリングをする場合、［有効］に設定します。この設定を［有効］にすると、［IPフィルタリングルール］で選択した条件で、［IPフィルタリング］で指定したIPアドレスが設定されたネットワーク上の機器からのアクセスを制限します。初期値は［無効］に設定されています。
	注 意 IPフィルタリングは、IPv4で構築されたネットワーク環境でのみ有効となります。IPv6のネットワーク環境では使用できません。IPv6の環境でフィルタリングをしたい場合は、MACアドレスでフィルタリングしてください。	
2	IPフィルタリングルール	IPフィルタリングの条件を設定します。 • **許可**：［IPフィルタリング］で指定したIPアドレスが設定されたネットワーク上の機器からのアクセスを、許可します。 • **拒否**：指定したIPアドレスが設定された機器からのアクセスを拒否します。
3	IPフィルタリング	IPフィルタリングするクライアントの開始IPアドレスと終了IPアドレスを入力します。最大10個の範囲を指定することができます。
	注 意 IPアドレスは、IPv4のアドレスのみ指定できます。IPv6のアドレスは指定できません。	
4	MACアドレス フィルタリング使用	MACアドレスでフィルタリングをする場合、［有効］に設定します。この設定を［有効］にすると、［MACアドレス フィルタリングルール］で選択した条件で、［MACアドレス フィルタリング］で指定したMACアドレスが割り当てられたネットワーク上の機器からのアクセスを制限します。初期値は［無効］に設定されています。

	項目名	機能説明
5	MACアドレス フィルタリング ルール	MACアドレスフィルタリングの条件を設定します。 • **許可**：［MACアドレス　フィルタリング］で指定したMACアドレスが割り当てられたネットワーク上の機器からのアクセスを許可します。 • **拒否**：指定したMACアドレスが割り当てられた機器からのアクセスを拒否します。
6	MACアドレス フィルタリング	MACアドレスフィルタリングするクライアントのMACアドレスを入力します。最大10個のアドレスを指定することができます。

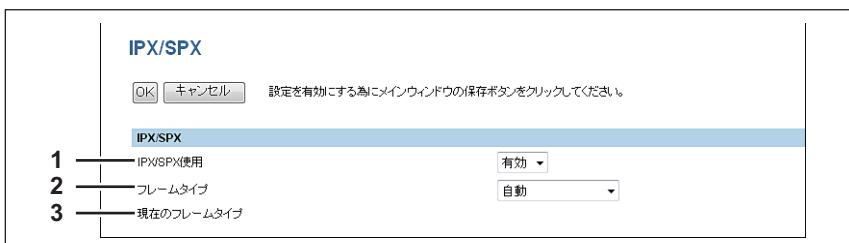
□ IPv6の設定

IPv6を介した通信を有効にするには、IPv6プロトコルを設定します。

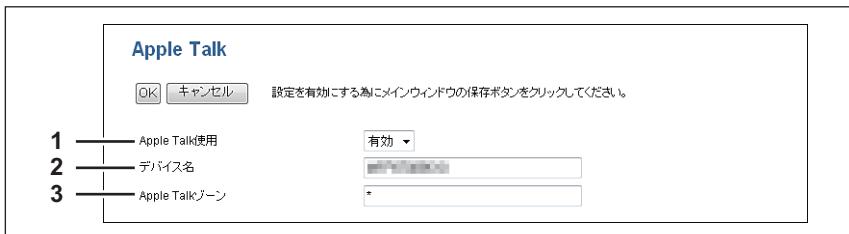
	項目名	機能説明
1	IPv6使用	IPv6プロトコルの有効／無効を選択します。初期値は［無効］に設定されています。
2	LLMNR	IPv6使用を有効にし、LLMNRの有効/無効を選択します。初期値は［無効］に設定されています。
3	リンクローカルアドレス	自動的に生成されたIPv6用の固有なIPアドレスを表示します。
4	手動	IPv6アドレスを手動で設定します。設定できるIPv6アドレスは1個です。 **IPアドレス**：本機のIPアドレスを入力します。 1:0:0:0:0:0:0:0～ffff :ffff :ffff :ffff :ffff :ffff :ffff :ffff の範囲で設定します。 **プレフィックス長**：IPv6のプレフィックス長を入力します。0～128の範囲で設定します。初期値は「0」に設定されています。 **ゲートウェイ**：デフォルトゲートウェイのアドレスを入力します。 1:0:0:0:0:0:0:0～ffff :ffff :ffff :ffff :ffff :ffff :ffff :ffff の範囲で設定します。 **設定の取得にDHCPv6を使用する**：DHCPv6サーバーから通知されるDNSサーバーのIPv6アドレスなどのオプション情報を使用します。
	補 足 • マニュアルを選択した場合、ステートフルアドレスは設定できません。 • IPv6アドレスが重複した場合は、DAD（Duplicate Address Detection）機能にて検知し、本機のタッチパネルに通知します。	

	項目名	機能説明
5	ステートレスアドレスを使用する	ルーターから通知されるIPv6アドレス（ステートレスアドレス）を自動で取得します。 • **IPアドレス取得にDHCPv6を使用する（M flag）**：ステートレスのネットワーク環境で、IPv6サーバーから通知されるIPv6アドレスを取得します。 • **設定の取得にDHCPv6を使用する（O flag）**：ステートレスのネットワーク環境で、DHCPv6サーバーから通知されるDNSサーバーのIPv6アドレスなどのオプション情報を使用します。 • **FQDNオプション**：IPアドレス取得にDHCPv6を使用するを選択した場合、FQDNオプションを選択できます。FQDNオプションを選択した場合、アップデート方法を［サーバ］または［クライアント］から選択します。初期値は［サーバ］に設定されています。 • **IPアドレス**：ステートレスアドレスを表示します。最大7個までのIPv6アドレスを保持することができます。
	補 足 本機がMフラグに“0”が設定されているRA（Router Advertisement）をルーターから受信した場合は、DHCPv6機能は動作しません。ルーターの設定でRAのMフラグの設定を“1”に変更した場合は、DHCPv6機能を動作させるために本機の電源を一度オフにした後、再度オンにしてください。	
6	ステートフルアドレスを使用する	DHCPv6サーバーから通知されるIPv6アドレス（ステートフルアドレス）を自動で取得します。 • **IPアドレス取得にDHCPv6を使用する**：DHCPv6サーバーから通知されるIPv6アドレスを使用します。 • **設定の取得にDHCPv6を使用する**：DHCPv6サーバーから通知されるIPv6アドレス以外のDNSサーバーのIPv6アドレスなどのオプション情報を使用します。 • **FQDNオプション**：IPアドレス取得にDHCPv6を使用するを選択した場合、FQDNオプションを選択できます。FQDNオプションを選択した場合、アップデート方法を［サーバ］または［クライアント］から選択します。初期値は［サーバ］に設定されています。 • **IPアドレス**：取得したステートフルアドレス、プレフィックス長、ゲートウェイを表示します。

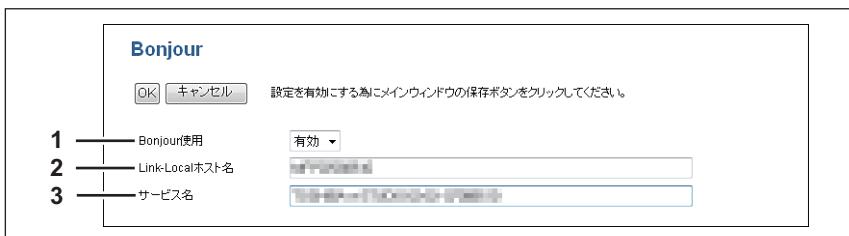
□ IPX/SPXの設定

IPX/SPXを介した通信を有効にするには、IPX/SPXプロトコルを設定します。NetWare 5.1/6.0/6.5サーバーを使いIPX/SPXを介してNovell印刷機能を使用するには、IPX/SPXを設定する必要があります。

	項目名	機能説明
1	IPX/SPX使用	IPX/SPXプロトコルの有効／無効を選択します。IPX/SPXネットワークでNovell印刷をセットアップするには、有効を選択してください。 初期値は［無効］に設定されています。
2	フレームタイプ	目的のフレームタイプを選択します。 • **自動**：本機が最初に検出した、適切なフレームタイプを使用します。 • **IEEE 802.3/Ethernet II/IEEE 802.3 Snap/IEEE802.2**：［自動］の代わりに、これらのオプションから使用するフレームタイプを選択することもできます。
3	現在のフレームタイプ	本機の実際のフレームタイプを表示します。

□ AppleTalkの設定

AppleTalkを介した通信を有効にするには、AppleTalkプロトコルを設定します。Macintoshコンピュータから AppleTalk印刷機能を使用するには、AppleTalkを設定する必要があります。

	項目名	機能説明
1	AppleTalk使用	AppleTalkプロトコルの有効／無効を選択します。AppleTalk印刷をセットアップするには、有効を選択してください。初期値は［無効］に設定されています。
2	デバイス名	AppleTalkネットワークに表示される本機の装置名を入力します。半角英数字と記号（=；# ￥を除く）で32文字まで入力できます。
3	AppleTalkゾーン	必要に応じて本機が接続するゾーン名を入力します。半角英数字と記号（=；# ￥を除く）で32文字まで入力できます。「*」を入力すると、デフォルトゾーンに接続します。

□ Bonjourの設定

Mac OS XのBonjourネットワークの有効／無効を設定します。

	項目名	機能説明
1	Bonjour使用	Bonjourの有効／無効を選択します。初期値は［有効］に設定されています。
2	Link-Localホスト名	本機のDNS名を入力します。半角英数字と記号（=；# ￥を除く）で127文字まで入力できます。
3	サービス名	Bonjourネットワークに表示される本機の名称を入力します。半角英数字と記号（=；# ￥を除く）で63文字まで入力できます。

□ LDAPの設定

LDAPサーバーのアドレス帳を利用して宛先の検索や指定をしたい場合に、LDAPディレクトリサービスの有効／無効を設定します。

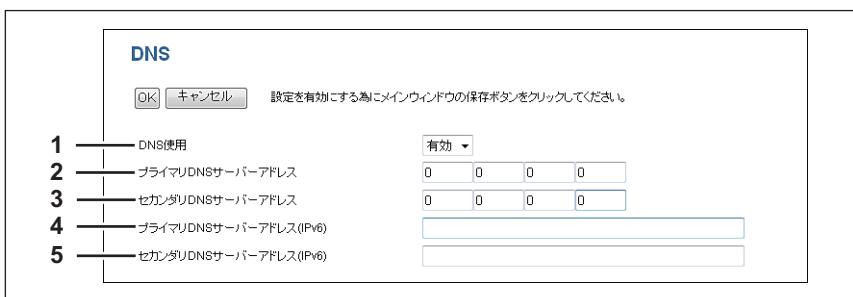
	項目名	機能説明
1	LDAP使用	LDAPの有効／無効を選択します。初期値は［有効］に設定されています。
2	付加情報1	LDAPサーバーの設定に対応するスキーマ名を入力します。半角英数字と記号（=；# ￥を除く）で32文字まで入力できます。
3	付加情報2	LDAPサーバーの設定に対応するスキーマ名を入力します。半角英数字と記号（=；# ￥を除く）で32文字まで入力できます。
4	検索方法	LDAP検索時の検索方法を選択します。 • **部分一致**：検索条件と部分的に一致する情報を検索します。 • **前方一致**：検索条件と一致する内容で始まる情報を検索します。 • **後方一致**：検索条件と一致する内容で終わる情報を検索します。 • **完全一致**：検索条件と完全に一致する情報を検索します。

□ DNSの設定

DNSを使用してSMTPサーバー、POP3サーバー、およびLDAPサーバーの指定にFQDNを設定したい場合に、DNSサーバーを有効にします。

補 足

DNSサービスが有効であり、DNSサーバーがダイナミックDNSサービスをサポートしている場合は、同時にDDNSセッションも設定してください。

P.166 「DDNSの設定」

	項目名	機能説明
1	DNS使用	DNSサーバーの有効／無効を選択します。初期値は［有効］に設定されています。
2	プライマリDNSサーバーアドレス	DNSサービスが有効な場合に、プライマリDNSサーバーのIPアドレスを指定します。0 0 0 0～255 255 255 255の範囲で設定します。
3	セカンダリDNSサーバーアドレス	DNSサービスが有効な場合に、必要に応じてセカンダリDNSサーバーのIPアドレスを指定します。0 0 0 0～255 255 255 255の範囲で設定します。
4	プライマリDNSサーバーアドレス（IPv6）	IPv6でDNSサービスが有効な場合に、プライマリDNSサーバーのIPアドレスを指定します。1:0:0:0:0:0:0:0～ffff :ffff :ffff :ffff :ffff :ffff :ffff :ffff の範囲で設定します。
5	セカンダリDNSサーバーアドレス（IPv6）	IPv6でDNSサービスが有効な場合に、必要に応じてセカンダリDNSサーバーのIPアドレスを指定します。1:0:0:0:0:0:0:0～ffff :ffff :ffff :ffff :ffff :ffff :ffff :ffff の範囲で設定します。

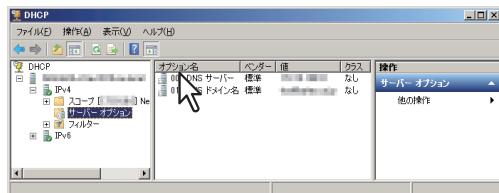
補 足

TCP/IPの設定で［ドメインサーバアドレス取得］オプションを有効にした場合は、DHCPサーバーからプライマリDNSサーバーアドレスとセカンダリDNSサーバーアドレスを取得し、適切なIPアドレスが自動的に入力されます。
📖 P.158 「TCP/IPの設定」

□ DDNSの設定

DDNSでは、DNSサーバーがダイナミックDNSをサポートしている場合に、ダイナミックDNSサービスを有効にすることができます。

注 意

- 本機においてDDNSでセキュリティを使用する場合、WindowsのDNSのレコードを更新するサーバーと本機の時刻の設定がサーバーのアカウントポリシーに記載されている時間以上ずれている場合、セキュリティを使用したDNSの更新に失敗します。DNSサーバーの時刻の確認をして、本機との時刻を合わせてください。
- DDNSを使用している環境で、DHCPを使って本機のIPアドレスを割り当てている場合は、DHCP Server's Scope OptionsまたはServer Optionで「006 DNS Servers」および「015 DNS Domain Name」を有効にします。

- DDNSを有効にする場合は、前方参照ゾーンおよび逆引き参照ゾーンで、「動的更新」オプションが「非セキュリティ保護およびセキュリティ保護」（Windows Server 2003/Windows Server 2008の場合）に設定されていることを確認してください。
  Windows Server 2003/Windows Server 2008の設定が「非セキュリティ保護およびセキュリティ保護」以外に設定されている場合は、DDNSの設定で、プライマリおよびセカンダリの「ログインネーム」、「パスワード」にログイン可能な設定を行ってください。
  DDNSの設定のプライマリおよびセカンダリの「ログインネーム」、「パスワード」を使用して、DNSサーバーのレコードをアップデートしたくない場合には、本機のホスト名を前方参照ゾーンおよび逆引き参照ゾーンに追加してください。

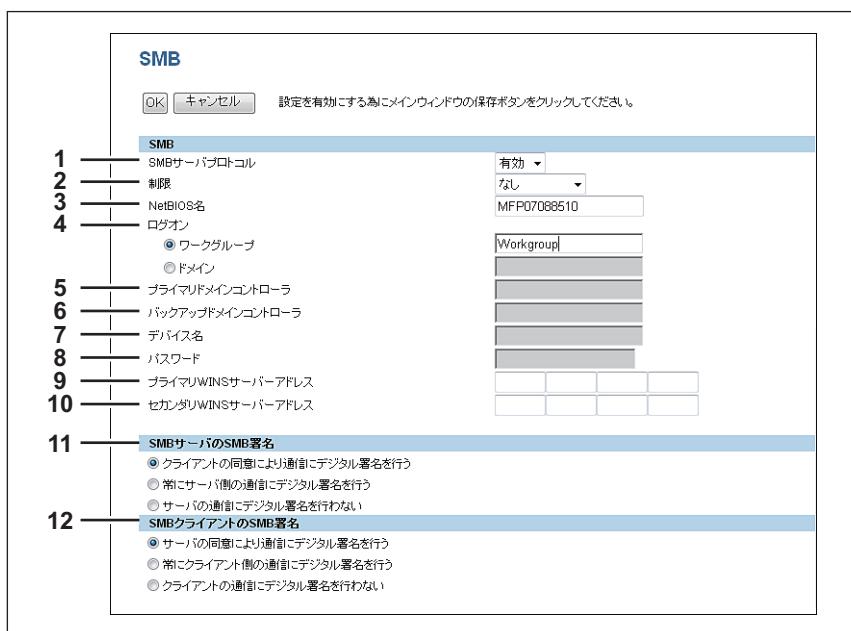
前方参照ゾーン
（Windows 2008 Server）

逆引き参照ゾーン
（Windows 2008 Server）

<table>
<tr><th></th><th>項目名</th><th>機能説明</th></tr>
<tr><td>1</td><td>DDNS使用</td><td>ダイナミックDNSサービスの有効／無効を選択します。初期値は［有効］に設定されています。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>ドメイン名</td><td>ダイナミックDNSサービスを使用してDNSサーバーに登録する本機のドメイン名を入力します。半角英数字と記号（＝；＃ ￥を除く）で96文字まで入力できます。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">補 足
TCP/IPの設定で［ドメイン名の取得］オプションを有効にした場合は、DHCPサーバーからドメイン名を取得することができます。
P.158 「TCP/IPの設定」</td></tr>
<tr><td>3</td><td>セキュリティ方式</td><td>セキュリティ方式を選択します。
• <u>なし</u>
非セキュアな状態でDDNSアップデートを行います。
• GSS-TSIG
GSS-TSIGを使用してセキュアなDDNSを行います。ログインネームとパスワードが設定可能です。ログインネームとパスワードが設定されていない場合は、セキュアなDDNSは行われません。
• TSIG
TSIGを使用してセキュアなDDNSを行います。キーファイルとプライベートキーファイルをアップロードする必要があります。2つのファイルがアップロードされていない場合は、セキュリティ設定が行われません。
• SIG(0)
SIG(0)を使用してセキュアなDDNSを行います。キーファイルとプライベートキーファイルをアップロードする必要があります。2つのファイルがアップロードされていない場合は、セキュリティ設定が行われません。</td></tr>
<tr><td>4</td><td>プライマリログインネーム</td><td>セキュリティ方式でGSS-TSIGを選択した場合は、プライマリログインネームを指定します。半角英数字と記号（＝；＃ ￥を除く）で128文字まで入力できます。</td></tr>
<tr><td>5</td><td>プライマリパスワード</td><td>セキュリティ方式でGSS-TSIGを選択した場合は、プライマリパスワードを指定します。半角英数字と記号（＝；＃ ￥を除く）で128文字まで入力できます。</td></tr>
<tr><td>6</td><td>セカンダリログインネーム</td><td>セキュリティ方式でGSS-TSIGを選択した場合は、セカンダリログインネームを指定します。半角英数字と記号（＝；＃ ￥を除く）で128文字まで入力できます。</td></tr>
<tr><td>7</td><td>セカンダリパスワード</td><td>セキュリティ方式でGSS-TSIGを選択した場合は、セカンダリパスワードを指定します。半角英数字と記号（＝；＃ ￥を除く）で128文字まで入力できます。</td></tr>
<tr><td>8</td><td>TSIG/SIG(0)キーファイル</td><td>TSIGおよびSIG(0)で使用するキーファイルを、アップロードまたは削除する場合に設定します。
アップロードする場合は、［参照］をクリックしキーファイルを指定して、［アップロード］をクリックします。
削除する場合は、［削除］をクリックします。</td></tr>
</table>

	項目名	機能説明
9	TSIG/SIG(0)プライベートキーファイル	TSIGおよびSIG（0）で使用するプライベートキーファイルを、アップロードまたは削除する場合に設定します。 アップロードする場合は、［参照］をクリックしキーファイルを指定して、［アップロード］をクリックします。 削除する場合は、［削除］をクリックします。

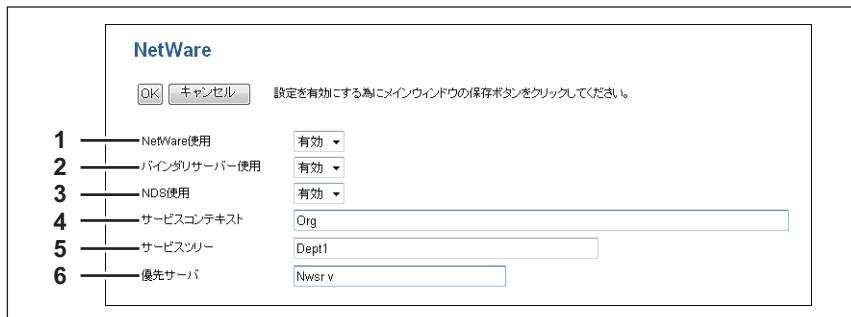
□ SMBの設定

SMBでは、SMBネットワークの各プロパティを設定し、Microsoft Windowsネットワークによる本機へのアクセスや、SMB印刷を有効にします。SMBを有効にすると、SMB印刷が利用可能になるほか、本機の共有フォルダを参照できるようになります。また、異なるサブネット間のファイル共有やプリンタ共有をWINSサーバーを使って解決している場合は、WINSサーバーアドレスを指定します。

	項目名	機能説明
1	SMBサーバプロトコル	SMBの有効／無効を選択します。 • **有効**：SMBを有効にします。 • **無効**：SMBを無効にします。
2	制限	SMBで制限を指定します。 • **なし**：SMBで制限しない場合に選択します。 • **プリント共有**：共有フォルダの参照のみ有効にし、本機のSMB印刷を無効にします。 • **ファイル共有**：SMB　印刷のみ有効にし、本機の共有フォルダの参照を無効にします。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。
3	NetBIOS名	Windows ネットワーク上で表示される本機の名称を入力します。標準の設定では、「MFP<NICシリアル番号>」がNetBIOS名として設定されています。
	注 意 NetBIOS名は、半角英数字と「-」（ハイフン）のみを使用して入力してください。それ以外の文字を使用して入力した場合は、警告メッセージが表示されます。	

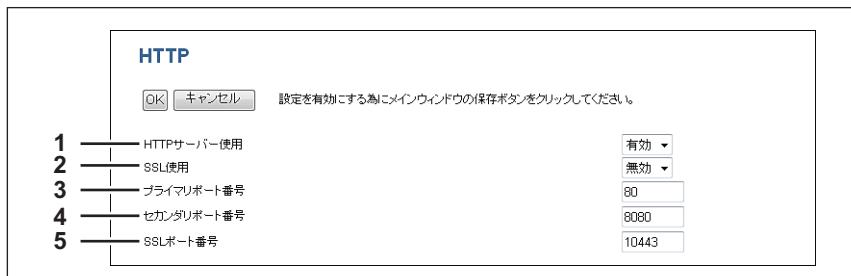
<table>
<tr><th></th><th>項目名</th><th>機能説明</th></tr>
<tr><td>4</td><td>ログオン</td><td>本機が所属するワークグループ名またはドメイン名を入力します。
• ワークグループ：本機をワークグループに参加させる場合は、ワークグループ名を入力します。すべてのクライアントコンピュータは、ユーザ名やパスワードを使用せずに本機にアクセスすることができます。
• ドメイン：本機をドメインにログオンさせる場合は、ドメイン名を入力します。ドメインのメンバとしてログオンしていないクライアントコンピュータから本機にアクセスするには、ユーザ名とパスワードが必要になります。本機へのアクセスを制限したい場合は、ドメインで管理します。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">注 意
ワークグループ名は、半角英数字と以下の記号「; : " < > + = ￥ | ? , * #」以外の文字とひらがな、漢字を使用して入力してください。ドメイン名は、半角英数字と以下の記号「; : " < > + = ￥ | ? , * #」以外の文字を使用して入力してください。それ以外の文字を使用して入力した場合は、警告メッセージが表示されます。</td></tr>
<tr><td>5</td><td>プライマリドメイン
コントローラ</td><td>本機をドメインにログオンさせる場合に、プライマリドメインコントローラのサーバー名またはIPアドレスを指定します。半角英数字と記号（= ; # ￥を除く）で128文字まで入力できます。</td></tr>
<tr><td>6</td><td>バックアップドメイン
コントローラ</td><td>本機をドメインにログオンさせる場合に、必要に応じてバックアップドメインコントローラのサーバー名またはIPアドレスを指定します。プライマリドメインコントローラが使用できない場合に、バックアップドメインコントローラが使用されます。半角英数字と記号（= ; # ￥を除く）で128文字まで入力できます。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">注 意
プライマリドメインコントローラおよびバックアップドメインコントローラに誤った設定を行うと、Windowsネットワーク内のプライマリドメインコントローラおよびバックアップドメインコントローラを最大4分程度検索するとともに、検索中はタッチパネルの「ネットワーク準備中」表示が消えません。この場合は、「ネットワーク準備中」表示が消えた後、プライマリドメインコントローラおよびバックアップドメインコントローラに正しい設定を行ってください。</td></tr>
<tr><td>7</td><td>デバイス名</td><td>指定したドメインにログオンするための、本機のデバイス名（ログオンユーザ名）を入力します。半角英数字と記号（= ; #を除く）で128文字まで入力できます。</td></tr>
<tr><td>8</td><td>パスワード</td><td>指定したデバイス名（ログオンユーザ名）のパスワードを入力します。半角英数字と記号で128文字まで入力できます。</td></tr>
<tr><td>9</td><td>プライマリWINSサーバー
アドレス</td><td>WINSサーバーを使用して本機のNetBIOS名およびワークグループ名を解決する必要がある場合に、プライマリWINSサーバーのIPアドレスを指定します。異なるサブネットからNetBIOS経由でアクセスしたい場合に設定します。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">補 足
TCP/IPの設定で［WINSサーバーアドレス取得］オプションを有効にした場合は、DHCPサーバーからプライマリおよびセカンダリWINSサーバーアドレスを取得することができます。
📖 P.158 「TCP/IPの設定」</td></tr>
<tr><td>10</td><td>セカンダリWINSサーバー
アドレス</td><td>WINSサーバーを使用して本機のNetBIOS名およびワークグループ名を解決する必要がある場合に、必要に応じてセカンダリWINSサーバーのIPアドレスを指定します。プライマリWINSサーバーが使用できない場合に、セカンダリWINSサーバーが使用されます。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">補 足
TCP/IPの設定で［WINSサーバーアドレス取得］オプションを有効にした場合は、DHCPサーバーからプライマリおよびセカンダリWINSサーバーアドレスを取得することができます。
📖 P.158 「TCP/IPの設定」
注 意
［プライマリWINSサーバーアドレス］および［セカンダリWINSサーバーアドレス］に、「0.0.0.0」を入力した場合は、WINSの設定は無効になります。</td></tr>
</table>

	項目名	機能説明
11	SMBサーバのSMB署名	クライアントが本機の共有フォルダにアクセスする場合など、クライアントから本機にSMBでアクセスする際に、SMB署名を使用するかどうかを設定します。 • **クライアントの同意により通信にデジタル署名を行う**：クライアントがデジタル署名を使用してSMB通信した場合のみ、デジタル署名を使ってSMB通信を保護します。クライアントがデジタル署名を使用していない場合は、デジタル署名を使用せずにSMB通信を行います。 • **常にサーバ側の通信にデジタル署名を行う**：クライアントがデジタル署名を使用してSMB通信した場合のみ、本機と通信ができるようにします。クライアントがデジタル署名を使用せずに本機にSMB通信した場合は、本機とSMB通信することはできません。 • **サーバの通信にデジタル署名を行わない**：クライアントがデジタル署名を使わずにSMB通信した場合のみ、本機と通信ができるようにします。クライアントが常にデジタル署名を使用してSMBサーバーにアクセスするよう設定されている場合は、本機とSMB通信することはできません。
	注 意 クライアントコンピュータでSMBクライアントのSMB署名の設定がどのように設定されているか分からない場合は、[クライアントの同意により通信にデジタル署名を行う] を設定してください。誤ったSMB署名の設定を行うと、SMB通信ができなくなる恐れがあります。	
12	SMBクライアントのSMB署名	ネットワークフォルダにスキャンデータを保管する場合など、本機からSMBサーバーにアクセスする際に、SMB署名を使用するかどうかを設定します。 • **サーバの同意により通信にデジタル署名を行う**：通信するSMBサーバーのSMB署名の設定が有効の場合のみ、デジタル署名を使ってSMB通信を保護します。通信するSMBサーバーのSMB署名の設定が無効の場合は、デジタル署名を使用せずにSMB通信を行います。 • **常にクライアント側の通信にデジタル署名を行う**：常にデジタル署名を使用して SMBサーバーとSMB通信を行います。通信するSMBサーバーのSMB署名の設定が無効の場合は、SMBサーバーと通信することはできません。 • **クライアントの通信にデジタル署名を行わない**：デジタル署名を使用せずにSMBサーバーとSMB通信を行います。通信するSMBサーバーのSMB署名の設定が有効の場合は、SMBサーバーと通信することはできません。
	注 意 • 通信するSMBサーバーでSMBサーバーのSMB署名の設定がどのように設定されているか分からない場合は、[サーバの同意により通信にデジタル署名を行う] を設定してください。誤ったSMB署名の設定を行うと、SMB通信ができなくなる恐れがあります。 • Windows Server 2003/Windows Server 2008/Windows Server 2012では、デフォルトの設定で常にサーバー側の通信にデジタル署名を行うよう設定されています。Windows Server 2003/Windows Server 2008/Windows Server 2012とSMB通信を行う場合は、[サーバの同意により通信にデジタル署名を行う] または [常にクライアント側の通信にデジタル署名を行う] を設定してください。	

□ NetWareの設定

NetWareでは、NetWareバインダリとNDSサービスを設定します。Novell印刷環境を構築するときは、この設定を行う必要があります。

	項目名	機能説明
1	NetWare使用	NetWareの有効／無効を選択します。 • **有効**：NetWareを有効にします。 • **無効**：NetWareを無効にします。
2	バインダリサーバー使用	NetWareバインダリモードでのNovell印刷を有効にするか選択します。バインダリモードでNetWareサーバーを使ってNovell印刷環境を構築するときは、有効を選択してください。
3	NDS使用	NetWare NDSモードでのNovell印刷を有効にするか選択します。NDSモードでNetWareサーバーを使ってNovell印刷環境を構築するときは、有効を選択してください。有効を選択した場合は、同時にNDSのコンテキストとツリーの指定も行ってください。
4	サービスコンテキスト	本機用のNetWareプリントサーバーのNDSコンテキストを入力します。
5	サービスツリー	NDSツリーを入力します。
6	優先サーバ	優先して接続するNetWareサーバー名を入力します。

□ HTTPの設定

HTTPネットワークサービスでは、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティなど、Webベースのサービスを有効にするかを設定します。

	項目名	機能説明
1	HTTPサーバー使用	TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティなどのWebベースのサービスを有効にするか選択します。初期値は［有効］に設定されています。
2	SSL使用	HTTPで本機にアクセスするときにSSL（Secure Sockets Layer）を使用するか選択します。有効にすると、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティの操作により通信されるデータは暗号化されます。初期値は［無効］に設定されています。
	注 意 SSLを使用するには、サーバーのOSがSSLをサポートしている必要があります。	

<table>
<tr><th></th><th>項目名</th><th>機能説明</th></tr>
<tr><td rowspan="2">3</td><td>プライマリポート番号</td><td>HTTPアクセスに使用するポート番号を入力します。1から65535までの値を入力できます。通常は、初期値の「80」を使用します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">注 意
以下の設定と同じポート番号は使用できません。
該当するポート番号を変更した後に、プライマリポート番号を設定してください。
- HTTP/セカンダリポート番号
- HTTP/SSLポート番号
- IPP印刷/ポート番号
- IPP印刷/SSLポート番号</td></tr>
<tr><td rowspan="2">4</td><td>セカンダリポート番号</td><td>TopAccessおよびファイリングボックスWebユーティリティに使用するポート番号を入力します。1から65535までの値を入力できます。通常は、初期値の「8080」を使用します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">注 意
以下の設定と同じポート番号は使用できません。
該当するポート番号を変更した後に、セカンダリポート番号を設定してください。
- HTTP/プライマリポート番号
- HTTP/SSLポート番号
- IPP印刷/ポート番号
- IPP印刷/SSLポート番号</td></tr>
<tr><td rowspan="2">5</td><td>SSLポート番号</td><td>SSLに使用するポート番号を入力します。1から65535までの値を入力できます。通常は、初期値の「10443」を使用します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">注 意
以下の設定と同じポート番号は使用できません。
該当するポート番号を変更した後に、SSLポート番号を設定してください。
- HTTP/プライマリポート番号
- HTTP/セカンダリポート番号
- IPP印刷/ポート番号
- IPP印刷/SSLポート番号</td></tr>
</table>

□ SMTPクライアントの設定

SMTPクライアントでは、インターネットファクスおよびEメールのSMTP送信を有効にするか選択します。

注 意

インターネットファクスおよびEメール送信を行うには、送信者アドレスを設定する必要があります。送信者アドレス設定については、以下の説明を参照してください。

📖 P.248 「Eメール設定をセットアップする」
📖 P.249 「インターネットファクス設定をセットアップする」

また、内部認証以外のユーザ管理設定が有効になっている場合は、本機にログインしたユーザの送信者アドレスが自動的に設定されます。ユーザ管理設定の詳細については、以下の説明を参照してくだい。

📖 P.149 「[管理者] タブ」

SMTPクライアント

OK キャンセル 設定を有効にする為にメインウィンドウの保存ボタンをクリックしてください。

1 SMTPクライアント使用 有効
2 SSL使用 無効
3 SSL/TLS STARTTLS
4 SMTPサーバーアドレス
5 POP Before SMTP 無効
6 認証 無効
7 ログイン名
8 パスワード
9 Eメール／インターネットファクス送信最大容量 30 MB
10 ポート番号 25
11 SMTPクライアントの接続タイムアウト(1-180) 30 秒

	項目名	機能説明
1	SMTPクライアント使用	本機からSMTPサーバーを介してインターネットファクスおよびEメールを送信する場合に有効にします。初期値は［有効］に設定されています。
2	SSL使用	SMTPサーバーにアクセスするときにSSL（Secure Sockets Layer）を使用するか選択します。 • **無効**：SSLを無効にします。 • **登録されたCA証明書を使用する**：本機に登録された証明書を使用してSSL認証を行う場合に選択します。 • **全ての証明書を受け入れる**：本機の登録された証明書を使用せずにSSL認証を行う場合に選択します。
	注 意 • ［登録されたCA証明書を使用する］を選択した場合は、セキュリティ設定でCA証明書を登録する必要があります。 P.287 「［セキュリティ］設定／操作方法」 • SSLを使用するには、サーバーのOSがSSLをサポートしている必要があります。	
3	SSL/TLS	［SSL使用］を有効にした場合に、SSLに使用するプロトコルを選択します。 • **STARTTLS**：SMTPの拡張コマンドであるSTARTTLSを使用してメッセージをTLS（Transport Layer Security）で送信する場合に選択します。 • **Over SSL**：メッセージをSSL（Secure Socket Layer）で送信する場合に選択します。
	注 意 ［Over SSL］を選択した場合は、ポート番号を正しいSSLポート番号に変更してください。Over SSLでは、通常「465」を使用します。	
4	SMTPサーバーアドレス	［SMTPクライアント使用］を有効にした場合に、SMTPサーバーのIPアドレスまたはFQDNを入力します。半角英数字と記号（＝ ; ＃ ￥を除く）で128文字まで入力できます。
	注 意 FQDNを使用してSMTPサーバーを指定する場合は、DNSサーバーを設置しDNSの設定を有効にする必要があります。 **補 足** TCP/IPの設定で［SMTPサーバーアドレスの取得］オプションを有効にした場合は、DHCPサーバーからSMTPサーバーアドレスを取得することができます。 P.158 「TCP/IPの設定」	
5	POP Before SMTP	POP Before SMTP認証を有効にするかどうかを選択します。初期値は［無効］に設定されています。

	項目名	機能説明
6	認証	SMTPサーバーに接続するための認証方法を選択します。 • **無効**：認証を使用せずにSMTPサーバーに接続する場合に選択します。 • **Plain**：Plain認証を使用してSMTPサーバーに接続する場合に選択します。 • **Login**：Login認証を使用してSMTPサーバーに接続する場合に選択します。 • **CRAM-MD5**：CRAM-MD5認証を使用してSMTPサーバーに接続する場合に選択します。 • **Digest-MD5**：Digest-MD5認証を使用してSMTPサーバーに接続する場合に選択します。 • **Kerberos**：Kerberos認証を使用してSMTPサーバーに接続する場合に選択します。 • **NTLM（IWA）**：NTLM（IWA）認証を使用して SMTP サーバーに接続する場合に選択します。 • **自動**：自動で認証を識別してSMTPサーバーに接続する場合に選択します。
7	ログイン名	認証を使用してSMTPサーバーに接続する場合に、SMTPサーバーに接続するためのログイン名を入力します。64文字まで入力できます。
8	パスワード	認証を使用してSMTPサーバーに接続する場合に、SMTPサーバーに接続するためのパスワードを入力します。64文字まで入力できます。
9	Eメール／インターネットファクス送信最大容量	SMTPを介して送信可能な最大容量を選択します。2～100MBの範囲で設定します。
10	ポート番号	［SMTPクライアント使用］を有効にした場合に、SMTPサーバーにアクセスするためのポート番号を入力します。入力するポート番号は、SMTPサーバーのポート設定によって異なります。1から65535までの値を入力できます。通常は、初期値の「25」を使用します。
	注 意 HTTP設定のセカンダリポート番号（HTTPのSSL有効時はSSLポート番号）と同じポート番号を指定すると、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティにアクセスできなくなります。誤って設定してしまった場合は、本機の操作パネルからHTTP設定を変更し、正しいポート番号を設定してください。	
11	SMTPクライアントの接続タイムアウト（1-180）	SMTPサーバーが応答しない場合に、通信を終了するタイムアウト時間を入力します。1～180秒の範囲で設定します。初期値は「30」に設定されています。

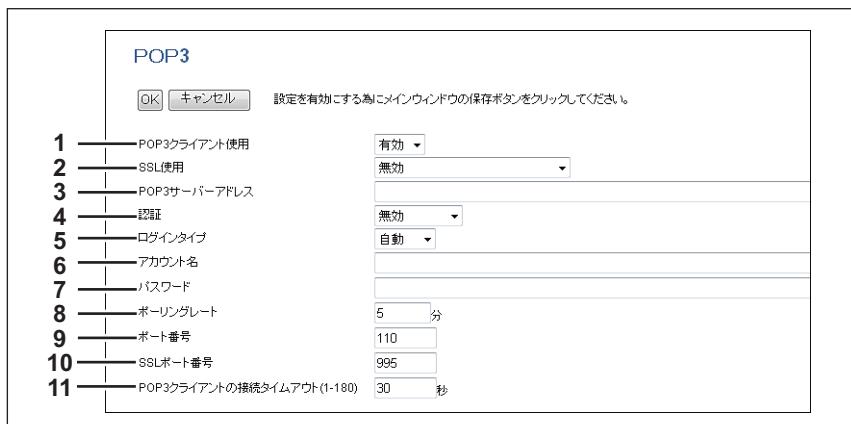
□ SMTPサーバーの設定

SMTPサーバーでは、インターネットファクスおよびEメールのSMTP受信を有効にするか選択します。通常は、オフランプゲートウェイ機能を利用したい場合に設定します。

	項目名	機能説明
1	SMTPサーバー使用	本機がSMTPサーバーとして働くかどうかを選択します。オフランプゲートウェイ機能を利用したい場合は、有効にする必要があります。有効にすると、本機ドメイン宛のインターネットファクスやEメールを、SMTP通信によりSMTPサーバーを介して受信することができます。初期値は［有効］に設定されています。
2	ポート番号	SMTPでインターネットファクスやEメールを受信するポート番号を入力します。通常、「25」を使用します。
	注 意 HTTP設定のセカンダリポート番号（HTTPのSSL有効時はSSLポート番号）と同じポート番号を指定すると、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティにアクセスできなくなります。誤って設定してしまった場合は、本機の操作パネルからHTTP設定を変更し、正しいポート番号を設定してください。	

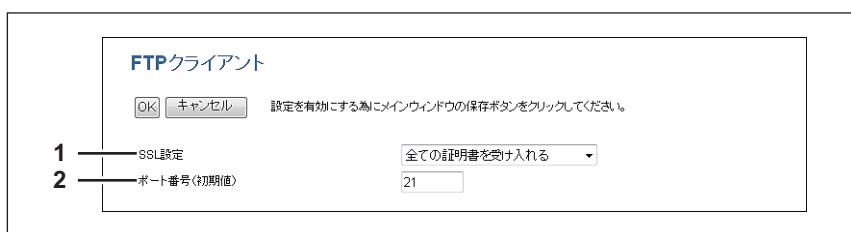
	項目名	機能説明
3	Eメールアドレス	本機のEメールアドレスを入力します。本機がSMTPサーバーとして動作する場合は、本機のドメイン名を含むすべてのインターネットファクスやEメールをSMTPを使って受信することができます。受信した文書のEメールアドレスが、ここで入力した名前と一致すると、本機は受信した文書を印刷します。半角英数字と記号（=；＃ ¥を除く）で192文字まで入力できます。
4	Eメール転送使用	オフランプゲートウェイ転送を有効にするか選択します。初期値は［無効］に設定されています。
5	オフランプセキュリティ	本機のアドレス帳に登録されたファクス番号にのみオフランプゲートウェイ転送を行うかどうかを設定します。有効にすると、指定された転送宛先が本機のアドレス帳に登録されていない場合、送信を中断します。不正なオフランプゲートウェイ転送を防ぐことができます。初期値は［有効］に設定されています。
6	オフランプ印刷	オフランプゲートウェイ転送を行う際に、転送される文書を本機で印刷するかを設定します。有効にすると、オフランプゲートウェイ転送される文書を自動的に印刷し、どのような文書が転送されたのかを確認することができます。初期値は［有効］に設定されています。

□ POP3の設定

POP3ネットワークサービスでは、インターネットファクスやEメール印刷ジョブを受信するPOP3サーバーを設定します。

	項目名	機能説明
1	POP3クライアント使用	POP3サーバーからのインターネットファクスやEメールの取り込みを有効にするか選択します。初期値は［有効］に設定されています。
2	SSL使用	POP3サーバーにアクセスするときにSSL（Secure Sockets Layer）を使用するか選択します。 • **無効**：SSLを無効にします。 • **登録されたCA証明書を使用する**：本機に登録された証明書を使用してSSL認証を行う場合に選択します。 • **全ての証明書を受け入れる**：本機の登録された証明書を使用せずにSSL認証を行う場合に選択します。
	注 意 • ［登録されたCA証明書を使用する］を選択した場合は、セキュリティ設定でCA証明書を登録する必要があります。 P.287 「［セキュリティ］設定／操作方法」 • SSLを使用するには、サーバーのOSがSSLをサポートしている必要があります。	
3	POP3サーバーアドレス	［POP3クライアント使用］を有効にした場合に、POP3サーバーのIPアドレスまたはFQDNを入力します。半角英数字と記号（=；＃ ¥を除く）で128文字まで入力できます。
	注 意 FQDNを使用してPOP3サーバーを指定する場合は、DNSサーバーを設置しDNSの設定を有効にする必要があります。 **補 足** TCP/IPの設定で［POP3サーバアドレス取得］オプションを有効にした場合は、DHCPサーバーからPOP3サーバーアドレスを取得することができます。 P.158 「TCP/IPの設定」	

	項目名	機能説明
4	認証	POP3サーバーにアクセスするときの認証を有効にするかどうかを設定します。 • **無効**：認証を無効にします。 • **NTLM/SPA**：NTLM/SPA認証を有効にします。 • **Kerberos**：Kerberos認証を有効にします。
5	ログインタイプ	POP3のログインタイプを選択します。 • **自動**：POP3サーバーによって、ログインタイプを自動的に決定する場合に選択します。 • **POP3**：一般的なPOP3ログインタイプを使用する場合に選択します。 • **APOP**：APOPのログインタイプを使用する場合に選択します。APOPでは、ユーザ名およびパスワードを暗号化して、POP3サーバーにアクセスすることができます。
	注 意 ［自動］を選択してもメールサーバーにログインできない場合は、［POP3］または［APOP］いずれかのログインタイプを選択してください。	
6	アカウント名	本機がPOP3サーバーにアクセスするためのアカウント名を入力します。半角英数字と記号（＝；＃ ￥を除く）で96文字まで入力できます。
	注 意 ［認証］で［NTLM/SPA］または［Kerberos］を選択している場合は、アカウント名はドメインを除いたアカウント名を入力してください。	
7	パスワード	本機がPOP3サーバーにアクセスするためのパスワードを入力します。半角英数字と記号（＝；＃ ￥を除く）で96文字まで入力できます。
8	ポーリングレート	本機が新着メッセージを確認するために、どのくらいの間隔でPOP3サーバーにアクセスするか指定します。0から4096までの値を入力できます。初期値は「5」に設定されています。
9	ポート番号	POP3サーバーにアクセスするポート番号を入力します。入力するポート番号は、POP3サーバーのポート設定によって異なります。1から65535までの値を入力できます。通常は、初期値の「110」を使用します。
10	SSLポート番号	SSLを使用してPOP3サーバーにアクセスするポート番号を入力します。入力するポート番号は、POP3サーバーのポート設定によって異なります。通常、「995」を使用します。
11	POP3クライアントの 接続タイムアウト（1-180）	POP3サーバーが応答しない場合に、通信を終了するタイムアウト時間を入力します。1～180秒の範囲で設定します。初期値は「30」に設定されています。

□ FTPクライアントの設定

FTPクライアントでは、［共有フォルダかUSBに保管］操作でFTPを使ってネットワークフォルダに文書を保存する場合に、初期値として使用されるポート番号を設定します。

	項目名	機能説明
1	SSL設定	SSLで用いる証明書を設定します。 • **無効**：SSLを無効にします。 • **登録されたCA証明書を使用する**：登録された証明書を利用します。 • **全ての証明書を受け入れる**：すべての証明書を利用します。
2	ポート番号（初期値）	ネットワークフォルダにFTPでアクセスするときに使用するポート番号を入力します。FTPで使用するポート番号はFTPサーバーの設定よって異なることがあります。1から65535までの値を入力できます。通常は、初期値の「21」を使用します。

□ FTPサーバーの設定

FTPサーバーでは、本機のFTPサーバー機能の有効／無効を設定します。

	項目名	機能説明
1	FTPサーバー使用	本機のFTPサーバー機能を有効にするかどうかを選択します。以下の機能を使用する場合は、有効にする必要があります。 • FTP印刷 • AddressBook Viewerで本機のアドレス帳データを読み書きする • ファイリングボックスBackup/Restore Utilityでファイリングボックスデータをバックアップ／リストアする 初期値は［有効］に設定されています。
2	SSL使用	FTPサーバーにアクセスするときにSSL（Secure Sockets Layer）を使用するか選択します。初期値は［無効］に設定されています。
	注 意 SSLを使用するには、サーバーのOSがSSLをサポートしている必要があります。	
3	ポート番号（初期値）	本機にFTPでアクセスするときに使用するポート番号を入力します。1から65535までの値を入力できます。通常は、初期値の「21」を使用します。
	注 意 HTTP設定のセカンダリポート番号（HTTPのSSL有効時はSSLポート番号）と同じポート番号を指定すると、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティにアクセスできなくなります。誤って設定してしまった場合は、本機の操作パネルからHTTP設定を変更し、正しいポート番号を設定してください。	
4	SSLポート番号	SSLを使用してFTPサーバーにアクセスするポート番号を入力します。入力するポート番号は、FTPサーバーのポート設定によって異なります。1から65535までの値を入力できます。通常は、初期値の「990」を使用します。
	注 意 HTTP設定のセカンダリポート番号（HTTPのSSL有効時はSSLポート番号）と同じポート番号を指定すると、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティにアクセスできなくなります。誤って設定してしまった場合は、本機の操作パネルからHTTP設定を変更し、正しいポート番号を設定してください。	

□ SLPの設定

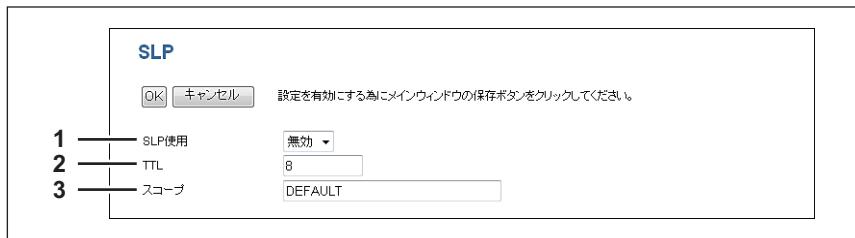
SLPを有効にすると、本機はService Agentとなり、User Agentからのサービス検索および、Directory Agentへのサービス登録に対応します。

補 足

SLP設定では、以下のプリントサービスのみサポートしています。
Raw TCP印刷、LPD印刷、IPP印刷、WSD印刷、SMB印刷、FTP印刷

注 意

SLPの"printer-location"attributeについて

SLPで通知するサービスに、情報として"printer-location"というattributeがあります。その情報はTopAccessの［管理者］タブ、［セットアップ］メニュー、［一般］サブメニュー、［装置情報］にある［設置場所］の設定が使用されます。TopAccessから［設置場所］の設定を変更した場合は、本機の電源を一度オフにした後、再度オンにしてください。電源を入れ直した後、SLPの"printer-location"に反映されます。

<table>
<tr><th></th><th>項目名</th><th>機能説明</th></tr>
<tr><td>1</td><td>SLP使用</td><td>SLPサービスの有効／無効を選択します。初期値は［有効］に設定されています。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>TTL</td><td>サービスを提供するネットワークの範囲TTL（Time To Live）を設定します。
異なるネットワーク上に存在するUser AgentおよびDirectory Agentと通信を行うために使用します。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3</td><td>スコープ</td><td>スコープを設定します。デフォルト値は「DEFAULT」になります。
スコープを設定することで、サービスを提供するグループを指定できます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">補 足
• スコープの入力では、「 , 」（カンマ）区切りで複数指定することができます。
• スコープの設定では、以下の記号「 ( ) ¥ ! < = > ~ ; * + 」は入力できません。
• スコープの入力欄を空欄にして設定することはできません。
• User Agent（UA）であるKonqueror（SUSE Linux）やSLPSNOOPユーティリティ（Novellクライアント）などを使用してサービス検索を行うことができます。</td></tr>
</table>

□ SNMPの設定

SNMPネットワークサービスでは、SNMPネットワーク監視ユーティリティを使って装置状態を監視するSNMPを有効にするか選択します。管理者が本機のMIBに適合したSNMPネットワーク監視ユーティリティを使って装置状態を監視したい場合は、SNMPおよびSNMPトラップを有効に設定する必要があります。

	項目名	機能説明
1	SNMP V1/V2使用	SNMP V1／V2の有効／無効を選択します。TopAccessDocMon、TWAINドライバ、ファイルダウンローダおよびAddressBook Viewerの使用をユーザに許可する場合は、有効を選択してください。初期値は［有効］に設定されています。
2	リードコミュニティ	SNMPアクセス用のSNMPリードコミュニティ名を入力します。半角英数字と記号（=；# ¥を除く）で31文字まで入力できます。初期値は「public」に設定されています。
	注 意 • セキュリティの観点から、リードコミュニティのコミュニティ名は、工場出荷時のコミュニティ名から変更して使用していただくことを推奨します。 • リードコミュニティのコミュニティ名を変更する場合は、お使いのアプリケーションと設定を合わせてください。設定を合わせないと、MIBを使用しているアプリケーション（TopAccess、TWAINドライバ、ファイルダウンローダ、AddressBook Viewer）が使用できなくなります。また、プリンタドライバのSNMP通信も無効になり、オプション構成の自動取得や部門コードチェック、有効なファイリングボックスの取得などの機能が使用できなくなります。 • リードコミュニティを空欄にした場合、クライアントコンピュータと本機のSNMP通信はできなくなります。	
3	リードライトコミュニティ	SNMP通信による読み書きを許可するSNMPリードライトコミュニティ名を入力します。半角英数字と記号（=；# ¥を除く）で31文字まで入力できます。初期値は「private」に設定されています。
	注 意 • セキュリティの観点から、リードライトコミュニティのコミュニティ名は、工場出荷時のコミュニティ名から変更して使用していただくことを推奨します。 • リードライトコミュニティのコミュニティ名を変更する場合は、お使いのアプリケーションと設定を合わせてください。設定を合わせないと、MIBを使用しているアプリケーション（TopAccess、TWAINドライバ、ファイルダウンローダ、AddressBook Viewer）が使用できなくなります。また、プリンタドライバのSNMP通信も無効になり、オプション構成の自動取得や部門コードチェック、有効なファイリングボックスの取得などの機能が使用できなくなります。	

	項目名	機能説明
4	SNMP V3使用	SNMP V3の有効／無効を選択します。TWAINドライバ、ファイルダウンローダおよびAddressBook Viewerの使用をユーザに許可する場合は、有効を選択してください。
5	SNMPユーザ情報の作成	本機に登録されたSNMPユーザ情報がリスト表示されます。SNMPユーザ情報は、登録、編集、削除、およびエクスポートすることができます。詳しくは以下の説明を参照してください。 📖 P.237「SNMP V3ユーザ情報を登録・編集する」 📖 P.238「SNMP V3ユーザ情報をエクスポートする」 📖 P.240「SNMP V3ユーザ情報を削除する」
6	SNMP V3トラップ使用	SNMP V3トラップを送信するかを選択します。初期値は［無効］に設定されています。
7	SNMP V3トラップユーザ名	SNMP V3トラップユーザ名を入力します。半角英数字と記号で31文字まで入力できます。
8	SNMP V3トラップ認証 プロトコル	認証に使用するプロトコルを選択します。 • **HMAC-MD5**：HMAC-MD5を使用する場合に選択します。 • **HMAC-SHA**：HMAC-SHAを使用する場合に選択します。
9	SNMP V3トラップ認証 パスワード	認証パスワードを入力します。半角英数字と記号で31文字まで入力できます。
10	SNMP V3トラッププライバシー プロトコル	データの暗号化に使用するプロトコルを選択します。 • なし：暗号化をしない場合に選択します。 • **CBC-DES**：CBC-DESを使用する場合に選択します。 • **CFB-AES-128**：AES-128（CFBモード）を使用する場合に選択します。
11	SNMP V3トラッププライバシー パスワード	プライバシーパスワードを入力します。半角英数字と記号で31文字まで入力できます。
12	認証トラップ使用	指定したプライベートコミュニティ以外からSNMP V1／V2により本機にアクセスがあった場合に、SNMPトラップを送信するかを選択します。初期値は［有効］に設定されています。
13	警告トラップ使用	警告状況が発生したときに、SNMP V1／V2トラップを送信するかを選択します。初期値は［有効］に設定されています。
14	トラップ送信先 1〜10	SNMPトラップを送信するIPアドレスを入力します。アドレスは10か所まで指定することができます。0 0 0 0〜255 255 255 255の範囲で設定します。
15	IPトラップコミュニティ	IPトラップ用のトラップコミュニティ名を入力します。半角英数字と記号で31文字まで入力できます。初期値は「public」に設定されています。
16	IPXトラップアドレス	IPXトラップを送信するIPXアドレスを入力します。半角英数字と記号で20文字まで入力できます。

注 意

「SNMP V3ユーザ情報」の一覧表に登録済みのユーザ名を、SNMP V3トラップのユーザ名として使用する場合は、一覧に登録されている「認証プロトコル」、「認証パスワード」（一覧表には表示されない）、「プライバシープロトコル」、「パスワード」（一覧表には表示されない）と同一のプロトコルとパスワードを、「SNMP V3トラップ認証プロトコル」、「SNMP V3トラップ認証パスワード」、「SNMP V3トラッププライバシープロトコル」、「SNMP V3トラッププライバシーパスワード」に入力してください。
これらの情報が同一ではない場合には、一覧表に登録されている情報が使用されます。

［SNMP V3ユーザ情報の作成］画面

SNMP V3ユーザ情報の作成画面の［新規］ボタンをクリックすると表示します。

補 足

SNMP V3ユーザ情報は、［SNMP V3ユーザ情報の作成］画面の［保存］ボタンをクリックすると瞬時に登録され、ネットワークから登録したユーザで本機にSNMPアクセスが可能になります。

	項目名	機能説明
1	コンテキスト名	コンテキスト名が表示されます。
2	ユーザ名	ユーザの名前を入力します。半角英数字と記号で31文字まで入力できます。
3	認証プロトコル	認証に使用するプロトコルを選択します。 • **HMAC-MD5**：HMAC-MD5を使用する場合に選択します。 • **HMAC-SHA**：HMAC-SHAを使用する場合に選択します。
4	認証パスワード	認証に使用するパスワードを入力します。半角英数字で最大31文字まで入力できます。
5	プライバシープロトコル	データの暗号化に使用するプロトコルを選択します。 • **なし**：暗号化をしない場合に選択します。 • **CBC-DES**：CBC-DESを使用する場合に選択します。 • **CFB-AES-128**：AES-128（CFBモード）を使用する場合に選択します。
6	パスワード	ユーザ情報のパスワードを入力します。半角英数字と記号で31文字まで入力できます。
7	許可レベル	SNMP V3のユーザのアクセス許可レベルを選択します。 • **一般ユーザ**：データの読み取りのみを許可します。 • **管理者**：データの読み取りと書き込みを許可します。

□ Web Service設定

Web ServiceプリントおよびWeb Serviceスキャンを行う場合に設定します。Windows Vista/Windows 7/Windows Server 2008コンピュータ搭載の機能を利用して、ネットワークを介したクライアントとの操作ができます。

	項目名	機能説明
1	SSL使用	Web ServiceでSSLを使用するかどうかを設定します。 • **有効**：SSLを使用します。 • **無効**：SSLを使用しません。
2	フレンドリーネーム（表示名）	本機の表示名を入力します。全角半角に関係なく（半角記号 = ; # / ￥ : * ? " > < | ! , を除く）127文字まで入力できます。
3	Web Serviceプリント	Web Serviceプリントの有効／無効を設定します。 • **有効**：Web Serviceプリントを有効にします。 • **無効**：Web Serviceプリントを無効にします。
	注意 SSLを使用したWeb Serviceプリントを有効にするには、本機やクライアントコンピュータに証明書をインストールする必要があります。詳細は、以下を参照してください。 P.287 「［セキュリティ］設定／操作方法」	
4	プリンタ名	本機のプリンタ名を入力します。全角半角に関係なく（半角記号 = ; # / ￥ : * ? " > < | , ! を除く）127文字まで入力できます。初期値は「MFPモデル名称-シリアル番号」に設定されています。
5	プリンタ情報	本機のプリンタ情報を入力します。全角半角に関係なく（= ; # ￥を除く）127文字まで入力できます。
6	Web Serviceスキャン	Web Serviceスキャンの有効／無効を設定します。 • **有効**：Web Serviceスキャンを有効にします。 • **無効**：Web Serviceスキャンを無効にします。
7	スキャナ名	本機のスキャナ名を入力します。全角半角に関係なく（半角記号 = ; # / ￥ : * ? " > < | , ! を除く）127文字まで入力できます。初期値は「MFPモデル名称-シリアル番号」に設定されています。
8	スキャナ情報	本機のスキャナ情報を入力します。全角半角に関係なく（= ; # ￥を除く）127文字まで入力できます。
9	クライアントPCからのスキャンでの認証	クライアントPCからスキャンする場合、ユーザ認証によって処理を受け付けるかどうか設定します。 • **全てのジョブを受け付けない**：ユーザ認証にかかわらず全てのジョブを受け付けません。 • **ユーザ名が有効であればジョブを受け付ける**：ユーザ認証されている場合のみジョブを受け付けます。 • **全てのジョブを受け付ける**：ユーザ認証にかかわらず全てのジョブを受け付けます。

□ LLTDの設定

LLTD（Link Layer Topology Discovery）では、デバイスの接続検証やインストール、TopAccessの起動などを行う場合に有効に設定します。Windows Vista/Windows 7/Windows Server 2008でローカルネットワーク上のデバイスの探索を行い、ネットワークマップに位置情報やIPアドレス、MACアドレス、プロファイルなどを表示することができます。

	項目名	機能説明
1	LLTD使用	LLTDの有効／無効を設定します。 • **有効**：LLTDを有効にします。 • **無効**：LLTDを無効にします。
2	デバイス名	ネットワークマップに表示されるデバイス名を入力します。 全角半角に関係なく（＝；＃ ￥を除く）16文字まで入力できます。

□ スーパースリープモードからの復帰設定

スーパースリープモード（スーパースリープモードのない機種はスリープモード）中のネットワークアクセスについて設定します。
ネットワーク検索により本機をスーパースリープモード（スーパースリープモードのない機種はスリープモード）から復帰させたい場合などに設定してください。

注 意

- ［スーパースリープモードからの復帰設定］の設定は、不特定多数のMFPにデータを送信する「ブロードキャスト」と複数のMFPを指定してデータを送信する「マルチキャスト」で有効です。特定のアドレスを指定して送信する「ユニキャスト」では、［スーパースリープモードからの復帰設定］の設定は無効です。
- 節電モード設定で、スーパースリープモード（スーパースリープモードのない機種はスリープモード）設定が「有効」に設定されている場合に、復帰設定が有効になります。スーパースリープモード（スーパースリープモードのない機種はスリープモード）設定が「有効」に設定されていない場合は、本機がスーパースリープモード（スーパースリープモードのない機種はスリープモード）に移行しないので、復帰設定は無効になります。
P.154 「節電モード設定」

	項目名	機能説明
1	プロトコル	本機をスーパースリープモード（スーパースリープモードのない機種はスリープモード）から復帰させるプロトコルを選択します。選択できるプロトコル数は、機種によって異なります。 • **ARP** IPv4環境で本機を使用する場合に、アドレス解決ができるようになります。 • **SNMP for IPv4** IPv4環境でClient Utilitiesを使用する場合に、SNMPでネットワーク検索されるようになります。 • **SNMP for IPv6** IPv6環境でClient Utilitiesを使用する場合に、SNMPでネットワーク検索されるようになります。 • **SMB** IPv4環境でNetBIOS名を利用する場合に、名前解決ができるようになります。 • **Bonjour for IPv4** IPv4環境でBonjourを使用する場合に、Bonjourでネットワーク検索されるようになります。 • **Bonjour for IPv6** IPv6環境でBonjourを使用する場合に、Bonjourでネットワーク検索されるようになります。 • **Neighbor Discovery(リンクローカルアドレス)** IPv6環境で本機を使用する場合に、アドレス解決ができるようになります。 • **Neighbor Discovery(マニュアル / ステートフルアドレス)** IPv6環境で本機を使用する場合に、アドレス解決ができるようになります。 • **LLMNR** IPv6環境でNetBIOS名を利用する場合に、名前解決ができるようになります。 • **LLTD** ネットワークマップを利用する場合に、ネットワークマップの表示（デバイス探索）ができるようになります。 • **SLP** SLPを利用する場合に、サービス探索されるようになります。 • **Web Services for IPv4** IPv4環境でWS-Discoveryを使用する場合に、WS-Discoveryでネットワーク検索されるようになります。 • **Web Services for IPv6** IPv6環境でWS-Discoveryを使用する場合に、WS-Discoveryでネットワーク検索されるようになります。

注 意

- スーパースリープモードからの復帰設定では、各プロトコルの設定の「有効」/「無効」に関係なく、任意のプロトコルを選択できます。ただし、復帰設定で選択していても、選択したプロトコルがプロトコルの設定で「無効」に設定されている場合は、本機はスーパースリープモード（スーパースリープモードのない機種はスリープモード）から復帰しません。
- 本設定で選択したプロトコルでネットワークアクセスを行っても、本機から応答が来ない場合は、ネットワークアクセスを再試行してください。

補 足

以下に記載するプロトコルを使っての通信や、特定のアドレスを指定して送信する「ユニキャスト」の通信では、復帰設定を行わなくても、スーパースリープモード（スーパースリープモードのない機種はスリープモード）から復帰できます。

- IPP
- FTP
- HTTP
- SMB
- SMTP
- SNMP
- RAW9100
- LPD
- WebService

□ IPセキュリティの設定

IPセキュリティ機能を使用すると、IPsec（IP Security Protocol）による暗号化通信が可能となります。

補 足

［フラッシュコネクション］ボタンは、IPsec通信に使用するキーの漏えいや、セキュリティへの侵害が発生した場合、フラッシュコネクション機能を使用して、現在のセッションを手動で消去（フラッシュ）し、新しいセッションを開始させることができます。また、何らかの理由によりSAD（Security Association Database）の情報を消去したい場合にも、フラッシュコネクション機能で情報を消去することができます。

	項目名	機能説明
1	［戻る］ボタン	［IPセキュリティ］画面を閉じます。
2	IPsec使用	IPsecの有効／無効を設定します。 • **有効**：IPsecを有効にします。 • **無効**：IPsecを無効にします。
3	ポリシー	IPsecで使用するポリシーを選択します。 IPsecによる暗号化通信を行うには、お使いになる環境に合わせたIPsecのポリシーを作成する必要があります。 P.195 「［ポリシーの追加］／［ポリシーの修正］画面」
4	フィルタ	IPsec環境のフィルタを作成します。 **［追加］ボタン**：［フィルタの追加］画面でフィルタを追加できます。 P.187 「［フィルタの追加］／［フィルタの修正］画面」 **［削除］ボタン**：削除するフィルタにチェックを付けてからクリックするとフィルタを削除できます。 **フィルタ名**：登録されているフィルタ名をクリックすると内容を修正できます。 P.187 「［フィルタの追加］／［フィルタの修正］画面」 **フィルタアクション**：登録されているフィルタのアクションを表示します。
5	マニュアルキー	IPsecのマニュアルキーを設定します。 **［追加］ボタン**：［マニュアルキーの追加］画面でマニュアルキーを追加できます。 P.189 「［マニュアルキーの追加］／［マニュアルキーの修正］画面」 **［削除］ボタン**：削除するマニュアルキーにチェックを付けてからクリックするとマニュアルキーを削除できます。 **マニュアルキー名**：登録されているマニュアルキー名をクリックすると内容を修正できます。 P.189 「［マニュアルキーの追加］／［マニュアルキーの修正］画面」 **暗号化アルゴリズム**：登録されている暗号化アルゴリズムを表示します。
6	IKEキー	IPsecのIKEキーを設定します。 **［追加］ボタン**：［IKEの追加］画面でIKEキーを追加できます。 P.191 「［IKEの追加］／［IKEの修正］画面」 **［削除］ボタン**：削除するキー名にチェックを付けてからクリックするとキーを削除できます。 **キー名**：登録されているキー名をクリックすると内容を修正できます。 P.191 「［IKEの追加］／［IKEの修正］画面」 **IKEタイプ**：登録されているIKEタイプを表示します。

	項目名	機能説明
7	プロファイル	IPsecの環境に合わせて「フィルタ」と「マニュアルキー」または「IKEキー」を作成し、それらを組み合わせて「プロファイル」を作成します。 **［追加］ボタン**：［プロファイルの追加］画面でプロファイルを追加できます。 P.193 「［プロファイルの追加］／［プロファイルの修正］画面」 **［削除］ボタン**：削除するプロファイル名にチェックを付けてからクリックするとプロファイルを削除できます。 **プロファイル名**：登録されているプロファイル名をクリックすると内容を修正できます。 P.193 「［プロファイルの追加］／［プロファイルの修正］画面」 **プロファイルモード**：登録されているプロファイルのモードを表示します。
8	ポリシー	登録済みのプロファイルを組み合わせてIPsecで使用するポリシーを作成します。 **［追加］ボタン**：［ポリシーの追加］画面でポリシーを追加できます。 P.195 「［ポリシーの追加］／［ポリシーの修正］画面」 **［削除］ボタン**：削除するポリシー名にチェックを付けてからクリックするとポリシーを削除できます。 **ポリシー名**：登録されているポリシー名をクリックすると内容を修正できます。 P.195 「［ポリシーの追加］／［ポリシーの修正］画面」

［フィルタの追加］/［フィルタの修正］画面

フィルタの［追加］ボタン、または登録済みのファイル名をクリックすると表示します。
IPsecのフィルタを作成します。

	項目名	機能説明
1	［OK］ボタン	設定したフィルタを保存します。
2	［キャンセル］ボタン	フィルタの登録を中止します。
3	［リセット］ボタン	設定した内容をリセットして、初期の状態に戻します。
4	フィルタ名	フィルタの名前を入力します。半角の英数字や「＃ ％ ＆ ＋ ￥ ' ; , " =」以外の記号で、最大63文字まで入力できます。

	項目名	機能説明
5	インターネットプロトコルバージョン	IPsecを使用するIPのバージョンを選択します。 • **IPv4**：IPsecをIPv4環境で使用する場合に選択します。 • **IPv6**：IPsecをIPv6環境で使用する場合に選択します。
6	発信元アドレス	フィルタを適用させる通信の発信元のアドレスとして、本機のIPアドレスが設定されます。ボックスには［自分のIPアドレス］と表示されます。この項目を変更することはできません。
7	宛先アドレス	フィルタを適用させる通信の宛先のアドレスを設定します。 • **特定のIPアドレス**：特定の宛先をIPアドレスで設定します。アドレスの入力ボックスにIPアドレスを入力します。 • **サブネット/プレフィックス**：宛先をIPアドレスとサブネットマスクで設定します。アドレスの入力ボックスにIPアドレスとサブネットマスクのプレフィックス値を直接入力します。 • **FQDN**：宛先をFQDNで設定します。アドレスの入力ボックスにFQDNを入力します。半角の英数字、「- .」を含め、255文字まで入力できます。先頭の文字と最後の文字には「- .」は使用できません。 • **任意のIPアドレス**：任意の宛先を設定します。
8	プロトコルタイプ	フィルタに使用するプロトコルを選択します。 • **任意**：任意のプロトコルを使用します。 • **TCP**：TCPのみを使用します。 • **UDP**：UDPのみを使用します。 • **ICMP**：ICMPのみを使用します。
9	発信ポート	発信元のポート番号を設定します。プロトコルタイプでTCPまたはUDPを選択した場合のみ、設定することができます。 • **任意**：任意の発信ポートを使用します。 • **ポート番号**：発信ポート番号を設定します。ポート番号の入力ボックスにポート番号を入力します。
10	宛先ポート	宛先のポート番号を設定します。プロトコルタイプでTCPまたはUDPを選択した場合のみ、設定することができます。 • **任意**：任意の宛先ポートを使用します。 • **ポート番号**：宛先ポート番号を設定します。ポート番号の入力ボックスにポート番号を入力します。
11	フィルタアクション	フィルタの動作を設定します。 • **許可**：指定した宛先からのアクセスを許可します。 • **ブロック**：指定した宛先からのアクセスを拒否します。 • **セキュリティのネゴシエート**：指定した宛先とIPsec通信を行います。なお、この項目を設定した場合は、IPsec通信に使用するセキュリティプロトコルタイプを以下から選択します。 　- **ESP**：ESP（Encapsulating Security Payload）を使用します。 　- **AH**：AH（Authentication Header）を使用します。

［マニュアルキーの追加］/［マニュアルキーの修正］画面

マニュアルキーの［追加］ボタン、または登録済みのマニュアルキー名をクリックすると表示します。
IPsecのマニュアルキーを設定します。

	項目名	機能説明
1	［OK］ボタン	設定したキーを保存します。
2	［キャンセル］ボタン	キーの登録を中止します。
3	［リセット］ボタン	設定した内容をリセットして、初期の状態に戻します。
4	マニュアルキー名	マニュアルキーの名前を入力します。半角の英数字や「＃ ％ ＆ ＋ ￥ ' ; , " =」以外の記号で、最大63文字まで入力できます。
5	暗号化アルゴリズム	暗号化アルゴリズムを選択します。 • **なし**：暗号化しません。 • **AES-256-CBC**：AES-CBC（256ビット）を使用します。 • **AES-192-CBC**：AES-CBC（192ビット）を使用します。 • **AES-128-CBC**：AES-CBC（128ビット）を使用します。 • **3DES-CBC**：3DES-CBCを使用します。 • **DES-CBC**：DES-CBCを使用します。
6	ハッシュアルゴリズム	ハッシュアルゴリズムを選択します。 • **SHA1**：SHA1を使用します。 • **MD5**：MD5を使用します。 • **AES-XCBC-MAC**：AES-XCBC-MACを使用します。

	項目名		機能説明
7	インバウンドキー		受信側のキーを選択します。
		セキュリティパラメータインデックス	識別用のセキュリティパラメータインデックス(SPI)を指定します。 256から4095までの値を入力できます。
		ESP暗号化キー	ESP（Encapsulating Security Payload）の暗号化キーを入力します。
		ESP認証キー	ESP（Encapsulating Security Payload）の認証キーを入力します。
		AH認証キー	AH（Authentication Header）の認証キーを入力します。
8	アウトバウンドキー		送信先向けのキーを選択します。
		セキュリティパラメータインデックス	識別用のセキュリティパラメータインデックス(SPI)を指定します。 256から4095までの値を入力できます。
		ESP暗号化キー	ESP（Encapsulating Security Payload）の暗号化キーを入力します。
		ESP認証キー	ESP（Encapsulating Security Payload）の認証キーを入力します。
		AH認証キー	AH（Authentication Header）の認証キーを入力します。

[IKEの追加] / [IKEの修正] 画面

IKEキーの［追加］ボタン、または登録済みのキー名をクリックすると表示します。
IPsecのIKEキーを設定します。

	項目名	機能説明
1	［OK］ボタン	設定したキーを保存します。
2	［キャンセル］ボタン	キーの登録を中止します。
3	［リセット］ボタン	設定した内容をリセットして、初期の状態に戻します。

	項目名	機能説明
4	IKEキー名	IKEキーの名前を入力します。半角の英数字や「# % & + ¥ ' ; , " =」以外の記号で、最大63文字まで入力できます。
	補 足 最大で30個のIKEキーを作成することができます。	
5	IKEタイプ	
	IKEv1（メインモード）	IKEv1を使用します。 **証明書**：電子証明書により認証する場合に選択します。この項目を選択するには、あらかじめ本機にIPsec用証明書がインストールされている必要があります。 **事前共有キー**：あらかじめ通信相手と鍵情報を交換して認証する場合に選択します。入力ボックスに通信相手と共有する鍵情報を入力します。半角の英数字や「 & < "」以外の記号で、最大で128文字まで入力できます。 **注 意** 複数のIKEv1の事前共有キーを登録すると、最後に登録した事前共有キーのみ有効になります。
	IKEv2	IKEv2を使用します。 **証明書**：電子証明書により認証する場合に選択します。この項目を選択するには、あらかじめ本機にIPsec用証明書がインストールされている必要があります。 **事前共有キー**：あらかじめ通信相手と鍵情報を交換して認証する場合に選択します。入力ボックスに通信相手と共有する鍵情報を入力します。半角の英数字や「 & < "」以外の記号で、最大で128文字まで入力できます。 • **ローカルID**：IPアドレス、FQDN、Email、Key-IDから選択します。Key-IDを選択した場合は、対応した値を入力します。半角の英数字や「 & < "」以外の記号で、最大で128文字まで入力できます。 • **リモート ID**：IP アドレス、FQDN、Email、Key-ID から選択します。FQDN、Email、Key-IDを選択した場合は、対応した値を入力します。Key-IDを選択した場合は、対応した値を入力します。半角の英数字や「 & < "」以外の記号で、最大で128文字まで入力できます。Emailを選択した場合は、半角の英数字で、最大で192文字まで入力できます。FQDNを選択した場合は、半角の英数字、「- .」を含め、255文字まで入力できます。先頭の文字と最後の文字には「- .」は使用できません。
6	セッションキー設定	
	新しいキーの生成間隔	IPsec通信の鍵情報を生成し直す間隔を秒単位で入力します。60秒～604,800秒（7日間）の範囲で設定します。 **PFSを有効**：IKEでPFS（Perfect Forward Secrecy）機能を使う場合、チェックボックスをオンにします。
7	フィルタIKEトランスフォーム	
	整合性	IKEで使用する認証アルゴリズムを選択します。 • **SHA1**：SHA1を使用します。 • **MD5**：MD5を使用します。 • **AES-XCBC-MAC**：AES-XCBC-MACを使用します。
	暗号化	IKEで使用する暗号アルゴリズムを選択します。 • **AES-256-CBC**：AES-CBC（256ビット）を使用します。 • **AES-192-CBC**：AES-CBC（192ビット）を使用します。 • **AES-128-CBC**：AES-CBC（128ビット）を使用します。 • **AES-CTR**：AES-CTRを使用します。 • **3DES-CBC**：3DES-CBCを使用します。 • **DES-CBC**：DES-CBCを使用します。
	Diffie -Hellmanアルゴリズム	IKEで使用するDiffie -Hellmanグループを選択します。 • **MODP 768（Group 1）**：768ビットのMODPグループを使用します。 • **MODP 1024（Group 2）**：1024ビットのMODPグループを使用します。 • **MODP 2048（Group 14）**：2048ビットのMODPグループを使用します。 • **楕円曲線 P-256（グループ 19）**：楕円曲線 P-256を使用します。 • **楕円曲線 P-384（グループ 20）**：楕円曲線 P-384を使用します。 • **楕円曲線 P-521（グループ 21）**：楕円曲線 P-521を使用します。

［プロファイルの追加］／［プロファイルの修正］画面

プロファイルの［追加］ボタン、または登録済みのプロファイル名をクリックすると表示します。
登録済みのフィルタとマニュアルキーまたはIKEキーを組み合わせてIPsec環境のプロファイルを作成します。

	項目名	機能説明
1	［OK］ボタン	設定したプロファイルを保存します。
2	［キャンセル］ボタン	プロファイルの登録を中止します。
3	［リセット］ボタン	設定した内容をリセットして、初期の状態に戻します。

	項目名		機能説明
4	プロファイル名		プロファイルの名前を入力します。半角の英数字や「- _」の記号で、最大63文字まで入力できます。
	補 足 最大で30個のプロファイルを作成することができます。		
5	トンネル設定		
		トンネルモード	IPsec通信にトンネルモードを使用するかを選択します。 • **Yes**：トンネルモードを使用します。 • **No**：トンネルモードを使用しません。（トランスポートモードを使用します。）
		IPv4/IPv6アドレス	トンネルモードの使用時にデータの暗号化／復号化などを行う、ゲートウェイのIPアドレスを入力します。
6	キーの選択		
		キー	本機に登録されているIKEキー設定が表示されます。プロファイルに適用するキーを選択します。
7	プロポーサル		
		ESPトランスフォーム	ESPに適用するトランスフォームを設定します。 **整合性**：ESPで使用する認証アルゴリズムを選択します。 • **SHA1**：SHA1を使用します。 • **MD5**：MD5を使用します。 • **AES-XCBC**：AES-XCBCを使用します。 **暗号化**：ESPで使用する暗号アルゴリズムを選択します。 • **AES-256-CBC**：AES-CBC（256ビット）を使用します。 • **AES-192-CBC**：AES-CBC（192ビット）を使用します。 • **AES-128-CBC**：AES-CBC（128ビット）を使用します。 • **AES-CTR**：AES-CTRを使用します。 • **3DES-CBC**：3DES-CBCを使用します。 • **DES-CBC**：DES-CBCを使用します。 • **なし**：暗号化をしません。
		AHトランスフォーム	AHに適用するトランスフォームを設定します。 **整合性**：AHで使用する認証アルゴリズムを選択します。 • **SHA1**：SHA1を使用します。 • **MD5**：MD5を使用します。 • **AES-XCBC**：AES-XCBCを使用します。
		セッションキー設定	IPsec通信に使用するセッションキーを設定します。 **セッションキー設定**：セッションキーを生成し直す間隔を設定します。生成間隔は、時間またはデータ量で設定することができます。設定したい方法のチェックボックスをオンにして、ボックスに数値を入力します。 • **新しいキーの生成間隔［ ］/ 秒**：キーの生成間隔を時間（秒）で設定します。180～86,400秒（24時間）の範囲で設定します。 • **新しいキーの生成間隔［ ］/キロバイト**：キーの生成間隔をデータ量（キロバイト）で設定します。 20,480～214,783,647KBの範囲で設定します。
		IPCOMPトランスフォーム	IPCOMPトランスフォームを使用する場合は選択します。
8	IPフィルタ		本機に登録されているフィルタ設定がリストで表示されます。プロファイルに適用するフィルタのチェックボックスをオンにします。なお、複数のフィルタが登録されている場合は、リストの並び順を変更することもできます。並び順を変えたいフィルタの［MOVE］欄をクリックし、［上に移動］／［下に移動］をクリックすると、フィルタを上／下に移動させせることができます。

［ポリシーの追加］／［ポリシーの修正］画面

ポリシーの［追加］ボタン、または登録済みのポリシー名をクリックすると表示します。
登録済みのプロファイルを組み合わせて、IPsecで使用するポリシーを作成します。

	項目名	機能説明
1	［OK］ボタン	設定したポリシーを保存します。
2	［キャンセル］ボタン	ポリシーの登録を中止します。
3	ポリシー名	ポリシーの名前を入力します。半角の英数字や「＃ ％ ＆ ＋ ￥ ' ; , " =」以外の記号で、最大63文字まで入力できます。
	補 足 最大で10個のポリシーを作成することができます。	
4	プロファイル名	ポリシーに適用するプロファイルを選択します。 プロファイルは複数選択することができます。

8

［管理者］タブ

■ コピー設定

コピー設定をセットアップすることができます。

補 足

［コピー］サブメニューは、［管理者］タブの［セットアップ］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下を参照してください。
📖 P.25 「アクセスポリシーモード」
📖 P.150 「［セットアップ］項目説明一覧」

📖 P.196 「初期設定」
📖 P.198 「コピージョブ強制続行設定」

□ 初期設定

初期設定では、タッチパネル画面から行うコピー操作に適用する標準のコピー設定をセットアップします。

4 解像度 300dpi

	項目名	機能説明
1	カラーモード *1	コピーに適用する標準のカラーモードを選択します。 • **オートカラー**：各原稿のカラータイプを自動で判断します。カラー原稿はフルカラーでコピーし、モノクロ原稿はモノクロでコピーします。 • **フルカラー**：すべての原稿をフルカラーでコピーします。 • **ブラック**：すべての原稿をモノクロでコピーします。
	注 意 ブラック無制限機能が有効な場合は、［ブラック］のみを選択することができます。ブラック無制限機能の詳細については、**設定管理ガイド**を参照してください。	
2	カラー原稿モード *1	カラー原稿に適用する標準の原稿モードを選択します。 • **文字／写真**：文字と写真が混在する原稿をコピーする場合に選択します。 • **文字**：文字のみ、または文字と線画のみの原稿をコピーする場合に選択します。 • **印画紙写真**：L判などの一般的な写真原稿をコピーする場合に選択します。 • **印刷写真**：雑誌やカタログなどのグラビア印刷による写真原稿をコピーする場合に選択します（例:雑誌、パンフレット） • **地図**：細かい図形や文字がある原稿をコピーする場合に選択します。
3	ブラック原稿モード *1/原稿モード	ブラック原稿に適用する標準の原稿モードを選択します。 • **文字／写真**：文字と写真が混在する原稿をコピーする場合に選択します。 • **文字** ：文字のみ、または文字と線画のみの原稿をコピーする場合に選択します。 • **写真**：写真原稿をコピーする場合に選択します。 • **グレースケール** *2：文字と写真が混在する原稿で、特に写真の再現性を高めたい場合に選択します。 • **ブルー原稿** *3：消えるトナーで印刷された原稿をコピーする場合に選択します。

	項目名	機能説明
4	解像度 *1 *2	コピー解像度を選択します。 • **300dpi**：解像度を300dpiにします。 • **600dpi**：解像度を600dpiにします。
5	濃度調整（カラー）*1	カラーイメージの濃度を選択します。 • **自動**：標準のカラー濃度モードに自動モードを適用します。自動モードでは、原稿の濃度を自動的に検知して最適な濃度でコピーします。 • **手動**：標準のカラー濃度モードに手動モードを適用します。手動モードでは、原稿の濃度を手動で設定します。
6	濃度調整（ブラック）*1/濃度調整	イメージの濃度を選択します。 • **自動**：標準の濃度モードに自動モードを適用します。自動モードでは、原稿の濃度を自動的に検知して最適な濃度でコピーします。 • **手動**：標準の濃度モードに手動モードを適用します。手動モードでは、原稿の濃度を手動で設定します。
7	手差し用紙	手差しコピーを行う際に標準で使用する用紙の種類を選択します。
8	ブック両面 *2	ブック原稿を両面コピーする際に適用する標準のページ配列を選択します。自動両面ユニットが装着されている場合のみ、使用できます。 • **左開き**：左ページから読む配列でブック原稿をコピーします。 • **右開き**：右ページから読む配列でブック原稿をコピーします。
9	マガジンソート *2	マガジンソートコピーに適用する標準のページ配列を選択します。自動両面ユニットが装着されている場合のみ、使用できます。 • **左開き**：左ページから読む配列で冊子を作成します。 • **右開き**：右ページから読む配列で冊子を作成します。
10	2in1 / 4in1	2in1/4in1コピーに適用するページ配列を選択します。 • **横書き**：2ページまたは4ページを左から右、または上から下の配列でコピーします。縦向き原稿のときは、本機は左から右にコピーします。横向き原稿の場合は、上から下にコピーします。 • **縦書き**：2ページまたは4ページを右から左、上から下の配列でコピーします。縦向き原稿のときは、本機は右から左にコピーします。横向き原稿の場合は、上から下にコピーします。
11	最大コピー部数	ユーザが指定できるコピーの最大枚数を選択します。［9999］*2、［999］、［99］、［9］の中から選択することができます。
12	自動両面	自動両面原稿送り装置に原稿がセットされたときに自動的に適用する両面コピー設定を選択します。自動両面原稿送り装置および自動両面ユニットが装着されている場合のみ、使用できます。 • **OFF**：自動両面原稿送り装置に原稿がセットされたときに、初期設定として両面コピーを［片面→片面］にします。 • **片面／両面**：自動両面原稿送り装置に原稿がセットされたときに、初期設定として両面コピーを［片面→両面］にします。 • **両面／両面**：自動両面原稿送り装置に原稿がセットされたときに、初期設定として両面コピーを［両面→両面］にします。 • **ユーザ設定**：自動両面原稿送り装置に原稿がセットされたときに、両面コピーの選択画面を自動的に表示します。
13	ソートモード	コピーを実行する際に適用する標準のソートモードを選択します。 • **ノンソート**：ソートを行わず排紙します。 • **ステイプル**：ステイプル留めして排紙します。 • **ソート**：原稿と同じページ順に、1部ごとに仕分けた状態で排紙します。 • **グループ**：ページごとにそろえて排紙します。

＊1　カラー印刷に対応した機種のみ可能となります。
＊2　お使いの機種によっては選択できません。
＊3　Loops LP301のデフォルトです。

□ コピージョブ強制続行設定

	項目名	機能説明
1	給紙元自動変更	原稿サイズと給紙元の用紙サイズが異なった場合に、自動的に原稿サイズに合わせて給紙元を変更するかどうか設定します。 • **ON**：給紙元を変更してジョブを続行します。 • **OFF**：ジョブを停止します。
2	異方向用紙の許可 *1	原稿の向きと給紙元の用紙の向きが異なった場合に、異なる方向の用紙にコピーするかどうか設定します。 • **ON**：異方向の用紙へのコピーを許可してジョブを続行します。 • **OFF**：ジョブを停止します。
3	排紙トレイ自動切替（カスケード印刷）	自動的に排紙トレイを切り替えるかどうか設定します。 • **ON**：排紙トレイを自動的に切り替えてジョブを続行します。 • **OFF**：ジョブを停止します。
4	ステイプル針無し時の印刷中断	ステイプルの針がなくなったときに印刷を中断するかどうか設定します。 • **ON**：ステイプルの針がなくなったときは印刷を中断します。 • **OFF**：ステイプルの針がなくなったときでも印刷を中断しません。
5	パンチ屑フル時の印刷継続 *1	パンチ屑がフルになったとき印刷を継続するかどうか設定します。 • **ON**：パンチ屑がフルになったときでも印刷を継続します。 • **OFF**：パンチ屑がフルになったときは印刷を中断します。

＊1　お使いの機種によっては選択できません。

■ ファクス設定

ファクス設定をセットアップすることができます。

補 足

［ファクス］サブメニューは、［管理者］タブの［セットアップ］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下を参照してください。
P.25 「アクセスポリシーモード」
P.150 「［セットアップ］項目説明一覧」

□ ファクス設定

ファクス設定では、タッチパネル画面から行うファクス操作に適用する標準のファクス設定をセットアップします。

補 足

お使いの機種によっては、表示されない項目や機能があります。

	項目名	機能説明
1	自局名称	本機を識別するターミナルID（会社名）を入力します。この名称は、本機から送信されるすべての文書の先頭に印字されます。
2	自局番号	本機のファクス番号を入力します。このファクス番号は、本機の回線1から送信されるすべての文書の先頭に印字されます。
3	自局番号（回線2）	本機に回線2を設置している場合に、回線2のファクス番号を入力します。このファクス番号は、本機の回線2から送信されるすべての文書の先頭に印字されます。
4	リンガ音量	呼び出し音量を選択します。
5	モニタ音量	送信中の回線モニタ音量を選択します。

	項目名	機能説明
6	終了音量	受信完了時の終了音の音量を選択します。
7	受信方法	ファクス受信時に本機をどのように動作させるかを選択します。 • **自動**：呼び出し時に、着信原稿を自動的に受信します。回線がファクス通信専用に使用されている場合は、このオプションを選択します。 • **手動**：操作パネルの［スタート］ボタンを押すことによって、着信原稿の受信を開始します。 • **TEL/FAX**：受信したときに電話かファクスかを自動的に検知します。電話としても使用されている回線に本機を接続する場合は、このオプションを選択します。
8	リモート受信	外付け電話を使ってファクスのリモート受信する場合の操作方法を選択します。 • **OFF**：リモート受信機能を無効にします。 • **ダイヤル**：受話器を取って通話した後、ダイヤル操作で受信を開始します。 • **簡易**：受話器を取った後、指定時間内に受話器を元に戻すと受信を開始します。
9	ダイヤルタイプ	回線1のダイヤルの種類を選択します。 • **10PPS**：10PPSパルスタイプのダイヤル回線を使用します。 • **20PPS**：20PPSパルスタイプのダイヤル回線を使用します。 • **PB**：トーンタイプのプッシュホン回線を使用します。
10	ダイヤルタイプ（回線2）*1	回線2を設置している場合に、回線2のダイヤルの種類を選択します。 • **10PPS**：10PPSパルスタイプのダイヤル回線を使用します。 • **20PPS**：20PPSパルスタイプのダイヤル回線を使用します。 • **PB**：トーンタイプのプッシュホン回線を使用します。
11	回線2設定 *1	回線2を設置している場合に、回線2をどのように使用するか選択します。 • **送信／受信**：回線2をファクスの送受信に使用します。 • **受信専用**：回線2をファクスの受信専用に使用します。 • **受信専用（時刻指定）**：回線2を指定した時間の間、受信専用として使用します。選択した場合は、回線2を受信専用として使用する開始時刻と終了時刻を入力してください。
12	解像度	ファクスを送信する際に適用する標準の解像度を選択します。 • **普通**：標準の解像度に標準モードを適用します。このモードは、普通サイズの文字で構成されたテキスト原稿をひんぱんに送信する場合に適しています。 • **精細**：標準の解像度に精細モードを適用します。このモードは、細かい文字や細かな線画を含む原稿を送信する場合に適しています。 • **高精細**：標準の解像度に高精細モードを適用します。このモードは、特に細かい文字や精密な線画を含む原稿を送信する場合に適しています。
13	原稿モード	ファクスを送信する際に適用する標準の画質を選択します。 • **文字**：標準の画質モードに文字モードを適用します。このモードは、テキスト原稿を送信する場合に適しています。 • **文字／写真**：標準の画質モードに文字／写真モードを適用します。このモードは、テキスト、写真両方で構成された原稿を送信する場合に適しています。 • **写真**：標準の画質モードに写真モードを適用します。このモードは、写真原稿を送信する場合に適しています。
14	濃度調整	ファクスを送信する際に適用する標準の濃度を選択します。 原稿によって理想的な濃度を適用する［自動］を選択するか、手動で11段階の濃度を選択します。
15	受信元記録	受信した時刻、日付、ページ数を確認する受信ヘッダ（RTI）を受信ファクスに印刷するか選択します。
16	ECM	文書が電話回線のノイズや歪みなどにより影響を受けた部分があるときに、自動的に再送するECM（Error Correction Mode：自動誤り訂正モード）を有効にするか選択します。
17	切り捨て印刷	記録紙より大きなファクス原稿を受信したときに、受信したファクス原稿の下の部分を切り捨てるかを選択します。
18	縮小印刷	記録紙の印刷可能範囲より大きなファクス原稿を受信したときに、受信したファクス原稿を縮小するか選択します。
19	両面印刷	記録紙の両面に受信したファクス原稿を印刷するか選択します。自動両面ユニットが装着されている場合のみ、使用できます。
20	縦横交互排紙 *1	受信ごとに、縦横交互に排紙方向を変えて排紙トレイに出力するか選択します。
21	復活送信	初期値で指定されているリダイヤル回数に失敗した後、メモリ内に保持した原稿を操作パネルで操作して送信することができます。このオプションを有効にした場合は、1～24時間の範囲でデータを保持する時間を選択します。
22	通信管理記録自動印刷	通信を完了するたびに、送信ジャーナルや受信ジャーナルを自動的に印刷するか選択します。

	項目名	機能説明
23	メモリ送信結果表	メモリ送信を実行した後に、どのように結果レポートを印刷するか選択します。 • **OFF**：メモリ送信レポートを印刷しません。 • **常時印刷**：メモリ送信を完了するたびにメモリ送信レポートを印刷します。 • **エラー時のみ印刷**：メモリ送信に失敗した場合にのみメモリ送信レポートを印刷します。 • **常時印刷（原稿付加）**：メモリ送信を完了するたびに、原稿の最初のページを添付したメモリ送信レポートを印刷します。 • **エラー時のみ印刷（原稿付加）**：メモリ送信に失敗した場合にのみ、最初のページのイメージを添付したメモリ送信レポートを印刷します。
24	同報送信結果表	同報送信を実行した後に、どのように結果レポートを印刷するか選択します。 • **OFF**：同報送信レポートを印刷しません。 • **常時印刷**：同報送信を完了するたびに同報送信レポートを印刷します。 • **エラー時のみ印刷**：同報送信に失敗した場合にのみ同報送信レポートを印刷します。 • **常時印刷（原稿付加）**：同報送信を完了するたびに、最初のページのイメージを添付した同報送信レポートを印刷します。 • **エラー時のみ印刷（原稿付加）**：同報送信に失敗した場合にのみ、最初のページのイメージを添付した同報送信レポートを印刷します。
25	ポーリング結果表	ポーリング受信を実行した後に、どのように結果レポートを印刷するか選択します。 • **OFF**：ポーリングレポートを印刷しません。 • **常時印刷**：ポーリング受信を完了するたびに、ポーリングレポートを印刷します。 • **エラー時のみ印刷**：ポーリング受信に失敗した場合にのみ、ポーリングレポートを印刷します。
26	中継親局結果表	中継送信を実行した後に、どのように結果レポートを印刷するか選択します。 • **OFF**：中継局レポートを印刷しません。 • **常時印刷**：中継送信を完了するたびに中継局レポートを印刷します。 • **エラー時のみ印刷**：中継送信に失敗した場合にのみ中継局レポートを印刷します。 • **常時印刷（原稿付加）**：中継送信を完了するたびに、最初のページのイメージを添付した中継局レポートを印刷します。 • **エラー時のみ印刷（原稿付加）**：中継送信に失敗した場合にのみ、最初のページのイメージを添付した中継局レポートを印刷します。
27	機密受信	受信したファクスを出力せずに、機体内に保管する機密受信を設定します。 機密受信を使うことで、夜間や休日などの人がいない時間帯や不特定多数の人が立ち入る時間帯などに受信したファクスから情報が漏えいするのを防止できます。 • **有効**：機密受信を有効にします。 機密受信したファクスを印刷するため［回線1：パスワード］と［パスワードの確認］/［回線2：パスワード］*1と［パスワードの確認］*1を設定する必要があります。パスワードは、半角英数字と記号（! # ( ) * + , - . / : ; = ? @ $ ^ _ ` { | } ~ \ スペース）で20文字まで入力できます。 • **無効**：機密受信を無効にします。 • **週間予定**：機密受信を有効にするか無効にするかを曜日ごとに設定します。 機密受信を有効にする時間と無効にする時間を設定します。（24時間表示） - 終日機密受信を有効にしたい曜日には、無効/有効を 00:00/00:00 と設定します。 - 終日機密受信を無効にしたい曜日には、無効/有効を 00:00/24:00 と設定します。 機密受信したファクスを印刷するため［回線1：パスワード］と［パスワードの確認］/［回線2：パスワード］と［パスワードの確認］を設定する必要があります。パスワードは、半角英数字と記号（! # ( ) * + , - . / : ; = ? @ $ ^ _ ` { | } ~ \ スペース）で20文字まで入力できます。 * ここでは￥マークを「\（バックスラッシュ）」で表記しています。

＊1　お使いの機種によっては選択できません。

■ 共有フォルダに保管設定

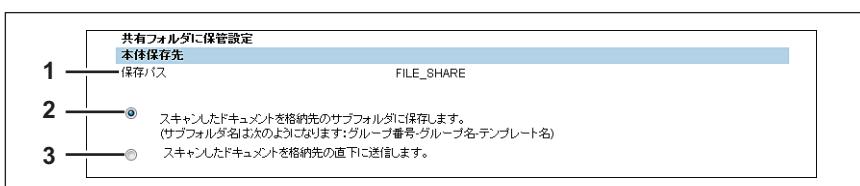
共有フォルダ保存設定をセットアップすることができます。

補 足

［共有フォルダに保管］サブメニューは、［管理者］タブの［セットアップ］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下を参照してください。
📖 P.25 「アクセスポリシーモード」
📖 P.150 「［セットアップ］項目説明一覧」

📖 P.202 「本体保存先の設定」
📖 P.202 「期間の設定」
📖 P.203 「宛先の設定」
📖 P.203 「フォルダ名の設定」
📖 P.204 「フォーマットの設定」
📖 P.204 「シングルページファイルの保存場所の設定」
📖 P.205 「シングルページファイルの構成の設定」
📖 P.205 「ファイル保存時のユーザ名とパスワード表示設定」
📖 P.205 「検索間隔の設定」
📖 P.206 「リモート1とリモート2の設定」
📖 P.209 「N/Wファクスの設定」
📖 P.209 「N/Wファクスの保管先の設定」

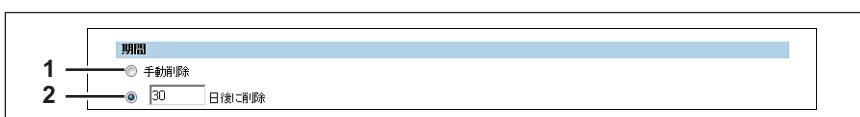
□ 本体保存先の設定

本機の共有フォルダのパスを確認することができます。共有フォルダは、Windowsネットワークから本機を参照して開くことができます。

	項目名	機能説明
1	保存パス	共有フォルダかUSBに保管操作でローカルフォルダを指定した場合にファイルが保存される本機の共有フォルダ名を表示します。
2	スキャンしたドキュメントを格納先のサブフォルダに保存します。	共有フォルダに「グループ番号-グループ名-テンプレート名」の名前のサブフォルダを作成してファイルを保存する場合に選択します。
3	スキャンしたドキュメントを格納先の直下に送信します。	共有フォルダ直下にファイルを保存する場合に選択します。

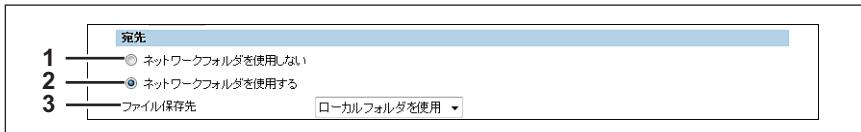
□ 期間の設定

保存期間の設定では、本機の共有フォルダに保存したファイルをどのように削除するか選択します。

注 意

ローカル保存時に作成されたフォルダは、そのフォルダ内のファイルが削除されて空になると自動的に削除されます。

	項目名	機能説明
1	手動削除	手動でスキャンファイルを削除します。このオプションを選択した場合は、共有フォルダに保存されたファイルは自動的に削除されません。
2	［　］日後に削除	指定した保存日数が経過すると、保存したファイルを自動的に削除します。このオプションを選択した場合は、ファイルを保存しておく日数を入力します。初期値は「30日」に設定されています。

□ 宛先の設定

保存先にネットワークフォルダを指定することを許可するか選択します。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。

	項目名	機能説明
1	ネットワークフォルダを使用しない	保存先にネットワークフォルダを指定することを許可しません。このオプションを選択した場合は、ユーザは本機の共有フォルダまたはUSBメディアにのみスキャンファイルを保存することができます。
2	ネットワークフォルダを使用する	保存先にネットワークフォルダを指定することを許可します。このオプションを選択した場合は、リモート1とリモート2の設定を行い、ユーザが保存先にネットワークフォルダをどのように選択するのかを設定します。
3	ファイル保存先	操作パネルの［共有フォルダに保管］画面を表示したときにデフォルトで選択される保存先を選択します。 • **ローカルフォルダを使用**：ローカルフォルダに保存します。 • **リモート1**：リモート1に設定されているフォルダに保存します。 • **リモート2**：リモート2に設定されているフォルダに保存します。

□ フォルダ名の設定

ファイルの保存時に自動的に作成されるフォルダの名前に、機体やユーザの情報を付けるかを選択します。

	項目名	機能説明
1	フォルダ名の付加	ファイル保存時に作成されるフォルダ名の付加情報を選択します。 • **無効**：情報を付加しません。 • **マシン名を付加**：本機のNetBIOS名を付加します。 • **ユーザ名を付加**：ユーザ認証で設定されたユーザ名を付加します。

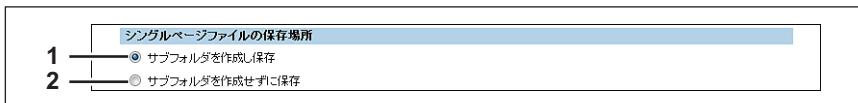
□ フォーマットの設定

スキャン結果を共有フォルダやUSBに保存する際のファイル名の付け方を設定します。

	項目名	機能説明
1	ファイル名フォーマット	ファイル名のフォーマットを選択します。ファイル名、日付、ページ番号の各情報が、選択したフォーマットのとおりに付加されます。なお、この設定の内容は、Eメールに添付するファイル名にも適用されます。 • **[ファイル名] - [日付] - [ページ]** • **[ファイル名] - [ページ] - [日付]** • **[日付] - [ファイル名] - [ページ]** • **[日付] - [ページ] - [ファイル名]** • **[ページ] - [ファイル名] - [日付]** • **[ページ] - [日付] - [ファイル名]** • **[ファイル名] _ [日付] - [ページ]**
2	日付フォーマット	[ファイル名フォーマット] で選択したファイル名の「日付」部分の付け方を選択します。なお、この設定の内容は、Eメールに添付するファイル名にも適用されます。 • **[YYYY] [MM] [DD] [HH] [mm] [SS]**：年（4桁）、月、日、時、分、秒を付加します。 • **[YY] [MM] [DD] [HH] [mm] [SS]**：年（2桁）、月、日、時、分、秒を付加します。 • **[YYYY] [MM] [DD]**：年（4桁）、月、日を付加します。 • **[YY] [MM] [DD]**：年（2桁）、月、日を付加します。 • **[HH] [mm] [SS]**：時、分、秒を付加します。 • **[YYYY] [MM] [DD] [HH] [mm] [SS] [mm0]**：年（4桁）、月、日、時、分、秒、乱数（3桁：乱数2桁と0）を付加します。
3	ページ番号フォーマット	[ファイル名フォーマット] で選択したファイル名の「ページ」部分に適用されるページ番号の桁数を、3～6桁の範囲で選択します。なお、この設定の内容は、Eメールに添付するファイル名にも適用されます。初期値は「4桁」に設定されています。
4	サブIDフォーマット	ファイルの保存時、すでに同じ名前のファイルが保存先に存在していた場合、本機はそのファイル名の末尾に自動的にサブID（識別番号）を付加して保存します。このサブIDの桁数を、[自動] または4～6桁の範囲で選択します。なお、初期設定では [自動] が設定されており、ファイル名の状況に合わせて任意の桁数（4～6桁）の番号が入力されます。

□ シングルページファイルの保存場所の設定

スキャン時にマルチ／スキャン設定で [シングル] を選択すると、スキャン結果はシングルページのファイルとして保存されます。この設定では、シングルページのファイルを保存する際に、サブフォルダを作成して保存するかどうかを選択します。

シングルページファイルの保存場所
1 サブフォルダを作成し保存
2 サブフォルダを作成せずに保存

	項目名	機能説明
1	サブフォルダを作成し保存	指定した保存先にサブフォルダを作成し、その中にファイルを保存します。
2	サブフォルダを作成せずに保存	指定した保存先にそのままファイルを保存します。

□ シングルページファイルの構成の設定

スキャン時にマルチ／スキャン設定で［シングル］を選択すると、スキャン結果はシングルページのファイルとして保存されます。この設定では、シングルページで保存されるファイルのページ構成を選択します。なお、この設定の内容は、Eメールに添付するファイルにも適用されます。

	項目名	機能説明
1	スキャンした1ページが1つのファイルとなります	原稿を1ページスキャンするごとに、1つのファイルとして保存します。たとえば、1枚の両面原稿をスキャンする場合は、表面を1ファイル、裏面を1ファイルとして保存します。
2	スキャンした原稿のとおりにファイル化されます	原稿を1枚スキャンするごとに、1つのファイルとして保存します。たとえば、1枚の両面原稿をスキャンする場合は、表面と裏面の2ページを1ファイルとして保存します。

□ ファイル保存時のユーザ名とパスワード表示設定

ユーザ認証機能が有効の場合、ユーザ認証に使用しているユーザ名とパスワードを、ネットワークフォルダ（リモート1／2で指定したフォルダ）に保存する際の［ログインユーザ名］と［パスワード］にも自動的に入力して優先的に使用するかどうかを設定します。この設定はリモート1またはリモート2の保存先設定が、'ユーザがネットワークフォルダを指定することを認める'のときに適用されます。

	項目名	機能説明
1	デバイスのユーザ名とパスワード	ログイン中のユーザ名とパスワードは使用しません。スキャン時に必要に応じて［ログインユーザ名］と［パスワード］を入力してください。
2	ログインユーザ名とパスワード（テンプレート展開時はテンプレート登録を優先）	ログイン中のユーザ名とパスワードが自動的に使用されます。ただし、テンプレートを使用した場合は、テンプレートに登録されているユーザ名とパスワードが自動的に使用されます。
3	ログインユーザ名とパスワード（テンプレート展開時もログインユーザとパスワードを優先）	ログイン中のユーザ名とパスワードが自動的に使用されます。テンプレートを使用した場合も、ログイン中のユーザ名とパスワードが使用されます。

□ 検索間隔の設定

共有フォルダに保存されたファイルの保存期間を検索するタイミングを設定します。なお、この設定の内容は、ファイリングボックスに保存されたファイルにも適用されます。

	項目名	機能説明
1	期限切れファイル［　］時間	指定した時間が経過するごとにファイルの保存期間の検索を行います。1～24時間の範囲で設定します。初期設定では12時間に設定されています。
	補 足 共有フォルダ内のファイルの保存期間や、期限が切れたファイルを削除するかどうかは、以下の項目で設定することができます。 P.202「期間の設定」	

8

［管理者］タブ

□ リモート1とリモート2の設定

ネットワークフォルダへの保存を許可する場合に、適用されるネットワークフォルダの保存先の設定を行います。リモート1およびリモート2の2つのネットワークフォルダを指定することができます。リモート1、リモート2の設定項目は同じです。ハードディスクが装着されていない場合、リモート1またはリモート2のいずれかのネットワークフォルダを指定することができます。

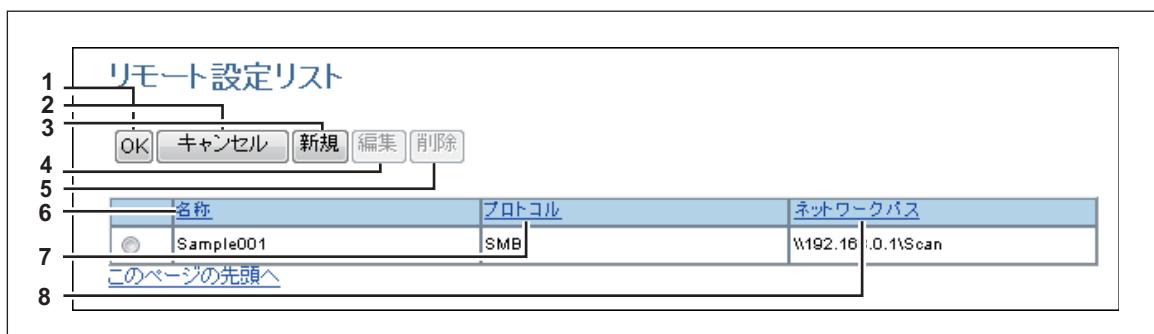
注 意

保存先のネットワークフォルダは、共有設定されている必要があります。

	項目名	機能説明
1	［リモート1］/［リモート2］	利用するリモートを選択します。
2	次のネットワークフォルダに保存する	ネットワークフォルダへの保存を選択した場合に、保存されるネットワークフォルダを設定します。ユーザに任意のネットワークフォルダの設定を許可する場合は、［ユーザがネットワークフォルダを指定することを認める］を選択します。 **［リモート設定リスト］ボタン**：リモート1およびリモート2から選択できるネットワークフォルダの保存先リストを設定します。設定した設定リストを操作パネルから選択する場合は、［ユーザがネットワークフォルダを指定することを認める］を選択する必要があります。 P.207 「［リモート設定リスト］画面」
3	プロトコル	スキャンファイルをネットワークフォルダに転送するときに使用するプロトコルを選択します。 • **SMB**：SMBプロトコルを使用してスキャンファイルをネットワークフォルダに転送します。 • **FTP**：スキャンファイルをFTPサーバーに転送します。 • **FTPS**：スキャンファイルをFTP over SSLでFTPサーバーに転送します。 • **NetWare IPX/SPX**：スキャンファイルをIPX/SPXプロトコルを介してNetWareサーバーに転送します。 • **NetWare TCP/IP**：スキャンファイルをTCP/IPプロトコルを介してNetWareサーバーに転送します。
4	サーバー名称	プロトコルでFTPを選択した場合は、スキャンファイルを転送するFTPサーバー名またはIPアドレスを入力します。たとえば、スキャンファイルをFTPサーバーの「ftp://192.168.1.1/user/scanned」というFTPフォルダに転送する場合は、このボックスに「192.168.1.1」と入力します。 プロトコルでNetWare IPX/SPXを選択した場合は、スキャンファイルを転送するNetWareサーバー名または、Tree/Context（NDSが使用可能な環境の場合）を入力します。 プロトコルでNetWare TCP/IPを選択した場合は、スキャンファイルを転送するNetWareサーバーのIPアドレスを入力します。 半角英数字と記号で64文字まで入力できます。
5	コマンドポート	プロトコルでFTPを選択した場合に、コマンド実行に使用するポート番号を入力します。通常は、初期状態で入力された「-」のままにします。「-」にした場合は、ネットワークの設定ページの［FTPクライアント］で設定したポート番号（初期値）が適用されます。初期設定のポート番号とは別のポート番号を指定したい場合のみこの値を変更します。 数字と「-」（ハイフン）を使用して、0から65535までの値を入力できます。初期値は「-」に設定されています。

	項目名	機能説明
6	ネットワークパス	プロトコルにSMBを選択した場合は、ネットワークフォルダへのネットワークパスを入力します。たとえば、SMB サーバー名が「Client01」というコンピュータの「users￥scanned」というフォルダを指定する場合は、「￥￥Client01￥users￥scanned」と入力します。 プロトコルにFTPを選択した場合は、指定したFTPサーバーのディレクトリを入力します。たとえば、FTPサーバーの「ftp://192.168.1.1/user/scanned」というフォルダを指定する場合は、「user/scanned」と入力します。 プロトコルにNetWare IPX/SPXまたはNetWare TCP/IPを選択した場合は、指定したNetWareサーバーのディレクトリを入力します。たとえば、NetWareサーバーの「sys￥scan」というフォルダを指定する場合は、「￥sys￥scan」と入力します。 半角英数字と記号で128文字まで入力できます。
7	ログインユーザ名	必要に応じて、SMBサーバー、FTPサーバー、またはNetWareサーバーにアクセスするためのログインユーザ名を入力します。プロトコルにFTPを選択した場合、このボックスを空欄にすると、匿名でのログインと判断されます。 「<>":;」以外の半角英数字と記号で32文字まで入力できます。スペース1文字のみのユーザ名は使えません。
8	パスワード	必要に応じて、SMBサーバー、FTPサーバー、またはNetWareサーバーにアクセスするためのパスワードを入力します。
9	パスワードの確認	確認のためにパスワードを再入力します。半角英数字と記号、スペースを含み32文字まで入力できます。スペース1文字のみも可能です。
10	ユーザがネットワークフォルダを指定することを認める	保存先のネットワークフォルダを指定することをユーザに許可します。［リモート設定リスト］で保存先リストを設定している場合、ネットワークフォルダをリスト一覧から選択することができます。ファイルを保存するネットワークフォルダを固定で設定する場合は、［次のネットワークフォルダに保存する］を選択します。
	補 足 どちらか一方のネットワークフォルダをユーザに指定することを認める場合は、ネットワークフォルダの保存先を設定していないリモート1またはリモート2の［ユーザがネットワークフォルダを指定することを認める］を選択します。	

［リモート設定リスト］画面

リモート1およびリモート2から選択できるネットワークフォルダの保存先リストを設定します。

	項目名	機能説明
1	［OK］ボタン	リモート設定リストを登録します。
2	［キャンセル］ボタン	リモート設定リストの登録を中止します。
3	［新規］ボタン	新しいリモート設定を設定します。 P.208 「［リモート設定］画面」
4	［編集］ボタン	リモート設定リスト一覧で選択している項目を編集します。 P.208 「［リモート設定］画面」
5	［削除］ボタン	リモート設定リスト一覧で選択している項目を削除します。
6	名称	リモート設定の名称を表示します。
7	プロトコル	リモート設定のプロトコルを表示します。
8	ネットワークパス	リモート設定のネットワークパスを表示します。

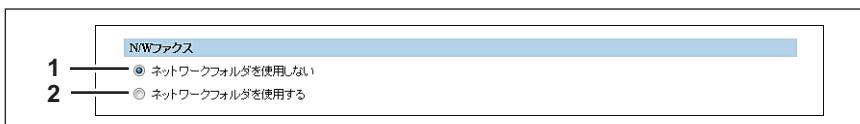
［リモート設定］画面

リストに登録するネットワークフォルダの保存先の設定を行います。

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	設定したネットワークフォルダの保存先を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	設定を中止します。
3	名称	ネットワークフォルダの保存先の名称を入力します。
4	プロトコル	スキャンファイルをネットワークフォルダに転送するときに使用するプロトコルを選択します。 • **SMB**：SMBプロトコルを使用してスキャンファイルをネットワークフォルダに転送します。 • **FTP**：スキャンファイルをFTPサーバーに転送します。 • **FTPS**：スキャンファイルをFTP over SSLでFTPサーバーに転送します。 • **NetWare IPX/SPX**：スキャンファイルをIPX/SPXプロトコルを介してNetWareサーバーに転送します。 • **NetWare TCP/IP**：スキャンファイルをTCP/IPプロトコルを介してNetWareサーバーに転送します。
5	サーバー名称	プロトコルでFTPを選択した場合は、スキャンファイルを転送するFTPサーバー名またはIPアドレスを入力します。たとえば、スキャンファイルをFTPサーバーの「ftp://192.168.1.1/user/scanned」というFTPフォルダに転送する場合は、このボックスに「192.168.1.1」と入力します。 プロトコルでNetWare IPX/SPXを選択した場合は、スキャンファイルを転送するNetWareサーバー名または、Tree/Context（NDSが使用可能な環境の場合）を入力します。 プロトコルでNetWare TCP/IPを選択した場合は、スキャンファイルを転送するNetWareサーバーのIPアドレスを入力します。 半角英数字と記号で64文字まで入力できます。
6	コマンドポート	プロトコルでFTPを選択した場合に、コマンド実行に使用するポート番号を入力します。通常は、初期状態で入力された「-」のままにします。「-」にした場合は、ネットワークの設定ページの［FTPクライアント］で設定したポート番号（初期値）が適用されます。初期設定のポート番号とは別のポート番号を指定したい場合のみこの値を変更します。 数字と「-」（ハイフン）を使用して、0から65535までの値を入力できます。初期値は「-」に設定されています。
7	ネットワークパス	プロトコルにSMBを選択した場合は、ネットワークフォルダへのネットワークパスを入力します。たとえば、SMBサーバー名が「Client01」というコンピュータの「users￥scanned」というフォルダを指定する場合は、「￥￥Client01￥users￥scanned」と入力します。 プロトコルにFTPを選択した場合は、指定したFTPサーバーのディレクトリを入力します。たとえば、FTPサーバーの「ftp://192.168.1.1/user/scanned」というフォルダを指定する場合は、「user/scanned」と入力します。 プロトコルにNetWare IPX/SPXまたはNetWare TCP/IPを選択した場合は、指定したNetWareサーバーのディレクトリを入力します。たとえば、NetWareサーバーの「sys￥scan」というフォルダを指定する場合は、「￥sys￥scan」と入力します。 半角英数字と記号で128文字まで入力できます。

	項目名	機能説明
8	ログインユーザ名	必要に応じて、SMBサーバー、FTPサーバー、またはNetWareサーバーにアクセスするためのログインユーザ名を入力します。プロトコルにFTPを選択した場合、このボックスを空欄にすると、匿名でのログインと判断されます。 「<>":;」以外の半角英数字と記号で32文字まで入力できます。スペース１文字のみのユーザ名は使えません。
9	パスワード	必要に応じて、SMBサーバー、FTPサーバー、またはNetWareサーバーにアクセスするためのパスワードを入力します。
10	パスワードの確認	確認のためにパスワードを再入力します。半角英数字と記号、スペースを含み32文字まで入力できます。スペース1文字のみも可能です。

□ N/Wファクスの設定

N/W-Faxドライバでファイル保存機能をオンにして文書をファクス送信した場合に、保存先にネットワークフォルダを指定することを許可するか選択します。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。

	項目名	機能説明
1	ネットワークフォルダを使用しない	N/W-Faxドライバのファイル保存機能をオンにして送信した文書の保存先にネットワークフォルダを指定することを許可しません。このオプションを選択した場合は、ユーザは本機の共有フォルダにのみN/W-Faxドライバを使って送信した文書を保存することができます。
2	ネットワークフォルダを使用する	N/W-Faxドライバのファイル保存機能をオンにして送信した文書を、ネットワークフォルダに保存することを許可します。選択した場合は、［N/Wファクスの保管先］で、文書を保存するネットワークフォルダを設定します。

□ N/Wファクスの保管先の設定

N/W-Faxドライバのファイル保存機能でネットワークフォルダへの保存を許可する場合に、適用されるネットワークフォルダの保存先の設定を行います。

	項目名	機能説明
1	チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、ネットワークパスやサーバー名称を空欄のまま保存した場合、入力を促すポップアップ画面が表示されます。
2	プロトコル	N/W-Faxドライバで送信する文書をネットワークフォルダに転送するときに使用するプロトコルを選択します。 • **SMB**：SMBプロトコルを使用して文書をネットワークフォルダに転送します。 • **FTP**：文書をFTPサーバーに転送します。 • **FTPS**：スキャンファイルをFTP over SSLでFTPサーバーに転送します。 • **NetWare　IPX/SPX**：スキャンファイルをIPX/SPXプロトコルを介してNetWareサーバーに転送します。 • **NetWare TCP/IP**：スキャンファイルをTCP/IPプロトコルを介してNetWareサーバーに転送します。

	項目名	機能説明
3	サーバー名称	プロトコルでFTPを選択した場合は、文書を転送するFTPサーバー名またはIPアドレスを入力します。たとえば、文書をFTPサーバーの「ftp://192.168.1.1/user/scanned」というFTPフォルダに転送する場合は、このボックスに「192.168.1.1」と入力します。 プロトコルでNetWare IPX/SPXを選択した場合は、スキャンファイルを転送するNetWareサーバー名または、Tree/Context（NDSが使用可能な環境の場合）を入力します。 プロトコルでNetWare TCP/IPを選択した場合は、スキャンファイルを転送するNetWareサーバーのIPアドレスを入力します。
4	コマンドポート	プロトコルでFTPを選択した場合に、コマンド実行に使用するポート番号を入力します。通常は、初期状態で入力された「-」のままにします。「-」にした場合は、ネットワークの設定ページの［FTPクライアント］で設定したポート番号（初期値）が適用されます。初期設定のポート番号とは別のポート番号を指定したい場合のみこの値を変更します。
5	ネットワークパス	プロトコルにSMBを選択した場合は、ネットワークフォルダへのネットワークパスを入力します。たとえば、SMBサーバー名が「Client01」というコンピュータの「users￥scanned」というフォルダを指定する場合は、「￥￥Client01￥users￥scanned」と入力します。 プロトコルにFTPを選択した場合は、指定したFTPサーバーのディレクトリを入力します。たとえば、FTPサーバーの「ftp://192.168.1.1/user/scanned」というフォルダを指定する場合は、「user/scanned」と入力します。 プロトコルにNetWare IPX/SPXまたはNetWare TCP/IPを選択した場合は、指定したNetWareサーバーのディレクトリを入力します。たとえば、NetWareサーバーの「sys￥scan」というフォルダを指定する場合は、「￥sys￥scan」と入力します。
6	ログインユーザ名	必要に応じて、SMBサーバー、FTPサーバー、またはNetWareサーバーにアクセスするためのログインユーザ名を入力します。プロトコルにFTPを選択した場合、このボックスを空欄にすると、匿名でのログインと判断されます。 「<>":;」以外の半角英数字と記号で32文字まで入力できます。スペース１文字のみのユーザ名は使えません。
7	パスワード	必要に応じて、SMBサーバー、FTPサーバー、またはNetWareサーバーにアクセスするためのパスワードを入力します。パスワードにはスペースも入力可能です。
8	パスワードの確認	確認のためにパスワードを再入力します。

■ Eメール設定

Eメール設定をセットアップすることができます。この設定では、Eメール送信操作に必要な設定を行います。

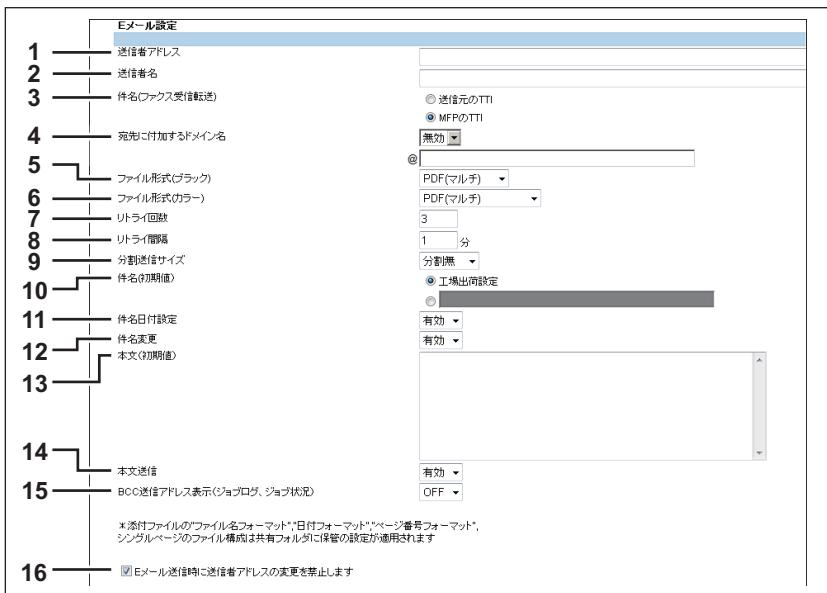
補足

［Eメール設定］サブメニューは、［管理者］タブの［セットアップ］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下を参照してください。
📖 P.25 「アクセスポリシーモード」
📖 P.150 「［セットアップ］項目説明一覧」

注意

設定を変更しても、設定した内容がすぐに本体タッチパネルに反映されないことがあります。設定を変更した場合は、操作パネルの［リセット］ボタンを押すか、オートクリアされると反映されます。

□ Eメール設定

Eメール文書に適用する送信者アドレス、送信者名、ファイル形式、分割送信サイズ、本文を設定します。

	項目名	機能説明
1	送信者アドレス	本機のEメールアドレスを入力します。
	注意 Eメール送信を有効にするには、［送信者アドレス］を入力する必要があります。ただし、内部認証以外のユーザ管理設定が有効になっている場合は、本機にログインしたユーザの送信者アドレスが自動的に設定されます。ユーザ管理設定の詳細については、以下の説明を参照してください。 📖 P.149 「［管理者］タブ」	
2	送信者名	本機の名前を入力します。
3	件名（ファクス受信転送）	ファクス受信転送時に件名として使用するTTIを選択します。
4	宛先に付加するドメイン名	宛先を入力中に、ドメイン名を自動的に付加するかを設定します。 • **有効**：付加します。 • **無効**：付加しません。 テキストボックスに、付加するドメイン名を入力してください。半角英数字と記号（=；#￥を除く）で128文字まで入力できます。

	項目名	機能説明
5	ファイル形式（ブラック）	ブラックモードでスキャン時に、Eメール送信操作で送信されるスキャンイメージのファイル形式を選択します。 • **TIFF(マルチ)**：スキャンイメージを複数ページのTIFFファイルとして保存します。 • **TIFF(シングル)**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのTIFFファイルとして保存します。 • **PDF(マルチ)**：スキャンイメージを複数ページのPDFファイルとして保存します。 • **PDF(シングル)**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDFファイルとして保存します。 • **XPS(マルチ)**：スキャンイメージを複数ページのXPSファイルとして保存します。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。 • **XPS(シングル)**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのXPSファイルとして保存します。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。 • **PDF/A(マルチ)**：スキャンイメージを複数ページのPDF/Aファイルとして保存します。 • **PDF/A(シングル)**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDF/Aファイルとして保存します。
6	ファイル形式（カラー）	カラーモードでスキャン時に、Eメール送信操作で送信されるスキャンイメージのファイル形式を選択します。 • **TIFF(マルチ)**：スキャンイメージを複数ページのTIFFファイルとして保存します。 • **TIFF(シングル)**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのTIFFファイルとして保存します。 • **PDF(マルチ)**：スキャンイメージを複数ページのPDFファイルとして保存します。 • **PDF(シングル)**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDFファイルとして保存します。 • **高圧縮PDF(マルチ)**：スキャンイメージを複数ページの高圧縮PDFファイルとして保存します。画質よりファイルサイズの縮小を優先したい場合に適しています。 • **高圧縮PDF(シングル)**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルの高圧縮PDFファイルとして保存します。画質よりファイルサイズの縮小を優先したい場合に適しています。 • **XPS(マルチ)**：スキャンイメージを複数ページのXPSファイルとして保存します。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。 • **XPS(シングル)**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのXPSファイルとして保存します。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。 • **JPEG**：スキャンイメージをJPEGファイルとして保存します。 • **PDF/A(マルチ)**：スキャンイメージを複数ページのPDF/Aファイルとして保存します。 • **PDF/A(シングル)**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDF/Aファイルとして保存します。
	補 足 XPSファイルで保存したデータは、お使いのコンピュータがWindows Vista/Windows Server 2003 SP2以上に.NET Framework 3.0がインストールされた環境で使用することができます。	
7	リトライ回数	インターネットへのEメール送信が正常に完了できなかった場合に、再送信を試す回数を入力します。初期値は「3回」に設定されています。
8	リトライ間隔	インターネットへのEメール送信が正常に完了できなかった場合に、再送信を試す間隔を分単位で入力します。初期値は「1分」に設定されています。
	注 意 ［リトライ回数］および［リトライ間隔］の設定を変更した場合、インターネットファクス設定の［リトライ回数］および［リトライ間隔］も同様に変更されます。 P.215 「インターネットファクス設定」	
9	分割送信サイズ	メッセージの分割サイズを選択します。
10	件名（初期値）	Eメールの件名を工場出荷時の設定にするか任意の件名を設定するか選択します。 • **工場出荷設定**：件名を工場出荷時の設定にします。 • **<入力ボックス>**：任意の件名を入力します。
11	件名日付設定	Eメールの件名に日時を付加するか選択します。ここでの設定が初期値となります。 • **有効**：件名に日時を付加します。 • **無効**：件名に日時を付加しません。
12	件名変更	Eメールの件名を編集可能にするか選択します。 • **有効**：ユーザがEメールの件名を編集することができます。 • **無効**：ユーザはEメールの件名を編集できません。

	項目名	機能説明
13	本文（初期値）	タッチパネル画面からユーザがEメール送信操作を実行するときに、［本文］ボックスに自動的に入力される標準の本文を設定します。この本文は、ユーザがEメール送信操作を行うときに、自由に変更することができます。
14	本文送信	本文を送信するかしないかを選択します。
15	BCC送信アドレス表示 （ジョブログ、ジョブ状況）	スキャンログ、スキャンジョブに表示されるBCC送信の宛先の表示方法を設定します。 • **ON**：BCC送信の宛先を表示しないで、代わりに［Bcc宛先］と表示します。 • **OFF**：Bcc送信の宛先を表示します。
16	Eメール送信時に送信者アドレスの変更を禁止します	送信者のアドレスを変更できないようにする場合は選択します。

□ URL送信設定

スキャンした画像をEメールで送信する際、ファイルを添付せず、ファイルの保存場所のURLを送信するかを設定します。

	項目名	機能説明
1	URL送信	スキャンデータの保存場所をURLで送信する機能を使うかを設定します。 • **有効**：保存場所をURLで送信します。 • **無効**：ファイルを添付して送信します。
	補 足 • スキャンデータはMFPローカルに保存されます。 • URLで送信する場合、Eメールには、保存場所へのリンクおよび保存期間が記載されます。	
2	添付ファイルからURLへの切り替えサイズ（1-100）	ファイルを添付する最大サイズを設定します。1MBから100MBまで設定できます。ファイルの大きさにかかわらず、ファイルの保存場所をURLで送信する場合は、［常にURLで送信］を選択します。最大サイズを設定すると、設定されたサイズ以下のファイルは、Eメールに添付して送信します。設定されたサイズより大きいファイルは、保存場所をURLで送信します。
3	ダウンロードファイル保存期間	URLで送信したファイルの保存期間を設定します。保存期間に制限を設けない場合は、［無制限］を選択します。定期的に自動削除する場合は、削除するまでの期間を設定してください。
	補 足 MFPローカルが一杯で保存できない場合はエラーになります。定期的に保存されたファイルを削除してください。手動で削除する場合は、共有フォルダ内の全てのスキャンデータが削除されます。 P.308 「ファイル削除」	
4	期限切れダウンロードファイルの検索間隔	保存期間の期限切れを確認する間隔を設定します。

	項目名	機能説明
5	URLで送信するホスト名のフォーマット	ホスト名のフォーマットを選択します。 • **IPアドレス**：本機に設定されているIPアドレスを使用します。 • **ホスト名（FQDN）**：本機に設定されているホスト名とドメイン名を組み合わせたFQDNを使用します。 • **NetBIOS名**：本機に設定されているNetBIOS名を使用します。
	注 意 • ［ホスト名（FQDN）］を選択する場合は、DDNSのドメイン名を設定してください。DDNSのドメイン名が設定されていない場合、ホスト名のフォーマットはIPアドレスが使用されます。また、コンピュータからURLに接続できるようにするため、本機のFQDNはDNSサーバーで名前解決してください。 P.166 「DDNSの設定」 • ［NetBIOS名］は本機に設定されているNetBIOS名（SMBの［NetBIOS名］）を指します。SMBの［SMBサーバプロトコル］が［無効］の場合、ホスト名のフォーマットはIPアドレスが使用されます。 P.168 「SMBの設定」	

■ インターネットファクス設定

インターネットファクス設定をセットアップすることができます。この設定では、インターネットファクス操作に必要な設定を行います。

補 足

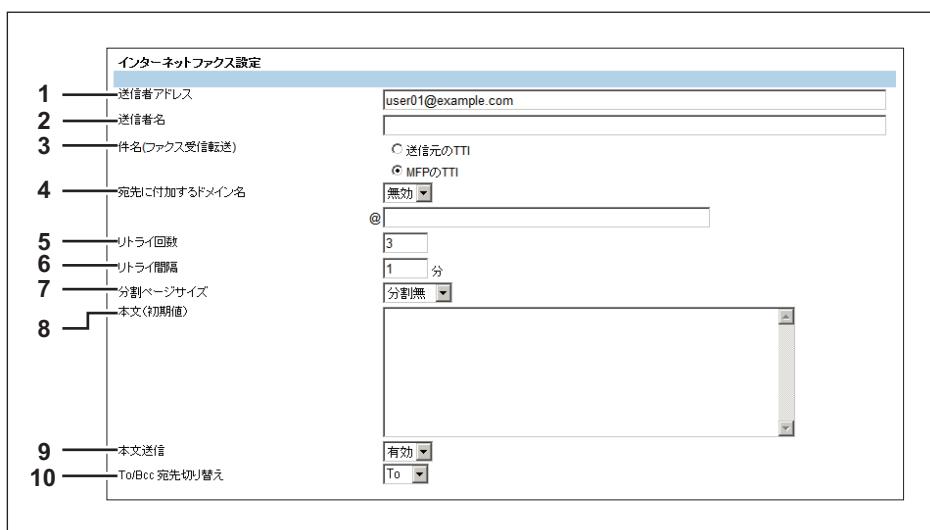
［インターネットファクス］サブメニューは、［管理者］タブの［セットアップ］メニューからアクセスできます。アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下を参照してください。

P.25「アクセスポリシーモード」
P.150「［セットアップ］項目説明一覧」

注 意

設定を変更しても、設定した内容がすぐに本体タッチパネルに反映されないことがあります。設定を変更した場合は、操作パネルの［リセット］ボタンを押すか、オートクリアされると反映されます。

□ インターネットファクス設定

インターネットファクスに適用する送信者アドレス、送信者名、分割ページサイズ、初期値として設定される本文、および本文を送信するかどうかを設定します。

	項目名	機能説明
1	送信者アドレス	本機のEメールアドレスを入力します。
	注 意 インターネットファクス送信を有効にするには、［送信者アドレス］を入力する必要があります。ただし、内部認証以外のユーザ管理設定が有効になっている場合は、本機にログインしたユーザの送信者アドレスが自動的に設定されます。ユーザ管理設定の詳細については、以下の説明を参照してくだい。 P.149「［管理者］タブ」	
2	送信者名	本機の名前を入力します。
3	件名（ファクス受信転送）	ファクス受信転送時に件名として使用するTTIを選択します。
4	宛先に付加するドメイン名	宛先を入力中に、ドメイン名を自動的に付加するかを設定します。 有効：付加します。 無効：付加しません。 テキストボックスに、付加するドメイン名を入力してください。半角英数字と記号（=；#￥を除く）で128文字まで入力できます。
5	リトライ回数	インターネットへのインターネットファクス送信が正常に完了できなかった場合に、再送信を試す回数を入力します。初期値は「3回」に設定されています。

	項目名	機能説明
6	リトライ間隔	インターネットへのインターネットファクス送信が正常に完了できなかった場合に、再送信を試す間隔を分単位で入力します。初期値は「1分」に設定されています。
	注 意 ［リトライ回数］および［リトライ間隔］の設定を変更した場合、Eメール設定の［リトライ回数］および［リトライ間隔］も同様に変更されます。 📖 P.211 「Eメール設定」	
7	分割送信サイズ	メッセージの分割サイズを選択します。
8	本文（初期値）	タッチパネル画面からユーザがインターネットファクス操作を実行するときに、［本文］ボックスに自動的に入力される標準の本文を設定します。この本文は、ユーザがインターネットファクス操作を行うときに、目的の本文に変更することができます。
	注 意 インターネットファクスの送信および受信に日本向け東芝複合機が使われる場合、本文は印刷されません。	
9	本文送信	本文を送信するかしないかを選択します。
10	To/Bcc宛先切り替え	インターネットファクスの宛先をToのみまたはBccのみで送信します。
	注 意 宛先をBccに設定した場合、Toが空欄になります。メールサーバー、メーラー、セキュリティソフトの設定によっては、迷惑メールとして処理されることがありますので、迷惑メールの設定をご確認ください。	

■ プリンタ/ファイリングボックス設定

補 足

［プリンタ/ファイリングボックス］サブメニューは、［管理者］タブの［セットアップ］メニューからアクセスできます。アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下を参照してください。

📖 P.25 「アクセスポリシーモード」
📖 P.150 「［セットアップ］項目説明一覧」

□ プリンタ/ファイリングボックスジョブの強制続行設定

	項目名	機能説明
1	給紙元自動変更	原稿サイズと給紙元の用紙サイズが異なった場合に、自動的に原稿サイズに合わせて給紙元を変更するかどうか設定します。 • **ON**：給紙元を変更してジョブを続行します。 • **<u>OFF</u>**：ジョブを停止します。
2	異方向用紙の許可 *1	原稿の向きと給紙元の用紙の向きが異なった場合に、異なる方向の用紙にコピーするかどうか設定します。 • **ON**：異方向の用紙へのコピーを許可してジョブを続行します。 • **<u>OFF</u>**：ジョブを停止します。
3	ジョブ強制続行（排紙先設定違い）	排紙先の指定が間違っている場合に、ジョブを強制的に続行するかどうか設定します。 • **ON**：指定の排紙先に印刷します。 • **<u>OFF</u>**：ジョブを停止します。
4	排紙トレイ自動切替（カスケード印刷）	自動的に排紙トレイを切り替えるかどうか設定します。 • **ON**：排紙トレイを自動的に切り替えてジョブを続行します。 • **<u>OFF</u>**：ジョブを停止します。

	項目名	機能説明
5	ステイプル針無し時の印刷中断	ステイプルの針がなくなったときに印刷を中断するかどうか設定します。 • **ON**：ステイプルの針がなくなったときは印刷を中断します。 • **OFF**：ステイプルの針がなくなったときでも印刷を中断しません。
6	パンチ屑フル時の印刷継続 *1	パンチ屑がフルになったとき印刷を継続するかどうか設定します。 • **ON**：パンチ屑がフルになったときでも印刷を継続します。 • **OFF**：パンチ屑がフルになったときは印刷を中断します。

＊1　お使いの機種によっては選択できません。

■ プリンタ設定

プリンタの動作方法とRaw印刷ジョブに適応するプリンタオプションを設定することができます。

補 足

［プリンタ］サブメニューは、［管理者］タブの［セットアップ］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下を参照してください。
📖 P.25 「アクセスポリシーモード」
📖 P.150 「［セットアップ］項目説明一覧」

📖 P.218 「一般設定」
📖 P.219 「Raw印刷ジョブ印刷初期値設定」
📖 P.220 「RAW印刷ジョブ設定」

□ 一般設定

印刷ジョブをキューに保存する日数など、プリンタ関連の機能を設定します。

	項目名	機能説明
1	プライベート印刷、ホールド印刷、お試し印刷、無効な印刷の保持期間	プライベート印刷、ホールド印刷およびお試し印刷ジョブをどのくらいの期間保存するか選択します。期間は、1～12時間または1～30日の範囲で選択できます。また、［無期限］を選択し、キューにあるジョブを手動で削除するまで保存することもできます。初期値は「14日」に設定されています。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。
2	LT<-->A4/LD<-->A3 (LT<-->A4) *1	印刷ジョブに設定された用紙サイズがセットされていない場合に、自動的に異なる用紙に印刷するか選択します。［有効］を選択した場合、たとえば、レターサイズに設定された印刷ジョブをA4用紙に印刷することができます。［無効］を選択した場合は、印刷ジョブに設定されているサイズと同じサイズの用紙をカセットにセットするようメッセージが表示されます。初期値は「有効」に設定されています。
3	A4ワイド印刷モード（PCL）	PCLの印刷ジョブをA4用紙に印刷する場合、印刷範囲の横幅を広くするかを選択します。［有効］を選択した場合、用紙向きが縦で約3.5 mm、横で約1.5 mm印刷範囲の横幅が広がり、1行当たりに印刷される内容を増やすことができます。初期値は「無効」に設定されています。
	注 意 この項目は、一部の機種のみ使用できます。	
4	プリント制限	印刷ジョブに応じて、印刷を制限するか選択します。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。 • **なし**：すべてのデータを印刷します。 • **プライベート印刷限定**：プライベート印刷された印刷ジョブのみ印刷します。 • **ホールド印刷限定**：ホールド印刷された印刷ジョブのみ印刷します。 • **プライベート / ホールド印刷限定**：プライベート印刷またはホールド印刷された印刷ジョブのみ印刷します。

＊1　お使いの機種によっては選択できません。

□ Raw印刷ジョブ印刷初期値設定

LPRキューが指定されていないRaw印刷ジョブ、または指定したLPRキューが存在しないRaw印刷ジョブに適用される印刷設定を設定します。

注 意

この設定は、一部の機種のみ使用できます。

補 足

Raw印刷ジョブの設定は、LPRキューを追加してLPRキューごとに設定することもできます。

📖 P.220 「RAW印刷ジョブ設定」

	項目名	機能説明
1	Raw印刷ジョブ__両面印刷	Raw印刷ジョブを両面印刷するか選択します。
2	Raw印刷ジョブ__用紙サイズ	Raw印刷ジョブに適用する標準の用紙サイズを選択します。
3	Raw印刷ジョブ__用紙タイプ	Raw印刷ジョブに適用する標準の用紙の種類を選択します。
4	Raw印刷ジョブ__用紙向き	Raw印刷ジョブに適用する標準の印刷の向きを選択します。
5	Raw印刷ジョブ__ステイプル	Raw印刷ジョブをステイプル留めするか選択します。
6	Raw印刷ジョブ__排紙トレイ	Raw印刷ジョブに適用する標準の排紙トレイを選択します。Novell、UNIX、WindowsなどOSが作成したバナーページもここで指定したトレイに排紙されます。
7	PCLフォームライン	各ページに印刷する行数を入力します。
8	PCLフォントピッチ	選択したフォント番号が固定ピッチフォントである場合に、フォントピッチを入力します。文字ピッチは1インチ当たりのANK文字の数で計算されます。10ピッチタイプは、1インチにANK文字を10文字印刷します。
9	PCLフォントサイズ	選択したフォント番号がプロポーショナルフォントである場合に、フォントサイズを入力します。フォントサイズオプションでは、標準フォントのポイントサイズ（高さ）を決定することができます。
10	PCLフォント番号	印刷を行う際に、標準フォントとして使用する内蔵PCLフォントのフォント番号を入力します。フォント番号および内蔵PCLフォントは、内蔵PCLフォントリストで確認することができます。フォント番号および内蔵PCLフォントについては、**印刷ガイド**を参照してください。
11	PCL改行設定	改行設定を選択します。
12	シンボルセット	Raw印刷ジョブに適用するシンボルセットを選択します。
13	給紙方法	Raw印刷ジョブに適用する給紙方法を選択します。
14	白紙は印字しない	Raw印刷ジョブに含まれる白紙ページを印字するか選択します。
	注 意 UNIXフィルタやCUPSから印刷する場合には、本設定は反映されません。これらの印刷で白紙ページを印刷したくない場合は、UNIXフィルタのコマンドやCUPSの設定で、白紙ページを印刷しないように設定してください。設定方法については、**インストールガイド**および**印刷ガイド**を参照してください。	

	項目名	機能説明
15	ヘッダ印刷モード	合計ページ数が奇数となるRaw印刷ジョブを両面印刷する場合に、最終奇数ページをほかの奇数ページと同じ印字面に印刷するかを選択します。［ON］を選択した場合、最終奇数ページもほかの奇数ページと同じ印字面（うら）に印刷されます。［OFF］を選択した場合は、最終奇数ページは偶数ページと同じ印字面（おもて）に印刷されます。
	注 意 この項目は、一部の機種のみ使用できます。	

□ RAW印刷ジョブ設定

最大16個のLPRキューを作成し、キューごとにRaw印刷ジョブ設定を指定することができます。これらのキューは、UNIXコンピュータから印刷する場合など、プリンタドライバを使用せずに印刷する場合に使用します。Raw印刷ジョブでは、LPRキューの追加、変更、削除を行います。

注 意

この設定は、一部の機種のみ使用できます。

	項目名	機能説明
1	［追加］ボタン	LPRキューを追加します。 P.220 「［新規LPRキューの追加］/［編集］画面」
2	［編集］ボタン	LPRキュー一覧で選択しているLPRキューの内容を編集します。 P.220 「［新規LPRキューの追加］/［編集］画面」
3	［削除］ボタン	LPRキュー一覧で選択しているLPRキューを削除します。
4	LPRキュー一覧	登録済みのLPRキューの一覧を表示します。

［新規LPRキューの追加］/［編集］画面

	項目名	機能説明
1	キューネーム	キュー名を、31文字以下の半角英数字で入力します。キュー名は、大文字・小文字を認識するため、「Queue1」と「queue1」など、大文字・小文字が異なるキュー名も異なるLPRキューとして追加することができます。
2	両面印刷	Raw印刷ジョブを両面印刷するか選択します。
3	用紙サイズ	Raw印刷ジョブに適用する標準の用紙サイズを選択します。
4	用紙タイプ	Raw印刷ジョブに適用する標準の用紙の種類を選択します。
5	用紙向き	Raw印刷ジョブに適用する標準の印刷の向きを選択します。
6	ステイプル	Raw印刷ジョブをステイプル留めするか選択します。
7	排紙トレイ	Raw印刷ジョブに適用する標準の排紙トレイを選択します。Novell、UNIX、WindowsなどOSが作成したバナーページもここで指定したトレイに排紙されます。
8	PCLフォームライン	各ページに印刷する行数を入力します。
9	PCLフォントピッチ	選択したフォント番号が固定ピッチフォントである場合に、フォントピッチを入力します。文字ピッチは1インチ当たりのANK文字の数で計算されます。10ピッチタイプは、1インチにANK文字を10文字印刷します。
10	PCLフォントサイズ	選択したフォント番号がプロポーショナルフォントである場合に、フォントサイズを入力します。フォントサイズオプションでは、標準フォントのポイントサイズ（高さ）を決定することができます。
11	PCLフォント番号	印刷を行う際に、標準フォントとして使用する内蔵PCLフォントのフォント番号を入力します。フォント番号および内蔵PCLフォントは、内蔵PCLフォントリストで確認することができます。フォント番号および内蔵PCLフォントについては、**印刷ガイド**を参照してください。
12	PCL改行設定	改行設定を選択します。
13	シンボルセット	Raw印刷ジョブに適用するシンボルセットを選択します。
14	給紙方法	Raw印刷ジョブに適用する給紙方法を選択します。
15	白紙は印字しない	Raw印刷ジョブに含まれる白紙ページを印字するか選択します。
	注 意 UNIXフィルタやCUPSから印刷する場合には、本設定は反映されません。これらの印刷で白紙ページを印刷したくない場合は、UNIXフィルタのコマンドやCUPSの設定で、白紙ページを印刷しないように設定してください。設定方法については、**インストールガイド**および**印刷ガイド**を参照してください。	
16	ヘッダ印刷モード	合計ページ数が奇数となるRaw印刷ジョブを両面印刷する場合に、最終奇数ページをほかの奇数ページと同じ印字面に印刷するかを選択します。［ON］を選択した場合、最終奇数ページもほかの奇数ページと同じ印字面（うら）に印刷されます。［OFF］を選択した場合は、最終奇数ページは偶数ページと同じ印字面（おもて）に印刷されます。
	注 意 この項目は、一部の機種のみ使用できます。	

■ プリントサービス設定

Raw TCP印刷、LPD印刷、IPP印刷、FTP印刷、NetWare印刷やEメール印刷などの印刷サービスを設定します。

補 足

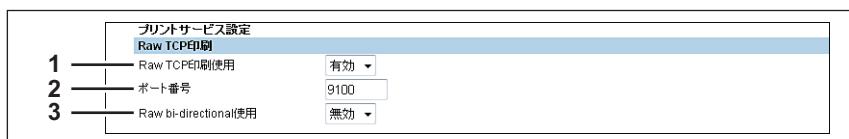
［プリントサービス］サブメニューは、［管理者］タブの［セットアップ］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下を参照してください。
📖 P.25 「アクセスポリシーモード」
📖 P.150 「［セットアップ］項目説明一覧」

注 意

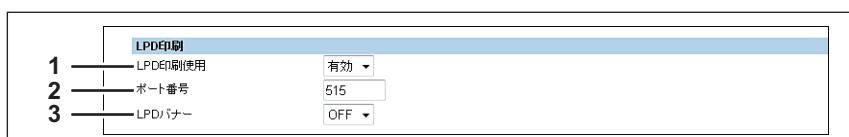
設定を変更しても、設定した内容がすぐに本体タッチパネルに反映されないことがあります。設定を変更した場合は、操作パネルの［リセット］ボタンを押すか、オートクリアされると反映されます。

📖 P.222 「Raw TCP印刷の設定」
📖 P.222 「LPD印刷の設定」
📖 P.223 「IPP印刷の設定」
📖 P.224 「FTP印刷の設定」
📖 P.225 「NetWare印刷の設定」
📖 P.225 「Eメール印刷の設定」

□ Raw TCP印刷の設定

Raw TCP印刷では、Raw TCP印刷サービスを有効／無効およびRaw TCP印刷用のLPDポート番号を設定します。

	項目名	機能説明
1	Raw TCP印刷使用	Raw TCP印刷サービスの有効／無効を選択します。初期値は［有効］に設定されています。
2	ポート番号	Raw TCP印刷に使用するポート番号を入力します。1024から32767までの値を入力できます。通常は、初期値の「9100」を使用します。
	注 意 HTTP設定のセカンダリポート番号（HTTPのSSL有効時はSSLポート番号）と同じポート番号を指定すると、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティにアクセスできなくなります。誤って設定してしまった場合は、本機の操作パネルからHTTP設定を変更し、正しいポート番号を設定してください。	
3	Raw bi-directional使用	Raw双方向通信の有効／無効を選択します。初期値は［無効］に設定されています。
	注 意 この項目は、一部の機種のみ使用できます。	

□ LPD印刷の設定

ユーザにLPR印刷を許可する場合は、LPD印刷を設定しLPD/LPR印刷サービスを有効にする必要があります。

	項目名	機能説明
1	LPD印刷使用	LPD印刷サービスの有効／無効を選択します。初期値は［有効］に設定されています。

	項目名	機能説明
2	ポート番号	LPR印刷に使用するポート番号を入力します。1から65535までの値を入力できます。通常は、初期値の「515」を使用します。
	注 意 HTTP設定のセカンダリポート番号（HTTPのSSL有効時はSSLポート番号）と同じポート番号を指定すると、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティにアクセスできなくなります。誤って設定してしまった場合は、本機の操作パネルからHTTP設定を変更し、正しいポート番号を設定してください。	
3	LPDバナー	LPR印刷で印刷するジョブごとにバナーページ（ヘッダページ）を印刷するか選択します。初期値は［OFF］に設定されています。
	注 意 この項目は、一部の機種のみ使用できます。	

□ IPP印刷の設定

ユーザにIPP印刷を許可する場合は、IPP印刷を設定しIPP印刷サービスを有効にする必要があります。

	項目名	機能説明
1	IPP印刷使用	IPP印刷サービスの有効／無効を選択します。初期値は［有効］に設定されています。
2	IPPポート80使用	IPP印刷にポート80を有効にするか選択します。通常、ポート631がIPPアクセスに使用されるので、各ユーザはURLにIPPポートを指定する必要があります（例：http://<IPアドレスまたはDNS名>:631/Print）。このオプションを有効にすると、HTTPアクセスの標準ポートであるポート80を介してのIPPアクセスが許可され、IPPポートのポート番号を指定する必要がなくなります（例：http://<IPアドレスまたはDNS名>/Print）。初期値は［無効］に設定されています。
3	ポート番号	IPP印刷に使用するポート番号を入力します。1から65535までの値を入力できます。通常は、初期値の「631」を使用します。
	注 意 以下の設定と同じポート番号は使用できません。 該当するポート番号を変更した後に、ポート番号を設定してください。 - HTTP/プライマリポート番号 - HTTP/セカンダリポート番号 - HTTP/SSLポート番号 - IPP印刷/SSLポート番号	
4	URL	IPP印刷用のURLが表示されます。IPP印刷用のURLを変更することはできません。ユーザはプリンタドライバでIPP印刷をセットアップする際に、このURLを印刷ポートとして設定します。
5	SSL使用	SSLを使用してIPP印刷を行うかどうかを設定します。初期値は［無効］に設定されています。
	補 足 • SSLを有効にした場合、SSLを利用したIPP印刷ポートを利用することができるようになります。SSLを利用したIPP印刷ポートを利用する場合は、以下のURLをIPP印刷ポートとして使用します。 https://<IPアドレス>:<SSLポート番号>/Print 例：https://192.168.53.204:443/Print • SSLを使用するには、サーバーのOSがSSLをサポートしている必要があります。	

	項目名	機能説明
6	SSLポート番号	SSLを有効にした場合に使用するポート番号を入力します。1から65535までの値を入力できます。通常は、初期値の「443」を使用します。
	注 意 以下の設定と同じポート番号は使用できません。 該当するポート番号を変更した後に、SSLポート番号を設定してください。 - HTTP/プライマリポート番号 - HTTP/セカンダリポート番号 - HTTP/SSLポート番号 - IPP印刷/ポート番号	
7	SSL URL	SSLを使用したIPP印刷用のURLが表示されます。IPP印刷用のURLを変更することはできません。ユーザはプリンタドライバでIPP印刷をセットアップする際に、このURLを印刷ポートとして設定します。
8	プリンタ名	IPP印刷するプリンタ名称を入力します。半角英数字と記号（=；＃ ￥を除く）で127文字まで入力できます。初期値は「MFP名称」に設定されています。
9	認証	コンピュータにキューを作成する際に認証を行うかどうかを設定します。認証を有効にすると、IPP印刷ポートの作成時にユーザ名とパスワードの要求を行います。 • **無効**：認証を無効にします。 • **Basic**：認証を有効にします。
	注 意 Macintoshコンピュータからの IPP印刷を行う場合は、認証は無効に設定してください。Mac OSでは、Basic認証はサポートされておりません。	
10	ユーザ名	認証が有効な場合に、認証に使用するユーザ名を入力します。ユーザは、IPPキューを作成時にこのユーザ名を入力します。半角英数字と記号（=；＃ ￥を除く）で127文字まで入力できます。
11	パスワード	認証に使用するパスワードを入力します。ユーザは、IPPキューを作成時にこのパスワードを入力します。半角英数字と記号（=；＃ ￥を除く）で127文字まで入力できます。初期値は「password」に設定されています。

□ FTP印刷の設定

ユーザにFTP印刷を許可する場合は、FTP印刷サービスを有効にする必要があります。

	項目名	機能説明
1	FTP印刷使用	FTP印刷サービスの有効／無効を選択します。初期値は［有効］に設定されています。
2	FTP印刷ユーザ名	FTP印刷を実行するユーザにログインユーザ名を要求する場合は、ユーザ名を入力します。半角英数字と記号（=；＃ ￥を除く）で31文字まで入力できます。このボックスを空欄にした場合は、デフォルトの「Print」がユーザ名として使用されます。
3	FTP印刷パスワード	FTP印刷を実行するユーザにログインパスワードを要求する場合は、パスワードを入力します。半角英数字と記号（=；＃ ￥を除く）で31文字まで入力できます。

□ NetWare印刷の設定

ユーザにNovell印刷を許可する場合は、NetWare印刷を設定しNovell印刷サービスを有効にする必要があります。

	項目名	機能説明
1	プリントサーバー名	NetWareファイルサーバーに作成したプリントサーバー名を入力します。半角英数字と記号(＝；＃ ￥を除く)で47文字まで入力できます。初期値は「MFP名称」に設定されています。
2	パスワード	必要に応じて、プリントサーバーに設定されたパスワードを入力します。半角英数字と記号（＝；＃ ￥を除く）で31文字まで入力できます。
3	印刷キューポーリングレート	プリントキューをどのくらいの頻度でスキャンするかを設定します。1から255の範囲で、秒単位で指定します。初期値は「30」に設定されています。

□ Eメール印刷の設定

受信したEメールの印刷方法を設定します。

	項目名	機能説明
1	Eメールヘッダ印刷	Eメール印刷ジョブを受信したときに、Eメールヘッダを印刷するか選択します。初期値は「無効」に設定されています。
2	本文印刷	Eメール印刷ジョブを受信したときに、本文を印刷するか選択します。初期値は［有効］に設定されています。
3	Eメール本文最大印刷枚数	Eメール印刷ジョブの本文を、最大何ページまで印刷するかを1から99の範囲で入力します。初期値は「5」に設定されています。
4	エラーメッセージの出力	Eメール印刷を正常に終了できなかったときに、エラーメッセージを記載したレポートを印刷するか選択します。初期値は［有効］に設定されています。
5	エラーメール転送をする	Eメール印刷を正常に終了できなかったときに、エラーメッセージを指定したEメールアドレスに送信するか選択します。初期値は［無効］に設定されています。
6	エラーメールの転送先アドレス	［エラーメール転送をする］を有効にした場合に、エラーメッセージが送信されるEメールアドレスを入力します。半角英数字と記号(＝；＃ ￥を除く)で192文字まで入力できます。
7	分割受信	分割して送信されてきたEメールジョブを印刷するか選択します。初期値は［無効］に設定されています。
8	分割受信待ち時間	分割して送信されてきたEメールジョブを本機が印刷するまでの待ち時間を入力します。1～168時間の範囲で設定します。初期値は「24」に設定されています。
9	MDNリプライ	開封確認メッセージを要求されたEメール印刷ジョブを受信した場合に、開封確認メッセージを返信するかどうかを選択します。初期値は［無効］に設定されています。

■ ICCプロファイルの設定

プリンタ機能で使用するプロファイルを設定することができます。

注 意

この設定は、一部の機種のみ使用できます。

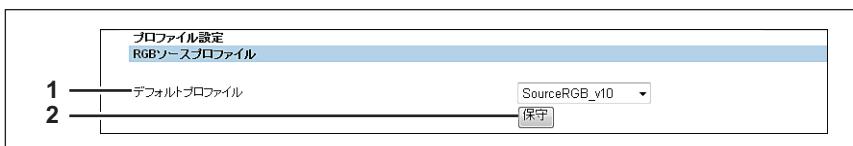
補 足

［ICCプロファイル］サブメニューは、［管理者］タブの［セットアップ］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下を参照してください。

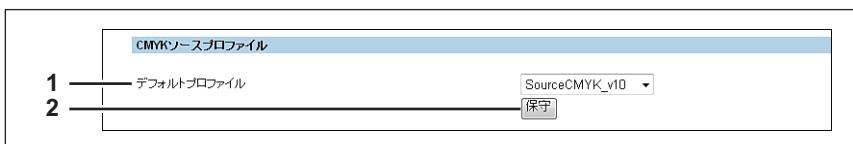
📖 P.25 「アクセスポリシーモード」
📖 P.150 「［セットアップ］項目説明一覧」

📖 P.226 「RGBソースプロファイルの設定」
📖 P.226 「CMYKソースプロファイルの設定」
📖 P.227 「プリンタプロファイルの設定」

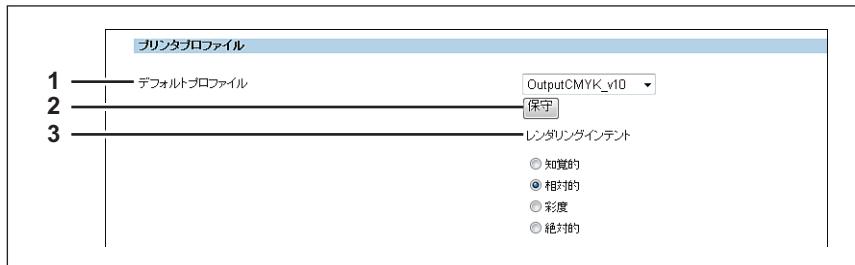
□ RGBソースプロファイルの設定

RGBデータの印刷時、RGBデータのカラースペース変換に使用する入力プロファイルを設定します。

	項目名	機能説明
1	デフォルトプロファイル	印刷時にプリンタドライバのカラープロファイル設定の初期設定として表示する、RGBソースプロファイルを設定します。本機に登録されているRGBソースプロファイルの中から選択することができます。
2	［保守］ボタン	RGBソースプロファイルをメンテナンスする場合にクリックします。クリックするとRGBソースプロファイルの保守ページが表示され、本機にプロファイルをインポートしたり、登録済みのプロファイルをエクスポートしたり、削除したりすることができます。詳しくは、以下の説明を参照してください。 📖 P.258 「プロファイルをインポートする」 📖 P.259 「プロファイルをエクスポートする」 📖 P.261 「プロファイルを削除する」

□ CMYKソースプロファイルの設定

CMYKデータの印刷時、CMYKデータのカラースペース変換に使用する入力プロファイルを設定します。

	項目名	機能説明
1	デフォルトプロファイル	印刷時にプリンタドライバのカラープロファイル設定の初期設定として表示する、CMYKソースプロファイルを設定します。本機に登録されているCMYKソースプロファイルの中から選択することができます。
2	［保守］ボタン	CMYKソースプロファイルをメンテナンスする場合にクリックします。クリックするとCMYKソースプロファイルの保守ページが表示され、本機にプロファイルをインポートしたり、登録済みのプロファイルをエクスポートしたり、削除したりすることができます。詳しくは、以下の説明を参照してください。 📖 P.258 「プロファイルをインポートする」 📖 P.259 「プロファイルをエクスポートする」 📖 P.261 「プロファイルを削除する」

□ プリンタプロファイルの設定

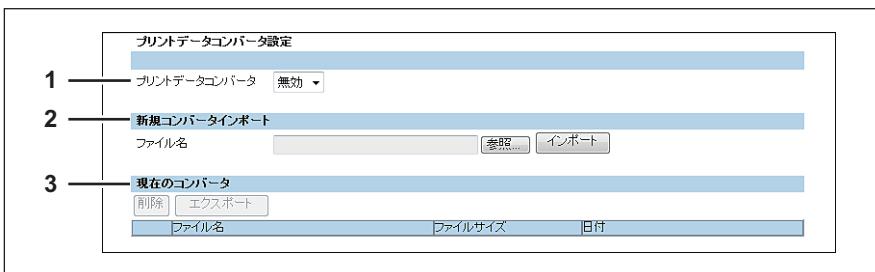
印刷時にデータのカラースペース変換に使用する出力プロファイルを設定します。

	項目名	機能説明
1	デフォルトプロファイル	印刷時にプリンタドライバのカラープロファイル設定の初期設定として表示する、プリンタプロファイルを設定します。本機に登録されているプリンタプロファイルの中から選択することができます。
2	［保守］ボタン	プリンタプロファイルをメンテナンスする場合にクリックします。クリックするとプリンタプロファイルの保守ページが表示され、本機にプロファイルをインポートしたり、登録済みのプロファイルを削除したり、エクスポートしたりすることができます。詳しくは、以下の説明を参照してください。 📖 P.258 「プロファイルをインポートする」 📖 P.259 「プロファイルをエクスポートする」 📖 P.261 「プロファイルを削除する」
3	レンダリングインテント	プリンタプロファイルのレンダリングインテントを［知覚的］、［相対的］、［彩度］、［絶対的］から選択します。

■ プリントデータコンバータ設定

プリントデータコンバータの詳細については、サービスエンジニアにお問い合わせください。

補 足

［プリントデータコンバータ］サブメニューは、［管理者］タブの［セットアップ］メニューからアクセスできます。アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下を参照してください。

P.25「アクセスポリシーモード」
P.150「［セットアップ］項目説明一覧」

<table>
<tr><th></th><th>項目名</th><th>機能説明</th></tr>
<tr><td>1</td><td>プリントデータコンバータ</td><td>プリントデータコンバータ機能の有効／無効を選択します。
コンバータの設定ファイルがインポートされていない場合は有効を選択できません。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2</td><td>新規コンバータインポート</td><td>コンバータの設定ファイルをインポートします。</td></tr>
<tr><td colspan="2">補 足
［参照］ボタンをクリックしてインポートするファイルを選択し、［開く］をクリックします。
ファイル名を確認して、［インポート］ボタンをクリックします。</td></tr>
<tr><td>3</td><td>現在のコンバータ</td><td>インポートされているコンバータの設定ファイルを表示します。</td></tr>
</table>

■ 内蔵ブラウザ設定

操作パネル上にWebページを表示させる「EWB（Embedded Web Browser）機能」を設定します。

補 足

［内蔵ブラウザ］サブメニューは、［管理者］タブの［セットアップ］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下を参照してください。

P.25 「アクセスポリシーモード」
P.150 「［セットアップ］項目説明一覧」

注 意

EWB（Embedded Web Browser）機能を使用するには、外部連携オプションが必要です。

P.229 「ホームページ設定」
P.229 「プロキシ設定」
P.230 「サーバ登録設定」
P.230 「URL一覧（メニュー画面/ハードボタン割り当て）」
P.230 「［URLの新規追加］画面」

□ ホームページ設定

EWB機能を起動したときのホームページを設定します。

	項目名	機能説明
1	ホームページ	ホームページのURLを入力します。
2	警告時強制画面遷移	EBW画面を表示中に、用紙切れ、トナーエンプティなどでMFPがジョブを実行できなくなった場合、自動的に［状況確認］画面に遷移させるかを設定します。 • **有効**：［状況確認］画面に遷移させます。 • **無効**：［状況確認］画面に遷移させません。

□ プロキシ設定

EWB機能のプロキシを設定します。

	項目名	機能説明
1	ホスト名	プロキシサーバーのホスト名を入力します。
2	ポート番号	プロキシサーバーのポート番号を入力します。
3	例外URL	プロキシサーバーを利用しないURLをセミコロン（;）で区切って入力します。
4	自動構成スクリプトを使用する	自動構成スクリプトを有効または無効にします。
5	URL	自動構成スクリプトを有効にした場合に、PACファイルをURLで指定します。
	注 意 PACファイルを使用する場合は、以下の点に注意してください。 - プロトコルは省略せずに入力してください。 - 関数は使用しないでください。	

□ サーバ登録設定

EWB機能で使用するサーバーのアドレスを登録します。

	項目名	機能説明
1	［追加］ボタン	入力欄に入力されたサーバーアドレスを一覧に登録します。
2	入力欄	サーバーアドレスを入力します。
3	［削除］ボタン	選択されたアドレスを一覧から削除します。
4	サーバーアドレス一覧	登録されているサーバーアドレス一覧を表示します。

□ URL一覧（メニュー画面/ハードボタン割り当て）

操作パネルのメニュー画面に表示するURLおよびEWB機能を起動するハードボタンを登録します。

	項目名	機能説明
1	［追加］ボタン	操作パネルに表示するURLおよびEWB機能を起動するハードボタンを登録します。 P.230 「［URLの新規追加］画面」
2	［削除］ボタン	URL一覧（メニュー画面/ハードボタン割り当て）から選択されたURLおよびEWB機能を起動するハードボタンを削除します。
3	URL一覧	操作パネルに表示されるURL一覧およびEWB機能を起動するハードボタン名を表示します。

□ ［URLの新規追加］画面

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	入力したURL名/URLで登録します。
2	［キャンセル］ボタン	URLの新規追加を中止します。
3	URL名	登録するURLの名称を入力します。
4	URL	登録するURLを入力します。
5	ハードボタン割り当て	EWB機能を起動するハードボタン（操作パネルのボタン）を選択します。
6	警告時強制画面遷移	EWB画面を表示中に、用紙切れ、トナーエンプティなどでMFPがジョブを実行できなくなった場合、自動的に［状況確認］画面に遷移させるかを設定します。

■ Off Device Customization Architecture設定

ODCA(Off Device Customization Architecture)は、外部環境のアプリケーションソフトと本機が提供するサービスを連携して使用する場合に設定します。
詳細については、連携するアプリケーションソフトの取扱説明書を参照してください。

補 足

［ODCA］サブメニューは、［管理者］タブの［セットアップ］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下を参照してください。
P.25 「アクセスポリシーモード」
P.150 「［セットアップ］項目説明一覧」

P.231 「ネットワーク」
P.231 「環境設定」
P.231 「通知情報イベント」

□ ネットワーク

	項目名	機能説明
1	ポートの使用	外部環境から接続を受け付けるかどうかを設定します。
2	ポート番号	外部環境から接続を受け付けるポート番号を設定します。
3	SSLポートの使用	外部環境から接続する際にSSLを使用するかどうかを設定します。
4	SSLポート番号	外部環境から接続を受け付けるSSLポート番号を設定します。

□ 環境設定

	項目名	機能説明
1	セッションタイムアウト	接続状態を継続する時間を設定します。

□ 通知情報イベント

	項目名	機能説明
1	［全削除］ボタン	外部環境のアプリケーションソフトで登録した通知情報イベントをすべて削除します。

■ バージョン

お使いの機器のバージョン情報を表示します。

補 足

［バージョン］サブメニューは、［管理者］タブの［セットアップ］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下を参照してください。
📖 P.25 「アクセスポリシーモード」
📖 P.150 「［セットアップ］項目説明一覧」

	項目名	機能説明
1	プリンタメーカ	お使いの機器のメーカー名を表示します。
2	ファームウェアバージョン	お使いの機器のファームウェアバージョンを表示します。
3	メインROMバージョン	お使いの機器のメインROMのバージョンを表示します。
4	スキャンROMバージョン	お使いの機器のスキャンROMのバージョンを表示します。

[セットアップ] 設定／操作方法

ここでは、TopAccessを使って本機を設定する方法について説明します。

📖 P.233 「一般設定をセットアップする」
📖 P.235 「ネットワーク設定をセットアップする」
📖 P.237 「SNMP V3を設定する」
📖 P.242 「コピー設定をセットアップする」
📖 P.244 「ファクス設定をセットアップする」
📖 P.246 「共有フォルダに保管設定をセットアップする」
📖 P.248 「Eメール設定をセットアップする」
📖 P.249 「インターネットファクス設定をセットアップする」
📖 P.251 「プリンタ/ファイリングボックス設定をセットアップする」
📖 P.252 「プリンタ設定をセットアップする」
📖 P.255 「プリントサービス設定をセットアップする」
📖 P.257 「ICCプロファイル設定をセットアップする」
📖 P.263 「プリントデータコンバータ設定をセットアップする」
📖 P.264 「内蔵ブラウザ機能を設定する」
📖 P.266 「Off Device Customization Architecture設定をセットアップする」
📖 P.267 「バージョン情報を表示する」

注 意

用紙カセットの用紙サイズの設定は、TopAccessから行うことはできません。本機操作パネルより行ってください。設定方法については、**コピーガイド**を参照してください。

■ 一般設定をセットアップする

装置情報、節電、日付、時刻やWebの全般的な設定などの一般設定は、[セットアップ] メニューの [一般] サブメニューからセットアップすることができます。

注 意

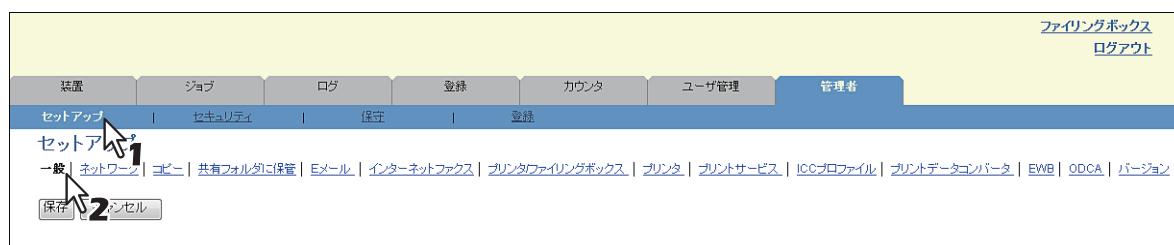
設定を変更しても、設定した内容がすぐに本体タッチパネルに反映されないことがあります。設定を変更した場合は、操作パネルの [リセット] ボタンを押すか、オートクリアされると反映されます。

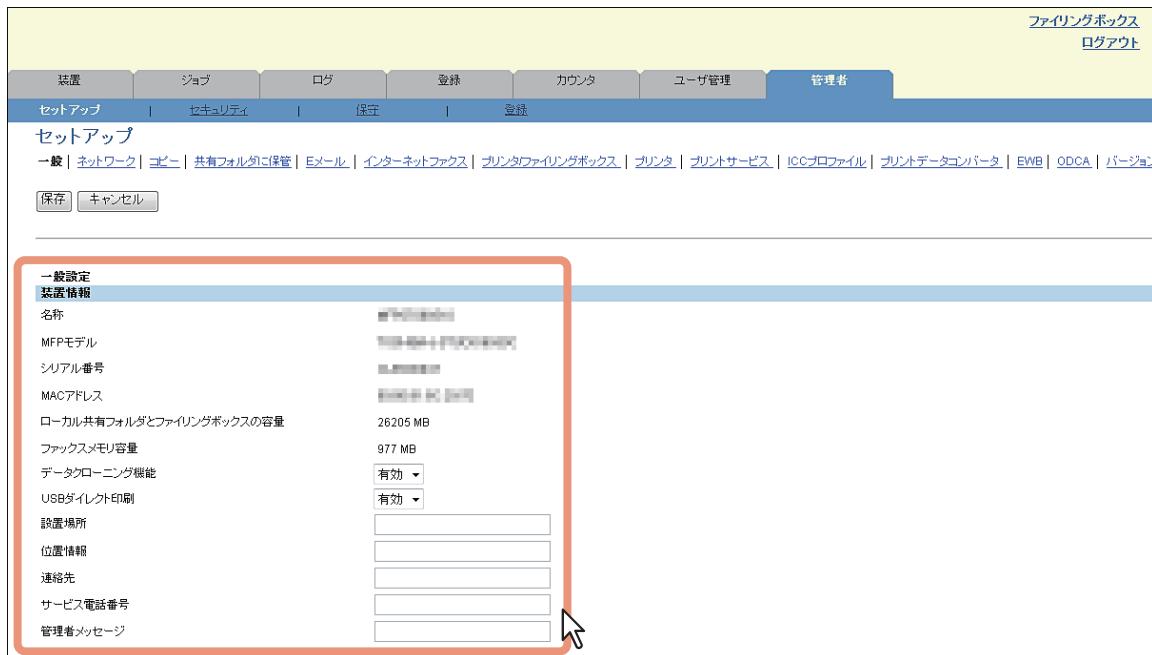
一般設定のセットアップ手順

1 TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。

📖 P.25 「アクセスポリシーモード」

2 [管理者] タブをクリックします。

3 [セットアップ] メニューをクリックし、[一般] サブメニューをクリックします。

一般サブメニューページが表示されます。

4 必要に応じて、一般設定をセットアップします。

このページでは、以下の設定を行うことができます：

- 📖 P.151「装置情報」
- 📖 P.152「機能設定」
- 📖 P.153「ファイリングボックス通知情報イベント」
- 📖 P.153「ジョブスキップ設定」
- 📖 P.153「管理者によるアドレス帳操作制限」
- 📖 P.154「機密化設定」
- 📖 P.154「節電モード設定」
- 📖 P.155「日付と時間」
- 📖 P.155「SNTP設定」
- 📖 P.156「サマータイム設定」
- 📖 P.157「WEB設定」

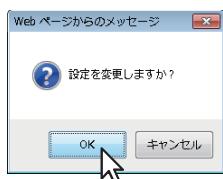
5 ［保存］をクリックします。

保存の確認ダイアログボックスが表示されます。

補 足

設定を保存する前に［キャンセル］をクリックすると、設定を保存せずに現在の設定状態に戻します。［キャンセル］をクリックしても、工場出荷時の設定に戻すことはできません。［キャンセル］ボタンは、設定を保存する前に、変更した設定をクリアしてすべて現在の設定状態に戻したい場合に、クリックします。

6 ［OK］をクリックし、変更を適用します。

注 意

Internet Explorerをお使いの場合、［保存］をクリックして設定の変更を保存した後も、画面上に表示された設定の値が更新されないことがありますが、設定は正常に適用されています。この場合、サブメニューをクリックして画面を更新すると、現在の設定状態で各項目の値が表示されます。

■ ネットワーク設定をセットアップする

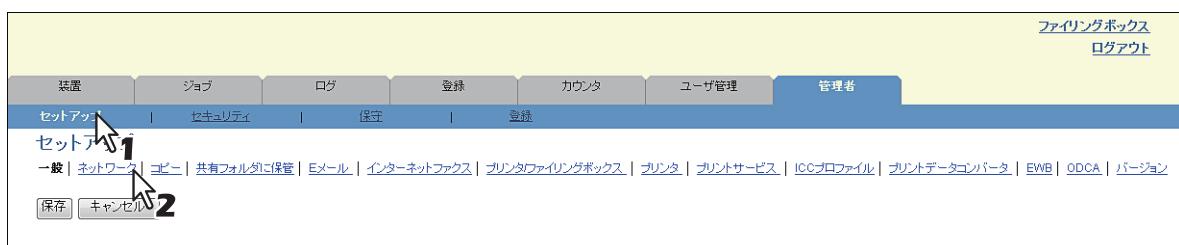
TCP/IP、フィルタリング、IPX/SPX、AppleTalk、Bonjour、LDAP、DNS、DDNS、SMB、NetWare、HTTP、SMTPクライアント、SMTPサーバー、POP3、SNTP設定、FTPクライアント、FTPサーバー、SNMP、セキュリティ設定などは、［セットアップ］メニューの［ネットワーク］サブメニューからセットアップすることができます。

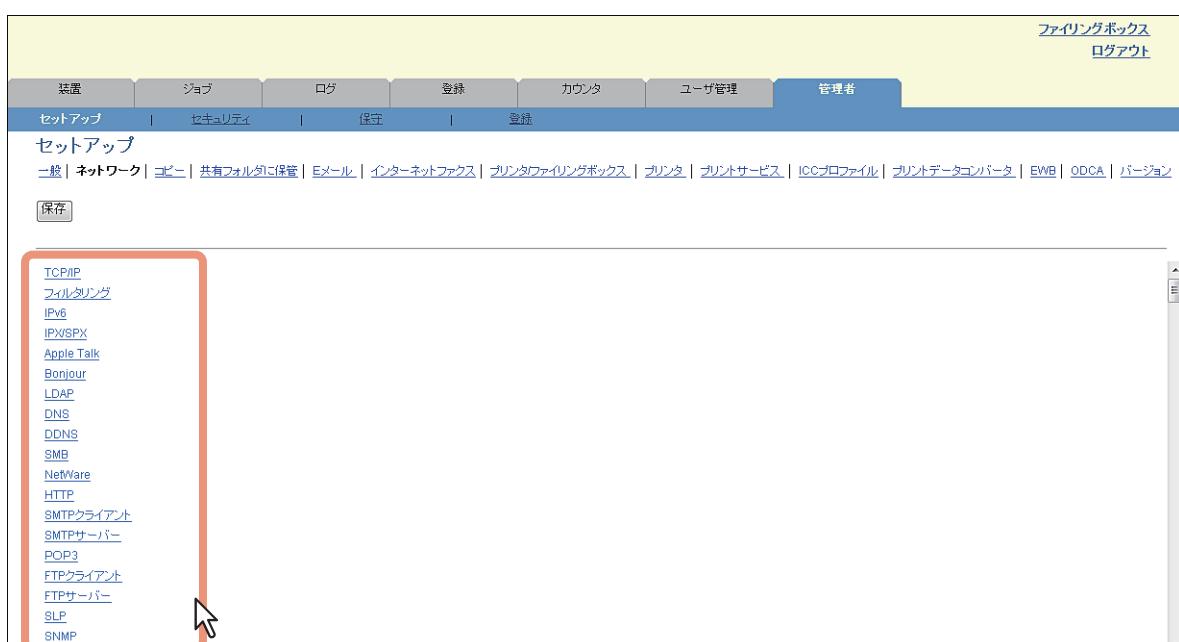
ネットワーク設定のセットアップ手順

1 **TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。**

P.25「アクセスポリシーモード」

2 **［管理者］タブをクリックします。**

3 **［セットアップ］メニューをクリックし、［ネットワーク］サブメニューをクリックします。**

ネットワークサブメニューページが表示されます。

4 **リンクをクリックするかページをスクロールして、設定を変更するネットワーク設定の表を表示し、ボタンをクリックして必要に応じてネットワーク設定をセットアップします。**

このページでは、以下の設定を行うことができます：

P.158「TCP/IPの設定」
P.161「フィルタリングの設定」
P.162「IPv6の設定」
P.163「IPX/SPXの設定」
P.164「AppleTalkの設定」
P.164「Bonjourの設定」
P.165「LDAPの設定」
P.165「DNSの設定」
P.166「DDNSの設定」
P.172「SMTPクライアントの設定」
P.174「SMTPサーバーの設定」
P.175「POP3の設定」
P.176「FTPクライアントの設定」
P.177「FTPサーバーの設定」
P.178「SLPの設定」
P.179「SNMPの設定」
P.182「Web Service設定」
P.183「LLTDの設定」

📖 P.168 「SMBの設定」
📖 P.171 「NetWareの設定」
📖 P.171 「HTTPの設定」
📖 P.183 「スーパースリープモードからの復帰設定」
📖 P.186 「IPセキュリティの設定」

5 ［保存］をクリックします。

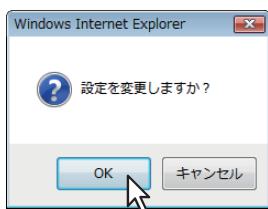
保存の確認ダイアログボックスが表示されます。

補 足

設定を保存する前に［キャンセル］をクリックすると、設定を保存せずに現在の設定状態に戻します。［キャンセル］をクリックしても、工場出荷時の設定に戻すことはできません。［キャンセル］は、設定を保存する前に、変更した設定をクリアしてすべて現在の設定状態に戻したい場合に、クリックします。

6 ［OK］をクリックし、変更を適用します。

ネットワークインターフェイスカードの初期化を開始します。

注 意

ネットワークインターフェイスカードを初期化中は、ネットワークが無効になり、TopAccessでは「2～3分ほど待ってからつなぎ直してください。」が表示されます。また、本機のタッチパネルに「ネットワーク準備中」が表示されます。これらのメッセージが消えたら、TopAccessが再び使用できるようになります。

■ SNMP V3を設定する

P.237 「SNMP V3ユーザ情報を登録・編集する」
P.238 「SNMP V3ユーザ情報をエクスポートする」
P.240 「SNMP V3ユーザ情報を削除する」

□ SNMP V3ユーザ情報を登録・編集する

1 **［セットアップ］メニューの［ネットワーク］サブメニューから［SNMP］ボタンをクリックします。**

2 **SNMP V3ユーザ情報を新規作成する場合は［新規］をクリックし、すでに登録済みのユーザ情報を編集する場合は、リストから編集したいユーザ名をクリックします。**

SNMP V3ユーザ情報の作成ページが表示されます。

3 **以下の項目を設定し、［保存］をクリックします。**

このページでは、以下の設定を行うことができます：

P.181 「［SNMP V3ユーザ情報の作成］画面」

SNMP V3ユーザ情報の作成ページが閉じ、SNMP V3ユーザ情報の作成リストに作成したユーザ情報が登録されます。
設定の確認ダイアログボックスが表示されます。

補 足

SNMP V3ユーザ情報は、［SNMP V3ユーザ情報の作成］画面の［保存］ボタンをクリックすると瞬時に登録され、ネットワークから登録したユーザで本機にSNMPアクセスが可能になります。

4 **［OK］をクリックします。**

設定または修正した内容で登録されます。

5 **［OK］をクリックしてSNMP設定ページを閉じます。**

設定の確認ダイアログボックスが表示されます。

6 **［OK］をクリックします。**

設定または修正した内容で登録されます。

7 ［ネットワーク］サブメニューのページで［保存］をクリックします。

保存の確認ダイアログボックスが表示されます。

補 足

設定を保存する前に［キャンセル］をクリックすると、設定を保存せずに現在の設定状態に戻します。［キャンセル］をクリックしても、工場出荷時の設定に戻すことはできません。［キャンセル］は、設定を保存する前に、変更した設定をクリアしてすべて現在の設定状態に戻したい場合に、クリックします。

8 ［OK］をクリックし、変更を適用します。

ネットワークインターフェイスカードの初期化を開始します。

注 意

ネットワークインターフェイスカードを初期化中は、ネットワークが無効になり、TopAccessでは「2〜3分ほど待ってからつなぎ直してください。」が表示されます。また、本機のタッチパネルに「ネットワーク準備中」が表示されます。これらのメッセージが消えたら、TopAccessが再び使用できるようになります。

□ SNMP V3ユーザ情報をエクスポートする

1 ［セットアップ］メニューの［ネットワーク］サブメニューから［SNMP］ボタンをクリックします。

2 SNMP V3ユーザ情報のリストからエクスポートする情報のチェックボックスをオンにし、［エクスポート］をクリックします。

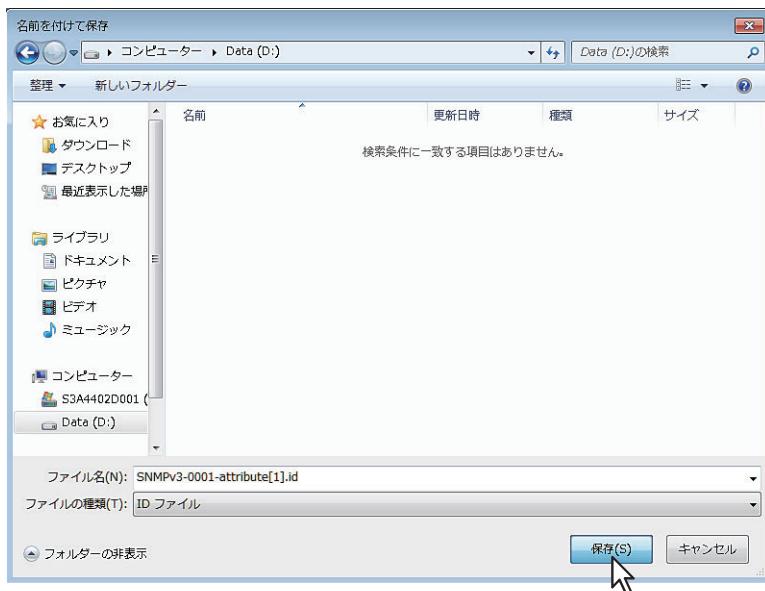
エクスポート画面が表示されます。

注 意

「ユーザ情報をエクスポートする前にネットワーク設定を保存してください。」というメッセージが表示された場合は、［ネットワーク］サブメニューのページで［保存］をクリックした後、エクスポートの操作をしてください。

3 エクスポートするユーザ情報のファイル名のリンクを右クリックし、[対象をファイルに保存]を選択します。

[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

4 保存先を指定し、[保存] を選択します。

5 エクスポートページを閉じます。

注 意

管理者が複数のコンピュータからアクセスポリシーモードで本機に同時にアクセスし、同時にエクスポート操作を行った場合、エクスポートの動作が不安定になる可能性があります。エクスポートをする場合は、必ず管理者が1台のコンピュータからアクセスポリシーモードで本機にアクセスし、操作をするようにしてください。

□ SNMP V3ユーザ情報を削除する

1 **［セットアップ］メニューの［ネットワーク］サブメニューから［SNMP］ボタンをクリックします。**

2 **SNMP V3ユーザ情報のリストから削除する情報のチェックボックスをオンにし、［削除］をクリックします。**

補 足

すべてのSNMP V3ユーザ情報を削除する場合は、［全削除］ボタンをクリックします。

設定の確認ダイアログボックスが表示されます。

3 **［OK］をクリックします。**

SNMP V3ユーザ情報が削除されます。

4 **［OK］をクリックしてSNMP設定ページを閉じます。**

設定の確認ダイアログボックスが表示されます。

5 **［OK］をクリックします。**

設定または修正した内容で登録されます。

6 **［ネットワーク］サブメニューのページで［保存］をクリックします。**

保存の確認ダイアログボックスが表示されます。

補 足

設定を保存する前に［キャンセル］をクリックすると、設定を保存せずに現在の設定状態に戻します。［キャンセル］をクリックしても、工場出荷時の設定に戻すことはできません。［キャンセル］は、設定を保存する前に、変更した設定をクリアしてすべて現在の設定状態に戻したい場合に、クリックします。

7 ［OK］をクリックし、変更を適用します。

ネットワークインターフェイスカードの初期化を開始します。

注 意

ネットワークインターフェイスカードを初期化中は、ネットワークが無効になり、TopAccessでは「2〜3分ほど待ってからつなぎ直してください。」が表示されます。また、本機のタッチパネルに「ネットワーク準備中」が表示されます。これらのメッセージが消えたら、TopAccessが再び使用できるようになります。

■ コピー設定をセットアップする

コピー操作に適用される設定は、［セットアップ］メニューの［コピー］サブメニューからセットアップすることができます。

注 意

設定を変更しても、設定した内容がすぐに本体タッチパネルに反映されないことがあります。設定を変更した場合は、操作パネルの［リセット］ボタンを押すか、オートクリアされると反映されます。

コピー設定のセットアップ手順

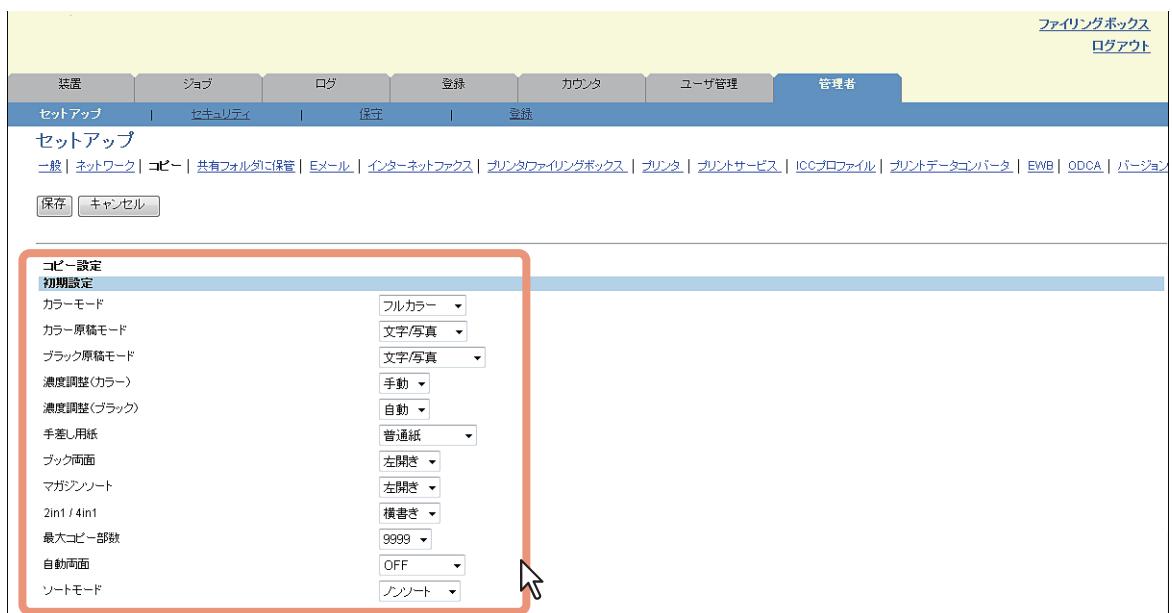
1 **TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。**

📖 P.25「アクセスポリシーモード」

2 **［管理者］タブをクリックします。**

3 **［セットアップ］メニューをクリックし、［コピー］サブメニューをクリックします。**

コピーサブメニューページが表示されます。

4 **必要に応じて、コピー設定をセットアップします。**

このページでは、以下の設定を行うことができます：

📖 P.196「初期設定」
📖 P.198「コピージョブ強制続行設定」

5 ［保存］をクリックします。

保存の確認ダイアログボックスが表示されます。

補 足

設定を保存する前に［キャンセル］をクリックすると、設定を保存せずに現在の設定状態に戻します。［キャンセル］をクリックしても、工場出荷時の設定に戻すことはできません。［キャンセル］ボタンは、設定を保存する前に、変更した設定をクリアしてすべて現在の設定状態に戻したい場合に、クリックします。

6 ［OK］をクリックし、変更を適用します。

注 意

Internet Explorerをお使いの場合、［保存］をクリックして設定の変更を保存した後も、画面上に表示された設定の値が更新されないことがありますが、設定は正常に適用されています。この場合、サブメニューをクリックして画面を更新すると、現在の設定状態で各項目の値が表示されます。

■ ファクス設定をセットアップする

ファクス装置に関する設定とファクス操作に適用される設定は、［セットアップ］メニューの［ファクス］サブメニューからセットアップすることができます。

注 意

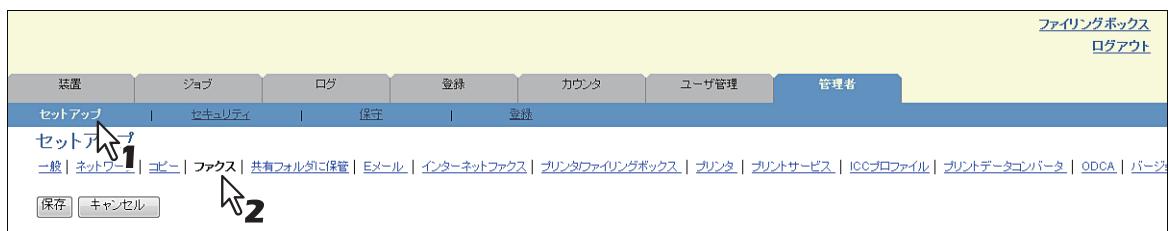
- 設定を変更しても、設定した内容がすぐに本体タッチパネルに反映されないことがあります。設定を変更した場合は、操作パネルの［リセット］ボタンを押すか、オートクリアされると反映されます。
- この［ファクス］サブメニューのページは、本機にFAXユニットを装着している場合にのみ利用できます。

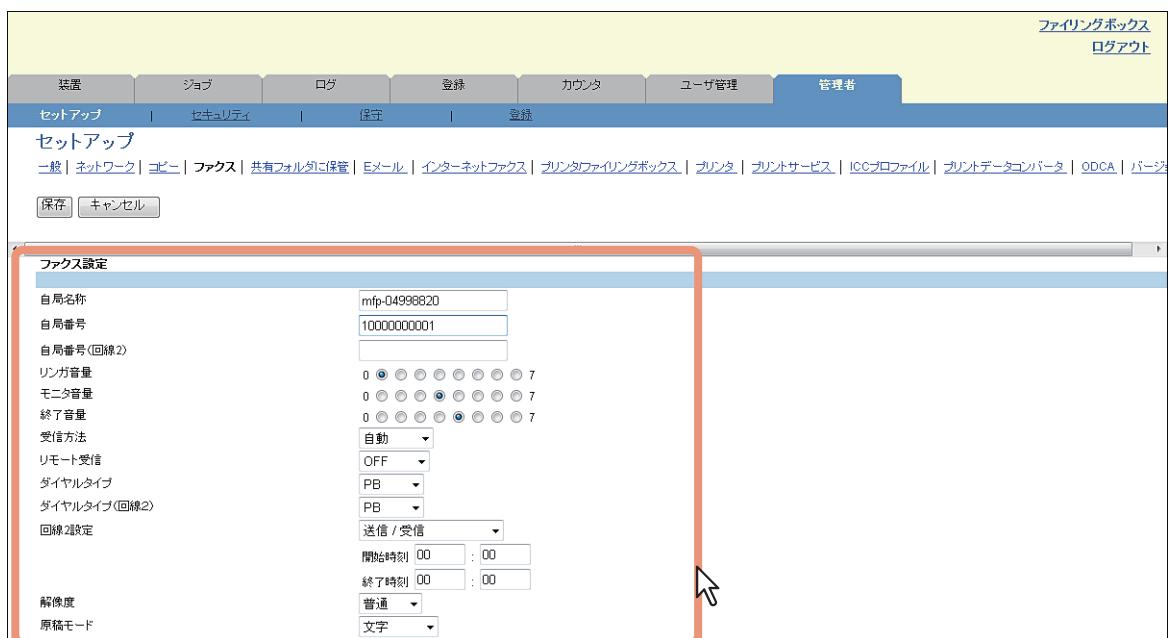
ファクス設定のセットアップ手順

1 TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。

📖 P.25「アクセスポリシーモード」

2 ［管理者］タブをクリックします。

3 ［セットアップ］メニューをクリックし、［ファクス］サブメニューをクリックします。

ファクスサブメニューページが表示されます。

4 必要に応じて、ファクス設定をセットアップします。

このページでは、以下の設定を行うことができます：

📖 P.199「ファクス設定」

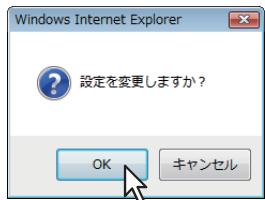
5 ［保存］をクリックします。

保存の確認ダイアログボックスが表示されます。

補 足

設定を保存する前に［キャンセル］をクリックすると、設定を保存せずに現在の設定状態に戻します。［キャンセル］をクリックしても、工場出荷時の設定に戻すことはできません。［キャンセル］ボタンは、設定を保存する前に、変更した設定をクリアしてすべて現在の設定状態に戻したい場合に、クリックします。

6 ［OK］をクリックし、変更を適用します。

注 意

Internet Explorerをお使いの場合、［保存］をクリックして設定の変更を保存した後も、画面上に表示された設定の値が更新されないことがありますが、設定は正常に適用されています。この場合、サブメニューをクリックして画面を更新すると、現在の設定状態で各項目の値が表示されます。

■ 共有フォルダに保管設定をセットアップする

ファイル保存操作やN/W-Faxドライバの共有フォルダ保存機能に適用される設定は、［セットアップ］メニューの［共有フォルダに保管］サブメニューからセットアップすることができます。

注 意

設定を変更しても、設定した内容がすぐに本体タッチパネルに反映されないことがあります。設定を変更した場合は、操作パネルの［リセット］ボタンを押すか、オートクリアされると反映されます。

共有フォルダ保存設定のセットアップ手順

1 TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。

P.25「アクセスポリシーモード」

2 ［管理者］タブをクリックします。

3 ［セットアップ］メニューをクリックし、［共有フォルダに保管］サブメニューをクリックします。

共有フォルダに保管サブメニューページが表示されます。

4 必要に応じて、共有フォルダ保存設定をセットアップします。

このページでは、以下の設定を行うことができます：

P.202「本体保存先の設定」
P.202「期間の設定」
P.203「宛先の設定」
P.203「フォルダ名の設定」
P.204「フォーマットの設定」
P.204「シングルページファイルの保存場所の設定」
P.205「シングルページファイルの構成の設定」
P.205「ファイル保存時のユーザ名とパスワード表示設定」
P.205「検索間隔の設定」
P.206「リモート1とリモート2の設定」
P.209「N/Wファクスの設定」
P.209「N/Wファクスの保管先の設定」

5 ［保存］をクリックします。

保存の確認ダイアログボックスが表示されます。

補 足

設定を保存する前に［キャンセル］をクリックすると、設定を保存せずに現在の設定状態に戻します。［キャンセル］をクリックしても、工場出荷時の設定に戻すことはできません。［キャンセル］ボタンは、設定を保存する前に、変更した設定をクリアしてすべて現在の設定状態に戻したい場合に、クリックします。

6 ［OK］をクリックし、変更を適用します。

注 意

Internet Explorerをお使いの場合、［保存］をクリックする前に長い時間が経過すると各項目の値が更新されないことがありますが、設定は正常に適用されています。この場合、各項目の値を確認した後、サブメニューをクリックして画面を更新してください。

■ Eメール設定をセットアップする

Eメール送信操作に必要な設定は、［セットアップ］メニューの［Eメール］サブメニューからセットアップすることができます。

注 意

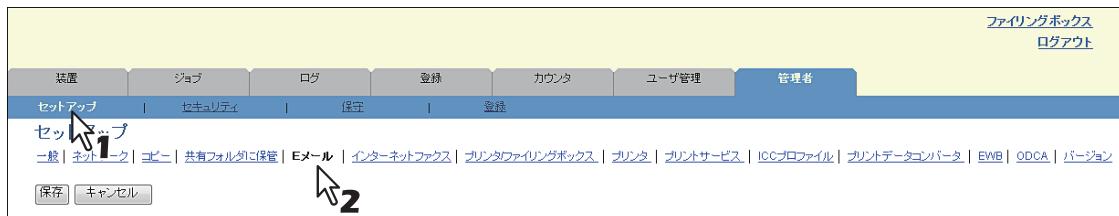
設定を変更しても、設定した内容がすぐに本体タッチパネルに反映されないことがあります。設定を変更した場合は、操作パネルの［リセット］ボタンを押すか、オートクリアされると反映されます。

Eメール設定のセットアップ手順

1 TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。

📖 P.25 「アクセスポリシーモード」

2 ［管理者］タブをクリックします。

3 ［セットアップ］メニューをクリックし、［Eメール］サブメニューをクリックします。

Eメールサブメニューページが表示されます。

4 必要に応じて、Eメール設定をセットアップします。

このページでは、以下の設定を行うことができます：

📖 P.211 「Eメール設定」

5 ［保存］をクリックします。

保存の確認ダイアログボックスが表示されます。

補 足

設定を保存する前に［キャンセル］をクリックすると、設定を保存せずに現在の設定状態に戻します。［キャンセル］をクリックしても、工場出荷時の設定に戻すことはできません。［キャンセル］ボタンは、設定を保存する前に、変更した設定をクリアしてすべて現在の設定状態に戻したい場合に、クリックします。

6 ［OK］をクリックし、変更を適用します。

注 意

Internet Explorerをお使いの場合、［保存］をクリックして設定の変更を保存した後も、画面上に表示された設定の値が更新されないことがありますが、設定は正常に適用されています。この場合、サブメニューをクリックして画面を更新すると、現在の設定状態で各項目の値が表示されます。

■ インターネットファクス設定をセットアップする

インターネットファクス操作に必要な設定は、［セットアップ］メニューの［インターネットファクス］サブメニューからセットアップすることができます。

注 意

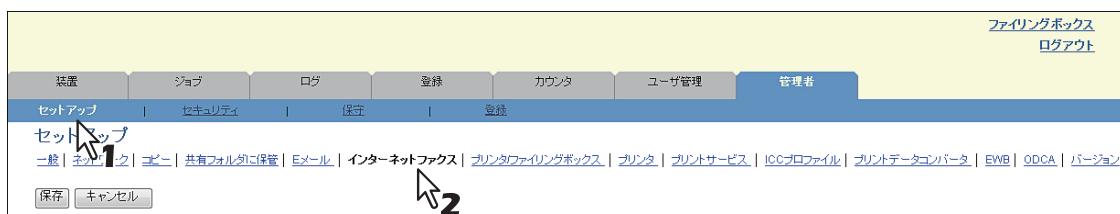
設定を変更しても、設定した内容がすぐに本体タッチパネルに反映されないことがあります。設定を変更した場合は、操作パネルの［リセット］ボタンを押すか、オートクリアされると反映されます。

インターネットファクス設定をセットアップする手順

1 TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。

P.25「アクセスポリシーモード」

2 ［管理者］タブをクリックします。

3 ［セットアップ］メニューをクリックし、［インターネットファクス］サブメニューをクリックします。

インターネットファクスサブメニューページが表示されます。

4 必要に応じて、インターネットファクス設定をセットアップします。

このページでは、以下の設定を行うことができます：

P.215「インターネットファクス設定」

5 ［保存］をクリックします。

保存の確認ダイアログボックスが表示されます。

補 足

設定を保存する前に［キャンセル］をクリックすると、設定を保存せずに現在の設定状態に戻します。［キャンセル］をクリックしても、工場出荷時の設定に戻すことはできません。［キャンセル］ボタンは、設定を保存する前に、変更した設定をクリアしてすべて現在の設定状態に戻したい場合に、クリックします。

6 ［OK］をクリックし、変更を適用します。

注 意

Internet Explorerをお使いの場合、［保存］をクリックして設定の変更を保存した後も、画面上に表示された設定の値が更新されないことがありますが、設定は正常に適用されています。この場合、サブメニューをクリックして画面を更新すると、現在の設定状態で各項目の値が表示されます。

■ プリンタ/ファイリングボックス設定をセットアップする

印刷ジョブおよびファイリングボックスジョブの続行方法について、[セットアップ] メニューの [プリンタ/ファイリングボックス] サブメニューからセットアップすることができます。

注 意

設定を変更しても、設定した内容がすぐに本体タッチパネルに反映されないことがあります。設定を変更した場合は、操作パネルの [リセット] ボタンを押すか、オートクリアされると反映されます。

プリンタ/ファイリングボックス設定をセットアップする手順

1 TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。

P.25 「アクセスポリシーモード」

2 [管理者] タブをクリックします。

3 [セットアップ] メニューをクリックし、[プリンタ/ファイリングボックス] サブメニューをクリックします。

プリンタ/ファイリングボックスサブメニューページが表示されます。

4 必要に応じて、プリンタ/ファイリングボックス設定をセットアップします。

このページでは、以下の設定を行うことができます：

P.216 「プリンタ/ファイリングボックスジョブの強制続行設定」

5 [保存] をクリックします。

保存の確認ダイアログボックスが表示されます。

補 足

設定を保存する前に [キャンセル] をクリックすると、設定を保存せずに現在の設定状態に戻します。[キャンセル] をクリックしても、工場出荷時の設定に戻すことはできません。[キャンセル] ボタンは、設定を保存する前に、変更した設定をクリアしてすべて現在の設定状態に戻したい場合に、クリックします。

6 ［OK］をクリックし、変更を適用します。

注 意

Internet Explorerをお使いの場合、［保存］をクリックして設定の変更を保存した後も、画面上に表示された設定の値が更新されないことがありますが、設定は正常に適用されています。この場合、サブメニューをクリックして画面を更新すると、現在の設定状態で各項目の値が表示されます。

■ プリンタ設定をセットアップする

プリンタの動作方法とRaw印刷ジョブに適応するプリンタオプションの設定は、［セットアップ］メニューの［プリンタ］サブメニューでセットアップすることができます。

📖 P.253 「Raw印刷ジョブ設定」

プリンタ設定をセットアップする手順

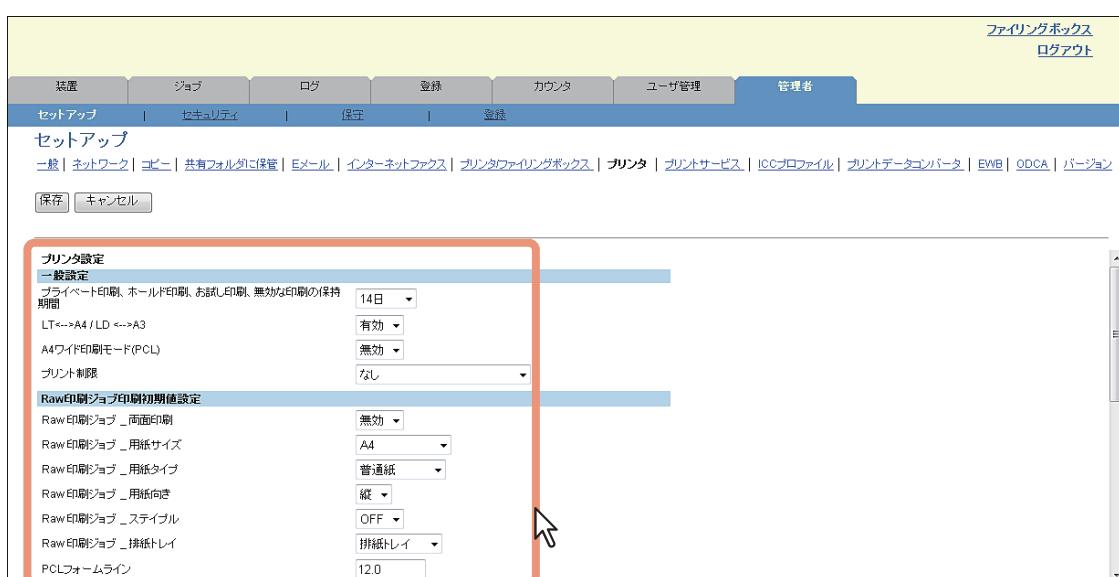
1 **TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。**

📖 P.25 「アクセスポリシーモード」

2 **［管理者］タブをクリックします。**

3 **［セットアップ］メニューをクリックし、［プリンタ］サブメニューをクリックします。**

プリンタサブメニューページが表示されます。

4 **必要に応じて、プリンタ設定をセットアップします。**

このページでは、以下の設定を行うことができます：

📖 P.218 「一般設定」

P.219 「Raw印刷ジョブ印刷初期値設定」

P.220 「RAW印刷ジョブ設定」

5 ［保存］をクリックします。

保存の確認ダイアログボックスが表示されます。

補 足

設定を保存する前に［キャンセル］をクリックすると、設定を保存せずに現在の設定状態に戻します。［キャンセル］をクリックしても、工場出荷時の設定に戻すことはできません。［キャンセル］ボタンは、設定を保存する前に、変更した設定をクリアしてすべて現在の設定状態に戻したい場合に、クリックします。

6 ［OK］をクリックし、変更を適用します。

注 意

Internet Explorerをお使いの場合、［保存］をクリックして設定の変更を保存した後も、画面上に表示された設定の値が更新されないことがありますが、設定は正常に適用されています。この場合、サブメニューをクリックして画面を更新すると、現在の設定状態で各項目の値が表示されます。

□ Raw印刷ジョブ設定

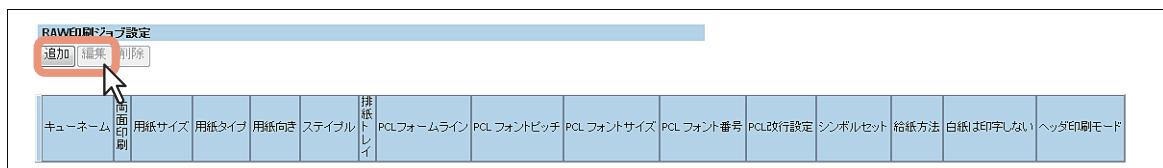
最大16個のLPRキューを作成し、キューごとにRaw印刷ジョブ設定を指定することができます。これらのキューは、UNIXコンピュータから印刷する場合など、プリンタドライバを使用せずに印刷する場合に使用します。Raw印刷ジョブでは、LPRキューの追加、変更、削除を行います。

P.253 「LPRキューを追加または変更する」

P.254 「LPRキューを削除する」

LPRキューを追加または変更する

1 LPRキューを追加する場合は、［追加］をクリックします。

既存のLPRキューの設定を変更する場合は、一覧で設定を変更したいLPRキューのラジオボタンを選択し、［編集］をクリックします。

新しいLPRキューの追加ページが表示されます。

2 以下の項目を設定します。

このページでは、以下の設定を行うことができます：

P.220 「［新規LPRキューの追加］／［編集］画面」

3 ［保存］をクリックします。

キュー名が一覧に追加されます。

LPRキューを削除する

1 一覧で削除したいLPRキューのラジオボタンを選択し、［削除］をクリックします。

確認ダイアログボックスが表示されます。

2 ［OK］をクリックします。

選択したLPRキューが削除されます。

■ プリントサービス設定をセットアップする

Raw TCP印刷、LPD印刷、IPP印刷、FTP印刷、NetWare印刷やEメール印刷などの印刷サービス設定は、［セットアップ］メニューの［プリントサービス］サブメニューからセットアップすることができます。

注 意

設定を変更しても、設定した内容がすぐに本体タッチパネルに反映されないことがあります。設定を変更した場合は、操作パネルの［リセット］ボタンを押すか、オートクリアされると反映されます。

プリントサービス設定をセットアップする手順

1 TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。

📖 P.25 「アクセスポリシーモード」

2 ［管理者］タブをクリックします。

3 ［セットアップ］メニューをクリックし、［プリントサービス］サブメニューをクリックします。

プリントサービスサブメニューページが表示されます。

4 必要に応じて、プリントサービス設定をセットアップします。

このページでは、以下の設定を行うことができます：

📖 P.222 「Raw TCP印刷の設定」
📖 P.222 「LPD印刷の設定」
📖 P.223 「IPP印刷の設定」
📖 P.224 「FTP印刷の設定」
📖 P.225 「NetWare印刷の設定」
📖 P.225 「Eメール印刷の設定」

5 ［保存］をクリックします。

保存の確認ダイアログボックスが表示されます。

補 足

設定を保存する前に［キャンセル］をクリックすると、設定を保存せずに現在の設定状態に戻します。［キャンセル］をクリックしても、工場出荷時の設定に戻すことはできません。［キャンセル］ボタンは、設定を保存する前に、変更した設定をクリアしてすべて現在の設定状態に戻したい場合に、クリックします。

6 ［OK］をクリックし、変更を適用します。

注 意

Internet Explorerをお使いの場合、［保存］をクリックして設定の変更を保存した後も、画面上に表示された設定の値が更新されないことがありますが、設定は正常に適用されています。この場合、サブメニューをクリックして画面を更新すると、現在の設定状態で各項目の値が表示されます。

■ ICCプロファイル設定をセットアップする

プリンタ機能で使用するプロファイルの設定は、［セットアップ］メニューの［ICCプロファイル］サブメニューからセットアップすることができます。

注 意

この設定は、一部の機種のみ使用できます。

P.258 「ソースプロファイルの設定」

ICCプロファイル設定をセットアップする手順

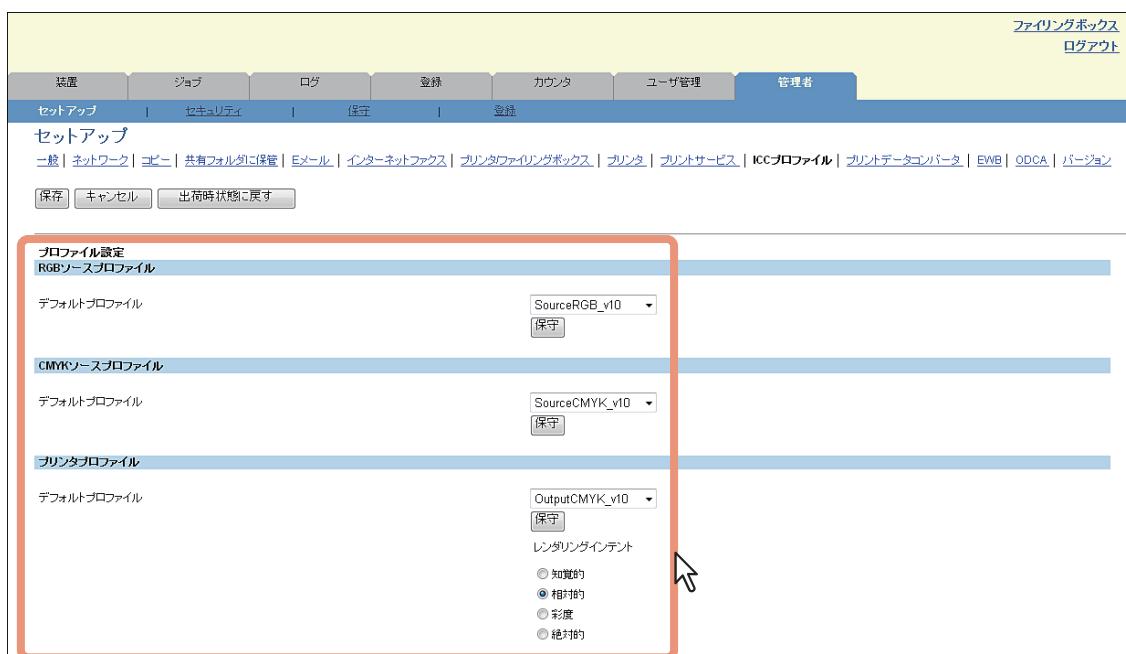
1 **TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。**

P.25 「アクセスポリシーモード」

2 **［管理者］タブをクリックします。**

3 **［セットアップ］メニューをクリックし、［ICCプロファイル］サブメニューをクリックします。**

ICCプロファイルサブメニューページが表示されます。

4 **必要に応じて、ICCプロファイル設定をセットアップします。**

このページでは、以下の設定を行うことができます：

P.226 「RGBソースプロファイルの設定」

P.226 「CMYKソースプロファイルの設定」

P.227 「プリンタプロファイルの設定」

5 ［保存］をクリックします。

保存の確認ダイアログボックスが表示されます。

補 足

- 設定を保存する前に［キャンセル］をクリックすると、設定を保存せずに現在の設定状態に戻します。［キャンセル］をクリックしても、工場出荷時の設定に戻すことはできません。［キャンセル］は、設定を保存する前に、変更した設定をクリアしてすべてを現在の設定状態に戻したい場合にクリックします。
- ［出荷状態に戻す］をクリックすると、工場出荷時の設定に戻すことができます。

6 ［OK］をクリックし、変更を適用します。

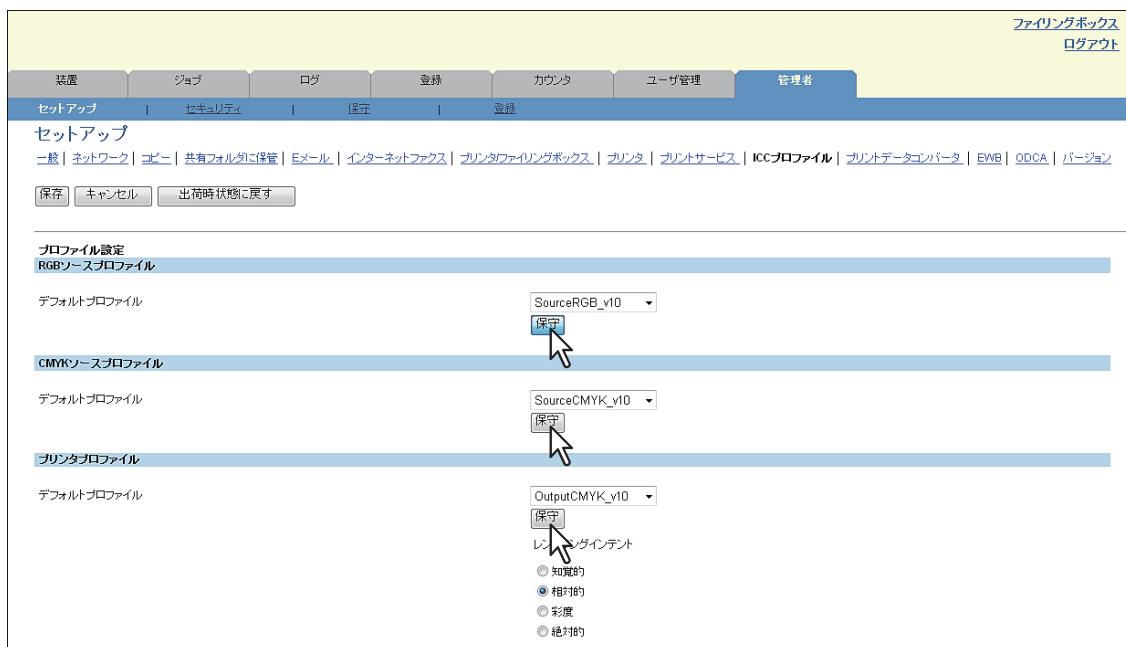
注 意

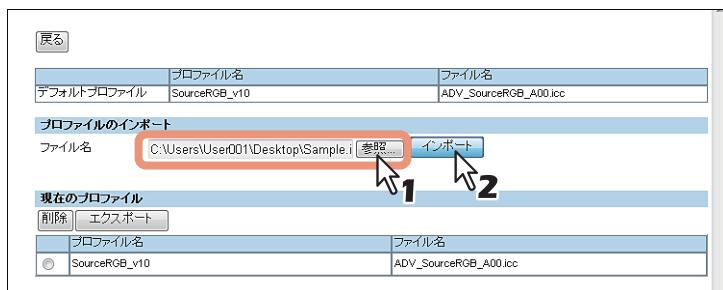
Internet Explorerをお使いの場合、［保存］をクリックして設定の変更を保存した後も、画面上に表示された設定の値が更新されないことがありますが、設定は正常に適用されています。この場合、サブメニューをクリックして画面を更新すると、現在の設定状態で各項目の値が表示されます。

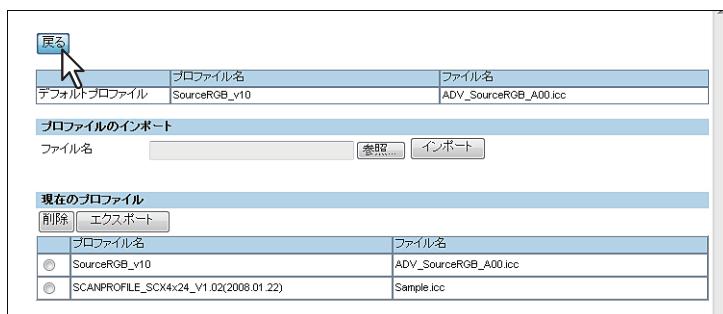
□ ソースプロファイルの設定

P.258「プロファイルをインポートする」
P.259「プロファイルをエクスポートする」
P.261「プロファイルを削除する」

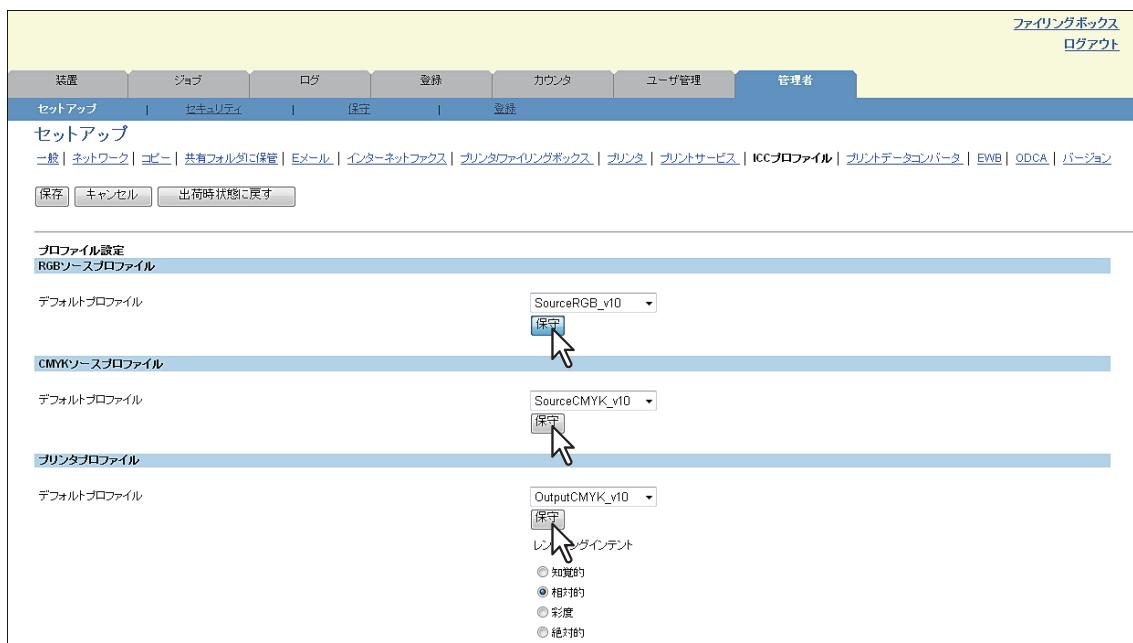
プロファイルをインポートする

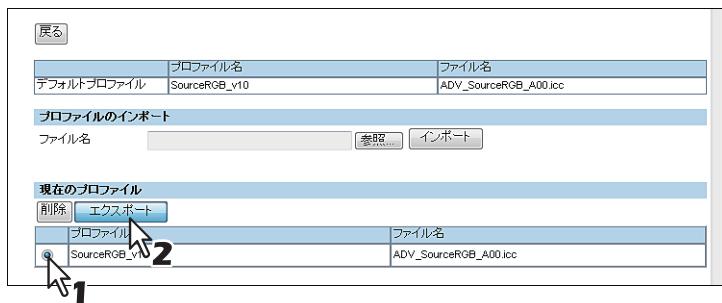
1 インポートしたいプロファイル設定の［保守］をクリックします。

選択したプロファイルの保守ページが表示されます。

2 ［プロファイルのインポート］の［参照］をクリックして、プロファイルのファイルを選択し、［インポート］をクリックします。

プロファイルのインポートを開始します。

3 プロファイルがインポートされます。［戻る］をクリックしてプロファイルの保守ページを閉じます。

［現在のプロファイル］のリストにインポートしたプロファイルが追加されます。

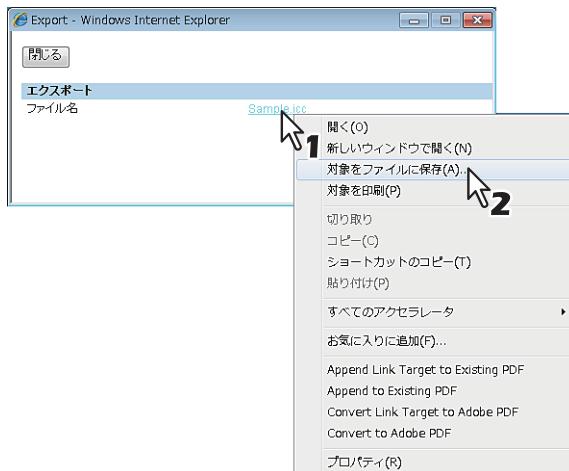
プロファイルをエクスポートする

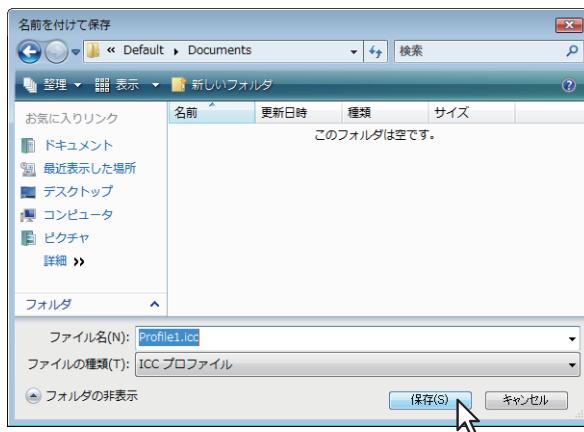
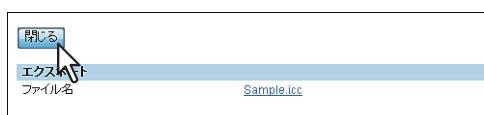
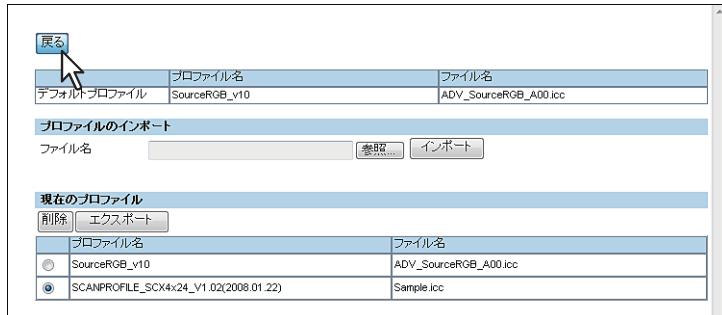
1 エクスポートしたいプロファイル設定の［保守］をクリックします。

選択したプロファイルの保守ページが表示されます。

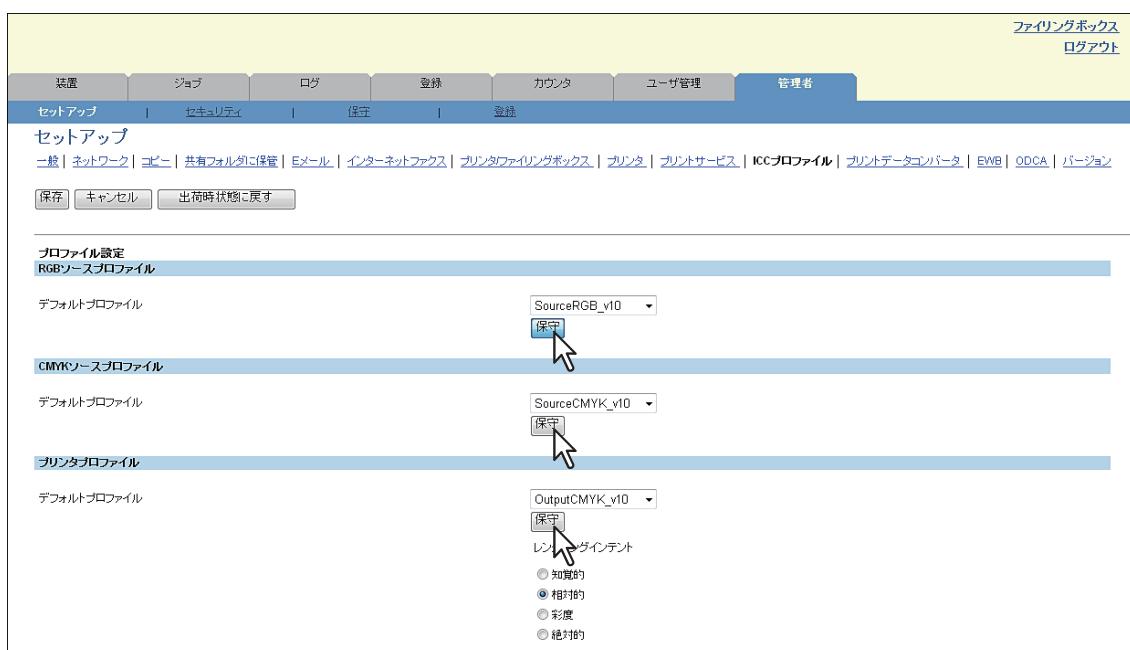
2 ［現在のプロファイル］のリストでプロファイルを選択し、［エクスポート］をクリックします。

エクスポート画面が表示されます。

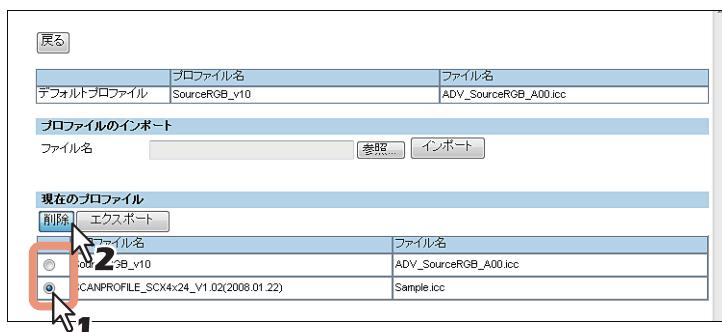
注 意

工場出荷時に登録されているプロファイルをエクスポートすることはできません。

3 エクスポートするプロファイルのファイル名のリンクを右クリックし、［対象をファイルに保存］を選択します。

［名前を付けて保存］ダイアログボックスが表示されます。

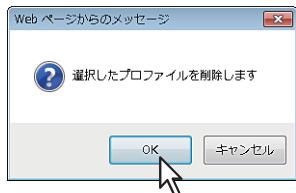
4 保存先を指定し、［保存］を選択します。

5 ［閉じる］をクリックしてエクスポートページを閉じます。

6 ［戻る］をクリックしてプロファイルの保守ページを閉じます。

プロファイルを削除する

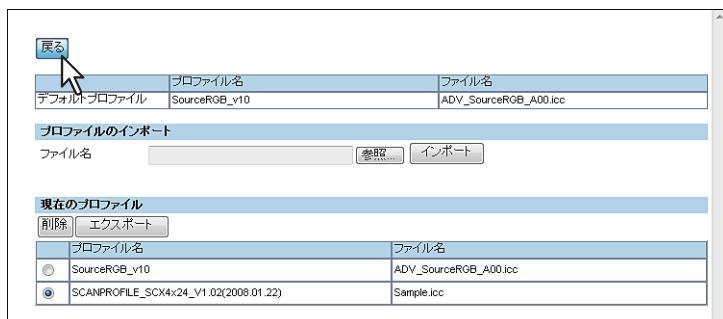
1 削除したいプロファイル設定の［保守］をクリックします。

選択したプロファイルの保守ページが表示されます。

2 ［現在のプロファイル］のリストでプロファイルを選択し、［削除］をクリックします。

設定の確認ダイアログボックスが表示されます。

注 意

工場出荷時に登録されているプロファイルを、削除することはできません。

3 ［OK］をクリックします。

プロファイルが削除されます。

4 ［戻る］をクリックしてプロファイルの保守ページを閉じます。

現在のプロファイルのリストからプロファイルが削除されます。

■ プリントデータコンバータ設定をセットアップする

プリントデータコンバータについては、サービスエンジニアにお問い合わせください。
プリントデータコンバータ設定は、［セットアップ］メニューの［プリントデータコンバータ］サブメニューからセットアップすることができます。

注 意

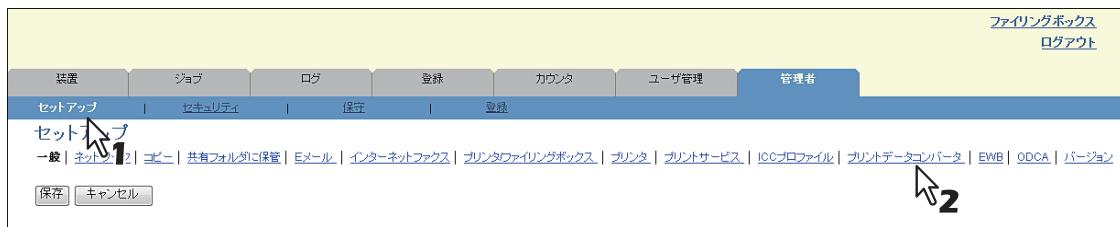
設定を変更しても、設定した内容がすぐに本体タッチパネルに反映されないことがあります。設定を変更した場合は、操作パネルの［リセット］ボタンを押すか、オートクリアされると反映されます。

プリントデータコンバータ設定をセットアップする手順

1 TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。

P.25「アクセスポリシーモード」

2 ［管理者］タブをクリックします。

3 ［セットアップ］メニューをクリックし、［プリントデータコンバータ］サブメニューをクリックします。

プリントデータコンバータサブメニューページが表示されます。

4 必要に応じて、プリントデータコンバータ設定をセットアップします。

このページでは、以下の設定を行うことができます：

P.228「プリントデータコンバータ設定」

5 ［保存］をクリックします。

保存の確認ダイアログボックスが表示されます。

補 足

設定を保存する前に［キャンセル］をクリックすると、設定を保存せずに現在の設定状態に戻します。［キャンセル］をクリックしても、工場出荷時の設定に戻すことはできません。［キャンセル］ボタンは、設定を保存する前に、変更した設定をクリアしてすべて現在の設定状態に戻したい場合に、クリックします。

6 **［OK］をクリックし、変更を適用します。**

注 意

Internet Explorerをお使いの場合、［保存］をクリックして設定の変更を保存した後も、画面上に表示された設定の値が更新されないことがありますが、設定は正常に適用されています。この場合、サブメニューをクリックして画面を更新すると、現在の設定状態で各項目の値が表示されます。

■ 内蔵ブラウザ機能を設定する

操作パネル上にWebページを表示させる「EWB（Embedded Web Browser）機能」の設定は、［セットアップ］メニューの［EWB］サブメニューからセットアップすることができます。

注 意

EWB（Embedded Web Browser）機能を使用するには、外部連携オプションが必要です。

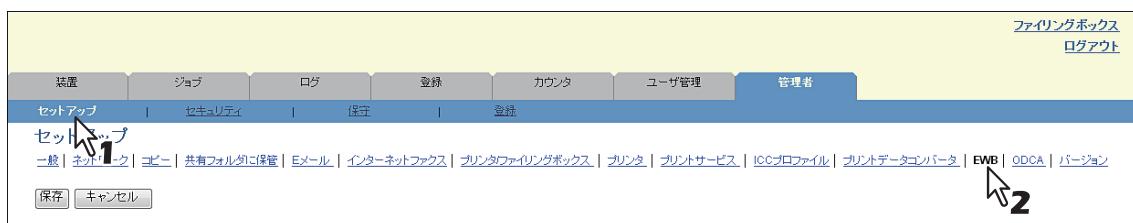
P.264 「サーバーを登録する」
P.265 「サーバーを削除する」

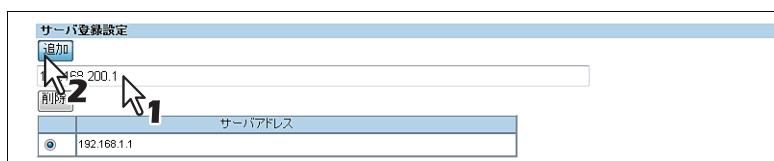
□ サーバーを登録する

1 **TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。**

P.25 「アクセスポリシーモード」

2 **［管理者］タブをクリックします。**

3 **［セットアップ］メニューをクリックし、［EWB］サブメニューをクリックします。**

EWBサブメニューページが表示されます。

4 **EWB機能でサーバーを登録する場合は、サーバーのアドレスを入力し、［追加］をクリックします。**

サーバーが登録されます。
同じ手順を繰り返し、複数のサーバーを登録することができます。

5 **［EWB］サブメニューのページで［保存］をクリックします。**

□ サーバーを削除する

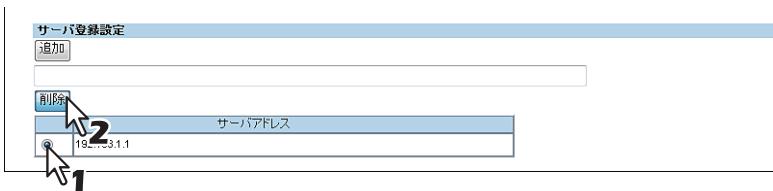
1 **TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。**

📖 P.25「アクセスポリシーモード」

2 **［管理者］タブをクリックします。**

3 **［セットアップ］メニューをクリックし、［EWB］サブメニューをクリックします。**

EWBサブメニューページが表示されます。

4 **EWB機能でサーバーを削除する場合は、削除するサーバーを選択し、［削除］をクリックします。**

5 **［OK］をクリックします。**

サーバーが削除されます。

6 **［EWB］サブメニューのページで［保存］をクリックします。**

■ Off Device Customization Architecture設定をセットアップする

ODCA（Off Device Customization Architecture）については、サービスエンジニアにお問い合わせください。
ODCA（Off Device Customization Architecture）設定は、［セットアップ］メニューの［ODCA］サブメニューからセットアップすることができます。

注 意

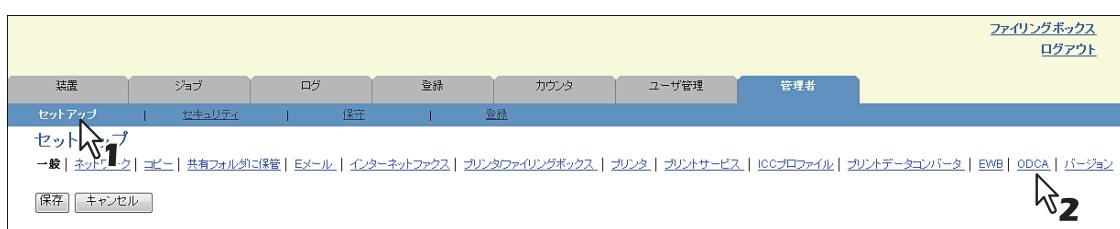
設定を変更しても、設定した内容がすぐに本体タッチパネルに反映されないことがあります。設定を変更した場合は、操作パネルの［リセット］ボタンを押すか、オートクリアされると反映されます。

Off Device Customization Architecture設定をセットアップする手順

1 TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。

P.25「アクセスポリシーモード」

2 ［管理者］タブをクリックします。

3 ［セットアップ］メニューをクリックし、［ODCA］サブメニューをクリックします。

ODCAサブメニューページが表示されます。

4 必要に応じて、Off Device Customization Architecture設定をセットアップします。

このページでは、以下の設定を行うことができます：

P.231「ネットワーク」
P.231「環境設定」

5 ［保存］をクリックします。

保存の確認ダイアログボックスが表示されます。

補 足

設定を保存する前に［キャンセル］をクリックすると、設定を保存せずに現在の設定状態に戻します。［キャンセル］をクリックしても、工場出荷時の設定に戻すことはできません。［キャンセル］ボタンは、設定を保存する前に、変更した設定をクリアしてすべて現在の設定状態に戻したい場合に、クリックします。

6 **［OK］をクリックし、変更を適用します。**

注 意

Internet Explorer をお使いの場合、［保存］をクリックして設定の変更を保存した後も、画面上に表示された設定の値が更新されないことがありますが、設定は正常に適用されています。この場合、サブメニューをクリックして画面を更新すると、現在の設定状態で各項目の値が表示されます。

■ バージョン情報を表示する

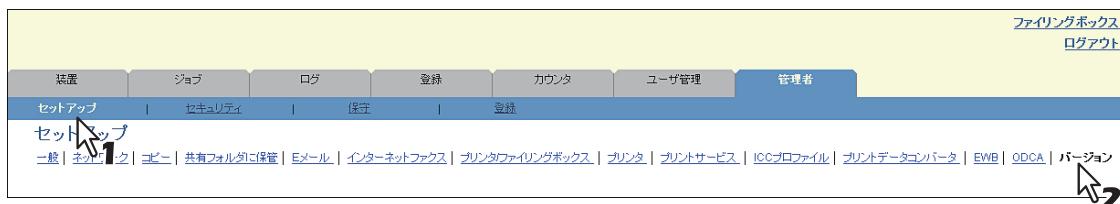
本機システムウェアのバージョン情報は、［セットアップ］メニューの［バージョン］サブメニューから確認することができます。

バージョン情報を表示する手順

1 **TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。**

P.25「アクセスポリシーモード」

2 **［管理者］タブをクリックします。**

3 **［セットアップ］メニューをクリックし、［バージョン］サブメニューをクリックします。**

バージョンサブメニューページが表示されます。

4 **バージョンサブメニューページでは本機のバージョン情報を確認することができます。**

[セキュリティ] 項目説明一覧

補 足

[セキュリティ] メニューは [管理者] タブから、アクセスポリシーモードで管理権限が設定されているユーザがアクセスできます。
アクセス方法は、以下を参照してください。
📖 P.25 「アクセスポリシーモード」

■ 認証

お使いの機器の認証機能を利用して、それぞれの操作を制限することができます。

補 足

[認証] サブメニューは、[管理者] タブの [セキュリティ] メニューからアクセスできます。
アクセス方法、[セキュリティ] メニューについては、以下を参照してください。
📖 P.25 「アクセスポリシーモード」
📖 P.268 「[セキュリティ] 項目説明一覧」

□ 部門管理設定

部門ごとにカウンタを管理したい場合は、部門管理を有効に設定します。部門管理を有効にすると、コンピュータからの印刷操作、操作パネルからコピーやスキャン、ファクスおよびインターネットファクス送信、ファイリングボックスの操作などを行うときに部門コードの入力画面を表示し、お使いの機器の操作を部門ごとに管理することができます。

注 意

以下のアプリケーションは、部門管理設定に関係なく、お使いの機器にアクセスすることができます。

- AddressBook Viewer
- Backup/Restore Utility
- TWAINドライバ
- ファイルダウンローダ

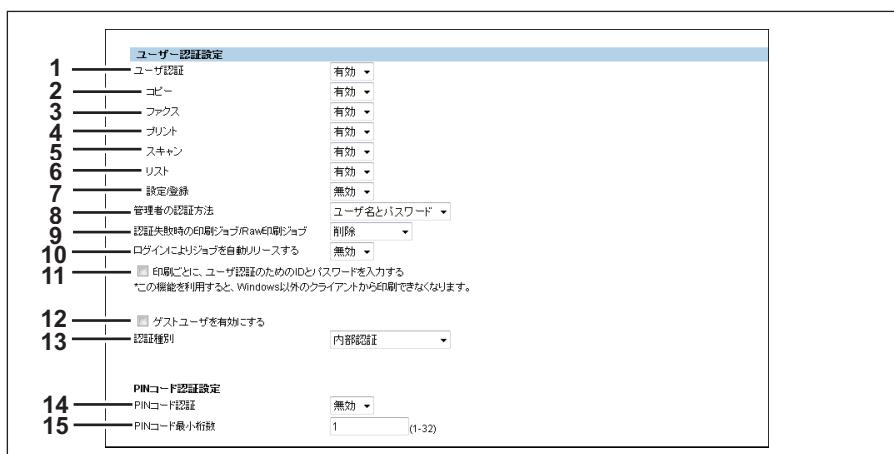
	項目名	機能説明
1	部門コード	部門管理設定を有効にするかしないかを設定します。初期値は「無効」に設定されています。
2	コピー	この機能を有効に設定すると、以下のカウンタを部門ごとに管理します。 - コピー枚数 - コピー操作時に読み取った原稿枚数 初期値は「有効」に設定されています。
3	ファクス	この機能を有効に設定すると、以下のカウンタを部門ごとに管理します。 - 送信したファクス枚数 - ファクスを送信する際に読み取った原稿枚数 - 受信したファクス枚数 - 受信したファクスの印刷枚数* 初期値は「有効」に設定されています。
4	プリント	この機能を有効に設定すると、プリント/Eメール受信/インターネットファクス受信の印刷枚数を、部門ごとに管理します。 初期値は「有効」に設定されています。
5	スキャン	この機能を有効に設定すると、共有フォルダに保管などのスキャン操作時に読み取った原稿枚数を、部門ごとに管理します。 初期値は「有効」に設定されています。
6	リスト	この機能を有効に設定すると、リストの印刷枚数を部門ごとに管理します。 初期値は「有効」に設定されています。
7	設定/登録	この機能を有効に設定すると、設定/登録メニューの操作を部門ごとに管理します。 初期値は「無効」に設定されています。
8	ユーザ登録時に部門コード入力を必須にする	ユーザ登録の際、部門コードを登録するかしないかを設定します。初期値は「無効」に設定されています。

<table>
<tr><th></th><th>項目名</th><th>機能説明</th></tr>
<tr><td rowspan="2">9</td><td>部門コードなし印刷ジョブ</td><td>部門コードが有効に設定されている場合に、部門コードが設定されていない印刷ジョブまたは不正な部門コードが設定されている印刷ジョブを印刷するかしないかを設定します。
• 不正ジョブリストに入れる：認証に失敗した印刷ジョブを、不正ジョブリストに登録します。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。
• 印刷：部門コードが間違っていても印刷します。
• 削除：部門コードが間違っていた場合は、印刷ジョブを削除します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">補 足

部門コードなし印刷ジョブを「不正ジョブリストに入れる」に設定し、プリンタドライバで双方向通信が有効になっている場合は、プリンタドライバで不正な部門コードを入力すると、正しい部門コードを入力するようメッセージが表示されるようになります。</td></tr>
</table>

＊ 手動受信やポーリング受信、本機の親展や掲示板などに登録されている原稿の印刷など、部門コードの入力が必要なファクス受信の印刷のみがカウントされます。

□ ユーザー認証設定

お使いの機器にアクセスするユーザの認証について設定できます。

<table>
<tr><th></th><th>項目名</th><th>機能説明</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1</td><td>ユーザ認証</td><td>ユーザ認証を有効にするかしないかを設定します。初期値は［無効］に設定されています。</td></tr>
<tr><td colspan="2">注 意

• ユーザ認証を有効にすると「Eメール認証」は設定できません。
• ユーザ認証を有効にすると、ブラック無制限機能を利用できなくなります。ブラック無制限機能の詳細については、設定管理ガイドを参照してください。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>コピー</td><td>コピー機能を使用する際に、ユーザ認証を行うかを設定します。
初期値は「有効」に設定されています。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3</td><td>ファクス</td><td>ファクス機能を使用する際に、ユーザ認証を行うかを設定します。
初期値は「有効」に設定されています。</td></tr>
<tr><td colspan="2">注 意

この機能を［無効］にする場合は、最新のN/W-Faxドライバをご使用ください。詳しくはサービスエンジニアにお問い合わせください。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">4</td><td>プリント</td><td>プリント機能を使用する際に、ユーザ認証を行うかを設定します。
初期値は「有効」に設定されています。</td></tr>
<tr><td colspan="2">注 意

この機能を［無効］にする場合は、最新のプリンタドライバをご使用ください。詳しくはサービスエンジニアにお問い合わせください。</td></tr>
<tr><td>5</td><td>スキャン</td><td>スキャン機能を使用する際に、ユーザー認証を行うかを設定します。
初期値は「有効」に設定されています。</td></tr>
<tr><td>6</td><td>リスト</td><td>リスト機能を使用する際に、ユーザー認証を行うかを設定します。
初期値は「有効」に設定されています。</td></tr>
</table>

	項目名	機能説明
7	設定/登録	設定/登録機能を使用する際に、ユーザー認証を行うかを設定します。 初期値は「無効」に設定されています。
8	管理者の認証方法	管理者の認証方法を選択します。 • **ユーザ名とパスワード**：ユーザー名とパスワードで認証します。 • **パスワードのみ**：パスワードで認証します。
9	認証失敗時の印刷ジョブ/Raw印刷ジョブ	ユーザ認証に失敗した印刷ジョブを印刷するかしないかを設定します。 • **ホールド印刷**：ホールド印刷ジョブに登録します。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。 • **印刷**：認証に失敗した印刷ジョブを印刷します。 • **削除**：認証に失敗した印刷ジョブを削除します。
	注 意 N/W-Faxドライバを利用している場合、［ホールド印刷］を選択すると、ジョブは削除されます。	
10	ログインによりジョブを自動リリースする	プライベート印刷ジョブとホールド印刷ジョブを、ログインのときに処理するか設定します。 • **無効**：ログインしても印刷しません。 • **有効**：ログインした段階で印刷します。
11	印刷ごとに、ユーザ認証のためのIDとパスワードを入力する	印刷ごとにユーザ認証を行います。印刷するには、ユーザー名とパスワードが必要になります。
12	ゲストユーザを有効にする	ゲストユーザの操作を有効にします。
13	認証種別	認証方法を選択します。 • **内部認証**： ネットワークユーザを管理するシステムがない環境では、お使いの機器の内部認証を使って管理することができます。 内部認証を有効にした場合、ユーザはお使いの機器に登録されているユーザ名およびパスワードを入力すると、操作パネルから操作を行うことができます。 • **Windowsドメイン認証**： ネットワークユーザをWindowsドメインで管理しているネットワークでは、Windowsドメイン認証を使って管理することができます。 Windowsドメイン認証を有効にした場合、ユーザはWindowsドメインに登録されているユーザ名およびパスワードを入力すると、操作パネルから操作を行うことができます。 📖 P.272 「Windowsドメイン認証」 • **LDAP認証**： ネットワークユーザをLDAPで管理しているネットワークでは、LDAP認証を使って管理することができます。LDAP認証を有効にした場合、ユーザはLDAPサーバーに登録されているユーザ名およびパスワードを入力すると、操作パネルから操作を行うことができます。 📖 P.274 「LDAP認証」
14	PINコード認証	PINコードによるユーザー認証を設定します。 • **無効**：ユーザー認証にPINコードを使用しません。ユーザー名とパスワードでユーザーを認証します。 • **有効**：ユーザー認証にPINコードを使用します。PINコードの代わりに、ユーザー名とパスワードでユーザー認証することもできます。
15	PINコー ド最小桁数	PINコードの最少桁数を指定します。

Windowsドメイン認証

	項目名	機能説明
1	ユーザ情報を自動的に作成する	ユーザ情報を自動的に本機に登録するかしないかを設定します。初期値は「有効」に設定されています。
2	ユーザ認証時にパスワードやカード情報などをキャッシュに保存し、認証サーバ障害発生時に、保存された情報を使用して認証を行う	以下の情報の中で、認証方法に応じた情報のみが保存されます。 パスワード、カード番号、ドメイン名、PINコード、HomeDirectry情報、RBAC情報
	補 足 キャッシュ内の情報は、ユーザが認証サーバーで認証に成功すると更新されますが、キャッシュ内の情報で認証した場合には情報は更新されません。	
3	キャッシュ内情報の有効日数	キャッシュ内の情報を保持する日数を入力します。最終更新日を起点として、1～14日の範囲で設定することができます。
4	Windowsドメイン/LDAP認証時も有効となるローカルユーザを登録する	この項目にチェックを入れると、外部認証で管理されているMFPに対し、キャッシュ内情報による内部認証でログインできるローカルユーザを登録できます。
5	ローカルユーザ有効日数	ローカルユーザの有効日数を入力します。ユーザ作成日を起点として、180日間まで設定できます。0を設定すると、有効日数が無期限になります。
6	NTドメインサーバを使用	NTドメインコントローラを使用してドメインを管理している場合はチェックします。

<table>
<tr><th></th><th>項目名</th><th>機能説明</th></tr>
<tr><td>7</td><td>ドメイン1～ドメイン16</td><td>Windowsドメイン認証に利用するドメインを設定します。
ドメインを登録する場合は、ドメイン1～ドメイン16をクリックして、表示される画面で以下の項目を登録します。
ドメイン名：ドメイン名を入力します。
PDC：プライマリドメインコントローラ（PDC）のサーバー名またはIPアドレスを入力します。半角英数字と記号で128文字まで入力できます。
BDC：バックアップドメインコントローラ（BDC）のサーバー名またはIPアドレスを入力します。半角英数字と記号で128文字まで入力できます。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">注 意
プライマリドメインコントローラおよびバックアップドメインコントローラに誤った設定を行うと、Windowsネットワーク内のプライマリドメインコントローラおよびバックアップドメインコントローラを2～4分程度検索するとともに、検索中はタッチパネルのユーザ認証画面の［OK］が反転したままになります。</td></tr>
<tr><td>8</td><td>接続タイムアウト</td><td>PDCおよびBDCのサーバーが応答しない場合に、通信を終了するタイムアウト時間を入力します。1～180秒の範囲で設定します。</td></tr>
<tr><td>9</td><td>ロールベースアクセス設定</td><td>LDAPサーバーを使用したロールベースアクセスを設定します。
LDAPサーバーを使用したロールベースアクセス：ロールベースアクセスの有効／無効を選択します。初期値は［無効］に設定されています。
LDAPサーバー：ロールベースアクセスを管理するLDAPサーバーを選択します。</td></tr>
<tr><td>10</td><td>PINコード認証設定</td><td>PINコード認証：PINコードによるユーザー認証を設定します。
• <u>無効</u>：ユーザー認証にPINコードを使用しません。ユーザー名とパスワードでユーザーを認証します。
• 有効：ユーザー認証にPINコードを使用します。PINコードの代わりに、ユーザー名とパスワードでユーザー認証することもできます。
PINコー ド最小桁数：PINコードの最少桁数を指定します。</td></tr>
<tr><td>11</td><td>LDAPサーバー 1～LDAPサーバー 3</td><td>PINコード認証を利用する場合は、LDAPサーバー 1の以下の項目を設定します。
<u>Windowsサーバ</u>：Windowsサーバーを使用してLDAPを設定している場合に選択します。
その他のLDAPサーバ：Windowsサーバー以外のOSを使ってLDAPを設定している場合に選択します。
属性名(ユーザ名)：「その他のLDAPサーバ」を選択した場合は、LDAPサーバーに登録されたユーザ名の属性名を入力します。
属性名(PIN)：PINコード認証を利用する場合は、PINコード名の属性名を入力します。
複数のLDAPサーバーを利用する場合は、使用するLDAPサーバー 2または3を選択し、必要に応じてLDAPサーバーを設定します。設定項目は、上記LDAPサーバー 1の設定項目と同じです。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">補 足
［ユーザ情報を自動的に作成する］が有効の場合、PINコード認証またはICカード認証を行うLDAPサーバとして［Windowsサーバ］を選択すると、以下の属性名のユーザ名が使われます。
- LDAPサーバにKerberosで接続している場合 ：sAMAccountName
- LDAPサーバにDigest-MD5、CRAM-MD5、Login、Plain、Simple Bindで接続している場合 ：displayName</td></tr>
</table>

LDAP認証

<table>
<tr><th></th><th>項目名</th><th>機能説明</th></tr>
<tr><td>1</td><td>ユーザ情報を自動的に作成する</td><td>ユーザ情報を自動的に本機に登録するかしないかを設定します。初期値は「有効」に設定されています。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2</td><td>ユーザ認証時にパスワードやカード情報などをキャッシュに保存し、認証サーバ障害発生時に、保存された情報を使用して認証を行う</td><td>以下の情報が保存されます。
パスワード、カード番号、ドメイン名、PINコード、HomeDirectry情報、RBAC情報
上記の中で、認証方法に応じた情報のみが保存されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">補 足
キャッシュ内の情報は、ユーザが認証サーバーで認証に成功すると更新されますが、キャッシュ内の情報で認証した場合には情報は更新されません。</td></tr>
<tr><td>3</td><td>キャッシュ内情報の有効日数</td><td>キャッシュ内の情報を保持する日数を入力します。最終更新日を起点として、1～14日の範囲で設定することができます。</td></tr>
<tr><td>4</td><td>Windowsドメイン/LDAP認証時も有効となるローカルユーザを登録する</td><td>この項目にチェックを入れると、外部認証で管理されているMFPに対し、キャッシュ内情報による内部認証でログインできるローカルユーザを登録できます。</td></tr>
<tr><td>5</td><td>ローカルユーザ有効日数</td><td>ローカルユーザの有効日数を入力します。ユーザ作成日を起点として、180日間まで設定できます。0を設定すると、有効日数が無期限になります。</td></tr>
<tr><td>6</td><td>LDAPサーバー 1～LDAPサーバー 16</td><td>LDAP認証に利用するLDAPサーバーを選択します。
LDAPサーバーを登録する場合は、LDAPサーバー 1～LDAPサーバー 16をクリックして、表示される画面で以下の項目を登録します。
Windowsサーバ：Windowsサーバーを使用してLDAPを設定している場合に選択します。
その他のLDAPサーバ：Windowsサーバー以外のOSを使ってLDAPを設定している場合に選択します。</td></tr>
<tr><td>7</td><td>ロールベースアクセス設定</td><td>LDAPサーバーを使用したロールベースアクセスを設定します。
LDAPサーバーを使用したロールベースアクセス：ロールベースアクセスの有効／無効を選択します。初期値は［無効］に設定されています。
LDAPサーバー：ロールベースアクセスを管理するLDAPサーバーを選択します。</td></tr>
</table>

	項目名	機能説明
8	PINコード認証設定	**PINコード認証**：PINコードによるユーザー認証を設定します。 • **無効**：ユーザー認証にPINコードを使用しません。ユーザー名とパスワードでユーザーを認証します。 • **有効**：ユーザー認証にPINコードを使用します。PINコードの代わりに、ユーザー名とパスワードでユーザー認証することもできます。 **PINコード最小桁数**：PINコードの最少桁数を指定します。
9	LDAPサーバー 1〜LDAPサーバー 3	PINコード認証を利用する場合は、LDAPサーバー 1の以下の項目を設定します。 **Windowsサーバ**：Windowsサーバーを使用してLDAPを設定している場合に選択します。 **その他のLDAPサーバ**：Windowsサーバー以外のOSを使ってLDAPを設定している場合に選択します。 **属性名(ユーザ名)**：「その他のLDAPサーバ」を選択した場合は、LDAPサーバーに登録されたユーザ名の属性名を入力します。 **属性名(PIN)**：PINコード認証を利用する場合は、PINコード名の属性名を入力します。 複数のLDAPサーバーを利用する場合は、使用するLDAPサーバー 2または3を選択し、必要に応じてLDAPサーバーを設定します。設定項目は、上記LDAPサーバー 1の設定項目と同じです。
	補 足 ［ユーザ情報を自動的に作成する］が有効の場合、PINコード認証またはICカード認証を行うLDAPサーバとして［Windowsサーバ］を選択すると、以下の属性名のユーザ名が使われます。 - LDAPサーバにKerberosで接続している場合 ：sAMAccountName - LDAPサーバにDigest-MD5、CRAM-MD5、Login、Plain、Simple Bindで接続している場合 ：displayName	

□ Eメール認証

Eメール認証を有効にすると、スキャン画面からEメール送信を行う際に、ユーザはユーザ名とパスワードの入力が必要になります。

	項目名	機能説明
1	Eメール認証	Eメール認証を有効にするかしないかを設定します。 • **SMTP**： お使いの機器のSMTP認証を使って管理することができます。 SMTP認証を有効にした場合、ユーザはSMTPサーバーに登録されているユーザ名およびパスワードを入力すると、操作パネルからEメール送信操作を行うことができます。 📖 P.276「SMTP」 • **LDAP**： ネットワークユーザをLDAPで管理しているネットワークでは、LDAP認証を使って管理することができます。 LDAP認証を有効にした場合、ユーザはLDAPサーバーに登録されているユーザ名およびパスワードを入力すると、操作パネルからEメール送信操作を行うことができます。 📖 P.276「LDAP」
	注 意 Eメール認証を行う場合は、「Eメールアドレス設定」を行う必要があります。 📖 P.277「Eメールアドレス設定」	

SMTP

	項目名	機能説明
1	インターネットファクス禁止	インターネットファクス送信を許可したくない場合にチェックをオンにします。 すべてのユーザはインターネットファクス送信を操作することができなくなります。
2	SMTPサーバーアドレス	Eメール認証に利用するSMTPサーバーのIPアドレスまたはFQDNを入力します。
3	認証	認証方式を選択します。 • **Plain**：Plain認証を使用してSMTPサーバーに接続する場合に選択します。 • **Login**：Login認証を使用してSMTPサーバーに接続する場合に選択します。 • **CRAM-MD5**：CRAM-MD5認証を使用してSMTPサーバーに接続する場合に選択します。 • **Digest-MD5**：Digest-MD5認証を使用してSMTPサーバーに接続する場合に選択します。 • **Kerberos**：Kerberos認証を使用してSMTPサーバーに接続する場合に選択します。 • **NTLM（IWA）**：NTLM（IWA）認証を使用して SMTP サーバーに接続する場合に選択します。 • **自動**：自動で認証を識別してSMTPサーバーに接続する場合に選択します。

LDAP

	項目名	機能説明
1	インターネットファクス禁止	インターネットファクス送信を許可したくない場合にチェックをオンにします。 すべてのユーザはインターネットファクス送信を操作することができなくなります。
2	LDAPサーバー	LDAP認証に利用するLDAPサーバーを選択します。
3	その他のLDAPサーバー	Windowsサーバー以外のOSを使ってLDAPを設定している場合に選択します。 Windowsサーバー以外のOSを使っている場合は、LDAPに登録されたユーザ名の属性名を入力します。

□ Eメールアドレス設定

Eメール認証が有効な場合に、Eメールアドレスの設定を行います。

	項目名	機能説明
1	送信者アドレス	送信者アドレスを設定します。 **Eメール設定の送信者アドレス**： Eメール設定で指定した送信者アドレスを設定します。 **ユーザー名+@+メールドメイン名**： 送信者アドレスを、「ユーザー名＋@＋メールドメイン名」の形式で設定します。 「ユーザー名」には、認証したユーザ名が使用されます。「メールドメイン名」には、［ドメイン名］ボックスで設定したドメイン名が使用されます。 これを選択した場合は、［ドメイン名］ボックスを入力します。 **LDAPのユーザー名**： LDAPアドレスから検索した送信者アドレスを設定します。 ［LDAPサーバー］ボックスで検索するLDAPサーバー名、［属性名（ユーザ名）］ボックスでユーザ名を検索するスキーマ、［属性名（Eメール）］ボックスで送信者アドレスとして設定するEメールアドレスのスキーマ、［メールドメイン名］ボックスでLDAPサーバーで検索できなかった場合に使用するメールドメイン名を指定します。 認証したユーザ名を、LDAPサーバーの［属性名（ユーザ名）］で検索します。 認証したユーザ名が指定したスキーマから見つかった場合は、［属性名（Eメール）］で設定されているスキーマの値を送信者アドレスとして設定します。 認証したユーザ名が指定したスキーマから見つからなかった場合は、「ユーザー名＋@＋メールドメイン名」の形式を送信者アドレスとして設定します。 **Eメール送信時に送信者アドレスの変更を禁止します**： Eメール送信操作時に、送信者アドレスの変更を許可しない場合は、このチェックボックスをオンにします。
2	送信者名	送信者名を設定します。 **送信者アドレスのアカウント名+Eメール設定の送信者名**： 送信者名を、「送信者アドレスのアカウント名＋Eメール設定の送信者名」の形式で設定します。 **Eメール設定の送信者名**： Eメール設定で指定した送信者名を設定します。 **LDAPのユーザー名**： LDAPアドレスから検索した送信者名を設定します。 ［LDAPサーバー］ボックスで検索するLDAPサーバー名、［属性名（ユーザ名）］ボックスでユーザ名を検索するスキーマ、［属性名（送信者名）］ボックスで送信者名として設定する送信者のスキーマを指定します。 認証したユーザ名を、LDAPサーバーの［属性名（ユーザ名）］で検索します。 認証したユーザ名が指定したスキーマから見つかった場合は、［属性名（送信者名）］で設定されているスキーマの値を送信者名として設定します。 認証したユーザ名が指定したスキーマから見つからなかった場合は、「送信者アドレスのアカウント名＋Eメール設定の送信者名」の形式を送信者名として設定します。
3	Eメール宛先制限設定	ユーザ認証またはEメール認証が有効の場合、認証されたユーザのEメールアドレスを宛先に設定するか選択します。 • **宛先に使わない**：宛先には使用しません。 • **送信実行ユーザのみをToにする**：認証されたユーザのEメールアドレスのみをTo宛先にします。 • **送信実行ユーザをToに追加する**：認証されたユーザのEメールアドレスをTo宛先に追加します。 • **送信実行ユーザをCcに追加する**：認証されたユーザのEメールアドレスをCc宛先に追加します。 • **送信実行ユーザをBccに追加する**：認証されたユーザのEメールアドレスをBcc宛先に追加します。

□ 宛先制限設定

ファクス送信/インターネットファクス送信/Eメール送信するときの宛先を、LDAPサーバーに登録されている宛先に制限する場合に設定します。

	項目名	機能説明
1	宛先制限設定	• **有効**：ファクス送信 / インターネットファクス送信 /E メール送信するときの宛先を、LDAPサーバーに登録されている宛先に制限します。 • **無効**：ファクス送信/インターネットファクス送信/Eメール送信するときの宛先を制限しません。
2	LDAPサーバー 1 LDAPサーバー 2 LDAPサーバー 3	宛先制限設定が有効の場合に表示されます。 宛先の検索に使用するLDAPサーバー（3件）を表示します。LDAPサーバーを登録する場合は、項目名をクリックします。 P.278 「［宛先制限設定］画面」

［宛先制限設定］画面

宛先の検索に使用するLDAPサーバーを登録します。

	項目名	機能説明
1	［OK］ボタン	設定したLDAPサーバーを登録します。
2	［キャンセル］ボタン	LDAPサーバーの登録を中止します。
3	宛先制限設定	プルダウンリストから宛先の検索に使用するLDAPサーバーを選択します。 LDAPサーバーは3件まで登録できます。

□ シングルサインオン設定

Eメール認証を行う場合、スキャン画面からEメール送信を行う際に、ユーザはユーザ名とパスワードの入力が必要となりますが、シングルサインオン設定を有効にすることにより、この操作が不要となります。

	項目名	機能説明
1	Eメール送信のシングルサインオン	シングルサインオンを有効にするかしないかを設定します。初期値は［有効］に設定されています。

□ ホームディレクトリ設定

ホームディレクトリ設定が有効な場合に、ホームディレクトリの設定を行います。

	項目名	機能説明
1	ホームディレクトリ	ホームディレクトリを有効にするかしないかを設定します。
2	ホームディレクトリサーバー	ホームディレクトリサーバーを設定します。 • **ユーザ認証のサーバーを使用する：** ユーザー認証で指定しているサーバーをホームディレクトリサーバーとして設定します。 • **ユーザ認証のサーバーを使用する（カード認証時は指定サーバーを使用する）：** ユーザー認証で指定しているサーバーをホームディレクトリサーバーとして設定します。ただし、カード認証する場合は、指定されているサーバーをホームディレクトリサーバーとして設定します。 • **指定サーバーを使用する：** ホームディレクトリサーバーを指定します。 「ユーザ認証のサーバーを使用する（カード認証時は指定サーバーを使用する）」または「指定サーバーを使用する」を選択した場合は、LDAPサーバーのリストが表示されます。サーバーは3つまで設定でき、［プライマリ］をクリックしてプライマリサーバーを選択します。ホームディレクトリサーバーを指定するには、リストのサーバー名をクリックして［ホームディレクトリサーバー設定］画面を開き、各サーバー名に対してホームディレクトリサーバーを選択します。指定しない場合は、［無効］を選択します。

■ 証明書管理

デバイス証明、クライアント証明などの管理ができます。

補 足

［証明書管理］サブメニューは、［管理者］タブの［セキュリティ］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［セキュリティ］メニューについては、以下を参照してください。

📖 P.25 「アクセスポリシーモード」
📖 P.268 「［セキュリティ］項目説明一覧」

📖 P.280 「デバイス証明書」
📖 P.281 「クライアント証明書」
📖 P.282 「証明書設定」
📖 P.283 「CA証明書」
📖 P.283 「証明書ファイル」

□ デバイス証明書

無線LAN、IEEE 802.1X認証、IPsec、またはSSLを利用した暗号化通信を行うときのデバイス証明書の設定を行います。

	項目名	機能説明
1	自己証明書	お使いの機器からSSLを利用した暗号化通信の証明書を作成します。 **［作成］ボタン**：［自己証明書作成］画面が表示され、証明書に必要な項目を設定して、自己証明書を作成します。 📖 P.281 「［自己証明書作成］画面」 **［エクスポート］ボタン**：作成した自己証明書をエクスポートします。
2	インポート	無線LAN、IEEE 802.1X認証、IPsec、またはSSLを利用した暗号化通信の証明書をインポートします。 **［参照］ボタン**：証明書ファイルを選択します。 **［アップロード］ボタン**：選択した証明書ファイルをアップロードします。 **［削除］ボタン**：登録済みの証明書ファイルを削除します。

	項目名	機能説明
3	SCEP（自動取得）	IPsecまたはSSLを利用した暗号化通信の証明書を自動取得します。 **CAサーバアドレス（プライマリ）**：CAサーバーのIPアドレスまたはFQDNを入力します。半角英数字と記号で128文字まで入力できます。 **CAサーバアドレス（セカンダリ）**：CAサーバーのIPアドレスまたはFQDNを入力します。半角英数字と記号で128文字まで入力できます。 **証明書内Common NameのMFPアドレス**：証明書のCommon Nameに記述する本機のアドレスを、IPアドレスまたはFQDNのどちらにするかを選択します。初期値は［IPアドレス］に設定されています。 **タイムアウト**：CAサーバーが応答しない場合に、通信を終了するタイムアウト時間を入力します。1～120秒の範囲で設定します。初期値は「10」に設定されています。 **CAチャレンジ**：CAチャレンジのパスワードを設定します。半角英数字16文字まで入力できます。 **署名アルゴリズム**：署名のアルゴリズムをSHA1かMD5を選択します。 **ポーリング間隔**：ポーリング間隔を設定します。初期値は「1分」に設定されています。 **ポーリング持続時間**：ポーリングを行う時間を設定します。初期値は「8時間」に設定されています。 **［リクエスト］ボタン**：ボタンを押すと証明書をリクエストします。 **［削除］ボタン**：登録済みの証明書を削除します。

［自己証明書作成］画面

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	自己証明書を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	作成を中止します。
3	国/地域名	半角英数字と記号2文字で国名または地域名を入力します。（例：JP）
4	都道府県名	半角英数字と記号で都道府県名を入力します。最大128文字まで入力できます。
5	市区町村名	半角英数字と記号で市区町村名を入力します。最大128文字まで入力できます。
6	組織名	半角英数字と記号で組織名を入力します。最大64文字まで入力できます。
7	部署名	半角英数字と記号で部署名を入力します。最大64文字まで入力できます。
8	一般名	半角英数字と記号で本機のFQDNまたはIPアドレスを名前として入力します。最大64文字まで入力できます。
9	Eメールアドレス	半角英数字と記号でEメールアドレスを入力します。最大64文字まで入力できます。
10	有効期間	自己証明書の有効月数を入力します。

□ クライアント証明書

	項目名	機能説明
1	クライアント証明書	クライアントの証明書を作成します。 **［作成］ボタン**：［クライアント証明書作成］画面が表示され、証明書に必要な項目を設定して、クライアント証明書を作成します。 P.282「［クライアント証明書作成］画面」

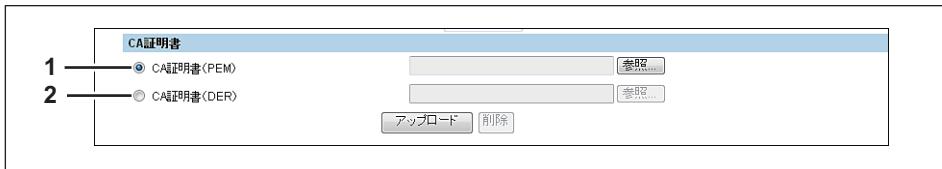
［クライアント証明書作成］画面

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	クライアント証明書を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	作成を中止します。
3	国/地域名	半角英数字と記号2文字で国名または地域名を入力します。（例：JP）
4	都道府県名	半角英数字と記号で都道府県名を入力します。最大128文字まで入力できます。
5	市区町村名	半角英数字と記号で市区町村名を入力します。最大128文字まで入力できます。
6	組織名	半角英数字と記号で組織名を入力します。最大64文字まで入力できます。
7	部署名	半角英数字と記号で部署名を入力します。最大64文字まで入力できます。
8	一般名	半角英数字と記号でクライアントコンピュータのFQDNまたはIPアドレスを名前として入力します。最大64文字まで入力できます。
9	有効期間	自己証明書の有効月数を入力します。
10	パスワード	半角英数字と記号で証明書のパスワードを入力します。最大64文字まで入力できます。

□ 証明書設定

	項目名	機能説明
1	署名アルゴリズム	証明書の署名アルゴリズムを選択します。 • SHA1：SHA1を使用します。 • SHA256：SHA256を使用します。 • SHA384：SHA384を使用します。 • SHA512：SHA512を使用します。
2	公開キー	証明書の公開キーを選択します。 • RSA1024：RSA1024を使用します。 • RSA2048：RSA2048を使用します。

□ CA証明書

SMTPクライアントの設定、POP3の設定、FTPクライアントの設定、およびLDAPサービスでSSL使用を［登録されたCA証明書を使用する］にしたい場合は、CA証明書をインストールする必要があります。CA証明書は最大10個まで登録することができます。

	項目名	機能説明
1	CA証明書（PEM）	PEM形式の証明書を選択します。 **［アップロード］ボタン**：証明書をアップロードします。 **［削除］ボタン**：登録済みの証明書を削除します。
2	CA証明書（DER）	DER形式の証明書を選択します。 **［アップロード］ボタン**：証明書をアップロードします。 **［削除］ボタン**：登録済みの証明書を削除します。

□ 証明書ファイル

登録済みの証明書ファイルの一覧が表示されます。

■ パスワードポリシー

登録するパスワードのポリシーを設定できます。

補 足

［パスワードポリシー］サブメニューは、［管理者］タブの［セキュリティ］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［セキュリティ］メニューについては、以下を参照してください。
📖 P.25 「アクセスポリシーモード」
📖 P.268 「［セキュリティ］項目説明一覧」

📖 P.284 「ユーザパスワードポリシー」
📖 P.285 「管理者、監査者パスワードポリシー」
📖 P.286「パスワードポリシー（ファイリングボックス、テンプレートグループ、テンプレート、暗号化PDF、SNMPv3、クローニング）」

□ ユーザパスワードポリシー

ユーザとして登録する場合のポリシーを設定します。

	項目名	機能説明
1	パスワード最小桁数	パスワードの最小桁数を設定します。0～64の範囲で設定します。初期値は「0」に設定されています。
2	文字列の制限	パスワードに使用する文字列の登録制限を有効にします。初期値は［無効］に設定されています。 **登録制限**： • ユーザ名と同じパスワードは登録できません。 • 使用していたパスワードと同じパスワードは登録できません。 • 連続または繰り返された文字列のパスワードは登録できません。 • 文字列の制限テキストボックスに入力されている文字が含まれているパスワードは登録できません。
3	ロックアウト設定	パスワードを間違えた場合にロックアウト設定を有効にするか設定します。初期値は［有効］に設定されています。 **リトライ回数**：パスワードの入力を何回間違えるとロックアウトするか設定します。1～30回の範囲で設定します。初期値は「10」に設定されています。 **ロックアウト時間**：ロックアウトする時間を設定します。1～1440分の範囲で設定します。初期値は「1」に設定されています。
	補 足 リトライ回数の変更は、設定を保存した時点で反映されます。リトライ回数の設定を変更したことにより、変更後のリトライ回数に達しているユーザは、ロックアウトされます。また、ロックアウトされたことはログに保存されます。	

	項目名	機能説明
4	有効期間設定	パスワードに有効期間を設定する場合に［有効］にします。初期値は［無効］が設定されています。 **有効期間**：パスワードの有効期間を設定します。1〜999日の範囲で設定します。初期値は「180」に設定されています。
	補 足 有効期間で設定された日数が経過すると、次回ユーザがログインしたときに、パスワード変更を促す画面が表示されます。	

□ 管理者、監査者パスワードポリシー

管理者や監査者として登録する場合のポリシーを設定します。

	項目名	機能説明
1	パスワード最小桁数	パスワードの最小桁数を設定します。6〜64の範囲で設定します。初期値は「6」に設定されています。
2	文字列の制限	パスワードに使用する文字列の登録制限を有効にします。初期値は［無効］に設定されています。 **登録制限**： • ユーザ名と同じパスワードは登録できません。 • 使用していたパスワードと同じパスワードは登録できません。 • 連続または繰り返された文字列のパスワードは登録できません。 • 文字列の制限テキストボックスに入力されている文字が含まれているパスワードは登録できません。
3	ロックアウト設定	パスワードを間違えた場合にロックアウト設定を有効にするか設定します。初期値は［有効］に設定されています。 **リトライ回数**：パスワードの入力を何回間違えるとロックアウトするか設定します。1〜30回の範囲で設定します。初期値は「10」に設定されています。 **ロックアウト時間**：ロックアウトする時間を設定します。1〜1440分の範囲で設定します。初期値は「1」に設定されています。
	補 足 リトライ回数の変更は、設定を保存した時点で反映されます。リトライ回数の設定を変更したことにより、変更後のリトライ回数に達しているユーザは、ロックアウトされます。また、ロックアウトされたことはログに保存されます。	
4	有効期間設定	パスワードに有効期間を設定する場合に［有効］にします。初期値は［無効］が設定されています。 **有効期間**：パスワードの有効期間を設定します。1〜999日の範囲で設定します。初期値は「180」に設定されています。
	補 足 有効期間で設定された日数が経過すると、次回ユーザがログインしたときに、パスワード変更を促す画面が表示されます。	

□ パスワードポリシー（ファイリングボックス、テンプレートグループ、テンプレート、暗号化PDF、SNMPv3、クローニング）

操作やアプリケーションなどお使いの機器で使用するパスワードのポリシーを設定します。

	項目名	機能説明
1	パスワード最小桁数	パスワードの最小桁数を設定します。0〜20 *1の範囲で設定します。初期値は「0」に設定されています。
2	文字列の制限	パスワードに使用する文字列の登録制限を有効にします。初期値は［無効］に設定されています。 **登録制限**： • ユーザ名と同じパスワードは登録できません。*2 • 使用していたパスワードと同じパスワードは登録できません。
3	ロックアウト設定 *3	パスワードを間違えた場合にロックアウト設定を有効にするか設定します。初期値は［有効］に設定されています。 **リトライ回数**：パスワードの入力を何回間違えるとロックアウトするか設定します。1〜30回の範囲で設定します。初期値は「10」に設定されています。 **ロックアウト時間**：ロックアウトする時間を設定します。1〜1440分の範囲で設定します。初期値は「1」に設定されています。
	補 足 リトライ回数の変更は、設定を保存した時点で反映されます。リトライ回数の設定を変更したことにより、変更後のリトライ回数に達しているユーザは、ロックアウトされます。また、ロックアウトされたことはログに保存されます。	

＊1　SNMP v3の場合、パスワードは1桁以上必要になります。
＊2　クローニングの場合、ファイル名と同じパスワードも登録できます。
＊3　**ロックアウト設定は、ファイリングボックス利用時のみ有効となります。**

[セキュリティ] 設定／操作方法

セキュリティの設定では、無線LAN通信でRADIUSサーバーを使用して認証するときに必要な無線LAN証明書のインストール、SSLを使用するときに必要なデバイス証明書のインストール・エクスポート・SCEP（自動取得）設定やCA証明書のインストール、IEEE802.1X認証に必要なIEEE802.1X用証明書のインストール･SCEP設定を行うことができます。

📖 P.287 「デバイス証明書をインストールする」
📖 P.295 「クライアント証明書の作成／エクスポート」
📖 P.297 「CA証明書をインストールする」

■ デバイス証明書をインストールする

HTTPの設定、FTPサーバーの設定、IPP印刷、Web Serviceプリント、およびOff Device Customization Architectureの設定でSSL使用を有効にしたい場合は、デバイス証明書をインストールする必要があります。
デバイス証明書をインストールするには、自己証明書を作成するか、認証機関から入手またはCAサーバーで発行したデバイス証明書をインストールします。また、SCEPでCAサーバーからデバイス証明書を自動取得することもできます。

📖 P.287 「自己証明書を作成する／エクスポートする」
📖 P.290 「デバイス証明書をインストールする」
📖 P.291 「登録したデバイス証明書を削除する」
📖 P.291 「デバイス証明書を自動取得する」
📖 P.294 「自動取得したデバイス証明書を削除する」

補 足

HTTPの設定、FTPサーバーの設定、IPP印刷、Web Serviceプリント、およびOff Device Customization Architectureの設定でSSL使用を有効にしたい場合で、本機およびクライアントコンピュータにインストールする必要のある証明書は以下のとおりです。

使用目的	本機で必要な証明書			クライアントコンピュータに必要な証明書		
	デバイス証明書		CA証明書	自己証明書	クライアント証明書	CA証明書
	自己証明書	認証機関から入手／CAサーバが発行したデバイス証明書				
HTTP、FTP、IPP印刷、Off Device Customization Architecture＊1	○	-	-	(○)＊2	-	-
	-	○	-	-	-	(○)＊2
Web Serviceプリント	-	○	○	-	○	○
	○	-	-	○	-	-

＊1　HTTPの設定、FTPサーバーの設定、IPP印刷、およびOff Device Customization Architectureの設定で、本機に自己証明書をインストールする場合は、クライアント側にも自己証明書をインストールします。本機に認証機関から入手したデバイス証明書をインストールする場合は、クライアント側にCA証明書をインストールしてください。
＊2　Windows Vistaの場合、証明書を本機のみにインストールしてSSL使用を有効にすることも可能です。この場合は使用中に以下のメッセージが表示されるので、次の項目を選択してください。
Windows Vistaの場合、「このWebサイトのセキュリティ証明書には問題があります。」というメッセージが表示されるので、[このサイトの閲覧を続行する（推奨されません）。] を選択してください。
なお、より機密性を高めたい場合は、クライアントコンピュータにも証明書をインストールしてください。

📖 P.297 「CA証明書をインストールする」

注 意

ユーザ証明書を本機にインストールするときは、セキュリティを確保するため、本機とクライアントコンピュータをクロスケーブルで接続し、インストールすることを推奨します。

□ 自己証明書を作成する／エクスポートする

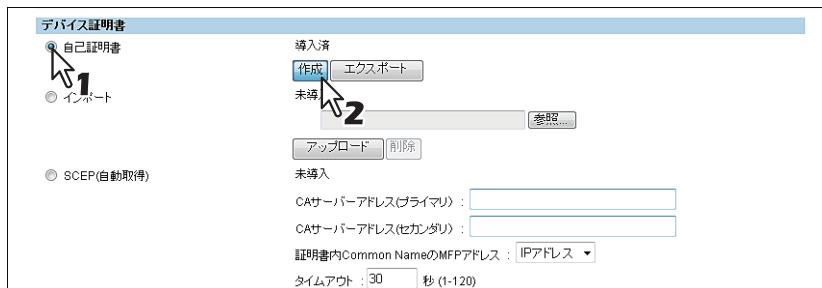
1 **TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。**

📖 P.25 「アクセスポリシーモード」

2 **[管理者] タブをクリックします。**

3 ［セキュリティ］メニューをクリックし、［証明書管理］サブメニューをクリックします。

証明書管理ページが表示されます。

4 ［デバイス証明書］の［自己証明書］を選択し、［作成］をクリックします。

自己証明書作成ページが表示されます。

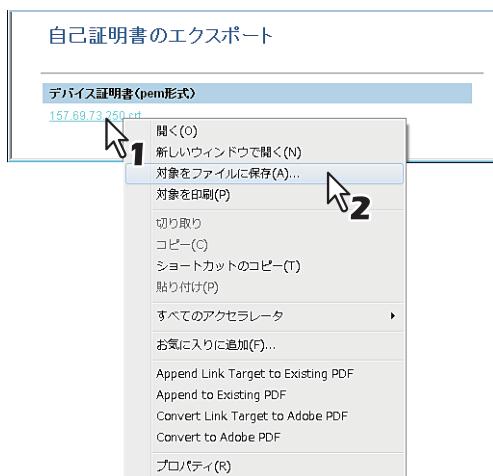
5 以下の項目をすべて入力し、［保存］をクリックします。

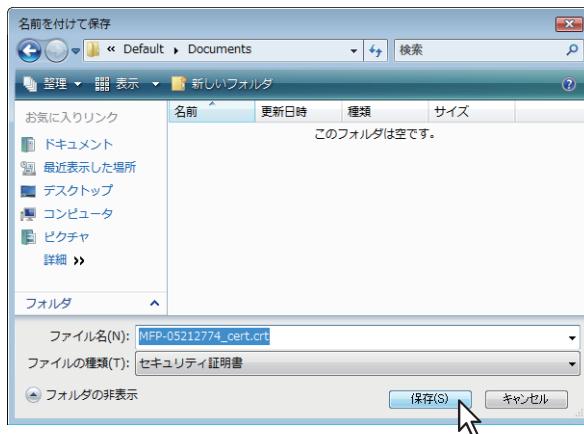
このページでは、以下の設定を行うことができます：

P.281 「［自己証明書作成］画面」

6 ［OK］をクリックします。

7 自己証明書が作成されます。エクスポートする場合は、［エクスポート］ボタンをクリックします。

8 エクスポートする証明書のファイル名のリンクを右クリックし、［対象をファイルに保存］を選択します。

［名前を付けて保存］ダイアログボックスが表示されます。

9 保存先を指定し、［保存］をクリックします。

10 ［証明書管理］サブメニューで［保存］をクリックします。

補 足

エクスポートした証明書をクライアントコンピュータにインストールすると、機密性をより高めることができます。

11 自己証明書を作成したら、以下の設定でSSLを有効に設定することができます。

📖 P.165 「LDAPの設定」
📖 P.171 「HTTPの設定」
📖 P.172 「SMTPクライアントの設定」
📖 P.175 「POP3の設定」
📖 P.177 「FTPサーバーの設定」
📖 P.182 「Web Service設定」
📖 P.223 「IPP印刷の設定」
📖 P.231 「Off Device Customization Architecture設定」

□ デバイス証明書をインストールする

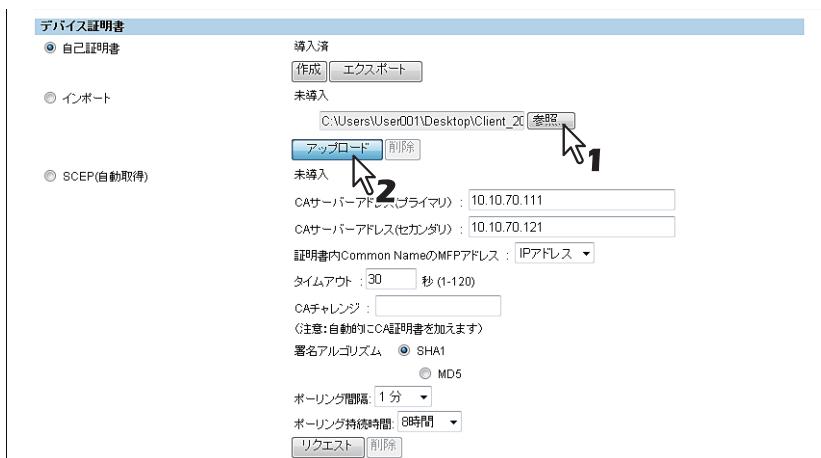
1 **TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。**

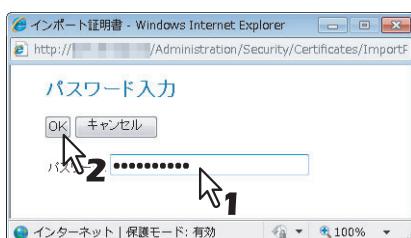
📖 P.25 「アクセスポリシーモード」

2 **［管理者］タブをクリックします。**

3 **［セキュリティ］メニューをクリックし、［証明書管理］サブメニューをクリックします。**

証明書管理ページが表示されます。

4 **［デバイス証明書］の［インポート］の［参照］をクリックして、デバイス証明書ファイルを選択し、［アップロード］をクリックします。**

警告メッセージが表示されます。

5 **デバイス証明書のパスワードを入力し、［OK］をクリックします。**

デバイス証明書がインストールされます。

6 **［証明書管理］サブメニューで［保存］をクリックします。**

7 **以下の設定でSSLを有効に設定することができます。**

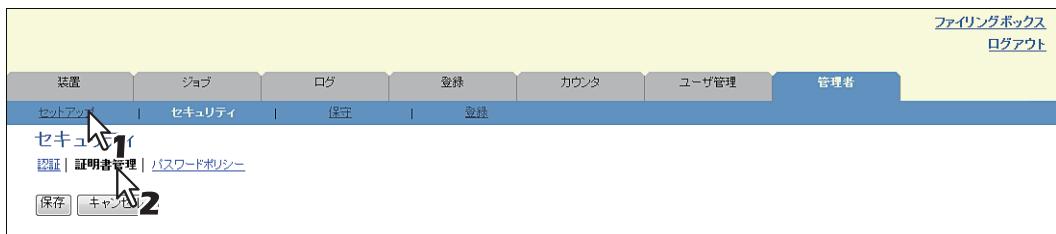
📖 P.165 「LDAPの設定」
📖 P.171 「HTTPの設定」
📖 P.172 「SMTPクライアントの設定」
📖 P.175 「POP3の設定」
📖 P.177 「FTPサーバーの設定」
📖 P.182 「Web Service設定」
📖 P.223 「IPP印刷の設定」
📖 P.231 「Off Device Customization Architecture設定」

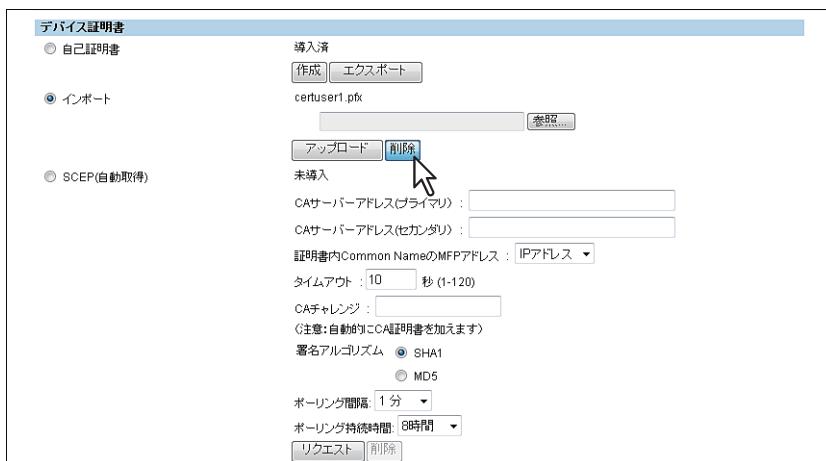
□ 登録したデバイス証明書を削除する

1 **TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。**

P.25 「アクセスポリシーモード」

2 **[管理者] タブをクリックします。**

3 **[セキュリティ] メニューをクリックし、[証明書管理] サブメニューをクリックします。**

証明書管理ページが表示されます。

4 **[デバイス証明書] の [インポート] の [削除] をクリックします。**

設定の確認ダイアログボックスが表示されます。

注 意

デバイス証明書がインポートされていない場合は、削除することはできません。

5 **[OK] をクリックします。**

デバイス証明書が削除されます。

6 **[証明書管理] サブメニューで [保存] をクリックします。**

□ デバイス証明書を自動取得する

1 **TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。**

P.25 「アクセスポリシーモード」

2 **[管理者] タブをクリックします。**

3 ［セキュリティ］メニューをクリックし、［証明書管理］サブメニューをクリックします。

証明書管理ページが表示されます。

4 ［デバイス証明書］の［SCEP（自動取得）］で以下の項目を入力し、［リクエスト］をクリックします。

CAサーバアドレス（プライマリ）	CAサーバーのIPアドレスまたはFQDNを入力します。最大128文字まで入力できます。
CAサーバアドレス（セカンダリ）	CAサーバーのIPアドレスまたはFQDNを入力します。最大128文字まで入力できます。
証明書内CommonNameのMFPアドレス	証明書のCommon Nameに記述する本機のアドレスを、IPアドレスまたはFQDNのどちらかにするかを選択します。
タイムアウト	CAサーバーが応答しない場合に、通信を終了するタイムアウト時間を入力します。
CAチャレンジ	CAチャレンジを入力します。
署名アルゴリズム	署名のアルゴリズムをSHA1かMD5を選択します。
ポーリング間隔	ポーリング間隔を設定します。
ポーリング持続時間	ポーリングを行う時間を設定します。

注 意

- ［CAサーバアドレス］でFQDNを使用してCAサーバーを指定する場合は、DNSサーバーを設置しDNSの設定を有効にする必要があります。
- ［証明書のCommon NameのMFPアドレス］で［FQDN］を使用する場合は、DNSサーバーに本機のIPアドレスが登録されている必要があります。

デバイス証明書が取得されます。

注 意

デバイス証明書と同時にCA証明書も自動取得されます。CA証明書がすでに自動取得されていた場合は、新しいCA証明書を自動取得させるために、一度、デバイス証明書のSCEPの［削除］をクリックして自動取得されていたCA証明書を削除し、［取得］をクリックして新たに証明書を自動取得してください。

5 ［証明書管理］サブメニューで［保存］をクリックします。

6 以下の設定でSSLを有効に設定することができます。

📖 P.165 「LDAPの設定」
📖 P.171 「HTTPの設定」
📖 P.172 「SMTPクライアントの設定」
📖 P.175 「POP3の設定」
📖 P.177 「FTPサーバーの設定」
📖 P.182 「Web Service設定」
📖 P.223 「IPP印刷の設定」
📖 P.231 「Off Device Customization Architecture設定」
📖 P.309 「LDAPサービス」

□ 自動取得したデバイス証明書を削除する

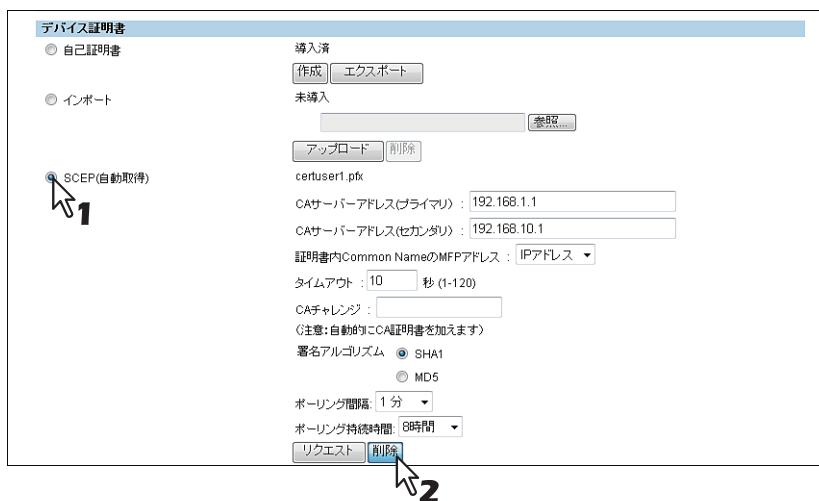
1 **TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。**

P.25「アクセスポリシーモード」

2 **［管理者］タブをクリックします。**

3 **［セキュリティ］メニューをクリックし、［証明書管理］サブメニューをクリックします。**

証明書管理ページが表示されます。

4 **［デバイス証明書］の［SCEP（自動取得）］を選択し、［削除］をクリックします。**

設定の確認ダイアログボックスが表示されます。

注 意

- デバイス証明書と同時に自動取得したCA証明書も削除されます。
- デバイス証明書が自動取得されていない場合は、削除することはできません。

5 **［OK］をクリックします。**

デバイス証明書が削除されます。

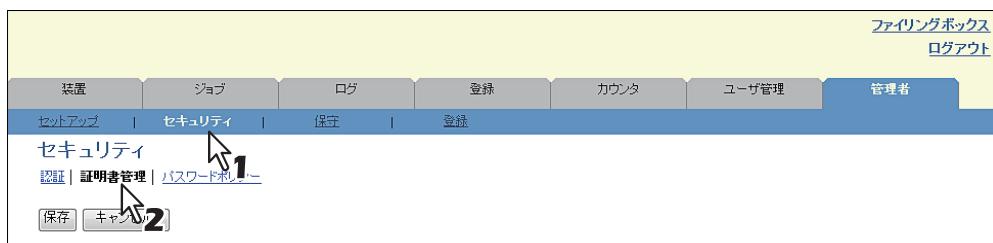
6 **［証明書管理］サブメニューで［保存］をクリックします。**

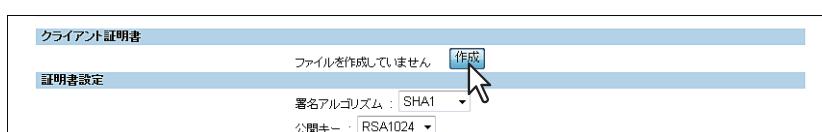
■ クライアント証明書の作成／エクスポート

1 **TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。**

📖 P.25 「アクセスポリシーモード」

2 **［管理者］タブをクリックします。**

3 **［セキュリティ］メニューをクリックし、［証明書管理］サブメニューをクリックします。**

証明書管理ページが表示されます。

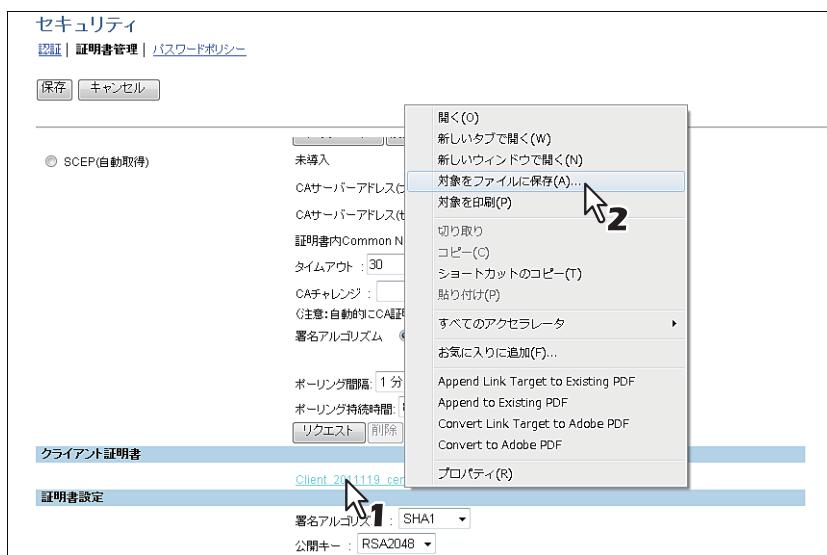
4 **［クライアント証明書］の［作成］をクリックします。**

作成クライアント証明書ページが表示されます。

5 **以下の項目をすべて入力し、［保存］をクリックします。**

このページでは、以下の設定を行うことができます：

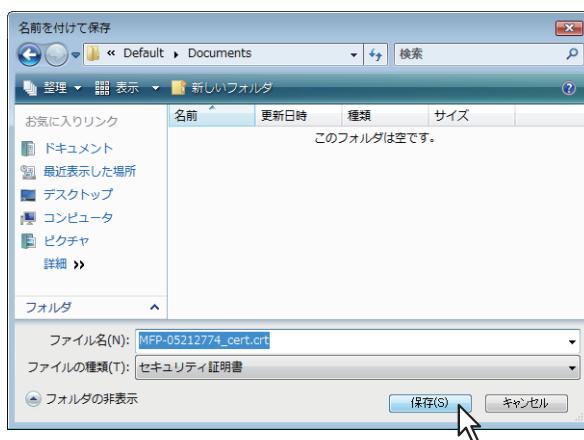
📖 P.282 「［クライアント証明書作成］画面」

6 **［OK］をクリックします。**

7 エクスポートする証明書のファイル名のリンクを右クリックし、[対象をファイルに保存]を選択します。

[名前を付けて保存]ダイアログボックスが表示されます。

補 足

クライアント証明書が未導入の場合は、[パスワード]にパスワードを入力し、[作成]をクリックして証明書を作成します。

8 保存先を指定し、[保存]をクリックします。

9 [証明書管理]サブメニューで[保存]をクリックします。

補 足

エクスポートした証明書をクライアントコンピュータにインストールすると、機密性をより高めることができます。

■ CA証明書をインストールする

SMTPクライアントの設定、POP3の設定、FTPクライアントの設定、およびLDAPサービスでSSL使用を［登録されたCA証明書を使用する］にしたい場合は、CA証明書をインストールする必要があります。CA証明書は最大10個まで登録することができます。

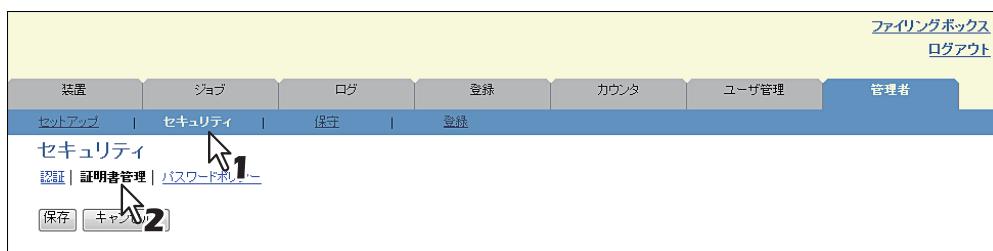
📖 P.297「CA証明書をインストールする」
📖 P.298「登録したCA証明書を削除する」

□ CA証明書をインストールする

1 TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。

📖 P.25「アクセスポリシーモード」

2 ［管理者］タブをクリックします。

3 ［セキュリティ］メニューをクリックし、［証明書管理］サブメニューをクリックします。

証明書管理ページが表示されます。

4 CA証明書の暗号化種別を選択し、［参照］をクリックしてCA証明書ファイルを選択して、［アップロード］をクリックします。

CA証明書がインストールされます。

5 ［証明書管理］サブメニューで［保存］をクリックします。

6 以下の設定のSSL使用設定で［登録されたCA証明書を使用する］を選択して、SSLを有効に設定することができます。

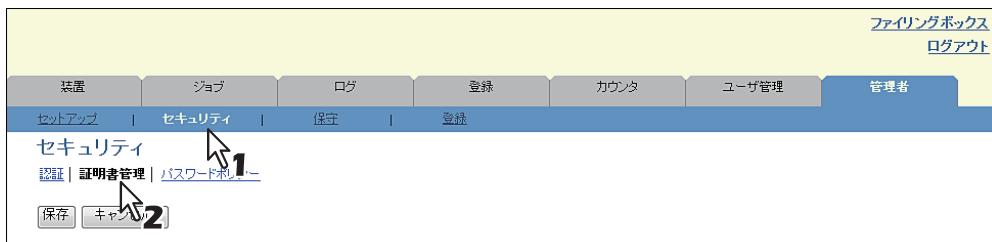
📖 P.172「SMTPクライアントの設定」
📖 P.175「POP3の設定」
📖 P.176「FTPクライアントの設定」
📖 P.182「Web Service設定」
📖 P.231「Off Device Customization Architecture設定」
📖 P.309「LDAPサービス」

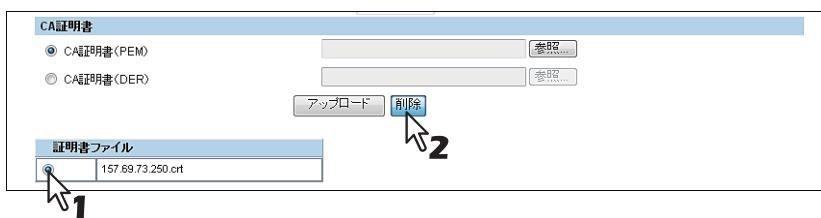
□ 登録したCA証明書を削除する

1 **TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。**

📖 P.25「アクセスポリシーモード」

2 **[管理者]タブをクリックします。**

3 **[セキュリティ]メニューをクリックし、[証明書管理]サブメニューをクリックします。**

証明書管理ページが表示されます。

4 **[証明書ファイル]で削除したいCA証明書を選択し、[CA証明書]の[削除]をクリックします。**

設定の確認ダイアログボックスが表示されます。

5 **[OK]をクリックします。**

CA証明書が削除されます。

6 **[証明書管理]サブメニューで[保存]をクリックします。**

[保守] 項目説明一覧

補 足

[保守] メニューは [管理者] タブから、アクセスポリシーモードで管理権限が設定されているユーザがアクセスできます。
アクセス方法は、以下を参照してください。
📖 P.25 「アクセスポリシーモード」

■ ソフトウェアのアップロード

お使いの機器に内蔵されているクライアントソフトウェアを更新することができます。ユーザは、TopAccessの [ソフトウェアのインストール]リンクから自分のコンピュータにクライアントソフトウェアをダウンロードすることができます。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。

補 足

[ソフトウェアのアップロード] サブメニューは、[管理者] タブの [保守] メニューからアクセスできます。
アクセス方法、[保守] メニューについては、以下を参照してください。
📖 P.25 「アクセスポリシーモード」
📖 P.299 「[保守] 項目説明一覧」

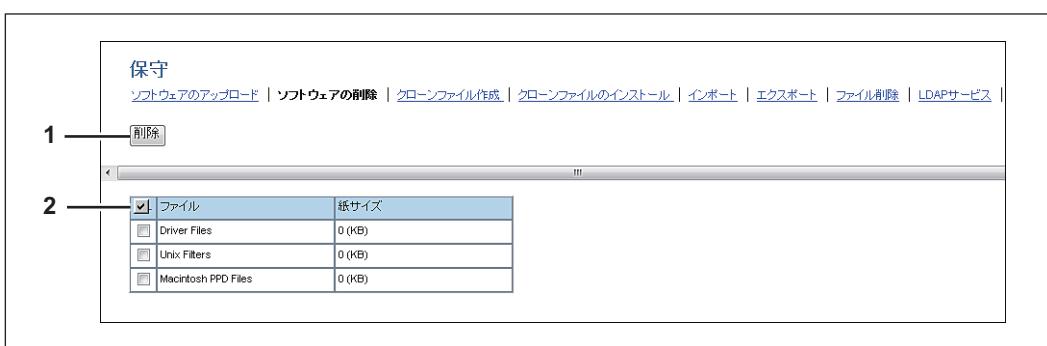
<table>
<tr><th></th><th>項目名</th><th>機能説明</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1</td><td>アップロードソフトウェア</td><td>お使いの機器にアップロードするアップロードソフトウェアを選択します。
• Driver Files：クライアントソフトウェアのインストーラファイルをアップロードします。
• Macintosh PPD Files：Mac OS X 10.4以降で使用するPPDファイルをアップロードします。また、Mac OS X 10.4以降で使用するプラグインファイルをアップロードします。
• Unix Filters：UNIXワークステーション用のtarファイルをアップロードします。
[OK] ボタン：選択したソフトウェアを確定します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">補 足
ソフトウェアの入手方法、アップロード手順については、以下を参照してください。
📖 P.319 「クライアントソフトウェアをアップロードする」</td></tr>
</table>

	項目名	機能説明
2	［アップロード］ボタン	参照した設定ファイルをアップロードします。
3	InstallClient1.exe参照ボックス	アップロードする設定ファイルを参照します。

■ ソフトウェアの削除

お使いの機器にアップロードしたソフトウェアを削除することができます。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。

補 足

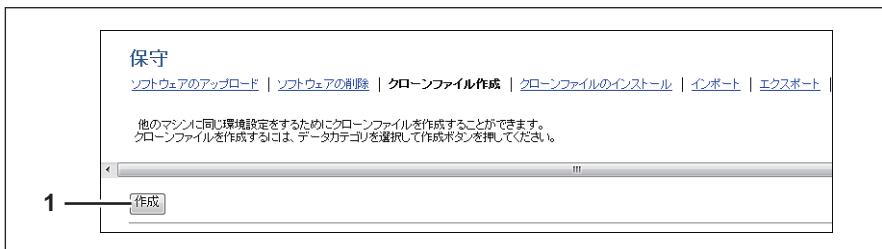
［ソフトウェアの削除］サブメニューは、［管理者］タブの［保守］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［保守］メニューについては、以下を参照してください。
📖 P.25 「アクセスポリシーモード」
📖 P.299 「［保守］項目説明一覧」

	項目名	機能説明
1	［削除］ボタン	選択したソフトウェアを削除します。 ソフトウェア一覧から削除するソフトウェアを選択しクリックします。
2	ソフトウェア一覧	お使いの機器にアップロードされているソフトウェアの一覧を表示します。 削除するソフトウェアにチェックを入れます。

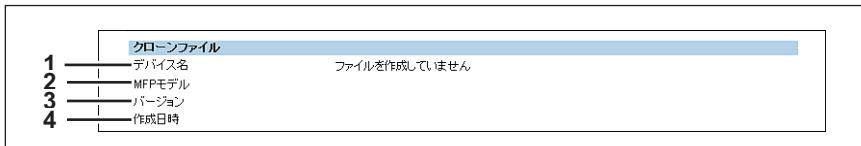
■ クローンファイル作成

お使いの機器の環境のクローンファイルを作成できます。
作成したクローンファイルを他の機器にインストールすることで、お使いの機器のクローン環境が構築されます。
クローンファイルの詳細や使いかたについては、サービスエンジニアにお問い合わせください。

補 足

［クローンファイル作成］サブメニューは、［管理者］タブの［保守］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［保守］メニューについては、以下を参照してください。
📖 P.25 「アクセスポリシーモード」
📖 P.299 「［保守］項目説明一覧」

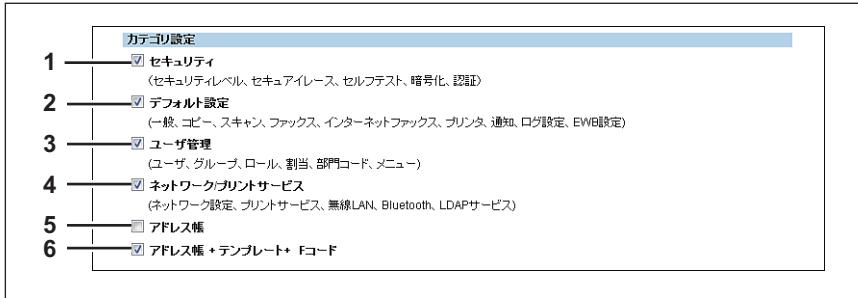
📖 P.301 「クローンファイル」
📖 P.302 「カテゴリ設定」

	項目名	機能説明
1	［作成］ボタン	カテゴリ設定で選択されたカテゴリのクローンファイルを作成します。 クリックするとクローンファイルに設定するパスワード設定画面が表示されます。

□ クローンファイル

	項目名	機能説明
1	デバイス名	作成したクローンファイルのデバイス名（名称）を表示します。 デバイス名をクリックするとクローンファイルをダウンロードすることができます。
2	MFPモデル	作成したクローンファイルのMFPモデルを表示します。
3	バージョン	作成したクローンファイルのシステムROMバージョンを表示します。
4	作成日時	クローンファイルの作成日時を表示します。

□ カテゴリ設定

クローンファイルにカテゴリを選択します。

補 足

クローンファイルには、チェックを入れたカテゴリの「機能説明」に書かれている設定が含まれます。

	項目名	機能説明
1	セキュリティ	セキュアイレース、認証の設定をクローンファイルに含めます。
2	デフォルト設定	一般、コピー、スキャン、ファクス、インターネットファクス、Eメール、共有フォルダに保管、プリンタ、通知、ログ設定、EWB設定、ファクス／インターネットファクス受信転送をクローンファイルに含めます。
3	ユーザ管理	ユーザ、グループ、ロール、割当、部門コード、メニューをクローンファイルに含めます。
4	ネットワーク/プリントサービス	ネットワーク設定、プリントサービス、無線LAN、Bluetooth、LDAPサービスをクローンファイルに含めます。
5	アドレス帳	アドレス帳をクローンファイルに含めます。
6	アドレス帳+テンプレート+Fコード	アドレス帳、テンプレート、Fコードをクローンファイルに含めます。

■ クローンファイルのインストール

作成済みのクローンファイルをインストールすることができます。
他の機器で作成したクローンファイルをインストールすることで、クローン環境が構築することができます。

補 足

［クローンファイルのインストール］サブメニューは、［管理者］タブの［保守］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［保守］メニューについては、以下を参照してください。

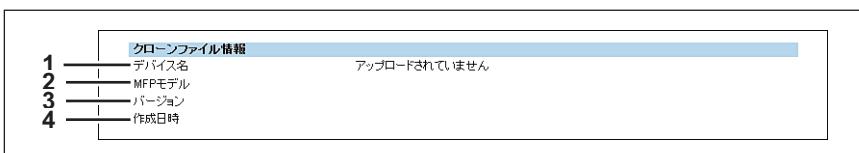
📖 P.25 「アクセスポリシーモード」
📖 P.299 「［保守］項目説明一覧」

📖 P.303 「ファイルのアップロード」
📖 P.303 「クローンファイル情報」
📖 P.304 「クローンファイルに含まれているデータの情報」

	項目名	機能説明
1	［インストール］ボタン	選択されているクローンファイルをインストールします。 クリックするとクローンファイル作成時に設定したパスワードの入力を求めるダイアログが表示されます。

□ ファイルのアップロード

	項目名	機能説明
1	［参照］ボタン	クローンファイルを選択します。
2	［アップロード］ボタン	選択したクローンファイルのクローンファイル情報とクローンファイルに含まれているデータの情報を表示します。

□ クローンファイル情報

	項目名	機能説明
1	デバイス名	作成したクローンファイルのデバイス名を表示します。
2	MFPモデル	作成したクローンファイルのMFPモデルを表示します。
3	バージョン	作成したクローンファイルのシステムROMバージョンを表示します。
4	作成日時	クローンファイルの作成日時を表示します。

□ クローンファイルに含まれているデータの情報

	項目名	機能説明
1	セキュリティ	セキュリティレベル、セキュアイレース、セルフテスト、暗号化、認証の設定が含まれているか表示します。
2	デフォルト設定	一般、コピー、スキャン、ファクス、インターネットファクス、プリンタ、通知、ログ設定、EWB設定が含まれているか表示します。
3	ユーザ管理	ユーザ、グループ、ロール、割当、部門コード、メニューが含まれているか表示します。
4	ネットワーク/プリントサービス	ネットワーク設定、プリントサービス、無線LAN、Bluetooth、LDAPサービスが含まれているか表示します。
5	アドレス帳	アドレス帳が含まれているか表示します。
6	アドレス帳+テンプレート+Fコード	アドレス帳、テンプレート、Fコードが含まれているか表示します。

■ インポート

他の機器からエクスポートされたアドレス帳データや部門コード情報をインポートすることができます。

補 足

［インポート］サブメニューは、［管理者］タブの［保守］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［保守］メニューについては、以下を参照してください。
📖 P.25 「アクセスポリシーモード」
📖 P.299 「［保守］項目説明一覧」

📖 P.304 「アドレス帳」
📖 P.305 「Fコード」
📖 P.305 「テンプレート」
📖 P.305 「複合（テンプレート＋アドレス帳＋Fコード）」

注 意

データをインポートする前に、現在処理中のジョブや、プライベート印刷ジョブ、予約印刷ジョブ、お試し印刷ジョブがないことを確認してください。これらのジョブがある場合、データをインポートすることができません。それでもデータのインポートに時間がかかる場合は、お使いの機器がスリープモードに入ってからデータのインポートを行ってください。

□ アドレス帳

	項目名	機能説明
1	インポート方式	アドレス帳のインポート方式を設定します。 **追加**：登録済みのデータにインポートした情報を追加します。 **上書き**：登録済みのデータをすべて削除してインポートした情報に書き換えます。
2	ファイル名	インポートするアドレス帳のファイルを選択します。 **［参照］ボタン**：アドレス帳のファイルを選択します。 **［インポート］ボタン**：選択したアドレス帳のファイルをインポートします。

□ Fコード

	項目名	機能説明
1	ファイル名	インポートするFコードのファイルを選択します。 **［参照］ボタン**：Fコードのファイルを選択します。 **［インポート］ボタン**：選択したFコードのファイルをインポートします。

□ テンプレート

	項目名	機能説明
1	インポート方式	テンプレートのインポート方式を設定します。 **追加**：登録済みのデータにインポートした情報を追加します。 **上書き**：登録済みのデータをすべて削除してインポートした情報に書き換えます。
2	ファイル名	インポートするテンプレートのファイルを選択します。 **［参照］ボタン**：テンプレートのファイルを選択します。 **［インポート］ボタン**：選択したテンプレートのファイルをインポートします。

□ 複合（テンプレート+アドレス帳+Fコード）

	項目名	機能説明
1	ファイル名	インポートする複合（テンプレート＋アドレス帳＋Fコード）ファイルを選択します。 **［参照］ボタン**：複合ファイルを選択します。 **［インポート］ボタン**：選択した複合ファイルをインポートします。

■ エクスポート

アドレス帳、Fコードやテンプレートなどをエクスポートすることができます。

補 足

［エクスポート］サブメニューは、［管理者］タブの［保守］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［保守］メニューについては、以下を参照してください。
P.25「アクセスポリシーモード」
P.299「［保守］項目説明一覧」

P.306「アドレス帳」
P.306「Fコード」
P.307「テンプレート」
P.307「複合（テンプレート＋アドレス帳＋Fコード）」

□ アドレス帳

	項目名	機能説明
1	ファイル名	作成済みのエクスポート用ファイルのファイル名を表示します。 ファイル名をクリックするとダウンロードすることができます。
2	ファイルサイズ	作成済みのエクスポート用ファイルのファイルサイズを表示します。
3	作成日時	作成済みのエクスポート用ファイルの作成日時を表示します。
4	エクスポートデータのファイル形式	エクスポート用ファイルのファイル形式を選択します。 **CSV**：CSV形式でファイルを作成します。 **XML**：XML形式でファイルを作成します。
5	［新規作成］ボタン	エクスポート用ファイルを作成します。

□ Fコード

	項目名	機能説明
1	ファイル名	作成済みのエクスポート用ファイルのファイル名を表示します。 ファイル名をクリックするとダウンロードすることができます。
2	ファイルサイズ	作成済みのエクスポート用ファイルのファイルサイズを表示します。
3	作成日時	作成済みのエクスポート用ファイルの作成日時を表示します。
4	［新規作成］ボタン	エクスポート用ファイルを作成します。

□ テンプレート

	項目名	機能説明
1	ファイル名	作成済みのエクスポート用ファイルのファイル名を表示します。 ファイル名をクリックするとダウンロードすることができます。
2	ファイルサイズ	作成済みのエクスポート用ファイルのファイルサイズを表示します。
3	作成日時	作成済みのエクスポート用ファイルの作成日時を表示します。
4	［新規作成］ボタン	エクスポート用ファイルを作成します。

□ 複合（テンプレート+アドレス帳+Fコード）

	項目名	機能説明
1	ファイル名	作成済みのエクスポート用ファイルのファイル名を表示します。 ファイル名をクリックするとダウンロードすることができます。
2	ファイルサイズ	作成済みのエクスポート用ファイルのファイルサイズを表示します。
3	作成日時	作成済みのエクスポート用ファイルの作成日時を表示します。
4	［新規作成］ボタン	エクスポート用ファイルを作成します。

■ ファイル削除

［共有フォルダへ保管］操作で本機の共有フォルダ（「FILE_SHARE」フォルダ）に保存されたスキャンデータや送信データ、受信データなどの保存データを削除することができます。この操作を定期的に行い、ハードディスクの空き容量を確保することをお勧めします。

補 足

［ファイル削除］サブメニューは、［管理者］タブの［保守］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［保守］メニューについては、以下を参照してください。
P.25「アクセスポリシーモード」
P.299「［保守］項目説明一覧」

	項目名	機能説明
1	スキャン	スキャン時に共有フォルダに保管されたデータをすべて削除します。
2	送信	ファクス／インターネットファクス送信時に共有フォルダに保管されたデータをすべて削除します。
3	受信	ファクス／インターネットファクス受信時にメールボックス（Fコード）やファクス受信転送やインターネットファクス受信転送で共有フォルダに保管されたデータをすべて削除します。

■ LDAPサービス

LDAP（Lightweight Directory Access Protocol）サーバーのディレクトリサービスに関するプロパティを登録することができます。新しいディレクトリサービスを追加すると、ユーザはLDAPサーバーを使って宛先を検索することができます。

補 足

［LDAPサービス］サブメニューは、［管理者］タブの［保守］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［保守］メニューについては、以下を参照してください。
P.25「アクセスポリシーモード」
P.299「［保守］項目説明一覧」

	項目名	機能説明
1	［新規］ボタン	ディレクトリに利用するLDAPサーバーを登録します。 P.310「［LDAP情報］画面」
2	登録LDAP一覧	登録されているLDAPサーバーの一覧を表示します。 LDAPサーバー名をクリックすると、登録内容を編集できます。 P.310「［LDAP情報］画面」

□［LDAP情報］画面

登録LDAP一覧のLDAPサーバ名をクリックするか、［新規］ボタンをクリックすると表示されます。

	項目名	機能説明
1	LDAPサーバー名	ディレクトリサービスを識別するディレクトリサービス名を入力します。半角英数字と記号（=；# ￥を除く）で64文字まで入力できます。
2	サーバーアドレス	LDAPサーバーのIPアドレスまたはFQDNを入力します。半角英数字と記号で128文字まで入力できます。
3	ポート番号	LDAPサーバーにアクセスするポート番号を入力します。1から65535までの値を入力できます。SSLを使用しないLDAPサーバーにアクセスするには、初期値の「389」を使用します。SSLを使用する場合は、通常「636」を使用します。
4	認証	SASL認証プロトコルを選択します。SASL認証プロトコルが分からない場合は、［自動］を選択します。 • **自動**：自動で認証を識別してLDAPサーバーに接続する場合に選択します。 • **Kerberos**：Kerberos認証を使用してLDAPサーバーに接続する場合に選択します。 • **Digest-MD5**：Digest-MD5認証を使用してLDAPサーバーに接続する場合に選択します。 • **CRAM-MD5**：CRAM-MD5認証を使用してLDAPサーバーに接続する場合に選択します。 • **Login**：Login認証を使用してLDAPサーバーに接続する場合に選択します。 • **Plain**：Plain認証を使用してLDAPサーバーに接続する場合に選択します。 • **Simple Bind**：Simple Bind認証を使用してLDAPサーバーに接続する場合に選択します。
5	サーチベース	検索ベースを入力します。Windowsサーバーを使用している場合は、必ず入力してください。半角英数字と記号（; # ￥を除く）で256文字まで入力できます。
6	ユーザ名	LDAPサービスにアクセスするためにユーザ名が必要な場合は、ログインユーザ名を入力します。半角英数字と記号で256文字まで入力できます。
7	パスワード	LDAPサービスにアクセスするためにパスワードが必要な場合は、ログインパスワードを入力します。半角英数字と記号で32文字まで入力できます。
8	サーチ時間	LDAPサーバーが応答しない場合に、通信を終了するタイムアウト時間を選択します。1〜5の範囲で設定します。初期値は「1」に設定されています。

	項目名	機能説明
9	SSL使用	LDAPにアクセスするときにSSL（Secure Sockets Layer）を有効にするか選択します。 • **無効**：SSLを無効にします。 • **登録されたCA証明書を使用する**：本機に登録された証明書を使用してSSL認証を行う場合に選択します。 • **全ての証明書を受け入れる**：本機の登録された証明書を使用せずにSSL認証を行う場合に選択します。
	注 意 • ［登録されたCA証明書を使用する］を選択した場合は、セキュリティ設定でCA証明書を登録する必要があります。 P.287 「［セキュリティ］設定／操作方法」 • 登録したLDAPディレクトリサービスのうち1つでもSSLを使用しているLDAPディレクトリサービスがある場合は、有効に設定します。有効に設定すると、LDAPサーバーにSSLを使用してアクセスし、接続できない場合はSSLを使用せずに再度LDAPサーバーに接続するようになります。したがって、有効に設定しても、SSLを必要としないLDAPディレクトリサービスにも接続することができます。 • SSLを使用するには、サーバーのOSがSSLをサポートしている必要があります。	
10	SSLポート番号	SSLを使用してLDAPサーバーにアクセスするポート番号を入力します。1から65535までの値を入力できます。通常は、初期値の「636」を使用します。
11	宛先検索用の属性名	外部のLDAPサーバーによる宛先検索に使用する属性名を設定します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で32文字まで入力できます。

8

［管理者］タブ

■ レポート通知

お使いの機器の情報をEメールで受信することができます。

補 足

［レポート通知］サブメニューは、［管理者］タブの［保守］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［保守］メニューについては、以下を参照してください。

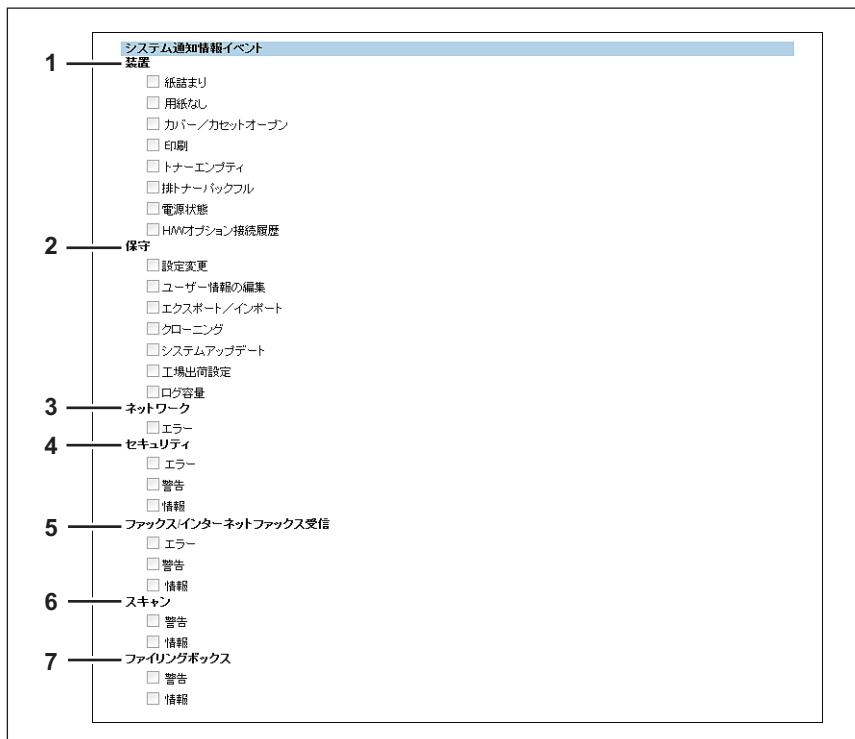
📖 P.25 「アクセスポリシーモード」
📖 P.299 「［保守］項目説明一覧」

📖 P.312 「Eメール設定」
📖 P.313 「システム通知情報イベント」
📖 P.314 「ジョブ通知情報イベント」

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	登録されたEメールアドレスにレポートを送信する設定を保存します。

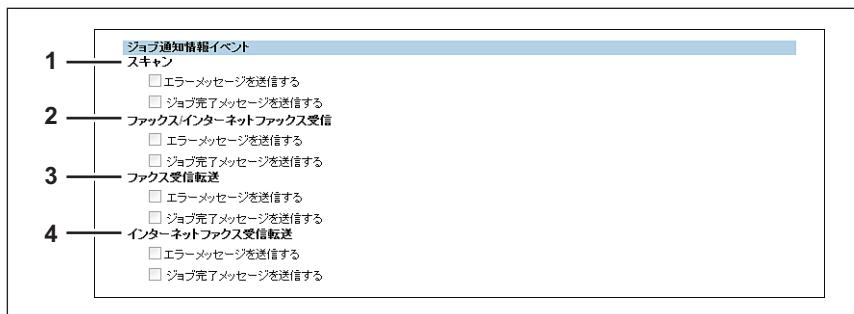
□ Eメール設定

	項目名	機能説明
1	管理者Eメールアドレス1	レポートを受信する管理者のEメールアドレスを登録します。 チェックを付けた管理者にEメールでレポートが送付されます。
2	管理者Eメールアドレス2	
3	管理者Eメールアドレス3	

□ システム通知情報イベント

通知するイベントにチェックを付けます。

	項目名	機能説明
1	装置	**紙詰まり**：紙づまりが発生した場合に通知します。 **用紙なし**：用紙がなくなった場合に通知します。 **カバー／カセットオープン**：カバー／カセットオープンが発生した場合に通知します。 **印刷**：印刷を行った場合に通知します。 **トナーエンプティ**：トナーエンプティになった場合に通知します。 **排トナーパックフル**：廃トナーボックスがいっぱいになった場合に通知します。 **電源状態**：停電など電源状態が変わった場合に通知します。 **H/Wオプション接続履歴**：H/Wオプションを接続した場合に通知します。
2	保守	**設定変更**：設定変更があった場合に通知します。 **ユーザー情報の編集**：ユーザ情報の編集があった場合に通知します。 **エクスポート／インポート**：エクスポート/インポートを行った場合に通知します。 **クローニング**：クローニングを行った場合に通知します。 **システムアップデート**：システムアップデートを行った場合に通知します。 **工場出荷設定**：工場出荷時の状態に設定を戻した場合に通知します。 **ログ容量**：ログが最大件数に達した場合に通知します。
3	ネットワーク	**エラー**：ネットワークエラーが発生した場合に通知します。
4	セキュリティ	**エラー**：Web Serviceセキュリティエラーが発生した場合に通知します。 **警告**：Web Serviceセキュリティに関する警告情報があった場合に通知します。 **情報**：Web Serviceセキュリティの情報を通知します。
5	ファクス/インターネットファクス受信	**エラー**：ファクス/インターネットファクス受信にエラーが発生した場合に通知します。 **警告**：定期的なファクス／インターネットファクス受信の削除が正常終了した場合に通知します。 **情報**：［保守］メニューの［ファイル削除］機能でファクス／インターネットファクス受信が正常に削除された場合に通知します。
6	スキャン	**警告**：定期的なスキャンファイルの削除が正常終了した場合に通知します。 **情報**：［保守］メニューの［ファイル削除］機能でスキャンファイルが正常に削除された場合に通知します。

	項目名	機能説明
7	ファイリングボックス	**警告**：ファイリングボックス空き容量が残りわずかになった場合、ファイリングボックス文書の保存期間が残りわずかになった場合に通知します。 **情報**：ファイリングボックスが初期化された場合に通知します。
	補 足 ファイリングボックス操作が正常に終了したかを通知したい場合は、ファイリングボックスWebユーティリティを使ってボックスごとのプロパティ画面で設定します。設定する方法については、**ファイリングボックスガイド**を参照してください。	

□ ジョブ通知情報イベント

通知するジョブにチェックを付けます。

	項目名	機能説明
1	スキャン	**エラーメッセージを送信する** **ジョブ完了メッセージを送信する**
2	ファクス/インターネットファクス受信	**エラーメッセージを送信する** **ジョブ完了メッセージを送信する**
3	ファクス受信転送	**エラーメッセージを送信する** **ジョブ完了メッセージを送信する**
4	インターネットファクス受信転送	**エラーメッセージを送信する** **ジョブ完了メッセージを送信する**

■ 言語設定

お使いの機器のタッチパネルの表示言語を設定することができます。

補 足

［言語設定］サブメニューは、［管理者］タブの［保守］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［保守］メニューについては、以下を参照してください。
📖 P.25 「アクセスポリシーモード」
📖 P.299 「［保守］項目説明一覧」

📖 P.315 「言語パックのインストール」
📖 P.316 「現在の言語パックリスト」
📖 P.316 「パネル言語の初期設定」

保守
ソフトウェアのアップロード | ソフトウェアの削除 | クローンファイル作成 | クローンファイルのインストール | インポート | エクスポート | ファイル削除 | LDAPサービス | レポート通知 | 言語設定 |
1 保存

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	登録された言語設定を保存します。

□ 言語パックのインストール

ハードディスクが装着されていない場合は、すでにインストールされている言語パックから、不要なものを削除してから、言語パックをインストールしてください。
📖 P.316 「現在の言語パックリスト」

	項目名	機能説明
1	ファイル名	インストールする言語パックのファイルを選択します。 **［参照］ボタン**：言語パックのファイルを選択します。 **［インポート］ボタン**：選択した言語パックのファイルをインポートします。

□ 現在の言語パックリスト

インストールされている言語パックのリストを表示します。不要な言語パックは削除することができます。

	項目名	機能説明
1	［削除］ボタン	不要な言語パックにチェックを付けてから［削除］ボタンをクリックすると削除することができます。
	補 足 「English(US)」と［パネル表示言語］で選択している言語の言語パックは削除できません。	
2	名前	言語パックの名前を表示します。
3	バージョン	言語パックのバージョンを表示します。
4	日付	言語パックのインストール日を表示します。

□ パネル言語の初期設定

タッチパネルの表示言語を選択します。

	項目名	機能説明
1	パネル表示言語	タッチパネルの表示言語を選択します。
2	パネルキーボードのレイアウト	タッチパネルに表示されるパネルキーボードのキー配列を選択します。

■ システムアップデート

お使いの機器のシステムをアップデートすることができます。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。

補 足

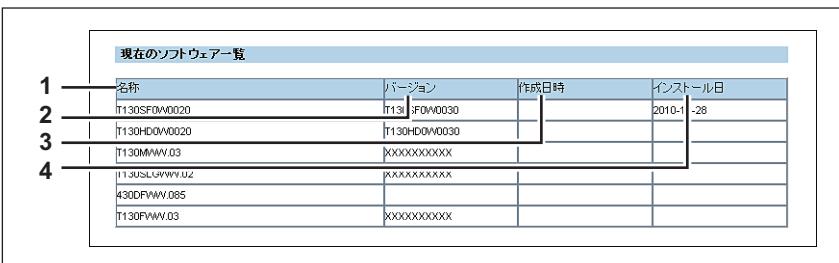
［システムアップデート］サブメニューは、［管理者］タブの［保守］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［保守］メニューについては、以下を参照してください。
P.25 「アクセスポリシーモード」
P.299 「［保守］項目説明一覧」

P.317 「ソフトウェアパックのインストール」
P.317 「現在のソフトウェア一覧」

□ ソフトウェアパックのインストール

	項目名	機能説明
1	ファイル名	インストールするソフトウェアパックのファイルを選択します **［参照］ボタン**：ソフトウェアパックのファイルを選択します。 **［インストール］ボタン**：選択したソフトウェアパックのファイルをインストールします。

□ 現在のソフトウェア一覧

インストールされているシステムファームウェアのリストを表示します。

	項目名	機能説明
1	名前	システムファームウェアの名前を表示します。
2	バージョン	システムファームウェアのバージョンを表示します。
3	作成日時	システムファームウェアの作成日を表示します。
4	インストール日	システムファームウェアのインストール日を表示します。

■ 再起動

お使いの機器を再起動します。

補 足

［再起動］サブメニューは、［管理者］タブの［保守］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［保守］メニューについては、以下を参照してください。
P.25 「アクセスポリシーモード」
P.299 「［保守］項目説明一覧」

[保守] 設定／操作方法

ここでは、TopAccessから行う本機の保守作業について説明します。ファイルのバックアップや復元、本機に保存したファイルの削除やユーザに提供するソフトウェアの更新などをTopAccessから行う方法について説明します。

📖 P.318 「保守機能について」
📖 P.319 「クライアントソフトウェアをアップロードする」
📖 P.322 「クライアントソフトウェアを削除する」
📖 P.323 「共有フォルダからデータを削除する」
📖 P.324 「LDAPサービスを登録する」
📖 P.326 「レポート通知を設定する」
📖 P.328 「インポートまたはエクスポートする」
📖 P.332 「再起動する」

■ 保守機能について

TopAccessのアクセスポリシーモードの［保守］メニューでは、以下の保守作業を行うことができます。

- クライアントソフトウェアをアップロードする
  管理者は本機にクライアントソフトウェアをアップロードすることができ、ユーザはそれらのソフトウェアをTopAccessから自分のコンピュータにダウンロードすることができます。この機能は、本機に最新バージョンのソフトウェアを転送するときに使用します。
  📖 P.319 「クライアントソフトウェアをアップロードする」
- クライアントソフトウェアを削除する
  管理者は本機に転送したクライアントソフトウェアを削除し、ユーザがそのソフトウェアをTopAccessからダウンロードすることを禁止できます。この機能は、特定のソフトウェアのダウンロードを無効にするときに使用します。
  📖 P.322 「クライアントソフトウェアを削除する」
- ハードディスクのデータをバックアップする
  管理者は本機のハードディスクにあるアドレス帳やメールボックス、テンプレートデータのバックアップファイルを作成することができます。この機能は、システムのソフトウェアを更新する前やハードディスクを交換する前などに、バックアップファイルを作成するときに使用します。
  📖 P.306 「エクスポート」
- バックアップファイルからデータを復元する
  管理者は本機のバックアップファイルからアドレス帳やメールボックス、テンプレートデータを復元することができます。この機能は、システムのソフトウェアを更新した後やハードディスクを交換した後などに、データを復元するときに使用します。
  📖 P.304 「インポート」
- 共有フォルダに保存されているファイルを削除する
  管理者は本機の［共有フォルダかUSBに保管］操作で共有フォルダ（「FILE_SHARE」フォルダ）に保存されたスキャンデータやファクス／インターネットファクス送信データ、ファクス／インターネットファクス受信データを削除することができます。この機能は、ハードディスクの空き容量を確保するために定期的に行ってください。
  📖 P.323 「共有フォルダからデータを削除する」
- ディレクトリサービスを登録する
  管理者はLDAP（Lightweight Directory Access Protocol）サーバーのディレクトリサービスに関するプロパティを登録することができます。
  📖 P.324 「LDAPサービスを登録する」
- レポート通知を設定する
  管理者はEメールを使ったレポート通知を有効にすることができます。また、どのイベントが発生したら通知するのかを指定することができます。
  📖 P.326 「レポート通知を設定する」
- アドレス帳のデータをインポートまたはエクスポートする
  管理者は異なるアプリケーションで作成したCSV形式またはXML形式のアドレス帳データをインポートすることができます。また、アドレス帳データをCSVファイルまたはXMLファイルとして異なるアプリケーションにエクスポートすることができます。
  📖 P.328 「インポートまたはエクスポートする」
- 再起動する
  管理者は本機を再起動することができます。
  📖 P.332 「再起動する」

■ クライアントソフトウェアをアップロードする

管理者は、本機に内蔵されているクライアントソフトウェアをアップロードすることができます。ユーザは、それらのソフトウェアをTopAccessの［ソフトウェアのインストール］リンクから自分のコンピュータにダウンロードすることができます。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。

- クライアントソフトウェアインストーラ
- Macintosh PPDファイル
- UNIXフィルタ

注 意

新しいクライアントソフトウェアをアップロードした場合、以前アップロードした古いバージョンのクライアントソフトウェアを上書きします。

補 足

アップロード用のファイルはクライアントソフトウェアごとに以下のように提供されます。

- **ドライバファイル**：
  ・インストーラ付きのドライバファイルの入手については、サービスエンジニアにご連絡ください。
  ・Client Utilities CD-ROMまたはClient Utilities/User Documentation DVDの「Client￥Drivers」のフォルダをZIP形式で圧縮してアップロードするドライバファイルを作成できます。
  P.320 「アップロードするドライバファイルを準備する」
- **Macintosh PPDファイル**：Client Utilities CD-ROMまたはClient Utilities/User Documentation DVDの「MacPPD￥OSX￥10_2-10_3」および「MacPPD￥OSX￥10_4-」フォルダにあります。両面印刷が標準のPPDファイルは、「2-sided_default」フォルダに収録されています。片面印刷のPPDファイルは、「normal」フォルダに収録されています。
- **UNIXフィルタ**：Client Utilities CD-ROMまたはClient Utilities/User Documentation DVDの「Admin￥BW_Unix_Linux」フォルダ（モノクロ印刷対応）、または「Admin￥Color_Unix_Linux」フォルダ（カラー印刷対応）内のワークステーションごとのフォルダにフィルタが収録されています。CUPSで両面印刷が標準のフィルタは、「2-sided_default」フォルダに収録されています。片面印刷のフィルタは、「normal」フォルダに収録されています。

TopAccessから最新バージョンのクライアントソフトウェアをアップロードする

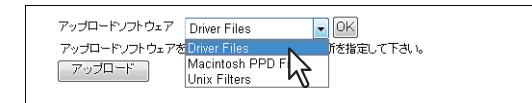
1 TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。

P.25 「アクセスポリシーモード」

2 ［管理者］タブをクリックします。

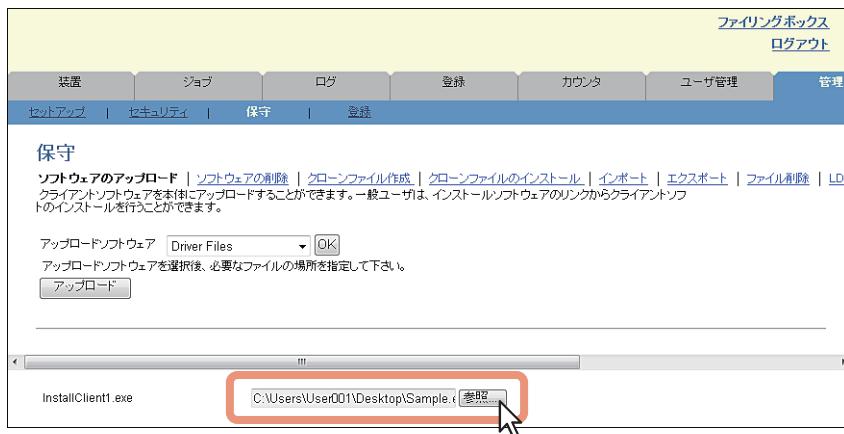
3 ［保守］メニューをクリックし、［ソフトウェアのアップロード］サブメニューをクリックします。

ソフトウェアのアップロードサブメニューページが表示されます。

4 ［アップロードソフトウェア］ボックスから転送するソフトウェアを選択します。

Driver Files	クライアントソフトウェアのインストーラファイルをアップロードします。 アップロードするドライバファイルを作成することができます。 📖 P.320「アップロードするドライバファイルを準備する」
Macintosh PPD Files	Mac OS X 10.2.4～10.3.x用およびMac OS X 10.4以降で使用するPPDファイルをアップロードします。また、Mac OS X 10.4以降で使用するプラグインファイルをアップロードします。
Unix Filters	UNIXワークステーション用のtarファイルをアップロードします。

5 ［OK］をクリックします。

ページの下部が選択したソフトウェアに変更されます。

6 表示される各ボックスで［参照］をクリックし、アップロードする設定ファイルを指定します。

注 意

それぞれのボックスの左側には、ファイル名が表示されます。各ボックスには、必ず同じファイルを指定してください。

7 ［アップロード］をクリックします。

選択したファイルがアップロードされます。

アップロードするドライバファイルを準備する

1 Client Utilities CD-ROMまたはClient Utilities/User Documentation DVDをコンピュータにセットします。

2 ドライバファイルとプラグインファイルが収録されているフォルダを開きます。

「Client￥Drivers」フォルダに収録されています。

3 フォルダをZIP形式で圧縮して、アップロード用のドライバファイルを作成します。

フォルダ名	作成するZIPファイル名	備考
UNI	univ.zip	Universal Printerドライバ
PS	ps3.zip	PS3プリンタドライバ（PostScript）
XPS	xps.zip	XPSプリンタドライバ

補 足

- ドライバファイルのアップロード方法は、以下を参照してください。
  P.319 「TopAccessから最新バージョンのクライアントソフトウェアをアップロードする」
- 作成するZIPファイル名は、TopAccess画面に表示されているファイル名に合わせてください。ファイル名は大文字／小文字を区別します。ファイル名が異なる場合、アップロードすることができません。

■ クライアントソフトウェアを削除する

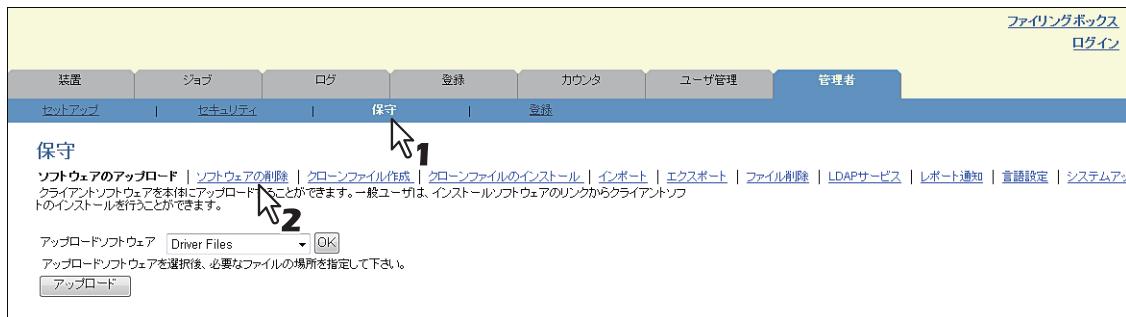
管理者は、転送したソフトウェアを削除し、ユーザがTopAccessからダウンロードすることを禁止することができます。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。

TopAccessからソフトウェアを削除する

1 **TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。**

📖 P.25 「アクセスポリシーモード」

2 **［管理者］タブをクリックします。**

3 **［保守］メニューをクリックし、［ソフトウェアの削除］サブメニューをクリックします。**

ソフトウェアの削除サブメニューページが表示されます。

4 **削除するソフトウェアのチェックボックスをオンにし、［削除］をクリックします。**

選択したソフトウェアが本機から削除されます。

■ 共有フォルダからデータを削除する

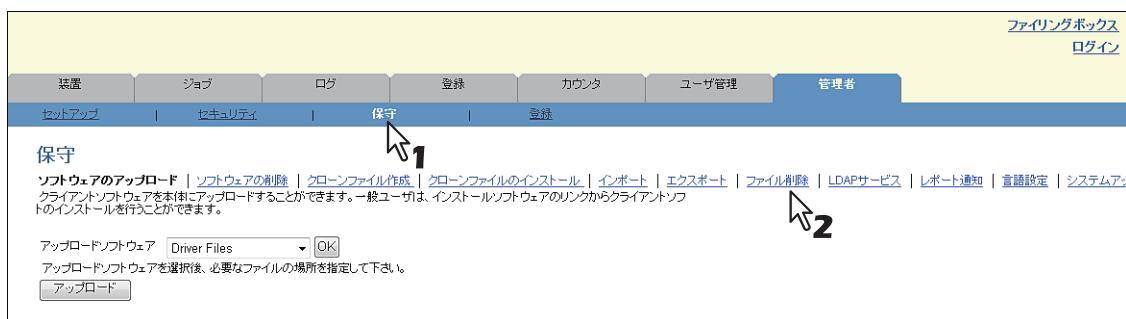
管理者は［共有フォルダへ保管］操作で本機の共有フォルダ（「FILE_SHARE」フォルダ）に保存されたスキャンデータや送信データ、受信データなどの保存データを削除することができます。この操作を定期的に行い、ハードディスクの空き容量を確保することをお勧めします。

データを削除する

1 TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。

📖 P.25 「アクセスポリシーモード」

2 ［管理者］タブをクリックします。

3 ［保守］メニューをクリックし、［ファイル削除］サブメニューをクリックします。

ファイルの削除サブメニューページが表示されます。

4 削除したいデータのチェックボックスをオンにし、［ファイル削除］をクリックします。

このページでは、以下の設定を行うことができます：

📖 P.308 「ファイル削除」

データが削除されます。

■ LDAPサービスを登録する

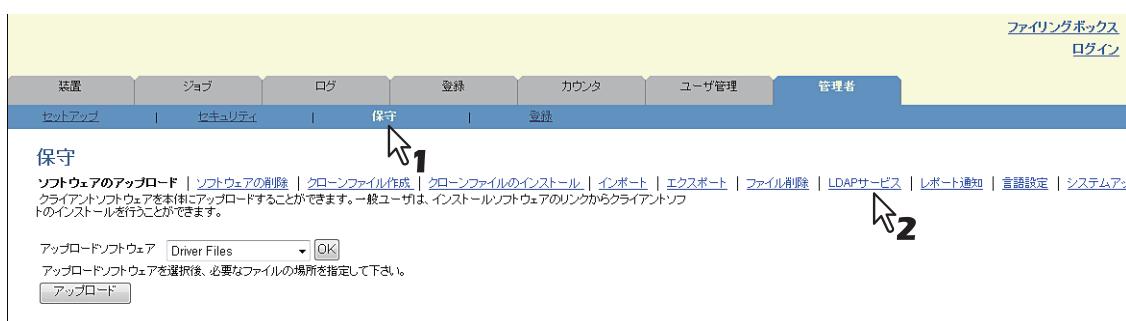
管理者はTopAccessを使ってLDAP（Lightweight Directory Access Protocol）サーバーのディレクトリサービスに関するプロパティを登録することができます。新しいディレクトリサービスを追加すると、ユーザはLDAPサーバーを使って宛先を検索することができます。

ディレクトリサービスをセットアップする

1 **TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。**

P.25 「アクセスポリシーモード」

2 **［管理者］タブをクリックします。**

3 **［保守］メニューをクリックし、［LDAPサービス］サブメニューをクリックします。**

LDAPサービスサブメニューページが表示されます。

4 **［新規］をクリックし、新しいディレクトリサービスを追加します。既存のディレクトリサービスを編集する場合は、ディレクトリサービス名リンクをクリックします。**

LDAPプロパティページが表示されます。

5 必要に応じて、以下の項目を入力します。

このページでは、以下の設定を行うことができます：

📖 P.310 「[LDAP情報] 画面」

注 意

- FQDNを使用してLDAPサーバーを指定する場合は、DNSサーバーを設置しDNSの設定を有効にする必要があります。
- ユーザ管理設定を有効にして、Windows Serverに対してロールベースアクセスを行う場合には、設定するユーザ名は、Windows ServerでDomain AdminsかAccount Operatorに属しているユーザを使用してください。

補 足

- [リセット] をクリックすると、入力した値が消去されます。
- 既存のディレクトリサービスを編集している場合は、[削除] をクリックして登録したディレクトリサービスを削除することができます。

6 [OK] をクリックします。

登録したディレクトリサービスが、ディレクトリサービス一覧に追加されます。

7 **標準のLDAPサーバーとして使用するLDAPディレクトリサービスのラジオボタンを選択します。**

補 足

標準のLDAPサーバーとして選択したディレクトリサービスは、操作パネルでLDAP検索するときに初期値として選択されるディレクトリサービスになります。本機を標準のLDAPサーバーとして選択した場合は、標準のディレクトリサービスが設定されていない状態になります。

■ レポート通知を設定する

管理者はレポート通知を設定し、エラーが発生した場合やジョブを完了したときにEメール（携帯の端末も可）による通知を受けることができます。

注 意

通知機能を有効にする場合は、［セットアップ］メニューの［Eメール］サブメニューでEメール設定を行う必要があります。

📖 P.248 「Eメール設定をセットアップする」

通知イベントを設定する

1 **TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。**

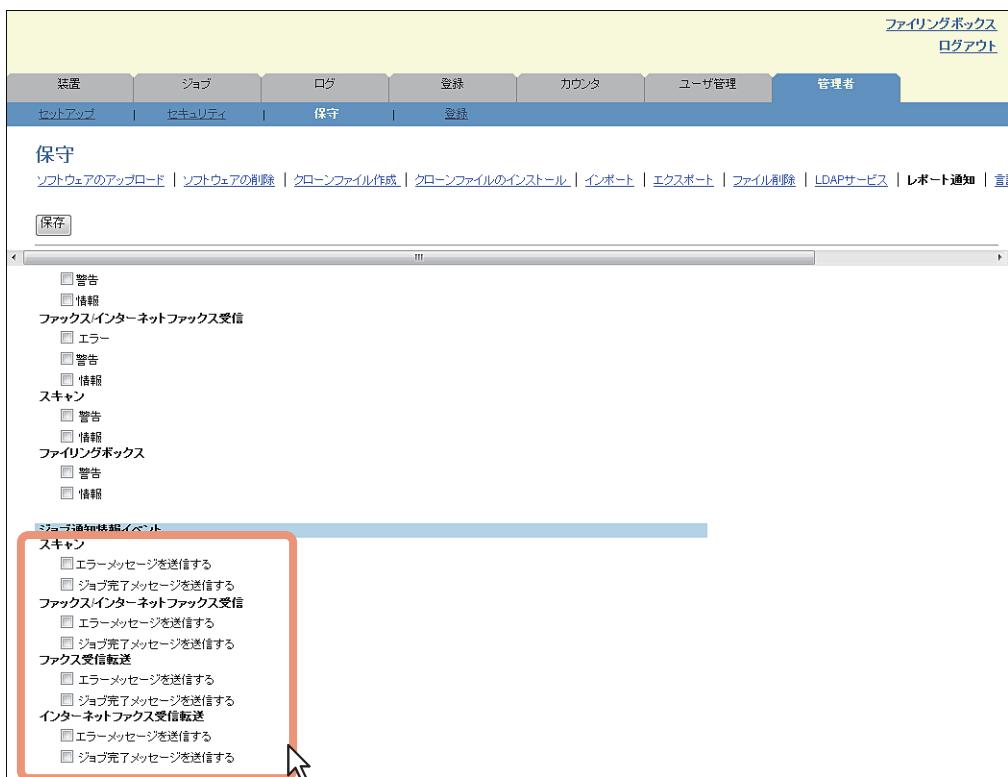
📖 P.25 「アクセスポリシーモード」

2 **［管理者］タブをクリックします。**

3 **［保守］メニューをクリックし、［レポート通知］サブメニューをクリックします。**

レポート通知サブメニューページが表示されます。

4 Eメール設定では、通知機能を有効にするために［管理者Eメールアドレス1～3］チェックボックスをオンにし、通知を送信する管理者のEメールアドレスを入力します。

5 「システム通知情報イベント」または「ジョブ通知情報イベント」で、通知を受けたいイベントのチェックボックスをオンにします。

各イベントの詳細については、以下を参照してください。

P.313 「システム通知情報イベント」
P.314 「ジョブ通知情報イベント」

6 ［保存］をクリックします。

■ インポートまたはエクスポートする

アドレス帳/Fコード/テンプレート/複合（テンプレート＋アドレス帳＋Fコード）をインポートまたはエクスポートすることができます。
ここでは、アドレス帳データのインポートとエクスポートについて説明します。Fコード、テンプレート、複合（テンプレート＋アドレス帳＋Fコード）についても、エクスポートデータのファイル形式の指定以外は同じ手順でインポート/エクスポートできます。

P.328「アドレス帳データをインポートする」
P.330「アドレス帳データをエクスポートする」

□ アドレス帳データをインポートする

他の機器のアドレス帳や、異なるアドレス帳プログラムからCSV形式またはXML形式でエクスポートされたアドレス情報をインポートすることができます。
アドレス帳のインポート方法は、本機に登録済みのアドレス帳にインポートしたアドレス帳の情報を追加する方法と、登録済みのアドレス帳をすべて削除してインポートしたアドレス帳の情報に書き換える方法があります。
アドレス帳データを作成する場合は、CSV形式/XML形式でアドレス帳をエクスポートしてから編集することをお勧めします。

注 意

各項目の指定されている文字数を超える場合は、アドレス帳はインポートできません。
使用できない文字を入力しているときは「！」で置き換えられます。

- 姓：全角で32文字
- 名：全角で32文字
- フリガナ：全角カタカナで64文字
- Eメールアドレス：半角英数字で192文字
- 電話番号：半角数字で128文字
- 電話番号2：半角数字で128文字
- 会社名：全角で64文字
- 部署名：全角で64文字

補 足

インポートしたアドレス帳のデータには、グループデータは含まれません。

CSV/XML形式のアドレス帳データをインポートする

注 意

アドレス帳データをインポートする前に、現在処理中のジョブや、プライベート印刷ジョブ、予約印刷ジョブ、お試し印刷ジョブがないことを確認してください。これらのジョブがある場合、アドレス帳データをインポートすることができません。それでもアドレス帳データのインポートに時間がかかる場合は、本機がスリープモードに入ってからデータのインポートを行ってください。

1 **TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。**
P.25「アクセスポリシーモード」

2 **［管理者］タブをクリックします。**

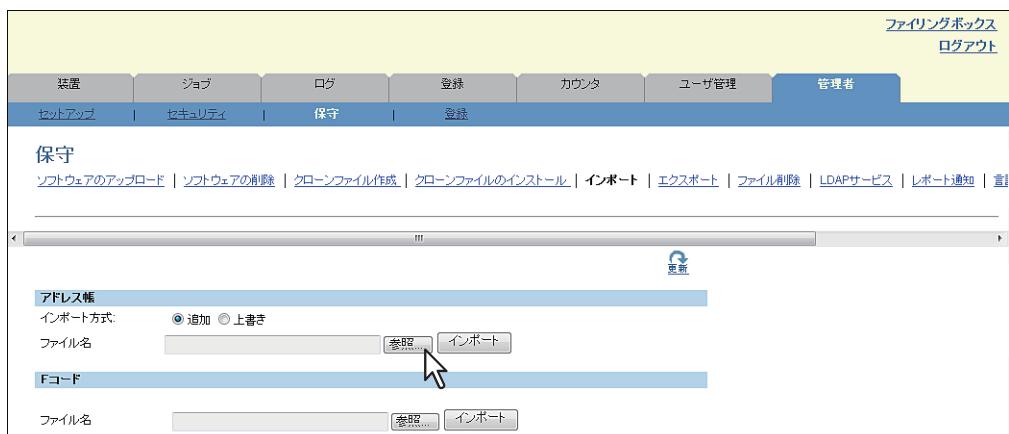
3 ［保守］メニューをクリックし、［インポート］サブメニューをクリックします。

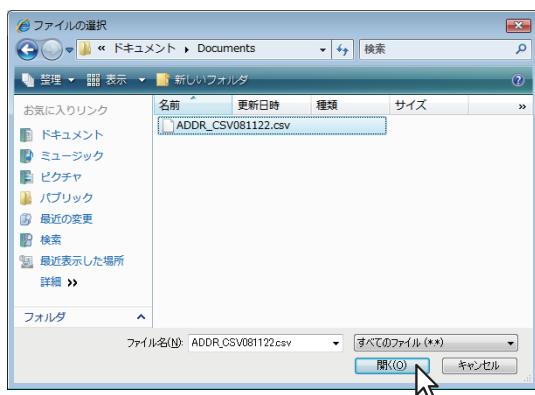
インポートサブメニューページが表示されます。

4 アドレス帳エリアのインポート方式を選択します。

追加：本機に登録済みのアドレス帳に、インポートするアドレス帳の情報を追加します。
上書き：本機に登録済みのアドレス帳をすべて削除し、インポートするアドレス帳の情報に書き換えます。

インポート方式ページが閉じます。

5 アドレス帳エリアの［参照］をクリックします。

［ファイルの選択］ダイアログボックスが表示されます。

6 目的のアドレス帳のデータを含むCSV/XMLファイルを選択し、［開く］をクリックします。

7 ［インポート］をクリックします。

データが本機のアドレス帳にインポートされます。

□ アドレス帳データをエクスポートする

管理者は、アドレス情報をエクスポートすることができます。

補 足

エクスポートしたアドレス帳のデータには、グループデータは含まれません。

CSV/XML形式のアドレス帳データをエクスポートする

1 TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。

P.25「アクセスポリシーモード」

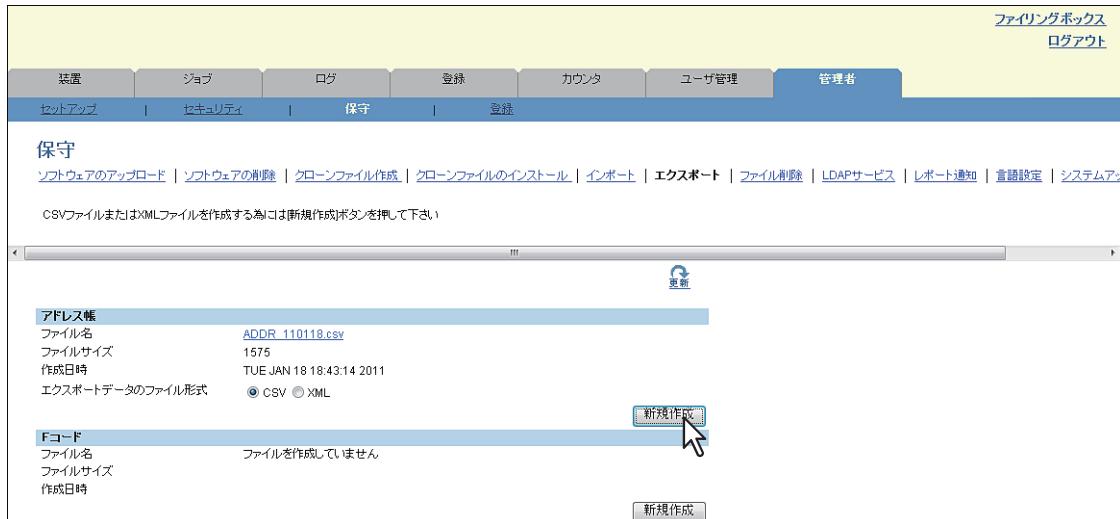
2 ［管理者］タブをクリックします。

3 ［保守］メニューをクリックし、［エクスポート］サブメニューをクリックします。

エクスポートサブメニューページが表示されます。

4 アドレス帳のファイル形式を選択します。

CSV：CSV形式でファイルを作成します。
XML：XML形式でファイルを作成します。

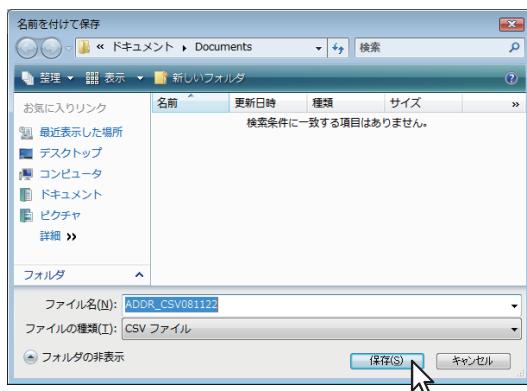
5 アドレス帳エリアの［新規作成］をクリックします。

エクスポートファイル情報が表示されます。

補 足

以前にアドレス帳データをエクスポートした場合は、エクスポートしたファイルのリンクと情報がアドレス帳エリアに表示されます。リンクをクリックすると、以前にエクスポートしたファイルを保存することができます。

6 ［ファイル名］リンクを右クリックし、［対象をファイルに保存］を選択します。

［名前を付けて保存］ダイアログボックスが表示されます。

7 ファイルの保存先を選択し、［ファイルの種類］ボックスで［すべてのファイル］を選択します。

8 ［保存］をクリックします。

アドレス帳データを含むCSV/XMLファイルが選択した場所に保存されます。

■ 再起動する

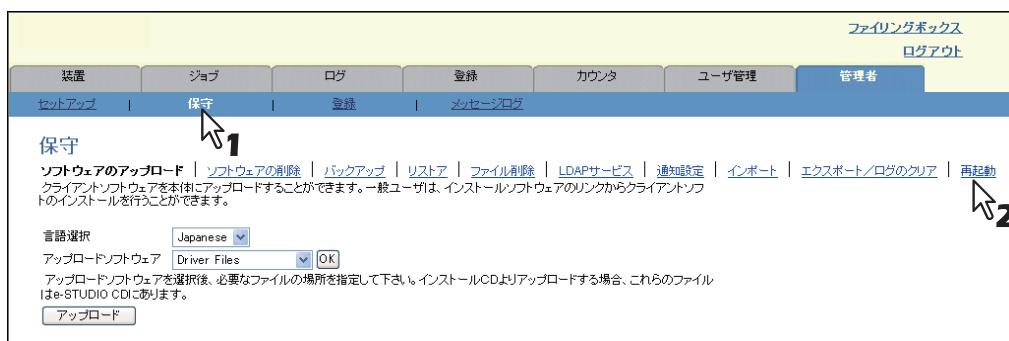
管理者は本機を再起動することができます。再起動する際、通常よりウォームアップに時間がかかります。

本機を再起動する

1 TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。

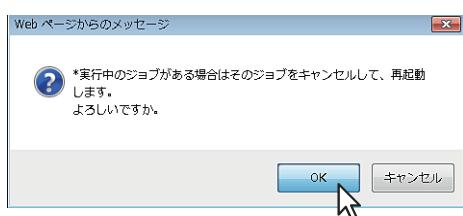
P.25「アクセスポリシーモード」

2 ［管理者］タブをクリックします。

3 ［保守］メニューをクリックし、［再起動］サブメニューをクリックします。

再起動サブメニューページが表示されます。

4 ［再起動］をクリックします。

再起動の確認ダイアログボックスが表示されます。

5 ［OK］をクリックします。

本機の再起動を開始します。

注 意

本機の再起動中は、ネットワークが無効になり、TopAccessでは「2～3分ほど待ってからつなぎ直してください。」が表示されます。また、本機のタッチパネルに「ネットワーク準備中」が表示されます。「ネットワーク準備中」のメッセージが消えたら、TopAccessが再び使用できるようになります。

[登録]（[管理者] タブ）項目説明一覧

補足

[登録] メニューは [管理者] タブから、アクセスポリシーモードで管理権限が設定されているユーザがアクセスできます。
アクセス方法は、以下を参照してください。
📖 P.25 「アクセスポリシーモード」

📖 P.333 「共有テンプレート」
📖 P.335 「共有メニュー」
📖 P.338 「ファクス受信転送およびインターネットファクス受信転送」
📖 P.349 「拡張フィールド定義」
📖 P.353 「XMLフォーマットファイル」

■ 共有テンプレート

[登録]メニューの[共有テンプレート]サブメニューのページから、パネル設定、宛先設定などを編集することができます。
セットアップ手順は、プライベートテンプレートの登録と同じです。

補足

[共有テンプレート] サブメニューは、[管理者] タブの [登録] メニューからアクセスできます。
アクセス方法、[登録] メニューについては、以下を参照してください。
📖 P.25 「アクセスポリシーモード」
📖 P.333 「[登録]（[管理者] タブ）項目説明一覧」

📖 P.333 「パネル設定（共有テンプレート）」
📖 P.333 「宛先設定（共有テンプレート）」
📖 P.333 「インターネットファクス設定（共有テンプレート）」
📖 P.334 「ファクス設定（共有テンプレート）」
📖 P.334 「Eメール設定（共有テンプレート）」
📖 P.334 「共有フォルダに保管設定（共有テンプレート）」
📖 P.334 「ボックス設定（共有テンプレート）」
📖 P.334 「USB保存設定（共有テンプレート）」
📖 P.334 「スキャン設定（共有テンプレート）」
📖 P.334 「拡張フィールド設定」

□ パネル設定（共有テンプレート）

パネル設定のページでは、タッチパネル画面にテンプレートアイコンをどのように表示するかを設定します。また、テンプレートの通知機能を設定することができます。
📖 P.63 「パネル設定（プライベートテンプレート）」

□ 宛先設定（共有テンプレート）

宛先リストのページでは、ファクスやインターネットファクス、Eメール文書を送信する宛先を指定します。
Eメール送信エージェントの宛先を指定するときは、Eメールアドレスのみを使用することができます。
ファクス／インターネットファクスエージェントの宛先を指定するときは、ファクス番号およびEメールアドレスの両方を使用することができます。

注意

宛先にファクス番号を指定するには、FAXユニットが本機に装着されている必要があります。

宛先を指定するには、相手先のEメールアドレスやファクス番号を手動で入力したり、アドレス帳から個人やグループを選択します。また、LDAPサービスを使って検索することもできます。
📖 P.64 「宛先設定（プライベートテンプレート）」

□ インターネットファクス設定（共有テンプレート）

インターネットファクス設定ページでは、送信されるインターネットファクスのプロパティを設定します。
📖 P.70 「インターネットファクス設定（プライベートテンプレート）」

□ ファクス設定（共有テンプレート）

ファクス設定に関するエージェント設定のページでは、ファクス／インターネットファクスエージェントを使ってファクスをどのように送信するか設定します。

📖 P.70 「ファクス設定（プライベートテンプレート）」

□ Eメール設定（共有テンプレート）

Eメール設定ページでは、送信されるEメール文書のプロパティを設定します。

📖 P.72 「Eメール設定（プライベートテンプレート）」

□ 共有フォルダに保管設定（共有テンプレート）

共有フォルダに保管設定ページでは、スキャンファイルの保存方法および保存先を設定します。

📖 P.74 「共有フォルダに保管設定（プライベートテンプレート）」

□ ボックス設定（共有テンプレート）

ボックス設定のページでは、ファイリングボックスにスキャンイメージをどのように保存するかを設定します。

📖 P.77 「ボックス設定（プライベートテンプレート）」

□ USB保存設定（共有テンプレート）

USB保管設定のページでは、USBメディアに保存する方法を設定します。

📖 P.78 「USB保存設定（プライベートテンプレート）」

□ スキャン設定（共有テンプレート）

スキャン設定ページでは、スキャンエージェントを選択した場合に、どのように原稿をスキャンするかを設定します。

📖 P.80 「スキャン設定（プライベートテンプレート）」

□ 拡張フィールド設定

📖 P.82 「拡張フィールド設定」

■ 共有メニュー

共有メニューは、操作パネルの［メニュー］ボタンを押すと表示されるメニュー画面の設定を行います。
よく使うテンプレートまたはテンプレートグループや外部連携オプションのショートカットを登録することができます。

補足

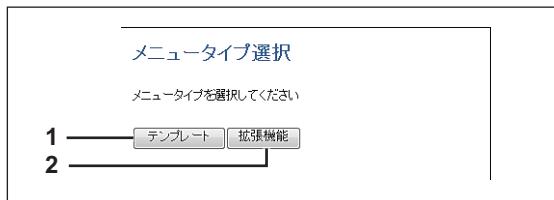
［共有メニュー］サブメニューは、［管理者］タブの［登録］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［登録］メニューについては、以下を参照してください。

P.25 「アクセスポリシーモード」
P.333 「［登録］（［管理者］タブ）項目説明一覧」

P.336 「［メニュータイプ選択］画面」
P.336 「［テンプレートグループ選択］画面」
P.337 「［テンプレートの選択］画面」
P.337 「［URL選択］画面」

	項目名	機能説明
1	［キャンセル］ボタン	操作を中止します。
2	［削除］ボタン	選択している共有メニューを削除します。
3	番号	共有メニューの番号が表示されます。
	補足 共有メニューは、64種類登録することができます。	
4	名称	共有メニューに登録されているテンプレートまたは外部連携オプションの登録名称が表示されます。 すでに登録済みの名称をクリックすると、登録されている共有メニューを確認・編集することができます。 P.336 「［テンプレートグループ選択］画面」 P.337 「［URL選択］画面」 ［未定義］をクリックすると、共有メニューを登録することができます。 P.336 「［メニュータイプ選択］画面」
5	タイプ	共有メニューのタイプが表示されます。

□［メニュータイプ選択］画面

共有メニューに追加するメニュータイプを選択します。

	項目名	機能説明
1	［テンプレート］ボタン	共有メニューにテンプレートを追加します。 📖 P.336 「［テンプレートグループ選択］画面」
2	［拡張機能］ボタン	共有メニューに外部連携オプションのURLを追加します。 📖 P.337 「［URL選択］画面」

□［テンプレートグループ選択］画面

共有メニューで選択できるテンプレートグループの一覧を表示します。

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	選択したテンプレートグループを登録します。
2	［キャンセル］ボタン	テンプレートグループの登録を中止します。
3	番号	選択できるテンプレートグループの番号が表示されます。
4	名称	テンプレートグループの名称が表示されます。 名称をクリックすると、テンプレートの選択画面が表示されます。テンプレートを選択できる場合は、選択できるテンプレートに一覧が表示されます。 📖 P.337 「［テンプレートの選択］画面」
5	ユーザ名	テンプレートグループのユーザ名が表示されます。

□［テンプレートの選択］画面

［テンプレートグループ選択］画面でテンプレートグループの名前をクリックすると、使用するテンプレートを選択できます。

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	選択したテンプレートを登録します。
2	［キャンセル］ボタン	テンプレートの登録を中止します。
3	テンプレート一覧	選択できるテンプレートの一覧が表示されます。 使用するテンプレートを選択します。

□［URL選択］画面

［URL一覧（メニュー画面/ハードボタン割り当て）］で登録したURLを選択します。

📖 P.230「URL一覧（メニュー画面/ハードボタン割り当て）」

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	選択したURLを登録します。
2	［キャンセル］ボタン	URLの登録を中止します。
3	名称	登録されているURL名が表示されます。
4	URL	登録されているURLが表示されます。

■ ファクス受信転送およびインターネットファクス受信転送

補 足

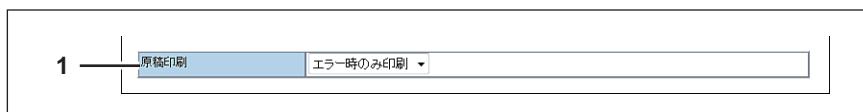
［ファクス受信転送］/［インターネットファクス受信転送］サブメニューは、［管理者］タブの［登録］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［登録］メニューについては、以下を参照してください。
📖 P.25 「アクセスポリシーモード」
📖 P.333 「［登録］（［管理者］タブ）項目説明一覧」

注 意

- ［ファクス受信転送］は、FAXユニットが本機に装着されているときにのみ有効です。
- ［ファクス受信設定］は、FAX ユニットに回線増設ユニットを装着することにより、2 回線となります。回線ごとに受信設定することができます。

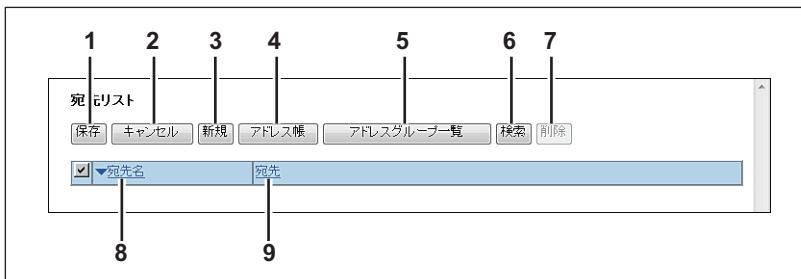
📖 P.338 「原稿印刷（ファクス／インターネットファクス受信転送）」
📖 P.339 「宛先設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）」
📖 P.340 「インターネットファクス設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）」
📖 P.341 「共有フォルダに保管設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）」
📖 P.345 「Eメール設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）」
📖 P.348 「ボックス設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）」

□ 原稿印刷（ファクス／インターネットファクス受信転送）

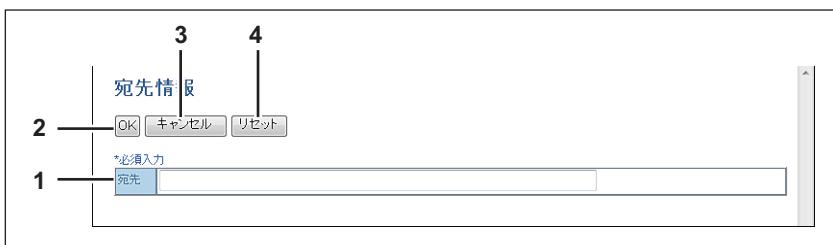
転送する受信原稿の印刷を設定します。

	項目名	機能説明
1	原稿印刷	• **常時印刷**：転送する受信原稿を常に印刷します。 • **エラー時のみ印刷**：すべての転送箇所がエラーになったとき受信原稿を印刷します。（たとえば、共有フォルダ保管とEメール送信設定でEメール送信エラーだけが発生した場合は印刷しません。）

□ 宛先設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）

受信したファクスやインターネットファクスを転送する宛先を指定します。宛先には、Eメールアドレスのみ設定することができます。
宛先設定は、転送のエージェントとして［インターネットファクス］を選択した場合に設定できます。

宛先リスト

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	宛先の設定内容を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	設定を中止します。
3	［新規］ボタン	宛先としてEメールアドレスを登録する画面を表示します。 📖 P.84 「［宛先情報］画面」
4	［アドレス帳］ボタン	アドレス帳から宛先を選択します。
5	［アドレスグループ一覧］ボタン	アドレス帳のグループを宛先として選択します。
6	［検索］ボタン	アドレス帳から連絡先を検索します。 📖 P.86 「［宛先検索］画面」
7	［削除］ボタン	選択されている宛先を削除します。
8	名称	アドレス帳に登録されている名称を表示します。
9	宛先	Eメールアドレスを表示します。

［宛先情報］画面

宛先としてEメールアドレスを設定します。

	項目名	機能説明
1	宛先	Eメールアドレスを入力します。
2	［OK］ボタン	宛先を保存します。
3	［キャンセル］ボタン	設定を中止します。
4	［リセット］ボタン	入力されているEメールアドレスを消去します。

□ インターネットファクス設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）

インターネットファクス設定ページでは、送信されるインターネットファクスのプロパティを設定します。
宛先設定は、転送のエージェントとして［インターネットファクス］を選択した場合に設定できます。

	項目名	機能説明
1	件名	インターネットファクスに適用する件名を設定します。デフォルト設定の［（マシン名称）からのスキャン［(テンプレート名称)］（日付）（時間)］を選択するか、目的の件名をボックスに入力します。手動で件名を入力した場合は、自動的に（日付）が付与され、［(件名)（日付)］になります。
2	送信者アドレス	送信者のEメールアドレスとして適用するEメールアドレスを入力します。テンプレートを使って本機が送信した文書に対して相手先が返信する場合は、ここで設定するEメールアドレスに返信されます。
3	送信者名	インターネットファクス送信に適用する送信者の名前を入力します。
4	本文	インターネットファクスに適用する本文を入力します。スペースを含み1000文字まで入力できます。
5	ファイル形式	スキャンイメージのファイル形式を選択します。［TIFF-S］（TIFF-FX（Profile S））のみ選択することができます。
6	分割ページサイズ	メッセージの分割サイズを選択します。

□ 共有フォルダに保管設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）

共有フォルダに保管設定のページでは、受信した文書の保存方法および保存先を設定します。
宛先設定は、転送のエージェントとして［インターネットファクス］を選択した場合に設定できます。

	項目名	機能説明
1	ファイル形式	スキャンファイルの保存形式を選択します。 • **TIFF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのTIFFファイルとして保存します。 • **TIFF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのTIFFファイルとして保存します。 • **PDF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのPDFファイルとして保存します。 • **PDF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDFファイルとして保存します。 • **XPS（マルチ）**：スキャンイメージを、複数ページの XPS ファイルとして保存します。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。 • **XPS（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのXPSファイルとして保存します。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。
	補 足 • 強制暗号化機能が有効に設定されている場合、選択できるファイル形式はPDF（マルチ）とPDF（シングル）のみとなります。強制暗号化機能については、**設定管理ガイド**を参照してください。 • XPSファイルで保存したデータは、お使いのコンピュータがWindows Vista/Windows Server 2003 SP2以上に.NET Framework 3.0がインストールされた環境で使用することができます。	

	項目名	機能説明
2	暗号化	ファイル形式でPDF（マルチ）またはPDF（シングル）を選択したとき、PDFを暗号化します。 **暗号化** PDFを暗号化する場合にオンにします。 **ユーザパスワード** 暗号化PDFを開くためのパスワードを入力します。 **マスタパスワード** PDFの暗号化設定を変更するためのパスワードを入力します。 **暗号化レベル** 暗号化レベルを選択します。 • **40-bit RC4**：Acrobat 3.0, PDF V1.1に互換性のある暗号化レベルを設定します。 • **128-bit RC4**：Acrobat 5.0, PDF V1.4に互換性のある暗号化レベルを設定します。 • **128-bit AES**：Acrobat 7.0, PDF V1.6に互換性のある暗号化レベルを設定します。 **権限** 暗号化PDFの権限を設定する項目をオンにします。 • **印刷を許可する**：作成される暗号化PDFファイルの印刷を許可します。 • **文書の変更を許可する**：作成される暗号化PDFファイルの文書の変更を許可します。 • **内容のコピーと抽出を許可する**：作成される暗号化PDFファイルのコピーと抽出を許可します。 • **アクセシビリティを有効にする**：アクセシビリティを有効にします。
	補 足 • 暗号化PDF強制モードが有効に設定されている場合、［暗号化］ チェックボックスをオフにすることはできません。強制暗号化機能については、**設定管理ガイド**を参照してください。 • 工場出荷時の状態では、ユーザパスワードとマスタパスワードは設定されていません。 • 半角の英数字で、1文字以上32文字まで入力できます。 • ユーザパスワードとマスタパスワードは、同じパスワードを設定することはできません。 **注 意** 各パスワードはユーザが変更することを許可されている場合のみ入力できます。マスタパスワードの変更が許可されていない場合は、暗号化レベルおよび権限の設定を変更することはできません。暗号化の詳細設定については**設定管理ガイド**を参照してください。ユーザパスワードおよびマスタパスワードの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。	
3	宛先／ローカルフォルダを使用	受信原稿を本機の共有フォルダ（「FILE_SHARE」フォルダ）に保存します。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。

	項目名	機能説明
4	宛先／リモート1	受信原稿をネットワークフォルダに保存する場合にオンにします。［セットアップ］メニューの［共有フォルダに保管］サブメニューで、リモート1をどのようにセットアップしたかによって設定方法は異なります。 ［次のネットワークフォルダに保存する］を選択した場合は、［アドミン設定を使用］のみ選択可能です。その場合、保存に使用するプロトコルおよび保存先のネットワークパスが表示されます。 ［ユーザがネットワークフォルダを指定することを認める］を選択した場合は、［ユーザ設定を使用］を選択し、以下の項目を入力してファイルを保存する宛先を設定します。 **プロトコル** 受信原稿をネットワークフォルダに転送するときに使用するプロトコルを選択します。 • **SMB**：SMBプロトコルを使用して受信原稿をネットワークフォルダに転送します。 • **FTP**：受信原稿をFTPサーバーに転送します。 • **FTPS**：スキャンファイルをFTP over SSLでFTPサーバーに転送します。 • **NetWare IPX/SPX**：スキャンファイルをIPX/SPXプロトコルを介してNetWareサーバーに転送します。 • **NetWare TCP/IP**：スキャンファイルをTCP/IPプロトコルを介してNetWareサーバーに転送します。 **サーバー名称** プロトコルでFTPを選択した場合は、受信原稿を転送するFTPサーバー名またはIPアドレスを入力します。たとえば、受信原稿をFTPサーバーの「ftp://192.168.1.1/user/scanned」というFTPフォルダに転送する場合は、このボックスに「192.168.1.1」と入力します。 プロトコルでNetWare IPX/SPXを選択した場合は、スキャンファイルを転送するNetWareサーバー名または、Tree/Context（NDSが使用可能な環境の場合）を入力します。 プロトコルでNetWare TCP/IPを選択した場合は、スキャンファイルを転送するNetWareサーバーのIPアドレスを入力します。 **コマンドポート** プロトコルでFTPを選択した場合に、コマンド実行に使用するポート番号を入力します。通常は、初期状態で入力された「-」のままにします。「-」にした場合は、ネットワークの設定ページの［FTPクライアント］で設定したポート番号（初期値）が適用されます。初期設定のポート番号とは別のポート番号を指定したい場合のみこの値を変更します。 **ネットワークパス** プロトコルにSMBを選択した場合は、ネットワークフォルダへのネットワークパスを入力します。たとえば、SMBサーバー名が「Client01」というコンピュータの「users￥scanned」というフォルダを指定する場合は、「￥￥Client01￥users￥scanned」と入力します。 プロトコルにFTPを選択した場合は、指定したFTPサーバーのディレクトリを入力します。たとえば、FTPサーバーの「ftp://192.168.1.1/user/scanned」というフォルダを指定する場合は、「user/scanned」と入力します。 プロトコルにNetWare IPX/SPXまたはNetWare TCP/IPを選択した場合は、指定したNetWareサーバーのディレクトリを入力します。たとえば、NetWareサーバーの「sys￥scan」というフォルダを指定する場合は、「￥sys￥scan」と入力します。 **ログインユーザ名** 必要に応じて、SMBサーバー、FTPサーバー、またはNetWareサーバーにアクセスするためのログインユーザ名を入力します。プロトコルにFTPを選択した場合、このボックスを空欄にすると、匿名でのログインと判断されます。「<>":;」以外の半角英数字と記号で32文字まで入力できます。スペース1文字のみのユーザ名は使えません。 **パスワード** 必要に応じて、SMBサーバー、FTPサーバー、またはNetWareサーバーにアクセスするためのパスワードを入力します。 **パスワードの確認** 確認のためにパスワードを再入力します。
	補 足 ハードディスクが装着されていない場合、宛先は1つしか指定できません。	

	項目名	機能説明
5	宛先／リモート2	受信原稿をネットワークフォルダに保存する場合にオンにします。［セットアップ］メニューの［共有フォルダに保管］サブメニューで、リモート2をどのようにセットアップしたかによって設定方法は異なります。リモート2が管理者により指定されたネットワークフォルダを使用するように設定されている場合は、［アドミン設定を使用］のみ選択可能です。その場合、保存に使用するプロトコルおよび保存先のネットワークパスが表示されます。ネットワークフォルダを自由に指定することが許可されている場合は、［ユーザ設定を使用］を選択し、ファイルを保存する宛先を設定します。設定する項目はリモート1と同様です。
	補 足 ハードディスクが装着されていない場合、宛先は1つしか指定できません。	
6	ファイル名	**フォーマット** ファイル名のフォーマットを選択します。ファイル名、日付、ページ番号の各情報が、選択したフォーマットのとおりに付加されます。 • **［ファイル名］-［日付］-［ページ］** • **［ファイル名］-［ページ］-［日付］** • **［日付］-［ファイル名］-［ページ］** • **［日付］-［ページ］-［ファイル名］** • **［ページ］-［ファイル名］-［日付］** • **［ページ］-［日付］-［ファイル名］** • **［ファイル名］_［日付］-［ページ］** **コメント** ファイルについてコメントを入力します。 **日付** ［フォーマット］で選択したファイル名の「日付」部分の付け方を選択します。 • **［YYYY］［MM］［DD］［HH］［mm］［SS］**：年（4桁）、月、日、時、分、秒を付加します。 • **［YY］［MM］［DD］［HH］［mm］［SS］**：年（2桁）、月、日、時、分、秒を付加します。 • **［YYYY］［MM］［DD］**：年（4桁）、月、日を付加します。 • **［YY］［MM］［DD］**：年（2桁）、月、日を付加します。 • **［HH］［mm］［SS］**：時、分、秒を付加します。 • **［YYYY］［MM］［DD］［HH］［mm］［SS］［mm0］**：年（4桁）、月、日、時、分、秒、乱数（3桁：乱数2桁と0）を付加します。 • **［なし］**：日付を付加しません。 **ページ** ［フォーマット］で選択したファイル名の「ページ」部分に適用されるページ番号の桁数を、3～6桁の範囲で選択します。初期値は「4桁」に設定されています。 **サブID** ファイルの保存時、すでに同じ名前のファイルが保存先に存在していた場合、本機はそのファイル名の末尾に自動的にサブID（識別番号）を付加して保存します。このサブIDの桁数を、［自動］または4～6桁の範囲で選択します。なお、初期設定では［自動］が設定されており、ファイル名の状況に合わせて任意の桁数（4～6桁）の番号が入力されます。 **ファイル名に回線情報を付加する** 受信した回線の情報（回線1、回線2、インターネットファクス）をファイル名に付加します。初期設定では「ファイル名に回線情報を付加する」チェックボックスはオンです。

注 意

同一の送信者により送信された最大999個のファイルを同じ保存先に保管することができます。999を超えると、本機はファイルを保管する代わりに、受信文書を印刷します。

□ Eメール設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）

Eメール設定ページでは、転送されるEメール文書のプロパティを設定します。
宛先設定は、転送のエージェントとして［インターネットファクス］を選択した場合に設定できます。

	項目名	機能説明
1	件名	Eメール文書に適用する件名を設定します。デフォルト設定の［(マシン名称) からのスキャン［(テンプレート名称)］(日付) (時間)］を選択するか、目的の件名をボックスに入力します。手動で件名を入力した場合は、自動的に（日付）が付与され、［（件名）（日付）］になります。
2	送信者アドレス	送信者のEメールアドレスとして適用するEメールアドレスを入力します。テンプレートを使って本機が送信した文書に対して相手先が返信する場合は、ここで設定するEメールアドレスに返信されます。
3	送信者名	Eメール文書に適用する送信者の名前を入力します。
4	本文	Eメール文書に初期設定として適用する本文を入力します。スペースを含み1000文字まで入力できます。
5	ファイル形式	ファイル形式を選択します。 • **TIFF（マルチ）**：スキャンイメージを、複数ページのTIFFファイルとして保存します。 • **TIFF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのTIFFファイルとして保存します。 • **PDF（マルチ）**：スキャンイメージを、複数ページのPDFファイルとして保存します。 • **PDF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDFファイルとして保存します。 • **XPS（マルチ）**：スキャンイメージを、複数ページの XPS ファイルとして保存します。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。 • **XPS（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのXPSファイルとして保存します。ハードディスクが装着されている場合のみ、使用できます。
	補 足 • 強制暗号化機能が有効に設定されている場合、選択できるファイル形式はPDF（マルチ）とPDF（シングル）のみとなります。強制暗号化機能については、**設定管理ガイド**を参照してください。 • XPSファイルで保存したデータは、お使いのコンピュータがWindows Vista/Windows Server 2003 SP2以上に.NET Framework 3.0がインストールされた環境で使用することができます。	

	項目名	機能説明
6	暗号化	ファイル形式でPDF(マルチ)またはPDF(シングル)を選択したとき、PDFを暗号化します。 **暗号化** PDFを暗号化する場合にオンにします。 **ユーザパスワード** 暗号化PDFを開くためのパスワードを入力します。 **マスタパスワード** PDFの暗号化設定を変更するためのパスワードを入力します。 **暗号化レベル** 暗号化レベルを選択します。 • **40-bit RC4**:Acrobat 3.0, PDF V1.1に互換性のある暗号化レベルを設定します。 • **128-bit RC4**:Acrobat 5.0, PDF V1.4に互換性のある暗号化レベルを設定します。 • **128-bit AES**:Acrobat 7.0, PDF V1.6に互換性のある暗号化レベルを設定します。 **権限** 暗号化PDFの権限を設定する項目をオンにします。 • **印刷を許可する**:作成される暗号化PDFファイルの印刷を許可します。 • **文書の変更を許可する**:作成される暗号化PDFファイルの文書の変更を許可します。 • **内容のコピーと抽出を許可する**:作成される暗号化PDFファイルのコピーと抽出を許可します。 • **アクセシビリティを有効にする**:アクセシビリティを有効にします。

補 足

- 強制暗号化機能が有効に設定されている場合、[暗号化] チェックボックスをオフにすることはできません。強制暗号化機能については、**設定管理ガイド**を参照してください。
- 工場出荷時の状態では、ユーザパスワードとマスタパスワードは設定されていません。
- 半角の英数字で、1文字以上32文字まで入力できます。
- ユーザパスワードとマスタパスワードは、同じパスワードを設定することはできません。

注 意

各パスワードはユーザが変更することを許可されている場合のみ入力できます。マスタパスワードの変更が許可されていない場合は、暗号化レベルおよび権限の設定を変更することはできません。暗号化の詳細設定については**設定管理ガイド**を参照してください。ユーザパスワードおよびマスタパスワードの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

	項目名	機能説明
7	ファイル名	**フォーマット** ファイル名のフォーマットを選択します。ファイル名、日付、ページ番号の各情報が、選択したフォーマットのとおりに付加されます。 • **［ファイル名］-［日付］-［ページ］** • **［ファイル名］-［ページ］-［日付］** • **［日付］-［ファイル名］-［ページ］** • **［日付］-［ページ］-［ファイル名］** • **［ページ］-［ファイル名］-［日付］** • **［ページ］-［日付］-［ファイル名］** • **［ファイル名］_［日付］-［ページ］** **コメント** ファイルについてコメントを入力します。 **日付** ［フォーマット］で選択したファイル名の「日付」部分の付け方を選択します。 • **［YYYY］［MM］［DD］［HH］［mm］［SS］**：年（4桁）、月、日、時、分、秒を付加します。 • **［YY］［MM］［DD］［HH］［mm］［SS］**：年（2桁）、月、日、時、分、秒を付加します。 • **［YYYY］［MM］［DD］**：年（4桁）、月、日を付加します。 • **［YY］［MM］［DD］**：年（2桁）、月、日を付加します。 • **［HH］［mm］［SS］**：時、分、秒を付加します。 • **［YYYY］［MM］［DD］［HH］［mm］［SS］［mm0］**：年（4桁）、月、日、時、分、秒、乱数（3桁：乱数2桁と0）を付加します。 • **［なし］**：日付を付加しません。 **ページ** ［フォーマット］で選択したファイル名の「ページ」部分に適用されるページ番号の桁数を、3～6桁の範囲で選択します。初期値は「4桁」に設定されています。 **サブID** ファイルの保存時、すでに同じ名前のファイルが保存先に存在していた場合、本機はそのファイル名の末尾に自動的にサブID（識別番号）を付加して保存します。このサブIDの桁数を、［自動］または4～6桁の範囲で選択します。なお、初期設定では［自動］が設定されており、ファイル名の状況に合わせて任意の桁数（4～6桁）の番号が入力されます。
8	分割送信サイズ	メッセージの分割サイズを選択します。

□ ボックス設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）

ボックス設定のページでは、ファイリングボックスに受信した文書をどのように保存するかを設定します。
宛先設定は、転送のエージェントとして［インターネットファクス］を選択した場合に設定できます。

	項目名	機能説明
1	宛先	受信原稿を保存するファイリングボックスを指定します。 **ボックス番号** 受信原稿を保存するボックス番号を選択します。 **パスワード** 指定したボックスにパスワードが設定されている場合は、パスワードを入力します。 **パスワードの確認** 確認のためにパスワードを再入力します。
2	フォルダ名	受信原稿をファイリングボックス内のフォルダに保存したい場合は、保存するフォルダ名を入力します。
3	文書名	「(送信元) -NNN」が文書名になります。文書名を変更することはできません。

■ 拡張フィールド定義

メタスキャン機能を利用して、スキャンした画像に添付されるメタデータの設定を行います。
拡張フィールド定義は、100件まで登録できます。

補 足

[拡張フィールド定義］サブメニューは、[管理者］タブの［登録］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、[登録］メニューについては、以下を参照してください。
P.25 「アクセスポリシーモード」
P.333 「[登録］（[管理者］タブ）項目説明一覧」

注 意

メタスキャン機能を使用するには、メタスキャンオプションが必要です。詳細については、販売店またはサービスエンジニアにお問い合わせください。

P.350 「[拡張フィールド］画面」
P.350 「拡張フィールド定義情報」
P.350 「拡張フィールド設定」
P.351 「[拡張フィールド属性］画面」
P.352 「[拡張フィールド定義のプロパティ］画面」

	項目名	機能説明
1	番号	拡張フィールド定義の番号が表示されます。
2	名称	拡張フィールド定義の名称が表示されます。 すでに登録済みの名称をクリックすると、登録されている拡張フィールド定義を確認・編集することができます。 P.350 「[拡張フィールド］画面」 [未定義］をクリックすると、拡張フィールド定義を登録することができます。 P.352 「[拡張フィールド定義のプロパティ］画面」

□［拡張フィールド］画面

メタスキャンを実行するときに、操作パネルで入力する情報を設定します。
📖 P.382 「拡張フィールド定義の登録」

□ 拡張フィールド定義情報

	項目名	機能説明
1	［編集］ボタン	拡張フィールド定義を編集します。 📖 P.352 「［拡張フィールド定義のプロパティ］画面」
2	［リセット］ボタン	拡張フィールド定義を削除します。
3	番号	拡張フィールド定義の番号が表示されます。
4	名称	拡張フィールド定義の名称が表示されます。

□ 拡張フィールド設定

	項目名	機能説明
1	［新規］ボタン	拡張フィールド属性を編集します。 📖 P.351 「［拡張フィールド属性］画面」
2	フィールド番号	拡張フィールド属性の番号が表示されます。
3	フィールド名	拡張フィールド属性の名称が表示されます。
4	表示名	操作パネルに表示される拡張フィールド属性の表示名が表示されます。
5	必須入力	情報を必ず入力しなければならない拡張フィールド属性かどうか表示されます。
6	隠し属性	操作パネルに表示しない拡張フィールド属性かどうか表示されます。
7	入力方法	拡張フィールド属性の種類が表示されます。
8	最小値	拡張フィールド属性の最小値が表示されます。
9	最大値	拡張フィールド属性の最大値が表示されます。
10	初期値	拡張フィールド属性にあらかじめ設定される値が表示されます。
11	日付	拡張フィールド属性にあらかじめ設定される日付が表示されます。

□［拡張フィールド属性］画面

拡張フィールド属性は、25件まで登録できます。

📖 P.385「メタスキャン用のテンプレート登録」

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	入力した内容で拡張フィールド属性を作成します。
2	［キャンセル］ボタン	設定を中止します。
3	フィールド名	拡張フィールドの名称を設定します。
4	表示	拡張フィールドを操作パネル上に表示する際の表示のしかたを設定します。 **名称**：操作パネル上に表示する拡張フィールドの名称を設定します。最大20文字まで入力できます。 **必須入力**：情報を必ず入力しなければならない拡張フィールドを作成する場合、チェックボックスをオンにします。 **隠し属性**：操作パネル上に表示しない拡張フィールドを作成する場合、チェックボックスをオンにします。
5	入力方法*	拡張フィールドの種類を選択します。 • **数値**：整数を入力する拡張フィールドを作成します。 • **少数**：小数を入力する拡張フィールドを作成します。 • **文字**：文字列を入力する拡張フィールドを作成します。 • **リスト**：リストから値を選択する拡張フィールドを作成します。 • **アドレス**：アドレスを入力する拡張フィールドを作成します。 • **パスワード**：パスワードを入力する拡張フィールドを作成します。 • **日付**：日付を入力する拡張フィールドを作成します。
6	選択項目	リストの拡張フィールドで選択する項目を設定します。選択項目のフィールドには、登録した選択項目が表示されます。フィールドに項目を登録する場合は、［名称］と［値］を入力して［追加］をクリックします。項目を選択して［上に移動］をクリックすると項目が上に移動し、［下に移動］をクリックすると項目が下に移動します。また、フィールドから不要な項目を削除する場合は、項目を選択して［削除］をクリックします。 **名称**：項目の名称を入力します。 **値**：その項目を選択した場合に適用する値（数値や文字列などの情報）を入力します。
	注意 • 項目の登録制限は、選択項目のフィールドに表示される文字数の合計が、半角／全角文字にかかわらず127文字までとなります。 • 名称や値にセミコロンを使用することはできません。	
7	最小文字列長	拡張フィールドに文字列を入力する場合の、最小の文字数を設定します。
8	最大文字列長	拡張フィールドに文字列を入力する場合の、最大の文字数を設定します。
9	最小値	拡張フィールドに数値を入力する場合の、最小の数値を設定します。

	項目名	機能説明
10	最大値	拡張フィールドに数値を入力する場合の、最大の数値を設定します。
11	初期値	拡張フィールドにあらかじめ設定される値を設定します。
12	パスワード	パスワードの拡張フィールドにあらかじめ設定される値を設定します。
13	日付	拡張フィールドにあらかじめ設定される日付を設定します。

＊ ［入力方法］で選択した拡張フィールドの種類と、設定項目の関係は下表のとおりです。なお、必ず設定しなければならない項目には「＊」が表示されます。

入力方法 （拡張フィールドの種類）	必須の設定項目	任意の設定項目
数値	［最大値］、［最小値］ 各値は、-999,999,999,999～999,999,999,999の範囲で設定できます。	［初期値］
小数	［最大値］、［最小値］ 各値は、-999,999,999,999.999999～999,999,999,999.999999の範囲で設定できます。 小数点以下2桁を超える値を入力する場合は、サービスエンジニアにお問い合わせください。	［初期値］
テキスト	［最大文字列長］、［最小文字列長］ 各値は、0～256文字の範囲で設定できます。	［初期値］
リスト	［選択項目］ ［選択項目］は、最大30個まで登録できます。 ［名称］は、1～126文字まで設定できます。 ［値］は、1～126文字まで設定できます。 ただし、［名称］と［値］の合計した文字数が2～127文字までとなります。	［初期値］ 登録した選択項目の中から選択します。
アドレス	なし	［初期値］
パスワード	なし パスワードは、0～256文字の範囲で設定できます。	［初期値］
日付	なし	［初期値］

□ ［拡張フィールド定義のプロパティ］画面

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	入力した内容で拡張フィールド定義を作成します。
2	［キャンセル］ボタン	新規追加を中止します。
3	番号	拡張フィールド定義の番号が表示されます。
4	名称	拡張フィールド定義の名称を設定します。
5	XMLフォーマットファイル	メタデータ用のXMLフォーマットファイルを選択します。 📖 P.353 「XMLフォーマットファイル」

■ XMLフォーマットファイル

メタスキャン機能を利用して、スキャンした画像に添付されるメタデータは「XMLフォーマットファイル」で定義されています。
ここでは、ワークフローサーバーなどで処理するためカスタマイズされた「XMLフォーマットファイル」を登録できます。

補 足

［XMLフォーマットファイル］サブメニューは、［管理者］タブの［登録］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［登録］メニューについては、以下を参照してください。
P.25 「アクセスポリシーモード」
P.333 「［登録］（［管理者］タブ）項目説明一覧」

P.353 「XMLフォーマットファイルのインポート」
P.353 「XMLフォーマットファイルの削除」

□ XMLフォーマットファイルのインポート

	項目名	機能説明
1	ファイル名	インポートするXMLフォーマットファイルを選択します。 **［参照］ボタン**：XMLフォーマットファイルを選択します。 **［インポート］ボタン**：選択したXMLフォーマットファイルをインポートします。

□ XMLフォーマットファイルの削除

	項目名	機能説明
1	ファイル名	削除するXMLフォーマットファイルを選択します。
2	ファイルサイズ	XMLフォーマットファイルのファイルサイズを表示します。
3	日付	XMLフォーマットファイルのインポートした日付を表示します。

[登録]（[管理者] タブ）設定／操作方法

TopAccessのアクセスポリシーモードの［登録］メニューでは、共有テンプレートの登録や受信ファクス、インターネットファクスの中継送信を登録することができます。

- 共有テンプレート
  管理者は共有テンプレートグループに登録する共有テンプレートを作成します。このテンプレートグループには、ネットワーク内のすべてのユーザがアクセスすることができます。
  P.354 「共有テンプレートを登録する」
- ファクス受信転送、インターネットファクス受信転送
  管理者はすべての受信ファクスやインターネットファクスを指定の宛先に転送する、エージェントを登録することができます。これにより、管理者は本機が受信するすべてのファクスを確認することができます。
  P.361 「ファクス受信転送およびインターネットファクス受信転送を登録する」

注 意

ファクス転送機能は、FAXユニットが本機に装着されているときにのみ有効です。

- 拡張フィールド定義
  P.349 「拡張フィールド定義」
- XMLフォーマットファイル
  P.377 「XMLフォーマットファイルの編集」
  P.381 「XMLフォーマットファイルの登録」

■ 共有テンプレートを登録する

管理者は共有テンプレートの作成や保守を行い、また共有テンプレートグループを管理します。ユーザは共有テンプレートを表示したり、使用することはできますが、テンプレートを変更することはできません。
共有グループには、最大60個の共有テンプレートを格納することができます。ハードディスクが装着されていない場合は、最大12個のテンプレートを格納することができます。通常、共有テンプレートは汎用のテンプレートであり、すべてのユーザが使用することができます。
TopAccessのアクセスポリシーモードから、共有テンプレートの管理に関する以下の操作を行うことができます。
P.354 「共有テンプレートを作成または編集する」
P.358 「共有テンプレートをリセットする」

□ 共有テンプレートを作成または編集する

テンプレートのページを使ってテンプレートの作成や編集を行います。

共有テンプレートを作成または編集する

1 TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。

P.25 「アクセスポリシーモード」

2 [管理者] タブをクリックします。

3 [登録] メニューをクリックし、[共有テンプレート] サブメニューをクリックします。

共有テンプレートサブメニューページが表示されます。

4 **パネルビューを表示します。未定義の空白のアイコンをクリックし、新規テンプレートを作成します。既存のテンプレートを編集する場合は、定義済みの画像が表示されたアイコンをクリックします。**

- テンプレートリストがリスト表示で表示されている場合は、[未定義]テンプレート名をクリックし、新規テンプレートを登録します。既存のテンプレートを編集する場合は、定義済みのテンプレート名をクリックします。
- 未定義のアイコンをクリックした場合は、エージェントの選択ページが表示されます。手順6に進みます。
- 定義済みのアイコンをクリックした場合は、テンプレート情報ページが表示されます。次の手順に進みます。

補 足

- [パネル表示]または[リスト表示]のどちらかをクリックすると、テンプレートリストの表示を切り替えることができます。
- 定義または編集するプライベートテンプレートが事前に分かっている場合は、[ジャンプ]リンクをクリックします。

5 **定義済みのテンプレートアイコンを選択した場合は、テンプレート情報が表示されます。[編集]をクリックします。**

エージェントの選択ページが表示されます。

6 組み合わせるエージェントを選択し、[エージェント設定]をクリックします。

以下のテンプレートの中から1つ選択します：

コピー	コピーエージェントを作成します。このエージェントは、原稿のコピーを実行することができます。通常、原稿をほかの宛先に送信するのと同時にコピーを印刷したいときに、このエージェントを選択します。共有フォルダに保管エージェントまたはファイリングボックスに保管エージェントのどちらかと組み合わせてセットアップすることができます。
ファクス／インターネットファクス	ファクスやインターネットファクス送信用のテンプレートを作成します。共有フォルダに保管エージェントと組み合わせてセットアップすることができます。
スキャン	Eメール送信エージェント、共有フォルダに保管エージェント、ファイリングボックスに保管エージェントまたはUSBメディアを使用エージェントを組み合わせて、スキャン用のテンプレートを作成します。選択した場合は［Eメール送信］、［共有フォルダに保管］、［ファイリングボックスに保管］または［USBメディアを使用］のいずれかを選択する必要があります。最大2つのエージェントを組み合わせることができます。ハードディスクが装着されていない場合は、［E メール］または［USBメディアを使用］のいずれか1つしか選択できません。
メタスキャン	メタスキャンオプションのテンプレートを作成します。［E メール］と［共有フォルダに保管］は同時に選択できますが、それ以外の場合は［E メール］/［共有フォルダに保管］/［USBメディアを使用］のいずれか1つしか選択できません。ハードディスクが装着されていない場合は、［E メール］または［USBメディアを使用］のいずれか1つしか選択できません。 詳細についてはメタスキャンオプション対応のアプリケーションのベンダーから提供されるドキュメントを参照してください。

7 ページに表示されるボタンをクリックし、テンプレートのプロパティを設定または編集します。

[パネル設定]	テンプレートのアイコン設定を指定します。 📖 P.333 「パネル設定（共有テンプレート）」
[宛先設定]	送信する宛先を指定します。ファクス／インターネットファクスエージェントまたはEメール送信エージェントを作成するときに設定します。 📖 P.333 「宛先設定（共有テンプレート）」
[インターネットファクス設定]	インターネットファクスをどのように送信するかを設定します。ファクス／インターネットファクスエージェントを作成するときに設定します。 📖 P.333 「インターネットファクス設定（共有テンプレート）」
[ファクス設定]	ファクスとして文書をどのように送信するかを設定します。ファクス／インターネットファクスエージェントを作成するときに設定します。 📖 P.334 「ファクス設定（共有テンプレート）」
[Eメール設定]	Eメールメッセージとして文書をどのように送信するかを設定します。Eメール送信エージェントを作成するときに設定します。 📖 P.334 「Eメール設定（共有テンプレート）」
[共有フォルダに保管設定]	ローカルのハードディスク、USBメディアまたはネットワークフォルダに文書をどのように保存するかを設定します。共有フォルダに保管エージェントを作成するときに設定します。 📖 P.334 「共有フォルダに保管設定（共有テンプレート）」
[ボックス設定]	ファイリングボックスに文書をどのように保存するかを設定します。ファイリングボックスに保管エージェントを作成するときに設定します。 📖 P.334 「ボックス設定（共有テンプレート）」
[USBメディアを使用]	USBメディアに文書をどのように保存するか設定します。 📖 P.334 「USB保存設定（共有テンプレート）」
[スキャン設定]	文書をどのようにスキャンするかを設定します。共有フォルダに保管エージェント、Eメール送信エージェントおよびファイリングボックスに保管エージェントを作成するときに設定します。 📖 P.334 「スキャン設定（共有テンプレート）」
[拡張フィールド設定]	拡張フィールド定義情報と拡張フィールド設定を設定します。 📖 P.334 「拡張フィールド設定」
[パスワード設定]	新規テンプレートを作成した場合、テンプレートにパスワードを設定します。

8 プロパティの設定を完了したら、[保存]をクリックします。

テンプレートのプロパティが登録されます。

□ 共有テンプレートをリセットする

定義済みのテンプレートをリセットし、未定義の状態に戻します。
選択したテンプレートのみをリセットするか、または共有テンプレートグループに登録されたすべてのテンプレートをリセットすることができます。
📖 P.358 「選択した共有テンプレートをリセットする」
📖 P.360 「すべての共有テンプレートをリセットする」

選択した共有テンプレートをリセットする

必要のない共有テンプレートのみをリセットしたい場合は、以下の操作でテンプレートをリセットします。

1 TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。
📖 P.25 「アクセスポリシーモード」

2 ［管理者］タブをクリックします。

3 ［登録］メニューをクリックし、［共有テンプレート］サブメニューをクリックします。

共有テンプレートサブメニューページが表示されます。

4 ［パネル表示］リンクをクリックしてパネルビューを表示し、リセットしたい定義済みのテンプレートアイコンをクリックします。

- ジャンプリンクを使用すると、ページをスクロールしリセットしたいテンプレート番号を表示することができます。
- テンプレート情報ページが表示されます。

補 足

- ［パネル表示］または［リスト表示］のどちらかをクリックすると、テンプレートリストの表示を切り替えることができます。
- 定義または編集するプライベートテンプレートが事前に分かっている場合は、［ジャンプ］リンクをクリックします。

5 ［テンプレートリセット］をクリックします。

リセットの確認メッセージが表示されます。

6 ［OK］をクリックします。

テンプレート設定がリセットされ未定義のテンプレートに戻ります。

8

［管理者］タブ

すべての共有テンプレートをリセットする

すべての共有テンプレートをリセットしたい場合は、以下の操作でテンプレートをリセットします。

1 **TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。**

P.25「アクセスポリシーモード」

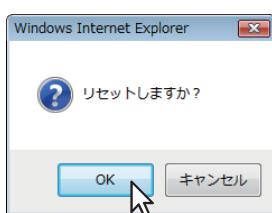
2 **［管理者］タブをクリックします。**

3 **［登録］メニューをクリックし、［共有テンプレート］サブメニューをクリックします。**

共有テンプレートサブメニューページが表示されます。

4 **［リセット］をクリックします。**

リセットの確認ダイアログボックスが表示されます。

5 **［OK］をクリックします。**

すべての共有テンプレートがリセットされます。

■ ファクス受信転送およびインターネットファクス受信転送を登録する

ファクス受信転送およびインターネットファクス受信転送では、受信ファクスやインターネットファクスを特定の宛先に転送することができます。この機能を使用すれば、本機が受信したすべてのファクスやインターネットファクスを確認することができます。

📖 P.361 「ファクス転送やインターネットファクス転送を登録する」
📖 P.363 「宛先設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）」

注 意

- Fコード通信機能を持つファクスどうしで通信する場合は、本機のFコード通信機能を使用して転送することができます。事前に箱（メールボックス）を開設しておく必要があります。また相手先のファクス番号をボックス番号にして、箱（メールボックス）ごとに指定した保存先へ原稿を転送するTSI（送信者情報）転送機能を利用することもできます。
  📖 P.108 「メールボックスを管理する」
- ファクス受信転送は、FAXユニットを装着している場合にのみ登録することができます。
- FAXユニットに回線増設ユニットが装着されている場合は、回線1と回線2どちらで受信しても、設定した転送先に受信ファクスを転送します。

受信ファクスやインターネットファクスを以下の宛先に転送することができます。
- ほかのインターネットファクス装置
- 本機の共有フォルダまたはネットワークフォルダ
- Eメールアドレス
- 本機内のファイリングボックス

□ ファクス転送やインターネットファクス転送を登録する

補 足

ファクス受信転送とインターネットファクス受信転送の登録手順は、ほぼ同じです。ここでは、それぞれの登録のしかたをまとめて説明しています。

1 TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。

📖 P.25 「アクセスポリシーモード」

2 ［管理者］タブをクリックします。

3 ［登録］メニューをクリックします。ファクス受信転送を登録する場合は［ファクス受信転送］サブメニューを、インターネットファクス受信転送を登録する場合は［インターネットファクス受信転送］サブメニューをクリックします。

- ［ファクス受信転送］サブメニューをクリックした場合は、ファクス受信転送サブメニューページが表示されます。
- ［インターネットファクス受信転送］サブメニューをクリックした場合は、インターネットファクス受信転送サブメニューページが表示されます。

4 ［転送］チェックボックスをオンにし、エージェントを選択して［エージェント設定］をクリックします。

ハードディスクが装着されていない場合、エージェントは1つのみ選択できます。

補 足

ファクス受信転送またはインターネットファクス受信転送を無効にしたい場合は、［転送］チェックボックスをオフにし、［保存］をクリックします。

インターネットファクス	受信ファクスまたはインターネットファクスを別のインターネットファクス装置に転送します。このエージェントは、共有フォルダに保管エージェントまたはファイリングボックスに保管エージェントと組み合わせてセットアップすることができます。
共有フォルダに保管	受信ファクスまたはインターネットファクスを本機の共有フォルダまたはネットワークフォルダに転送します。このエージェントは、ほかのエージェントの1つと組み合わせてセットアップすることができます。
Eメール送信	受信ファクスをEメールアドレスに転送します。このエージェントは、共有フォルダに保管エージェントまたはファイリングボックスに保管エージェントと組み合わせてセットアップすることができます。
ファイリングボックスに保管	受信ファクスを本機内のファイリングボックスに転送します。このエージェントは、ほかのエージェントの1つと組み合わせてセットアップすることができます。

注 意

共有フォルダに保管、Eメール送信、ファイリングボックスに保管で保管された受信文書を印刷した場合、画像処理が通常のファクスと異なるため、画質が異なります。

5 転送する受信原稿を印刷するかどうかを［原稿印刷］ボックスで選択します。

常時印刷	転送する受信原稿を常に印刷します。
エラー時のみ印刷	すべての転送箇所がエラーになったとき受信原稿を印刷します。（たとえば、共有フォルダ保管とEメール送信設定でEメール送信エラーだけが発生した場合は印刷しません。）

6 ページに表示されるボタンをクリックし、ファクス受信転送またはインターネットファクス受信転送のプロパティを設定または編集します。

[宛先設定] [TO: 宛先設定] [CC: 宛先設定] [BCC: 宛先設定]	送信する宛先を指定します。インターネットファクスエージェントまたはEメール送信エージェントを作成するときに設定します。 📖 P.363 「宛先設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）」
[インターネットファクス設定]	インターネットファクスをどのように送信するかを設定します。インターネットファクスエージェントを作成するときに設定します。 📖 P.340 「インターネットファクス設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）」
[Eメール設定]	Eメールメッセージとして文書をどのように送信するかを設定します。Eメール送信エージェントを作成するときに設定します。 📖 P.345 「Eメール設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）」
[共有フォルダに保管設定]	本機の共有フォルダまたはネットワークフォルダに文書をどのように保存するかを設定します。共有フォルダに保管エージェントを作成するときに設定します。 📖 P.341 「共有フォルダに保管設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）」
[ボックス設定]	ファイリングボックスに文書をどのように保存するかを設定します。ファイリングボックスに保管エージェントを作成するときに設定します。 📖 P.348 「ボックス設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）」

7 メールボックスのプロパティ設定を完了したら、[保存] をクリックします。

メールボックスのプロパティが登録されます。

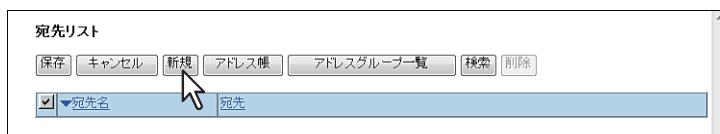
□ 宛先設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）

連絡先リストのページでは、受信したファクスやインターネットファクスを転送する宛先を指定します。宛先には、Eメールアドレスのみ設定することができます。
宛先を指定するには、相手先のEメールアドレスを手動で入力したり、アドレス帳から個人やグループを選択します。また、LDAPサービスを使って検索することもできます。

📖 P.363 「宛先を手動で入力する」
📖 P.364 「宛先をアドレス帳から選択する」
📖 P.365 「グループをアドレス帳から選択する」
📖 P.366 「LDAPサーバーを使って宛先を検索する」
📖 P.367 「宛先リストから宛先を削除する」

宛先を手動で入力する

宛先を手動で入力し、宛先リストに追加します。

1 [宛先設定] をクリックし、宛先リストページを開きます。

2 [新規] をクリックします。

宛先情報ページが表示されます。

3 [宛先] ボックスに宛先のEメールアドレスを入力します。

4 ［OK］をクリックします。

入力した宛先が宛先リストページに追加されます。

5 複数の宛先を指定する場合は、手順2～4を繰り返します。

補 足

宛先設定を保存する前に、宛先リストに追加した宛先を削除することができます。

P.367 「宛先リストから宛先を削除する」

6 ［保存］をクリックします。

宛先設定が保存されます。

宛先をアドレス帳から選択する

本機のアドレス帳から宛先を選択します。

1 ［宛先設定］をクリックし、宛先リストページを開きます。

2 ［アドレス帳］をクリックします。

アドレス帳のページが表示されます。

3 宛先に追加するチェックボックスをオンにします。

補 足

特定のグループの宛先のみを表示する場合は、［グループ］ボックスから目的のグループを選択します。

4 ［追加］をクリックします。

選択した宛先が宛先リストページに追加されます。

補 足

宛先設定を保存する前に、宛先リストに追加した宛先を削除することができます。

P.367 「宛先リストから宛先を削除する」

5 ［保存］をクリックします。

宛先リスト

保存 キャンセル 新規 アドレス帳 アドレスグループ一覧 検索 削除

	宛先名	宛先
	FirstName10 LastName10	User10@example.com
	FirstName09 LastName09	User09@example.com
	FirstName08 LastName08	User08@example.com
	FirstName07 LastName07	User07@example.com
	FirstName06 LastName06	User06@example.com

宛先設定が保存されます。

グループをアドレス帳から選択する

本機のアドレス帳からグループを選択します。

1 ［宛先設定］をクリックし、宛先リストページを開きます。

2 ［アドレスグループ一覧］をクリックします。

アドレスグループ一覧のページが開きます。

3 目的の宛先が所属するグループのチェックボックスをオンにします。

4 ［追加］をクリックします。

選択したグループのすべての宛先が、宛先リストページに追加されます。

補 足

宛先設定を保存する前に、宛先リストに追加した宛先を削除することができます。

📖 P.367 「宛先リストから宛先を削除する」

5 ［保存］をクリックします。

宛先設定が保存されます。

LDAPサーバーを使って宛先を検索する

登録したLDAPサーバーを使って宛先を検索します。本機のアドレス帳から宛先を検索することもできます。

1 **［宛先設定］をクリックし、宛先リストページを開きます。**

2 **［検索］をクリックします。**

連絡先検索のページが表示されます。

3 **［LDAPサーバー名］ボックスで検索するディレクトリサービス名を選択し、検索したい項目欄に検索文字を入力します。**

注 意

LDAPサーバーを使って宛先を検索するには、［Eメールアドレス］または［電話番号］欄に検索文字を入力してください。その他の欄に検索文字を入力しても、正しく検索できません。

補 足

- ［LDAP サーバー名］ボックスから本機モデル名を選択すると、本機のアドレス帳を検索することができます。
- 各項目に入力した文字列を含む宛先が検索されます。
- ボックスを空欄にすると、ワイルドカード検索を行うことができます。ただし、最低1つのボックスには情報を入力する必要があります。

4 **［検索］をクリックします。**

LDAPサーバーを使った宛先の検索を開始します。検索を終了すると、検索結果が検索結果リストページに表示されます。

5 **宛先に追加する連絡先の［Eメール］チェックボックスをオンにします。**

［条件変更］をクリックすると、手順3に戻って条件を変更して検索できます。

注 意

［company（会社名）］［department（部門名）］の値は管理者の設定に依存します。

6 ［追加］をクリックします。

選択した宛先が宛先リストページに追加されます。

補 足

宛先設定を保存する前に、宛先リストに追加した宛先を削除することができます。

P.367 「宛先リストから宛先を削除する」

7 ［保存］をクリックします。

宛先設定が保存されます。

宛先リストから宛先を削除する

1 宛先リストから削除したい宛先のチェックボックスをオンにし、［削除］をクリックします。

選択された宛先が宛先リストから削除されます。

2 ［保存］をクリックします。

9

［アカウント］タブ

アクセスしているユーザのアカウント情報を表示します。

[アカウント] タブの概要説明

[アカウント] タブは、[管理者] タブの [セキュリティ] - [認証] - [ユーザー認証設定] の [ユーザ認証] を有効にしている場合に表示されます。
アクセスしているユーザのアカウント情報を表示します。また、操作パネルの表示言語やキーボードのレイアウトを変更することができます。
📖 P.370 「[アカウント] 項目説明一覧」

■ [アカウント] 項目説明一覧

📖 P.371 「[パスワード変更] 画面」
📖 P.372 「[メニュー設定] 画面」
📖 P.372 「[メニュータイプ選択] 画面」
📖 P.373 「[テンプレートグループ選択] 画面」
📖 P.373 「[テンプレートの選択] 画面」
📖 P.374 「[URL選択] 画面」
📖 P.374 「[権限情報表示] 画面」

	項目名	機能説明
1	[保存] ボタン	アカウントの内容を保存します。
2	[キャンセル] ボタン	操作を中止します。
3	[パスワード変更] ボタン	アクセスしているユーザのパスワードを変更します。 📖 P.371 「[パスワード変更] 画面」

	項目名	機能説明
4	［メニュー］ボタン	操作パネルの［メニュー］ボタンを押して表示されるメニュー画面の設定を行います。［アカウント］タブでは、TopAccessにアクセスしているユーザのメニュー画面を設定します。 P.372 「［メニュー設定］画面」
5	ユーザ名	アクセスしているユーザ名を表示します。
6	ドメイン名/LDAPサーバー	アクセスしているユーザのドメイン名またはLDAPサーバーを表示します。
7	ロール割り当て	アクセスしているユーザに割り当てられているロールを表示します。 ［権限情報表示］ボタンをクリックすると、［権限情報表示］画面が表示され、ロール情報の詳細を確認することができます。 P.374 「［権限情報表示］画面」
8	グループ割り当て	アクセスしているユーザに割り当てられているグループを表示します。
9	部門番号	アクセスしているユーザで登録されている部門番号を表示します。
10	パネル表示言語	操作パネルの表示言語を選択します。
11	パネルキーボードのレイアウト	操作パネルのキーボード配列を選択します。
12	カラー割当設定	アクセスしているユーザのカラー出力制限の設定状況を表示します。
	カラー割当	カラー割当設定がONの場合、カラー出力できる残数を表示します。
	カラー割当初期値	カラー割当設定がONの場合、割り当てられている初期値を表示します。
13	ブラック割当設定	アクセスしているユーザのモノクロ出力制限の設定状況を表示します。
	ブラック割当	ブラック割当設定がONの場合、モノクロ出力できる残数を表示します。
	ブラック割当初期値	ブラック割当設定がONの場合、割り当てられている初期値を表示します。
14	トータルカウンタ *1	アクセスしているユーザのトータルカウンタを表示します。
15	プリントカウンタ *2	印刷操作およびEメール受信（インターネットファクス受信）で印刷された枚数を表示します。
16	スキャンカウンタ *2	スキャン操作でスキャンした原稿枚数を表示します。 お使いの機器で設定されている用紙サイズに応じてスモールサイズとラージサイズに分類して表示します。
17	ファクス通信カウンタ *2	通信記録を表示します。

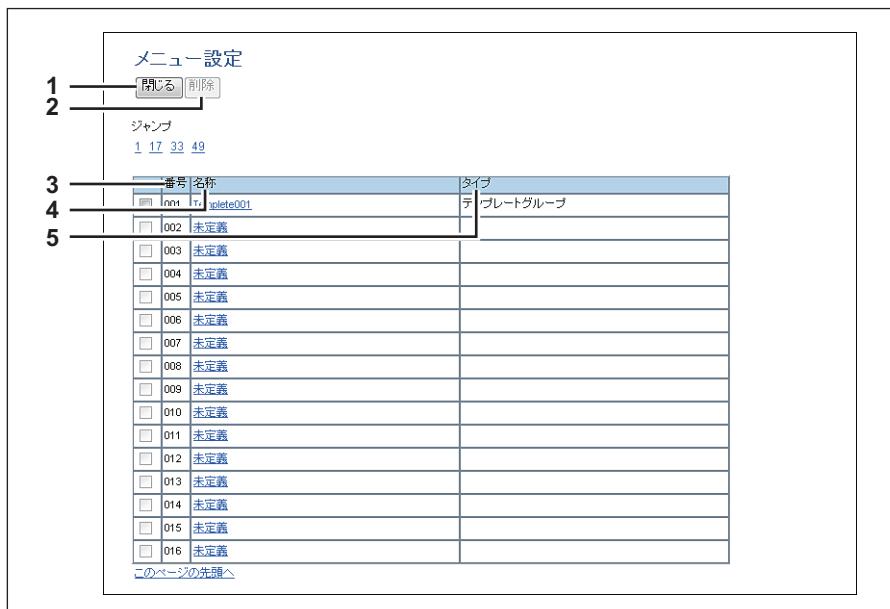
＊1　カラー印刷に対応した機種のみ可能となります。
＊2　モノクロ印刷機種のみ可能となります。

□［パスワード変更］画面

TopAccessにアクセスしているユーザのパスワードを変更します。

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	パスワード変更を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	操作を中止します。
3	旧パスワード	現在使用しているパスワードを入力します。
4	新しいパスワード	変更するパスワードを入力します。
5	パスワードの確認	確認のためにパスワードを再入力します。

□［メニュー設定］画面

アクセスしているユーザのメニュー画面を設定できます。
メニュー画面は、操作パネルの［メニュー］ボタンを押すと表示され、よく使うテンプレートまたはテンプレートグループや外部連携オプションのショートカットを登録することができます。

	項目名	機能説明
1	［閉じる］ボタン	［メニュー設定］画面を閉じます。
2	［削除］ボタン	選択しているメニュー設定を削除します。
3	番号	メニュー設定の番号が表示されます。 **補足** メニュー設定は、64種類登録することができます。
4	名称	メニュー設定に登録されているテンプレートまたは外部連携オプションの登録名称が表示されます。 すでに登録済みの名称をクリックすると、登録されているメニュー設定を確認・編集することができます。 📖 P.373 「［テンプレートグループ選択］画面」 📖 P.374 「［URL選択］画面」 ［未定義］をクリックすると、メニュー設定を登録することができます。 📖 P.372 「［メニュータイプ選択］画面」
5	タイプ	メニュー設定のタイプが表示されます。

□［メニュータイプ選択］画面

メニュー画面に追加するメニュータイプを選択します。

	項目名	機能説明
1	［テンプレート］ボタン	メニューにテンプレートを追加します。 📖 P.373 「［テンプレートグループ選択］画面」
2	［拡張機能］ボタン	メニューに外部連携オプションのURLを追加します。 📖 P.374 「［URL選択］画面」

□［テンプレートグループ選択］画面

［メニュー設定］画面で選択できるテンプレートグループの一覧を表示します。

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	選択したテンプレートグループを登録します。
2	［キャンセル］ボタン	テンプレートグループの登録を中止します。
3	番号	選択できるテンプレートグループの番号が表示されます。
4	名称	テンプレートグループの名称が表示されます。 名称をクリックすると、［テンプレートの選択］画面が表示されます。テンプレートを選択できる場合は、選択できるテンプレートに一覧が表示されます。 📖 P.373 「［テンプレートの選択］画面」
5	ユーザ名	テンプレートグループのユーザ名が表示されます。

□［テンプレートの選択］画面

［テンプレートグループ選択］画面でテンプレートグループの名前をクリックすると、使用するテンプレートを選択できます。

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	選択したテンプレートを登録します。
2	［キャンセル］ボタン	テンプレートの登録を中止します。
3	テンプレート一覧	選択できるテンプレートの一覧が表示されます。 使用するテンプレートを選択します。

□［URL選択］画面

［メニュー画面URL一覧］で登録したURLを選択します。

📖 P.230 「URL一覧（メニュー画面/ハードボタン割り当て）」

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	選択したURLを登録します。
2	［キャンセル］ボタン	URLの登録を中止します。
3	名称	登録されているURL名が表示されます。
4	URL	登録されているURLが表示されます。

□［権限情報表示］画面

アクセスしているユーザの権限情報を表示します。

	項目名	機能説明
1	［OK］ボタン	［権限情報表示］画面を閉じます。
2	ロール情報	アクセスしているユーザに割り当てられているロール情報が表示されます。

10

目的別設定方法

このセクションには、以下の内容が記載されています。

メタスキャンの設定

メタスキャンとは、スキャンした画像にデバイス内で生成された情報（メタデータ）を添付する機能です。添付されたメタデータをワークフローサーバーなどで処理してスキャンした画像を活用することができます。
メタスキャンを利用するには、テンプレートにメタスキャンの［Eメール］、［共有フォルダに保管］、［USBメディアを使用］エージェントを選択して登録します。

メタデータは、情報を格納するためのスキーマを定義したXMLフォーマットファイルで管理します。
ここでは、初期設定で登録されているデフォルトXMLフォーマットファイル<defaultForm3.xml>を例にデータ構造について紹介します。
デフォルトXMLフォーマットファイルは、「基本データエリア」と「拡張データエリア」の2つのデータエリアで構成されています。
「基本データエリア」は、デバイス情報、スキャンパラメータやユーザ情報を記録するエリアで、「拡張データエリア」は、メタスキャンを実行するときに、ユーザが操作パネルから入力する情報（最大25個）を記録するエリアです。
「拡張データエリア」の内容は、「拡張フィールド定義」の［拡張フィールド属性］画面でユーザが操作パネルから入力する情報のフィールドを作成することができます。

メタスキャン連携するアプリケーションを利用する場合、XMLフォーマットファイルと拡張フィールドの設定は、アプリケーションベンダーからの指示に従ってください。

📖 P.376 「メタスキャンの操作の流れ」
📖 P.377 「メタスキャンオプションの確認」
📖 P.377 「XMLフォーマットファイルの編集」
📖 P.381 「XMLフォーマットファイルの登録」
📖 P.382 「拡張フィールド定義の登録」
📖 P.385 「メタスキャン用のテンプレート登録」
📖 P.388 「メタスキャン」
📖 P.388 「メタスキャンのログ確認」

■ メタスキャンの操作の流れ

設定

	操作	説明	参照先
1	メタスキャンオプションの確認	お使いの機器でメタスキャンが使用できるか確認します。	📖 P.377 「メタスキャンオプションの確認」
2	XMLフォーマットファイルの編集	必要に応じてメタデータ用のXMLフォーマットファイルを編集します。	📖 P.377 「XMLフォーマットファイルの編集」
3	XMLフォーマットファイルの登録	メタデータ用のXMLフォーマットファイルを登録します。	📖 P.381 「XMLフォーマットファイルの登録」
4	拡張フィールド定義の登録	必要に応じて拡張フィールド定義を登録します。	📖 P.382 「拡張フィールド定義の登録」
5	メタスキャン用のテンプレート登録	メタスキャン用のテンプレートを登録します。	📖 P.385「メタスキャン用のテンプレート登録」

操作

	操作	説明	参照先
1	メタスキャン	メタスキャン用のテンプレートを使用してメタスキャンします。	📖**スキャンガイド**「スキャンテンプレートを使う」
2	メタスキャンのログ確認	メタデータが正しく作成されたかは、スキャンログで確認します。	📖 P.388 「メタスキャンのログ確認」 📖**スキャンガイド**「スキャンの実行状況および履歴を確認する」

■ メタスキャンオプションの確認

メタスキャン機能を使用するには、メタスキャンオプションが必要です。詳細については、販売店またはサービスエンジニアにお問い合わせください。

お使いの機器にメタスキャンオプションが設定されているかは、以下の手順で確認できます。
［管理者設定］-［機器設定］-［ライセンス管理］に「Meta scan enabler」が登録されていればメタスキャン機能を利用できます。

注 意

この機能は、一部の機種のみ使用できます。

■ XMLフォーマットファイルの編集

「XMLフォーマットファイル」はメタスキャン連携するアプリケーションに合わせて編集します。XMLフォーマットファイル内には変数を定義でき、定義された変数はメタスキャン時に対応する情報(メタデータ)に置き換えられます。

補 足

変数を「XMLフォーマットファイル」に記述する場合は、${変数名}の形で記述してください。

□ XMLフォーマットファイルの変数

XMLフォーマットファイルに定義できる変数は下表のとおりです。

補 足

変数は、Eメールの件名、メタスキャンの画像ファイルのファイル名、メタデータのファイル名に使用することができます。

変数（${変数名}）	格納される情報	値
${MANUFACT}	メーカー名	TOSHIBA
${MODEL}	モデル名	string
${FWVER}	ファームウェアバージョン	string
${SERIAL}	シリアル番号	string
${LOCATION}	ロケーション	string
${CONTACT}	連絡先の情報	string
${CONTACTTEL}	連絡先の電話番号	string
${IP}	IPアドレス	string
${IPV6}	IPv6アドレス	string
${NETBIOSNAME}	NetBIOS名	string
${FQDN}	FQDN(Fully Qualified Domain Name)	string
${RESOLUTION}	解像度	HHHxVVVdpi
${FILEFORMAT}	ファイルのフォーマット	MultipleTIFF singleTIFF MultiplePDF singlePDF MultipleSLIMPDF singleSLIMPDF MultipleXPS singleXPS JPEG MultiplePDF/A singlePDF/A
${COLORMODE}	カラーモード	BLACK GRAY SCALE FULL COLOR AUTO COLOR

変数（${変数名}）	格納される情報	値
${NUMFILE}	画像ファイル数	string
${PAGES}	スキャンしたページ数	string
${PATH} *1 *2	画像ファイルの保存先	string
${FILE} *2	画像ファイル名	string
${MYEMAIL}	送信者のEメールアドレス	string
${DATE}	年月日	YYYY-MM-DD
${YEAR}	年	YYYY
${MONTH}	月	MM
${DAY}	日	DD
${TIME}	時間	HH:MM:DD.mmmTZD *3
${USER}	ログインユーザ名	string
${DOMAIN}	ドメイン名	string
${DEPTCODE}	部門コード	string
${DEPTNAME}	部門名	string
${TEMPGROUPNO}	テンプレートグループ番号	string
${TEMPGROUPNAME}	テンプレートグループ名	string
${TEMPGROUPUSER}	テンプレートグループのユーザ名	string
${TEMPNO}	テンプレート番号	string
${TEMPNAME}	テンプレート名	string
${TEMPUSER}	テンプレートのユーザ名	string
${FIELDNAMEn} *4	拡張フィールド名n	string
${VALUEn} *4	拡張フィールドn	string

＊1　Eメールの件名には、使用できません。
＊2　画像ファイルのファイル名、メタデータのファイル名には、使用できません。
＊3　TZDはタイムゾーンです。
＊4　「n」部分には、フィールド番号（1～25の範囲）を入力します。

□ デフォルトXMLフォーマットファイル

本機に初期設定で登録されているXMLフォーマットファイル<defaultForm3.xml>の内容は以下のとおりです。XMLフォーマットファイルはUTF-8のXML形式です。メタスキャン時、XMLフォーマットファイルに記述された各フィールドの変数に該当する情報を格納し、XML形式ファイルのメタデータとして添付します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!-- metadata version 3.1 -->
<mfp_metadata>
    <metadata_version>
        <major>3</major>
        <minor>1</minor>
    </metadata_version>
    <device_info>
        <ip_address>${IP}</ip_address>
        <ipv6_address>${IPV6}</ipv6_address>
        <fqdn>${FQDN}</fqdn>
        <netbios_name>${NETBIOSNAME}</netbios_name>
        <location>${LOCATION}</location>
        <contact>${CONTACT}</contact>
        <contact_tel>${CONTACTTEL}</contact_tel>
        <FW_version>${FWVER}</FW_version>
        <manufacture>${MANUFACT}</manufacture>
        <model>${MODEL}</model>
        <serial>${SERIAL}</serial>
        <!-- deprecated tag start -->
        <host_name>${NETBIOSNAME}</host_name>
        <tempt_file_ver>1.0</tempt_file_ver>
        <!-- deprecated tag end -->
    </device_info>
    <scan_info>
        <template >
            <template_group_no>${TEMPGROUPNO}</template_group_no>
            <template_group_name>${TEMPGROUPNAME}</template_group_name>
            <template_group_user>${TEMPGROUPUSER}</template_group_user>
            <template_no>${TEMPNO}</template_no>
            <template_name>${TEMPNAME}</template_name>
            <template_user>${TEMPUSER}</template_user>
        </template >
        <scanned_date>${YEAR}-${MONTH}-${DAY}</scanned_date>
        <scanned_time>${DATE}T${TIME}</scanned_time>
        <color_mode>${COLORMODE}</color_mode>
        <resolution>${RESOLUTION}</resolution>
        <file_format>${FILEFORMAT}</file_format>
        <no_of_files>${NUMFILE}</no_of_files>
        <no_of_pages>${PAGES}</no_of_pages>
        <file_path>${PATH}</file_path>
        <file_name>${FILE}</file_name>
        <sender_email>${MYEMAIL}</sender_email>
        <!-- deprecated tag start -->
        <workflow>${TEMPGROUPNAME} ${TEMPNAME}</workflow>
        <!-- deprecated tag end -->
    </scan_info>
    <user_info>
        <user_id>${USER}</user_id>
        <user_domain>${DOMAIN}</user_domain>
```

```
        <dept_code>${DEPTCODE}</dept_code>
        <dept_name>${DEPTNAME}</dept_name>
        <!-- deprecated tag start -->
        <user_email>${MYEMAIL}</user_email>
        <!-- deprecated tag end -->
    </user_info>
    <user_input>
        <field1 name="${FIELDNAME1}">${VALUE1}</field1>
        <field2 name="${FIELDNAME2}">${VALUE2}</field2>
        <field3 name="${FIELDNAME3}">${VALUE3}</field3>
        <field4 name="${FIELDNAME4}">${VALUE4}</field4>
        <field5 name="${FIELDNAME5}">${VALUE5}</field5>
        <field6 name="${FIELDNAME6}">${VALUE6}</field6>
        <field7 name="${FIELDNAME7}">${VALUE7}</field7>
        <field8 name="${FIELDNAME8}">${VALUE8}</field8>
        <field9 name="${FIELDNAME9}">${VALUE9}</field9>
        <field10 name="${FIELDNAME10}">${VALUE10}</field10>
        <field11 name="${FIELDNAME11}">${VALUE11}</field11>
        <field12 name="${FIELDNAME12}">${VALUE12}</field12>
        <field13 name="${FIELDNAME13}">${VALUE13}</field13>
        <field14 name="${FIELDNAME14}">${VALUE14}</field14>
        <field15 name="${FIELDNAME15}">${VALUE15}</field15>
        <field16 name="${FIELDNAME16}">${VALUE16}</field16>
        <field17 name="${FIELDNAME17}">${VALUE17}</field17>
        <field18 name="${FIELDNAME18}">${VALUE18}</field18>
        <field19 name="${FIELDNAME19}">${VALUE19}</field19>
        <field20 name="${FIELDNAME20}">${VALUE20}</field20>
        <field21 name="${FIELDNAME21}">${VALUE21}</field21>
        <field22 name="${FIELDNAME22}">${VALUE22}</field22>
        <field23 name="${FIELDNAME23}">${VALUE23}</field23>
        <field24 name="${FIELDNAME24}">${VALUE24}</field24>
        <field25 name="${FIELDNAME25}">${VALUE25}</field25>
    </user_input>
</mfp_metadata>
```

□ メタデータの保存設定

次に示す要素をXMLフォーマットファイルに追加することで、メタデータの保存先やファイル名を指定できます。

メタデータの保存先を設定する場合

プロトコル	フォーマット
SMB	<metadata_file_path>file://server name/path/</metadata_file_path>
FTP	<metadata_file_path>ftp://server name/path/</metadata_file_path>
FTPS	<metadata_file_path>ftps://server name/path/</metadata_file_path>
NetWare(Binary mode)	<metadata_file_path>server name/path/</metadata_file_path>
NetWare(NDS mode)	<metadata_file_path>Tree/Context/file_share/</metadata_file_path>

入力例：

プロトコル：　SMB
外部サーバー：　192.168.1.1
保存フォルダ：　metadata
フォーマット：　<metadata_file_path>file://192.168.1.1/metadata/</metadata_file_path>

注 意

プロトコルは、メタスキャンの画像ファイルを保存するプロトコルと合わせてください。
メタスキャンの画像ファイルを保存するプロトコルは、テンプレートで設定されている共有フォルダに保管設定の［宛先］で確認できます。

メタデータのファイル名を指定する場合

<metadata_file_name>file name.xml</metadata_file_name>

入力例：

ファイル名：　Sample_MetaData.xml
フォーマット：　<metadata_file_name>Sample_MetaData.xml </metadata_file_name>

補 足

メタデータのファイル名には、XMLフォーマットファイルの変数を使用することができます。
日付の変数 (${DATE}) を利用した入力例：
<metadata_file_name>Sample_MetaData_${DATE}.xml </metadata_file_name>

変数については、以下を参照してください。
P.377 「XMLフォーマットファイルの変数」

■ XMLフォーマットファイルの登録

XMLフォーマットファイルの登録方法を説明します。
メタスキャン連携するアプリケーションを利用する場合、XMLフォーマットファイルと拡張フィールドの設定は、アプリケーションベンダーからの指示に従ってください。

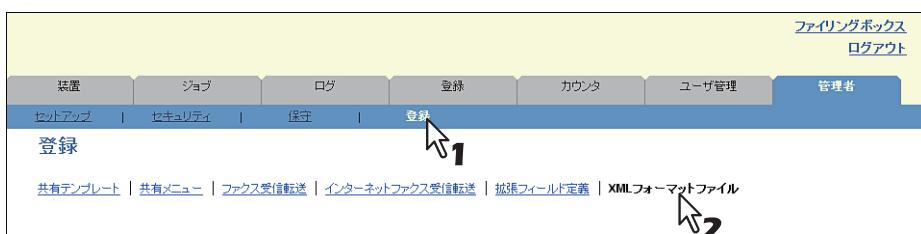
補 足

「XMLフォーマットファイル」は、99個まで登録することができます。

1 TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。

P.25 「アクセスポリシーモード」

2 ［管理者］タブをクリックします。

3 ［登録］メニューをクリックし、［XMLフォーマットファイル］サブメニューをクリックします。

4 XMLフォーマットファイルのインポートの［参照］ボタンをクリックします。

表示されるダイアログで、登録するXMLフォーマットファイルを選択します。

5 ［インポート］ボタンをクリックして登録します。

以上で、XMLフォーマットファイルの登録は終了です。

補 足

登録したXMLファイルを削除する場合は、削除するXMLファイルを選択して、［Delete］ボタンで削除できます。

■ 拡張フィールド定義の登録

「拡張フィールド定義」は100件まで登録でき、それぞれ「XMLフォーマットファイル」の選択と必要に応じて「拡張フィールド属性」を設定します。
メタスキャン連携するアプリケーションを利用する場合、XMLフォーマットファイルと拡張フィールドの設定は、アプリケーションベンダーからの指示に従ってください。

1 TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。

📖 P.25 「アクセスポリシーモード」

2 ［管理者］タブをクリックします。

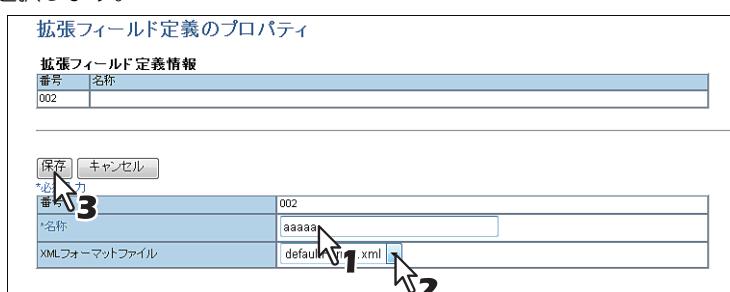
3 ［登録］メニューをクリックし、［拡張フィールド定義］サブメニューをクリックします。

4 拡張フィールド定義を登録するため、［未定義］をクリックします。

番号	名称
001	test001
002	未定義
003	未定義
004	未定義
005	未定義
006	未定義
007	未定義
008	未定義
009	未定義
010	未定義
011	未定義
012	未定義
013	未定義
014	未定義
015	未定義
016	未定義

登録済みの拡張フィールド名をクリックした場合は、拡張フィールドの編集画面が表示されます。
手順6に進みます。

5 フィールド名を入力してから、XMLフォーマットファイルを選択し、［保存］ボタンをクリックします。

カスタマイズしたXMLフォーマットファイルを用いる場合は、XMLフォーマットファイルで登録したXMLフォーマットファイルを選択します。カスタマイズしたXMLフォーマットファイルがない場合は、「defaultForm3.xml」を選択します。

6 拡張フィールド属性を設定する場合は、拡張フィールド設定の［新規］ボタンをクリックします。

拡張フィールド属性を設定しない場合は、画面上の［拡張フィールド定義］をクリックします。

7 拡張フィールド属性を設定します。

拡張フィールド属性

保存 キャンセル

フィールド名
*表示 名称 必須入力 隠し属性
入力方法 数値 小数 文字 リスト アドレス パスワード 日付
選択項目 上に移動 下に移動 削除 名称 値 追加
最小文字列長
最大文字列長
*最小値
*最大値
初期値 削除
パスワード
日付 (YYYY-MM-DD)

*必須入力

フィールド名	拡張フィールドの名称を設定します。
表示	拡張フィールドを操作パネル上に表示する際の表示のしかたを設定します。 **名称**：操作パネル上に表示する拡張フィールドの名称を設定します。最大20文字まで入力できます。 **必須入力**：情報を必ず入力しなければならない拡張フィールドを作成する場合、チェックボックスをオンにします。 **隠し属性**：操作パネル上に表示しない拡張フィールドを作成する場合、チェックボックスをオンにします。
入力方法*	拡張フィールドの種類を選択します。 • **数値**：整数を入力する拡張フィールドを作成します。 • **少数**：小数を入力する拡張フィールドを作成します。 • **文字**：文字列を入力する拡張フィールドを作成します。 • **リスト**：リストから値を選択する拡張フィールドを作成します。 • **アドレス**：アドレスを入力する拡張フィールドを作成します。 • **パスワード**：パスワードを入力する拡張フィールドを作成します。 • **日付**：日付を入力する拡張フィールドを作成します。
選択項目	リストの拡張フィールドで選択する項目を設定します。選択項目のフィールドには、登録した選択項目が表示されます。フィールドに項目を登録する場合は、［名称］と［値］を入力して［追加］をクリックします。項目を選択して［上に移動］をクリックすると項目が上に移動し、［下に移動］をクリックすると項目が下に移動します。また、フィールドから不要な項目を削除する場合は、項目を選択して［削除］をクリックします。 **名称**：項目の名称を入力します。 **値**：その項目を選択した場合に適用する値（数値や文字列などの情報）を入力します。

注 意

- 項目の登録制限は、選択項目のフィールドに表示される文字数の合計が、半角／全角文字にかかわらず127文字までとなります。
- 名称や値にセミコロンを使用することはできません。

最小文字列長	拡張フィールドに文字列を入力する場合の、最小の文字数を設定します。
最大文字列長	拡張フィールドに文字列を入力する場合の、最大の文字数を設定します。
最小値	拡張フィールドに数値を入力する場合の、最小の数値を設定します。
最大値	拡張フィールドに数値を入力する場合の、最大の数値を設定します。
初期値	拡張フィールドにあらかじめ設定される値を設定します。
パスワード	パスワードの拡張フィールドにあらかじめ設定される値を設定します。
日付	拡張フィールドにあらかじめ設定される日付を設定します。

＊ ［入力方法］で選択した拡張フィールドの種類と、設定項目の関係は下表のとおりです。なお、必ず設定しなければならない項目には「＊」が表示されます。

入力方法 （拡張フィールドの種類）	必須の設定項目	任意の設定項目
数値	［最大値］、［最小値］ 各値は、-999,999,999,999～999,999,999,999の範囲で設定できます。	［初期値］
小数	［最大値］、［最小値］ 各値は、-999,999,999,999.999999～999,999,999,999.999999の範囲で設定できます。 小数点以下2桁を超える値を入力する場合は、サービスエンジニアにお問い合わせください。	［初期値］
テキスト	［最大文字列長］、［最小文字列長］ 各値は、0～256文字の範囲で設定できます。	［初期値］
リスト	［選択項目］ ［選択項目］は、最大30個まで登録できます。 ［名称］は、1～126文字まで設定できます。 ［値］は、1～126文字まで設定できます。 ただし、［名称］と［値］の合計した文字数が2～127文字までとなります。	［初期値］ 登録した選択項目の中から選択します。
アドレス	なし	［初期値］
パスワード	なし パスワードは、0～256文字の範囲で設定できます。	［初期値］
日付	なし	［初期値］

8 ［保存］ボタンをクリックして、拡張フィールド属性を登録します。

拡張フィールド属性は、25個まで登録することができます。

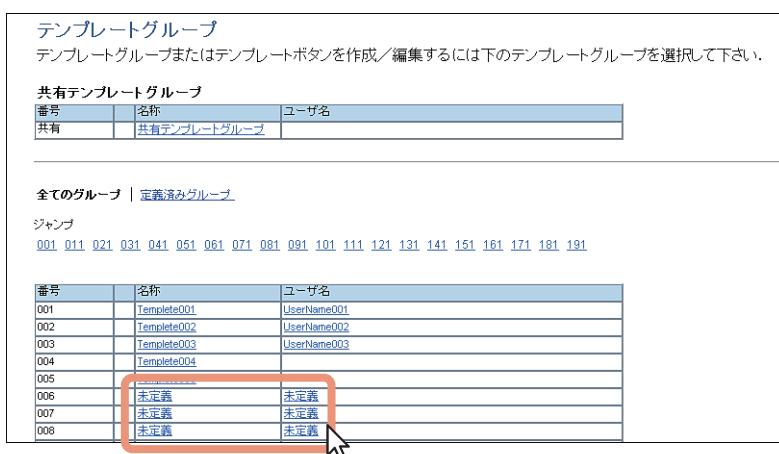
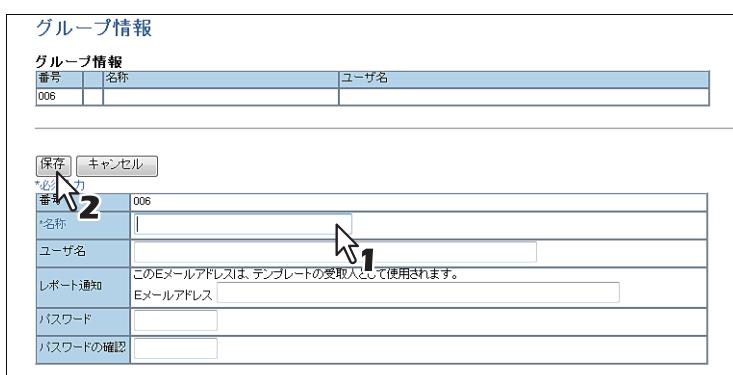
以上で、拡張フィールドの登録は終了です。

■ メタスキャン用のテンプレート登録

メタスキャン機能を利用するには、メタスキャン用のテンプレートを登録する必要があります。
テンプレートは、管理者が登録する［共有テンプレート］と、管理者とユーザが登録する［プライベートテンプレート］があります。
どちらのテンプレートも、メタスキャン用のテンプレートを登録することができます。

以下の手順は、［プライベートテンプレート］の登録手順です。

1 ［登録］タブをクリックし、［テンプレート］メニューをクリックします。

2 ［未定義］グループリンクをクリックします。

3 グループ名を入力して、［保存］ボタンをクリックします。

4 テンプレートリストから［未定義］アイコンをクリックします。

5 ［メタスキャン］のチェックボックスをオンにしてからエージェントを選択し、［エージェント設定］をクリックします。

注 意

［メタスキャン］を選択するには、メタスキャンオプションが利用できるようにセットアップされている必要があります。
利用できない場合は、［メタスキャン］を選択できません。

［メタスキャン］では、［Ｅメール］と［共有フォルダに保管］は同時に選択できますが、それ以外の場合は［Ｅメール］/［共有フォルダに保管］/［USBメディアを使用］のいずれか1つしか選択できません。ハードディスクが装着されていない場合は、［Ｅメール］または［USBメディアを使用］のいずれか1つしか選択できません。

Ｅメール	Ｅメールに添付して送付します。 **補 足** • ［メタスキャン］を選択している場合、件名に変数を使用することができます。 • ［送信者アドレス］で指定したアドレスが、メタデータに記述されます。 • ［メタスキャン］を選択している場合、［ファイル名］の［ファイル名に日時を付加する］を選択すると、メタデータのファイル名にも適用されます。 P.72「Eメール設定（プライベートテンプレート）」
共有フォルダに保管	共有フォルダに保存します。 **注 意** • ［メタスキャン］を選択している場合、宛先は1つしか指定できません。 • 宛先で指定したプロトコルとネットワークパスが、メタデータに記述されます。 例： プロトコル：　SMB ネットワークパス：　￥￥192.168.1.1￥ImageFolder <file_path>file：　//192.168.1.1/ImageFolder/</file_path> • ［メタスキャン］を選択している場合、［ファイル名］の［ファイル名に日時を付加する］を選択すると、メタデータのファイル名にも適用されます。 P.74「共有フォルダに保管設定（プライベートテンプレート）」
ファイリングボックスに保管	ファイリングボックスに保存します。

USBメディアを使用	USBメディアに保存します。

6 エージェントを設定します。

設定方法は、通常のテンプレートと同じです。

P.94「プライベートテンプレートグループを登録・編集する」

以降の手順は、［拡張フィールド設定］の設定方法です。

7 ［拡張フィールド設定］ボタンをクリックして、拡張フィールドを設定します。

8 ［拡張フィールド定義番号］で登録済みの拡張フィールド定義を選択します。

9 ［拡張フィールド属性］のデフォルト値を入力します。

選択した拡張フィールド定義で、［拡張フィールド属性］が設定されている場合に表示されます。
ここで設定した値が、メタスキャン実行時に操作パネルに表示される［拡張フィールド属性］のデフォルト値になります。
［拡張フィールド属性］の名称の前に、アスタリスク（*）が表示されている項目は、必ず入力する必要があります。

10 ［保存］ボタンをクリックして、テンプレートを登録します。

以上で、メタスキャン用のテンプレート登録は終了です。

■ メタスキャン

メタスキャン用のテンプレートを使用してメタスキャンします。
操作方法については、スキャンガイドを参照してください。

補 足

メタスキャン用テンプレートの［拡張フィールド設定］で設定されていた［拡張フィールド定義］が削除された場合、デフォルトXMLフォーマットファイル<defaultForm3.xml>を使用します。

■ メタスキャンのログ確認

メタデータが正しく作成されたかは、スキャンログで確認することができます。

確認するスキャンログの内容は下記のとおりです。

確認項目	確認内容
モード	メタスキャンを示す"MSxxxx"（xxxxはコードフォーマット）と表示されます。
結果	エラー内容が表示されていなければ、正しくメタデータが作成されています。

スキャンログの詳細については、以下を参照してください。
P.46 「スキャンログ」

外部認証の属性をMFPのロールとして使う

外部認証（Windowsドメイン認証およびLDAP認証）有効時、外部認証サーバーから本機に管理者としてログインするためには、本機で定義されているロールと外部認証サーバーの属性を関連づける必要があります。関連づけは、ロール情報設定ファイルを本機にインポートすることで行います。ロール情報設定ファイルは、外部認証サーバーの属性と対応するMFPのロールをXMLで定義したファイルです。本機からエクスポートしたロール情報設定ファイルを編集して、再度本機にインポートすることもできます。

■ ロール情報設定ファイルをエクスポートする

ロール情報設定ファイルをエクスポートする手順については、以下を参照してください。
📖 P.145 「エクスポート」

■ ロール情報設定ファイルを定義する

ロール情報設定ファイルはXML形式で書かれています。外部認証サーバーの設定に応じて定義することで、外部認証サーバーで設定されている属性（attribute）に対して、本機のロールを割り当てることができます。ここでは、ロール情報設定ファイルでの代表的な定義方法として、3つのサンプルを紹介します。各要素（element）の内容（content）には、半角英数字を使用することができます。<AttributeValue> 要素の内容にはワイルドカードとしてアスタリスク（*）を使用することができます。

補 足

<AnyOtherUser> 要素では、<RoleSet> 要素に当てはまらないユーザのロールを定義します。<AnyOtherUser> 要素は、1つのみ使用することができます。

□ 1つの属性に1つのロールを設定する場合

外部認証サーバーで設定されている属性名	department
外部認証サーバーで設定されている属性値	ITDept
設定するロール名	Administrator

```
<RoleSetting>
    <RoleSet>
        <Condition>
            <AttributeName>department</AttributeName>
            <AttributeValue>ITDept</AttributeValue>
        </Condition>
        <Role>Administrator</Role>
    </RoleSet>
    <AnyOtherUser>User</AnyOtherUser>
</RoleSetting>
```

□ 1つの属性に複数のロールを設定する場合

外部認証サーバーで設定されている属性名	department
外部認証サーバーで設定されている属性値	ITDept
設定するロール名 ［1］	Administrator
設定するロール名 ［2］	PrintOperator

```
<RoleSetting>
    <RoleSet>
        <Condition>
            <AttributeName>department</AttributeName>
            <AttributeValue>ITDept</AttributeValue>
        </Condition>
```

```
            <Role>Administrator</Role>
    </RoleSet>
    <RoleSet>
        <Condition>
            <AttributeName>department</AttributeName>
            <AttributeValue>ITDept</AttributeValue>
        </Condition>
        <Role>PrintOperator</Role>
    </RoleSet>
    <AnyOtherUser>User</AnyOtherUser>
</RoleSetting>
```

□ 複数の属性に1つのロールを設定する場合

外部認証サーバーで設定されている属性名［1］	department
外部認証サーバーで設定されている属性値［1］	Sales
外部認証サーバーで設定されている属性名［2］	title
外部認証サーバーで設定されている属性値［2］	SeniorManager
設定するロール名	Print

```
<RoleSetting>
    <RoleSet>
        <Condition>
            <AttributeName>department</AttributeName>
            <AttributeValue>Sales</AttributeValue>
        </Condition>
        <Condition>
            <AttributeName>title</AttributeName>
            <AttributeValue>SeniorManager</AttributeValue>
        </Condition>
        <Role>Print</Role>
    </RoleSet>
    <AnyOtherUser>User</AnyOtherUser>
</RoleSetting>
```

■ ロール情報設定ファイルをインポートする

ロール情報設定ファイルをインポートする手順については、以下を参照してください。

📖 P.147 「インポート」

補 足

設定を変更する場合は、ロール情報設定ファイルをインポートし直してください。

■ ロールベースアクセス設定を有効にする

インポートしたロール情報設定ファイルを使用するには、ロールベースアクセス設定を有効にする必要があります。手順については、以下を参照してください。

📖 P.270 「ユーザー認証設定」

11

付録

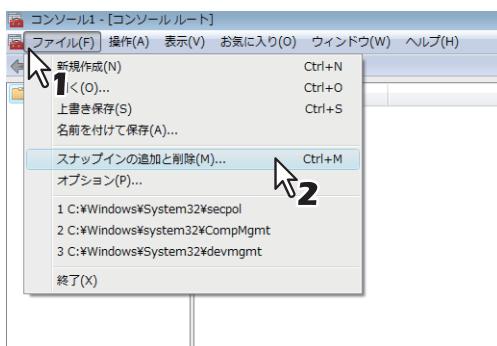
このセクションには、以下の内容が記載されています。

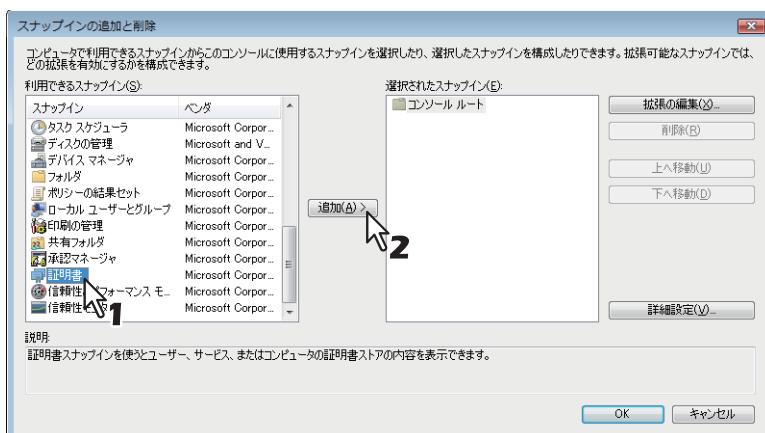
クライアントコンピュータに証明書をインストールする

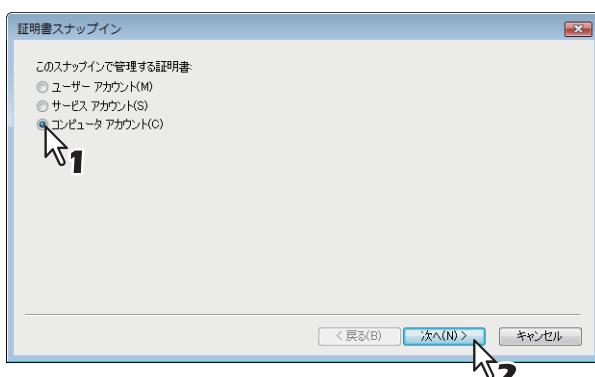
Microsoft管理コンソール（MMC）を設定する

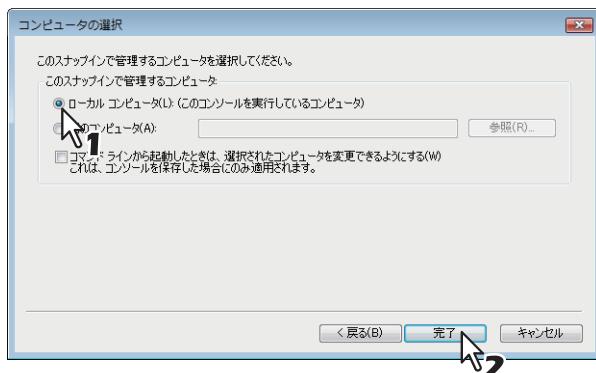
ここでは、Windows Vistaで設定する例で説明します。別のバージョンのWindowsをお使いの場合も手順は同じです。

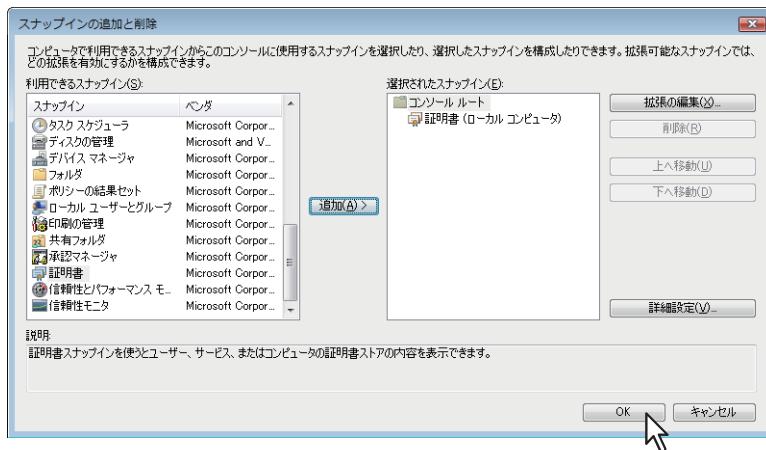
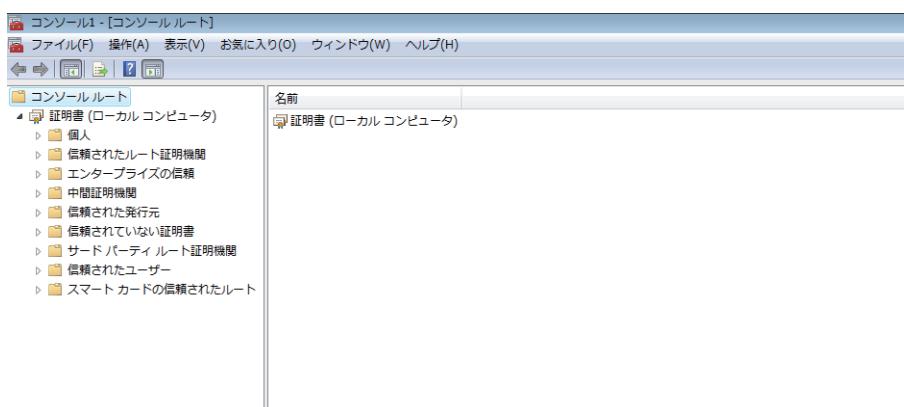
1 コマンド プロンプトを開いて「mmc」と入力し、［Enter］キーを押します。

2 表示されるウィンドウの［ファイル］または［コンソール］メニューから、［スナップインの追加と削除］を選択します。

［スナップインの追加と削除］ダイアログボックスが表示されます。

3 ［利用できるスナップイン］の一覧から［証明書］を選択し、［追加］をクリックします。

［証明書スナップイン］ダイアログボックスが表示されます。

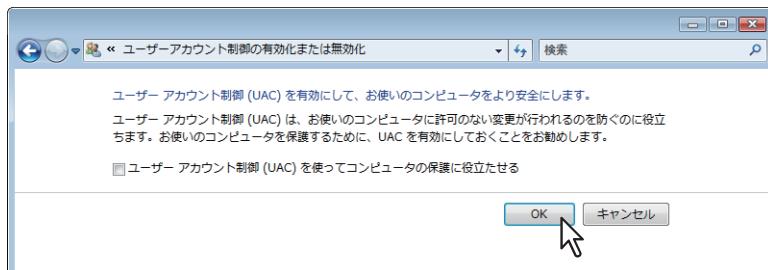
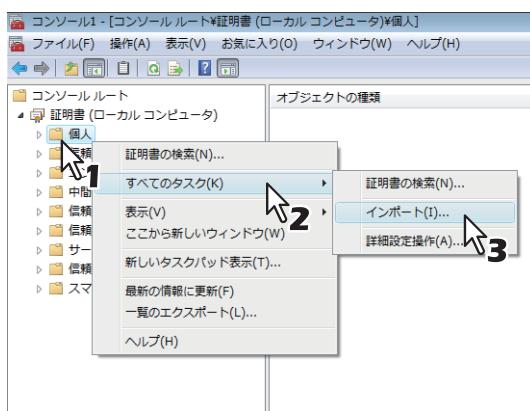
4 ［コンピュータ アカウント］を選択し、［次へ］をクリックします。

［コンピュータの選択］ダイアログボックスが表示されます。

5 ［ローカル コンピュータ（このコンソールを実行しているコンピュータ）］を選択し、［完了］をクリックします。

［コンピュータの選択］ダイアログボックスが閉じます。

6 ［コンソール ルート］フォルダの下に［証明書（ローカル コンピュータ）］が追加されていることを確認し、［OK］をクリックします。

7 設定を保存します。

クライアントコンピュータに証明書をインポートする

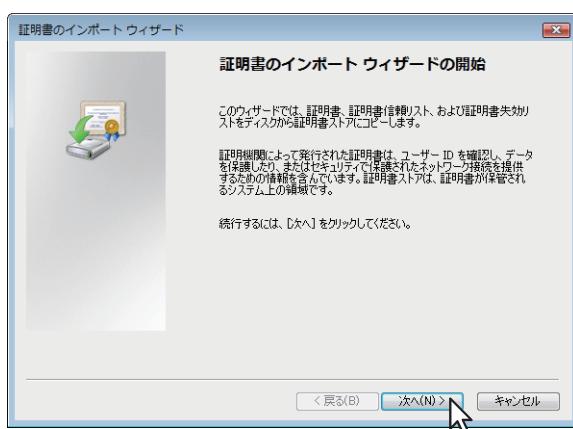
ここでは、Windows Vistaにインポートする例で説明します。別のバージョンのWindowsをお使いの場合も手順は同じです。

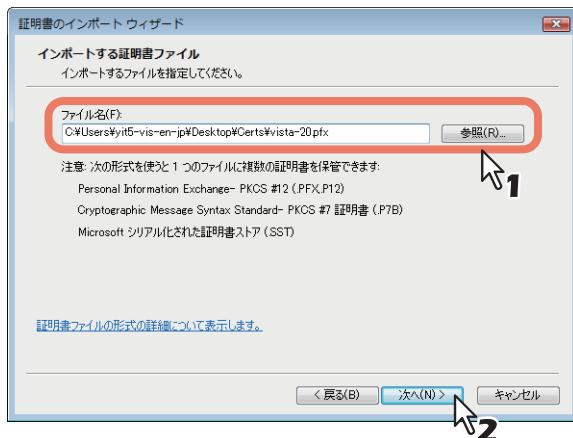
注 意

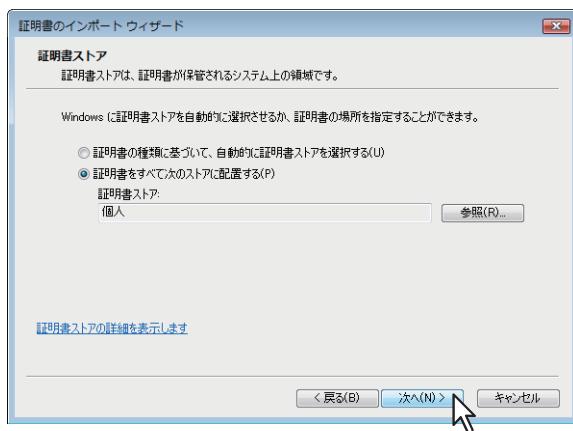
- Windows Vistaの場合、Administrators（管理者）所属のユーザでログインする必要があります。
- Windows Vistaの場合、［ユーザー アカウント制御］が無効になっていることを確認してください。［コントロールパネル］>［ユーザー アカウント］>［ユーザー アカウント制御の有効化または無効化］と進み、［ユーザー アカウント制御（UAC）を使ってコンピュータの保護に役立たせる］チェックボックスをオフにします。

1 **Microsoft管理コンソール（MMC）で、証明書を格納するフォルダを選択・右クリックし、［すべてのタスク］>［インポート］を選択します。**

証明書の種類に応じて、適切なフォルダを選択してください。

- **自己証明書（.crt）：**コンソールルート > 証明書（ローカルコンピュータ）> 信頼されたルート証明書
- **クライアント証明書（.pfx）：**コンソールルート > 証明書（ローカルコンピュータ）> 個人
- **CA証明書（.cert）：**コンソールルート > 証明書（ローカルコンピュータ）> 信頼されたルート証明書

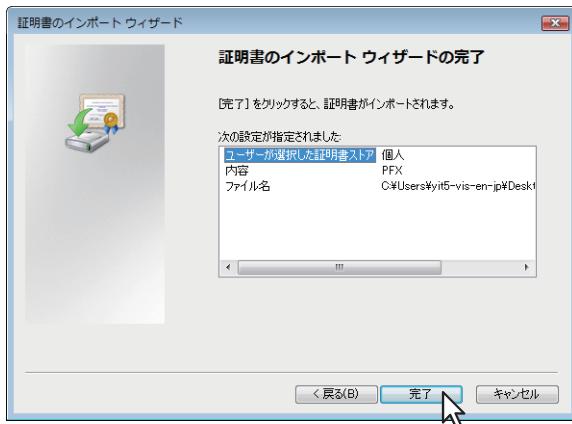
［証明書のインポート ウィザード］が表示されます。

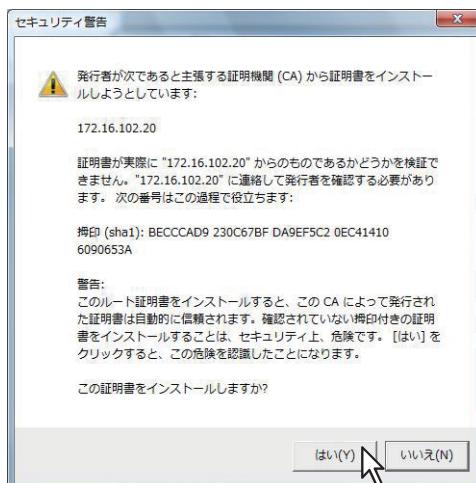
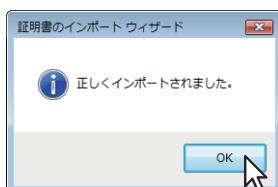
2 **［証明書のインポート ウィザード］で、［次へ］をクリックします。**

クライアント証明書をインポートする場合は、次の手順に進みます。それ以外の場合は、手順5へ進んでください。

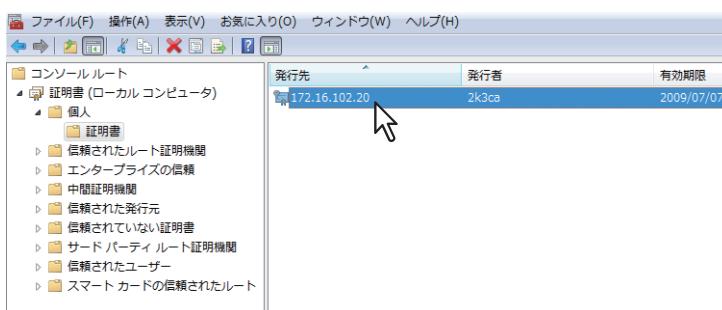
3 ［参照］をクリックしてインストールする証明書を選択し、［次へ］をクリックします。

4 秘密キーのパスワードを入力し、［次へ］をクリックします。

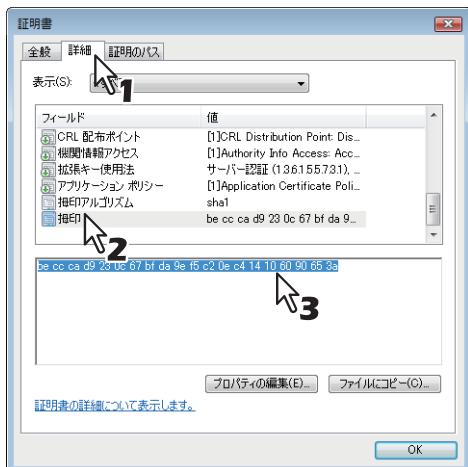
5 ［次へ］をクリックします。

注 意

［参照］ボタンから証明書ストアを変更しないでください。

6 ［完了］をクリックします。

補 足

以下のセキュリティ警告メッセージが表示された場合は、［はい］をクリックします。

7 ［OK］をクリックして、インポートを完了します。

Windows Vistaコンピュータにクライアント証明書（.pfx）をインストールする場合は、次の手順に進みます。
それ以外の場合は、インストールは完了です。
他に証明書をインストールする必要がある場合は、手順をはじめから繰り返してください。

8 インポートしたクライアント証明書をダブルクリックします。

［証明書］ウィンドウが表示されます。

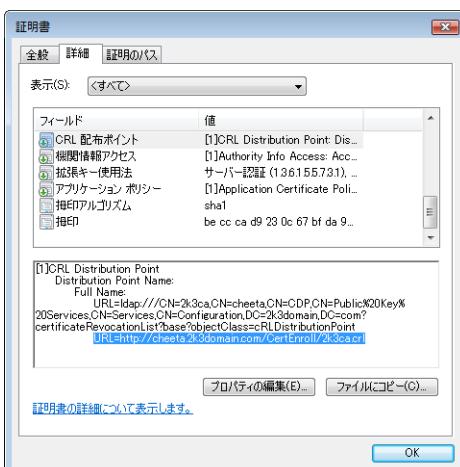
9 ［詳細］タブをクリックし、［拇印］を選択して40桁の拇印を確認します。

10 コマンド プロンプトを開き、「netsh」コマンドを以下にならって実行します。

補 足

Windows VistaでAdministrators（管理者）所属のユーザ以外で利用している場合は、コマンドプロンプトのアイコンを右クリックして表示されるメニューから［管理者として実行］を選択する方法で一時的にAdministrators（管理者）権限でコマンドを実行することができます。

- 手順9で確認した拇印を使用して、次のコマンドを入力します。
  netsh http add sslcert ipport=0.0.0.0:5358 certhash=（ここに40桁の拇印を入力）appid={00112233-4455-6677-8899-AABBCCDDEEFF}
- 拇印はスペースを省いて入力します。

注 意

インポートしたクライアント証明書が「Certificate Revocation List（CRL）」を用いて作成されたものである場合、FQDNによるCAサーバーへのアクセスが可能であるかを確認する必要があります（下図を参照）。

FQDNによる接続が確立されていない場合は、以下のいずれかの対処を行うよう、管理者へ問い合わせてください。

- 以下のフォルダパスからアクセスできる「hosts」ファイルに、IPアドレスとホスト名を追加します。
  C:\WINNT\system32\drivers\etc
- 適切な名前解決処理が行われるように、DNSサーバーを設定します。

索引

ほ

ま

め

ゆ

り

れ

ろ

わ

FC-2050C
FC-2555C/3555C/4555C/5055C
FC-287CS/347CS/407CS
FC-287CSL/347CSL
DP-4710S/5210S
DP-4710SL
FC-5560C/6560C/6570C
DP-2572/3572/4572/5072
DP-6570/8570
DP-3031
OMJ120017I0

東芝デジタル複合機 / デジタル複写機

TopAccessガイド

東芝テック株式会社

R120120K9809-TTEC
Ver09 F 2015-01